建築と社會第拾輯 自第壹號至第拾壹號 總目次

本號目次は茲には略す

第壹號目次 昭和二年一月一日發行

口繪

▲中流サラリーマンの希望する圓山莊園高臺T氏の邸宅
▲大阪高等學校官舍

中挿

▲檢側から『サンルーム』へ
▲洋家具の見分け方
▲家庭用ポンプの種々

本文

▼次の時間……一
▼我國將來の住宅……片岡安……二
▼現代文化住宅の問題……村野藤吾……九
▼非文化住宅……南信……六一
▼英國に見る住宅の大變化……小川市太郎……七
▼紐育の勞働長屋……藤田進一郎……二一
▼室內建築の眞理……木野精吾……三〇
▼住宅進化の話……古塚正治……三三
▼住宅設計上の考察……松本儀八……五五
▼家相流布の原因と其の本質原理……葛野壯一郎……八〇
▼住宅の構造に就いて……酒井勇三郎……一四
▼住宅建築と其工費豫算……議破智堂……一七
▲都市住宅と住宅法規……池田谷久吉……一二三
▼住宅建築の敷地選定に就て……池田實……八八
▼庭の設計に關する一考察……大屋靈城……九七
▼建築殊に住宅と造園の關係……椎原兵市……一〇五

—【住宅と設備】—

▼洋風小住宅の室內裝飾……永山美樹……一三一
▼建築の室內裝飾に就いて……V O 生……一三八
▼住宅の採暖……德政金吾……一四〇
▼住宅照明としての內面艶消電球に就いて……今澤精一郎……一四六
▼住宅材としてのコルクに就いて……刀禰英彥……一四九
▼住宅の簡易鋪裝法……小山九市……一〇九
▼住宅建築衛生の話……伴秀雄……一三三
▼住宅に於ける汚物處理法……澤部實之助……一二六
▼二上山麓の民家……伊藤正文……四一
▼茶趣味から觀た日本住宅……木津宗一……一三三
▼三女性の觀た住宅……平田春江……一五六
▼吾家を建てるには……一七四
▼俳壇凩(こがらし)寒念佛……齋藤溪舟……一〇
▼俳話吟行……溪舟……一六一
▼日本建築協會々報……

第貳號目次

昭和二年二月一日發行

口繪

▼不動貯金銀行外觀と營業室
▼不動貯金銀行平面圖

本文

▼御發引を憶ふて
▼御詔勅を拜す
▼共同建築から地方計畫へ……工學士　笠原敏郎……二
▼空中威力の國防幷に通商に及ぼす影響と其可能性(上)……陸軍航空本部々員陸軍航空兵中佐　伊藤　赳……五
▼大正建築界の回顧……文學士　黒田鵬心……一〇
▼都市計畫の理論と實際……會員工學士　松室重光……一一
▼建築工事費に對する一考察……會　員　高田利一郎……一九
▼學校建築設計研究部……武藏高等學校教頭　山本良吉……二五
▼製鐵所の高爐セメント見聞記……大阪市立工業研究所技師　小山九市……四一
▼自動車々庫に就いて……會　員　菅野久一……三七
▼趣味と傳說……平田春江……六一
▼木製屋根材の禁止……五四
▼吾家を建てるには(2)……六六
▼不動貯會銀行工事概要……奎
▼日本建　協會々報……

第參號目次

昭和二年三月一日發行

口繪

▼大阪放送局外觀　▼機械室　▼動力室
▼調整室　▼第一、第二、放送室
▼平面圖　▼鐵塔

本文

▼大大阪を一瞥して……會　員　松室重光……二
▼昭和時代の建築觀……會　員　八木幸次郎……一〇
▼長屋建築に就いて……會　員　竹田延朗……一五
▼空中威力の國防幷に通商に及ぼす影響と其可能性(下)……陸軍航空兵中佐　伊藤　赳……一九
▼統計の上から見たる若き婦人達と其住宅觀……會　員　松本儀八……二五
▼J.O.B.K の建物に就て……會　員　大倉三郎……三三
▼混凝土施行上の注意(上)……會　員　下浦光衞……三七
▼石山城に就いて……大阪市立市民博物館長　堀居左五郎……三四
▼「十三」……會　員　K　T……四二
▼南紀の古建築長保寺と淨妙寺……會　員　池田谷久吉……四三
▼大阪城虎の傳說の內(一)……齋藤悳太郎……五八
▼吾家を建てるには(三)……六三
▼會　報……

第拾輯第四號　震災號目次

口繪

▼北丹後地方震災實況
▼北丹後地方震災分布圖
▼大阪地方震災分布圖
▼耐震施設の社會運動を起せ……一

本文

▼震災輕減の方策を講ぜよ……會員工學博士　片岡　安……二
▼地震と家……會員　工學士　波江悌夫……六

▼丹後地方震火災の實地を踏査して……會員 工學士 增田 清……一八
▼奥丹後地震災害調査報吾……會員 工學士 黒田 茂……二四
▼丹後の震災と但馬の復興を視て……會 員 中島智喜……四四
▼北丹後震災見聞記……會 員 八木幸次郎……六〇
▼奥丹後地震による大阪附近に於ける被害狀況……災害部委員會……六七

附錄

▼遊技場營業取締規則（昭和二年三月大阪府令第二十六號）……
▼日本建築協會々報……

第五號目次

昭和二年五月一日發行

口繪

（1）建物外觀
（2）營業室
（3）各階平面圖

本文

▼「若し汝彼の紀念を求むるならば」……一
▼大大阪を一瞥して（下）……會 員 松室重光……二
▼劇場火災に就いて……會 員 菅野久一……一一
▼育兒上より觀たる住宅……醫學士 大坪德一……三四
▼滅び行く都市の樹木……會 員 方 米治郎……三六
▼混凝土施行法（下）……會 員 下浦光衛……一六
▼建築の藝術……田中國益……四一
▼新居漫談……會 員 津田 繁……四五
▼吾家を建てるには（四）……五五

建築材料

新塗料
バイロキシリンラツカ……工學士 大島重義……五〇

▼第一銀行大阪支店工事概要……
▼日本建築協會々報……

第六號目次

昭和二年六月一日發行

口繪

▼大阪市大火分布圖
▼都市計畫の完成近き大江橋以北上本町廣場と渡邊橋以北の一部
▼阪神國道改修平面圖と完成實況

本文

▼防火と建築……工學博士 片岡 安……一
▼自由空地……法學博士 關 一……三四
▼住宅の不良化……大阪朝日新聞調査部長 藤田進一郎……三三
▼土地收用に就いて……大阪市都市計畫庶務課長 岡崎早太郎……一七
▼火災防備と建築……大阪府消防課長 土井末吉……三九
▼自由空地を加味した都市改良……農學士 大屋靈城……七

道路問題の研究

▼大阪市の道路瞥見……大阪市土木部技術課長 近藤博夫……四二
▼京阪神の交通に就て……京都府土木課長 村山喜一郎……四六
▼田舍漢は考ふる……法學士 大須賀嚴……五二
▼春季大會隨行記……N K 生……五七

▼大阪城虎の傳說の內(二)……齋藤惠太郎……四八
▼日本建築協會々報……

第七號目次

昭和二年七月一日發行

口繪

▼神戸東神倉庫 外觀ノ一
▼神戸東神倉庫 外觀ノ二
▼神戸東神倉庫 平面圖
——一階—二階—三階—四階—屋上——

本文

▼人生と建築……佳山生……
▼都市の防火と耐火構造の建築……大阪市建築課長 波江悌夫……二—五
▼防火地區の制定を徹底せしめ其實現を促進する事……會員 河田谷久吉…七—一〇
▼目に映るまゝに…神戸高等工業學校長 廣田精一…一一—一四
—素人の米國建築行脚—
▼現在の建築教育方針に就て…工學士 渡邊節…一五—一八
▼大阪市高速鐵道に就て…大阪電氣局 清水熙…一九—二四
▼協會の進むべき途と雜誌の執るべき方針に就て……會員 池田實…二五—二六
▼自由と建築……會員 本野精吾…二七—二九
▼不燃質建築と火災……大阪府消防課長 土井末吉…三一—三三
▼震度といふ言葉について……工學士 增田清…三五—三八
▼大阪海岸線の變遷と西大阪の地盤……災害委員 池田宮彥…三九—四四
▼考へさせられる事ども……會員 稚堂…四五—四六
▼時事……四七—五五
▼東神倉庫新築工事概要……五六

新築紹介

▼百瀨博士邸 外觀(一)
▼百瀨博士邸 外觀(二)
▼百瀨博士邸 細詳觀
▼百瀨博士邸 平面
▼大同病院 外觀(一) ▼大同病院內部(二)
▼大同病院 平面及所在圖 ▼大同病院各階平面
▼百瀨博士邸新築工事概要……五七
▼大同病院新築工事概要……五八—六〇
▼編輯後記……六一
▼日本建築協會々報……

第八號目次

昭和二年八月一日發行

口繪

▼同潤會アパートメントハウス 其一
▼同潤連アパートメントハウス 其二
▼同潤會アパートメントハウス 其三
▼同潤會アパートメントハウス 其四
▼同潤會アパートメントハウス 其五
▼同潤會アパートメントハウス 其六
▼同潤會アパートメントハウス 其七
▼同潤會アパートメントハウス 其八
▼同潤會アパートメントハウス 其九

本文

▼都市の癌腫……大阪市衛生試驗所長 醫學博士 藤原九十郎……二—八
▼不良住宅地區改良問題……大阪市都計部計畫課長 岡崎早太郎…九—一六
▼工業地區內特別地區の事……會員 加藤善吉…一七—二二
▼都市と住宅問題 堺市に就て…堺市都計部總務課長 磯村遠…二三—二六
▼ガルテン、コロニーに就て……大屋靈城…二七—三〇

▼アパートメントハウス建築の新傾向……會　員　葛野壯一郎…三一―四三
▼現代的文化住宅アパートメントに就て（市立都島工業學校建築科生徒）　小山秀雄…四五―六〇
▼時事……六一―六六
▼京都共同火災支店新築工事概要……六七―六八

新刊紹介

▼京都共同火災支店外觀
▼京都共同火災支店玄關
▼京都共同火災支店客溜
▼京都共同火災支店平面
▼別府白洲家別邸外觀（一）
▼別府白洲家別邸外觀（二）
▼別府白洲家別邸平面
▼別府白洲家新築工事概要……六九
▼編輯後記……七〇
▼日本建築協會々報……

第九號目次

昭和二年九月一日發行

口繪

水邊に於ける建築
‖大阪・堂島川田蓑橋畔‖

大阪・農人橋　大阪・宇和島橋
大阪・千代崎橋及水分橋　大阪・新町橋
大阪・大手橋　大阪・戎橋
フラスカチのアドルプランテインの噴水
羅馬・ボルゲーゼ別荘・海馬の噴水（バロック紀・ベルニ作）
ベルヂアのマヂョーレの噴水（中世紀・薄肉はルネツサンスの傑作）
羅馬・ヌオーバ廣場三噴水の內（ベルニニ作バロック紀）
ボルニヤ・ペピリラッカの噴水
アツシヂ・エマヌエル五世廣場の噴水（中世紀）
ピテルボ・フヲンタナ廣場の大噴水（中世紀）
ポポロー ニヤ・海神の噴水
ピテルボ・ピアノ・スカラノ噴水
ピテルボ・モルテの廣場の噴水

本文

▼河川と建築……佳山生……一
▼水に惠まれたる伊太利の庭園と噴水……會　員　古宇田實氏談…二―八
▼大阪の橋に就いて（合資會社大阪橋本組社長）　橋本政吉…九―一四
‖ロンドン・巴里・米國の橋‖
▼建築技術の進むべきみちと日本建築協會の將來……會　員　八木幸次郎…一五―一八
▼水と建築……會　員　Y H 生…一九―二〇
▼水橋閑筆……佐古慶三…二一―二四
▼河岸地の利用と建築……會　員　池田實…二五―二六
▼子供のよろこぶ徒渉地……會　員　方米治郎…二七―三二
‖夏の子供に惠まれたバラダイス‖
‖その徒渉池の設計と管理に就て‖
▼擬寶珠と建築……會　員　池田谷久吉…三三―三八
▼大阪の埋立工事の概要……（災害委員）　池田宮彥…三九―四二
元祿時代に於ける
▼大阪橋名考……佐古慶三…四三―四八
▼名士の考へて居る邸宅……四九―五〇
▼ハウスマン……藤田進一郎…五一―五六
‖都市計畫家銘々傳‖

新築紹介

芦屋・佛教會館　外觀　芦屋・佛教會館　玄關
芦屋・佛教會館　大講堂　芦屋・佛教會館　平面圖
▼芦屋佛教會館建築の概要……六
▼日本建築協會報……

第拾號目次

昭和二年十月一日發行

口繪

大阪・中之島公園より大阪城一帶を眺む

大阪・中之島公園より大阪市廳附近を望む
巴里・シヤンゼリゼーの大並樹道路より大凱旋を眺む
伯林・王宮前の大寺と美術館
伯林・ウンテルリンデンの並樹道路
南獨・ヌルンベルクの濠
濱寺・公園の正門樓
同　設計圖

本文

▼樹木の有つ自然味と建築……佳山生…一
▼現代都市と公園……工學博士　片岡安…二―四
　‖都市の綠化問題‖
▼庭園の實用化と藝術……會　員　古宇田實…五―一〇
▼庭の建物に就て……大阪市公園課長　椎原兵市…一一―一八
▼時代の要求する新建築……會　員　八木幸次郎…一九―二三
▼衞生上より觀たる庭園……農學博士　大屋靈城…二三―二八
▼公園に於ける建築的施設……會　員　加藤善吉…二九―四〇
▼街　巷　公　園……東京市公園課長　井下　清…四一―四六
▼都市の廣場施設……會　員　方　米次郎…四七―五四
　‖記念に適はしい好事業‖
▼都市の建築と造園……會　員　龍井松之助…五五―六〇
▼庭園は住宅の延長……會　員　本間乙彥…六一…一八
　‖舊日本型から新日本型住宅へ‖
新刊紹介欄、訂正及正誤表……六九
▼社團法人日本建築協會會報……
▼廣告早見表は表紙より二枚目會告裏にあります

第拾壹號目次　昭和二年十一月一日發行

口繪

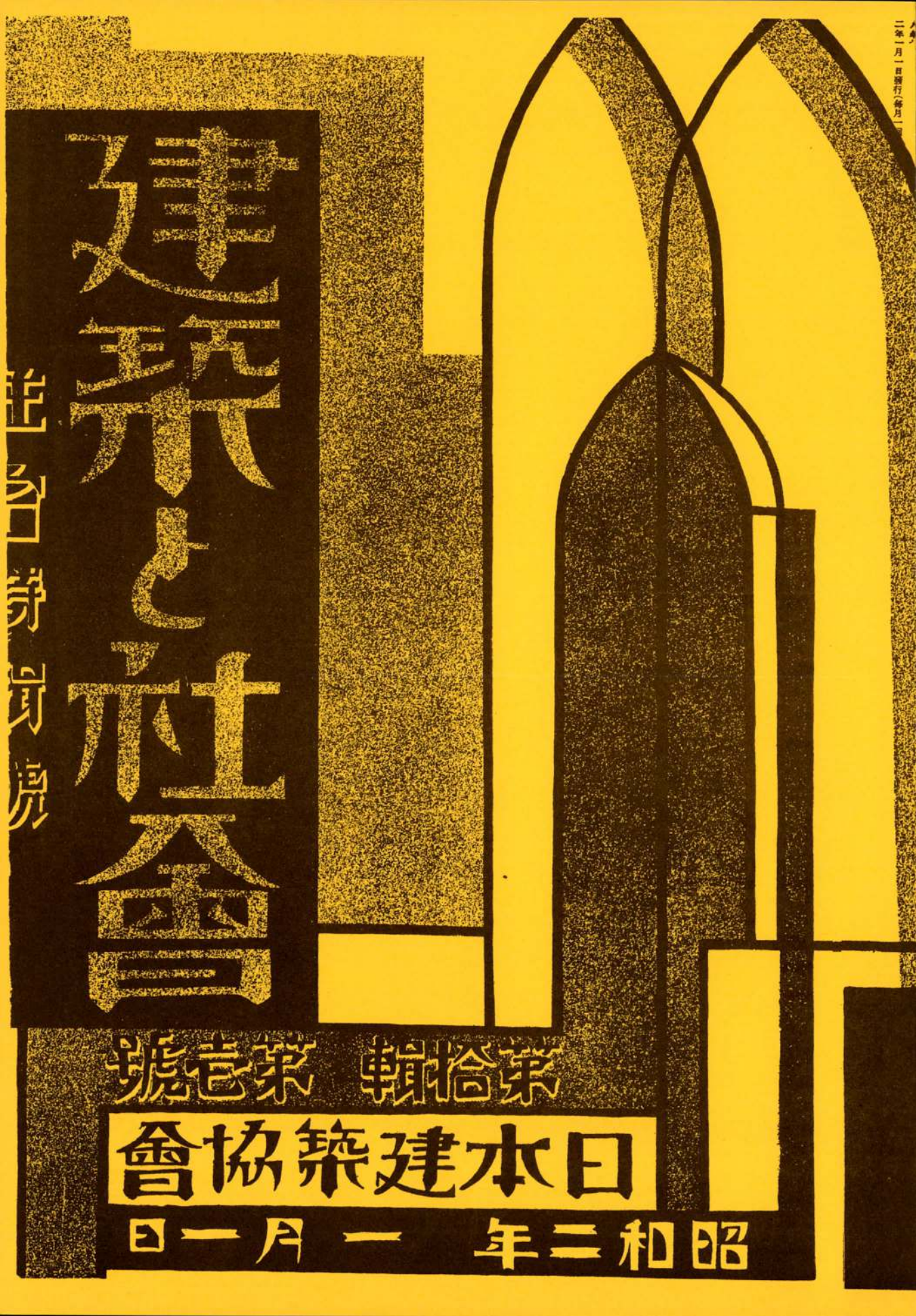
兵庫縣・住吉村・某邸庭之一部……其の一
同・同……其の二
同・同……皮附丸太之門
同・同……四阿舍
同・同……茶室

本文

▼土のかほり……佳山生
▼現代市街地建築物法は果して完璧か……大阪府建築監督官　玉置豊次郎…二―八
▼建築士法の制定に就いて……會　員　池田　實…九―一三
▼憲法發布記念建造物の計畫發議……武藏高等學校教授　山本良吉…一五―一八
▼土地區劃整理後の町界町名地番整理(一)……會　員　加藤善吉…一九―二四
▼現代の住宅とは……會　員　津田　鑿…二五―二六
▼溝穴を有する塔の心柱礎に就いて……理學博士　川村清一…二七―三七
▼ハウスマン……藤田進一郎譯三九―四四
　‖都市計畫家銘名傳‖
▼本會秋季大會記事……四五―四七
　―(斯築紹介)―
有隣生命保險株式會社大阪支店新築工事概要及プラン……四八
大阪・有隣生命支店……外觀
大阪・同……營業部の一部
大阪・同……重役室の一部
▼都市計畫及建築に關する勅令法令其他……四九―五三

附錄

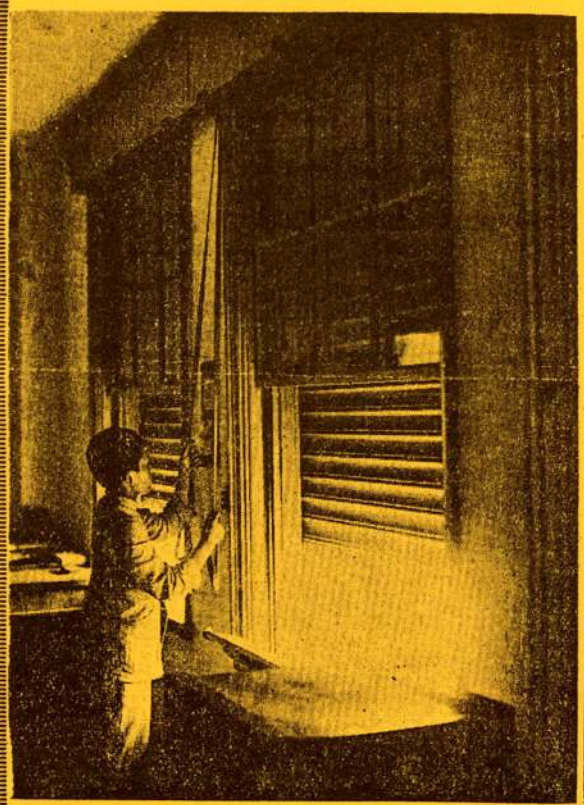
▼工場附屬寄宿舍取締規則抔……附(大阪京都府令施行細則)……
▼新刊紹介、正誤表……
▼日本建築協會會報……附　廣告目次……


建築と社會
住宅研究號
第拾輯 第壹號
日本建築協會
昭和二年一月一日

Tookyoo Mitsui 3 gookwan
Sekkei: Yokogawa Koomusyo.
Sekoo: Simizu Gumi.



Tatemasi no mado 300 kasyo subete N. K. B. Sotohimobiki no *Shutter* wo torituketatokoro, Aketate no tegaruikoto, sukosimo itamanaikoto nado, hokano *Shutter* ni kurabete amarini sugurete irunode odorokarete orimasu.



Goomei Kwaisya Hanken Seisakusyo.
Oosakasi Konohanaku Okizima Kitanotyoo 11.
DENWA: TOSABORI 4020.

Dairiten {Mitui Bussan Kabusiki Kwaisya.
{Sanki Koogyoo Kabusiki Kwaisya.

奉悼

社団法人
日本建築協會

役員一同
職員一同



日米板硝子株式會社

本　社　大阪市北區中之島二丁目
（江商ビルデイング四階）
工　場　九州若松市外二島（鐵道省指定工場）
大阪販賣店　本　社　內
東京販賣店　東京市丸之內ビルデング七階
九州販賣店　門司市大毎ビルデング三階

製品解說

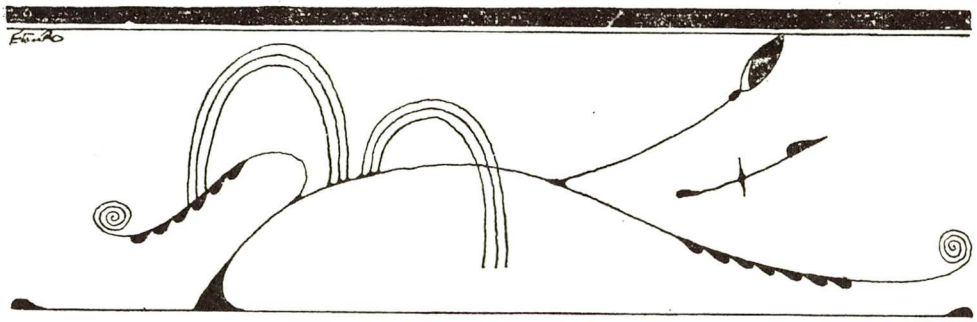
製造方法　世界最新コールボーン式自働連續板狀伸延製造法ト稱シ幅六呎ノ板硝子ヲ長サ無限ニ連續製出ス

特　徵　精密ナル機械ノ標準ト硬化作用ニヨリ板面ハ反リ歪ミ無ク厚サ整等ニシテ質强靱ナルヲ以テ破損ノ處少シ

厚　味
二十四オンス品　並板（十六オンス）ニ比シ二倍ノ破壞强度及耐久力ヲ有スルヲ以テ學校病院工場會堂ビルディング等ノ高級建築及シヨウウインドウ用トシテ最適品ナリ
三十四オンス品　汽車電車等ノ窓硝子トシテ實用セラル

加工品　摺　結霜　春霞

和洋建築窓、家具等ニ使用シテ頗ル優美ナリ



▼次の「時間」……（一）

▼我國將來の住宅……片岡安（二）

▼現代文化住宅の悶煩……村野藤吾（九）

▼非文化住宅……南信（六二）

▼英國に見る住宅の大變化……小川市太郎（一七）

▼紐育の勞働長屋……藤田進一郎（二二）

▼室内建築の眞理……本野精吾（三〇）

××　××　××　××

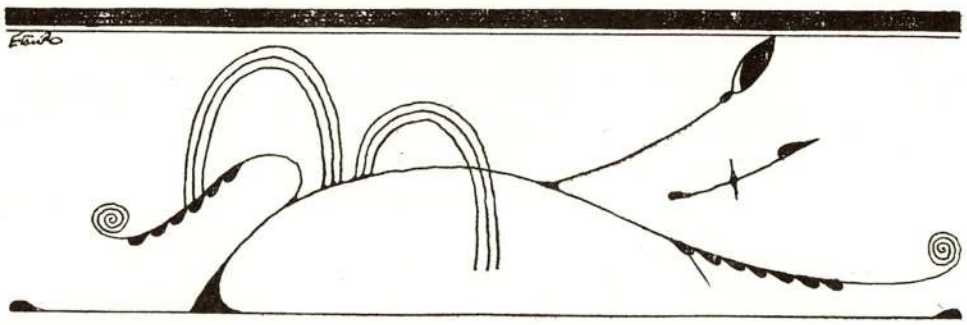
▼住宅進化の話……古塚正治（三三）

▼住宅設計上の考察……松本儀八（五五）

▼家相流布の原因と其の本質原理……葛野壯一郎（八〇）

▼住宅の構造に就いて……酒井勇三郎（七四）

▼住宅建築と其工費豫算……議破智堂（七七）



▼都市住宅と住宅法規……池田谷久吉(一)
▼住宅建築の敷地選定に就て……池田實(八)
▼庭の設計に關する一考察……大屋靈城(九)
▼建築殊に住宅と造園の關係……椎原兵市(一〇)

×× ×× ×× ××

住宅と設備

▼洋風小住宅の室内裝飾……永山美樹(一三)
▼建築の室内裝飾に就いて……Y O生(三八)
▼住宅の採暖……德政金吾(一四〇)
▼住宅照明としての内面艶消電球に就いて……今澤精一郎(一四六)
▼住宅材としてのコルクに就いて……刀禰英彦(一四九)
▼住宅の簡易鋪裝法……小山九市(一〇九)
▼住宅建築衛生の話……伴秀雄(一三)
▼住宅に於ける汚物處理法……澤部實之助(一一六)

NIPPON ELEVATOR CO.



本社の全景

營業科目

一般運搬機械
ホイスト
ロープホーレージ
エスカレーター
ケーブルカー
各種コンベヤー
各種エレベーター「リフト」

設計製作

大阪市東區中道川西町

日本エレベーター製造株式會社

電話東局3805・2367

取締役社長 工學博士 片岡安

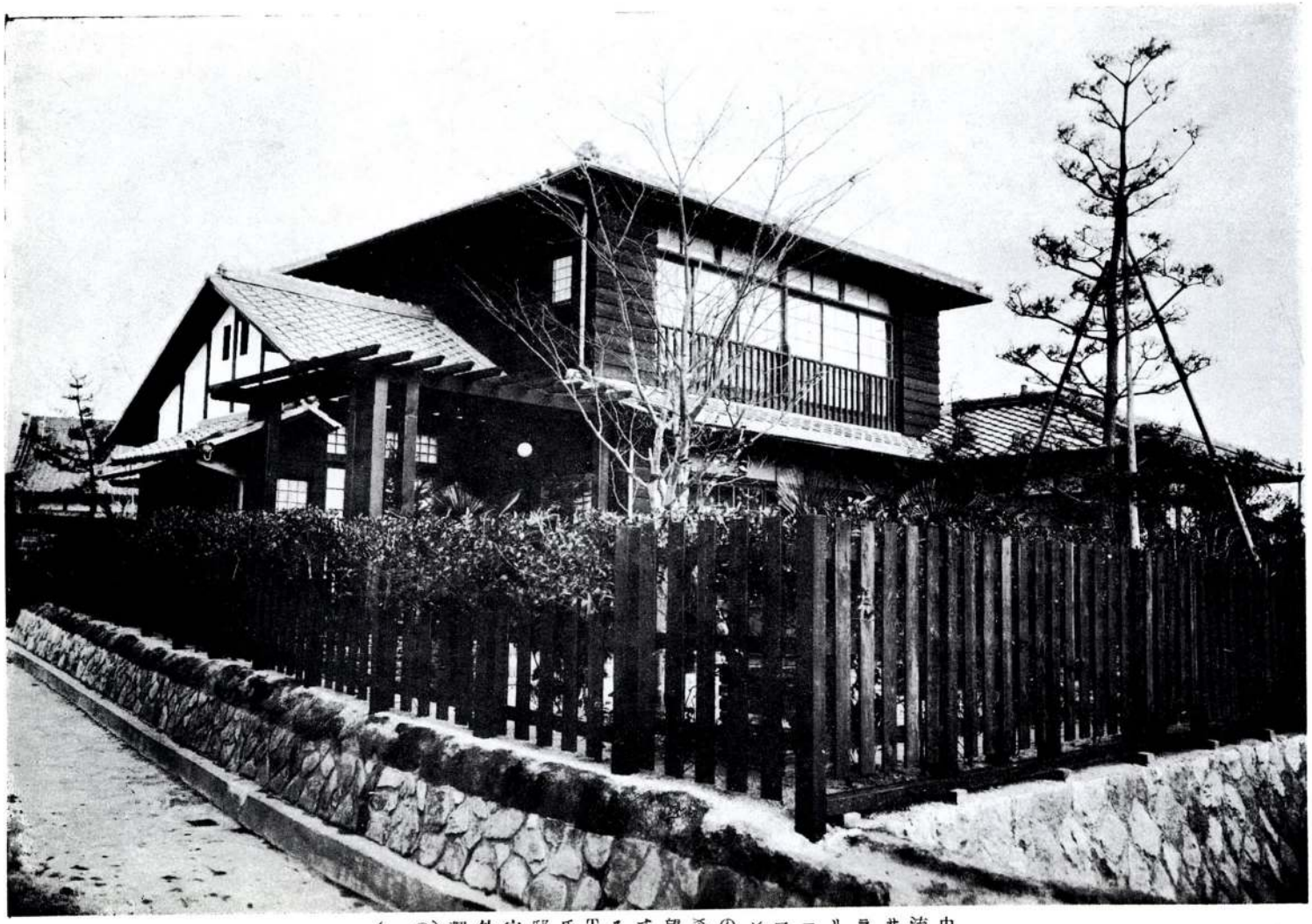
專務取締役 工學博士 堀覺太郎

東京支店

東京驛前丸ノ内ビルディング四階

電話牛込5713番

專賣特許 東松式外拾四件

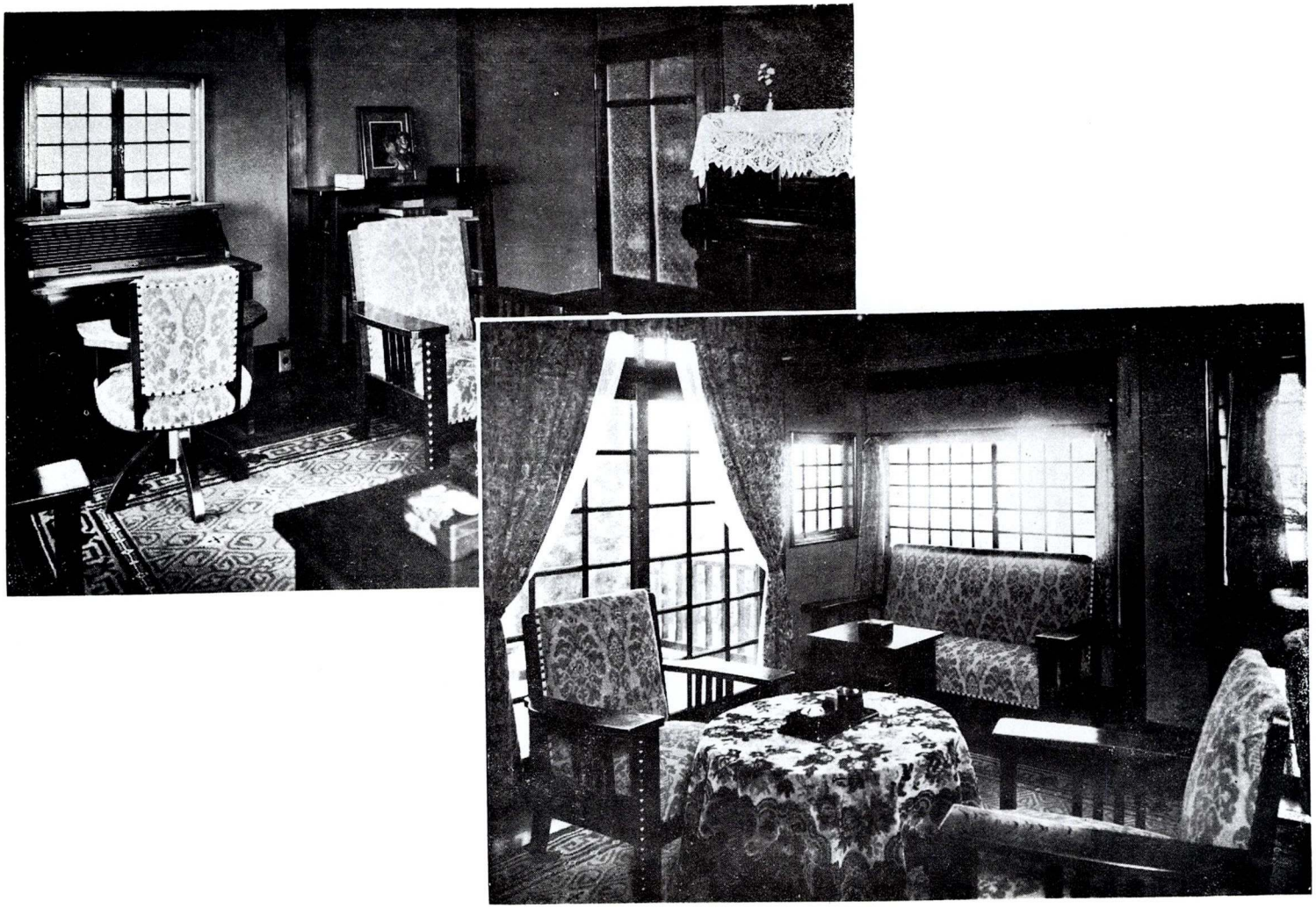


中流サラリーマンの希望するT氏邸宅外觀（の一）

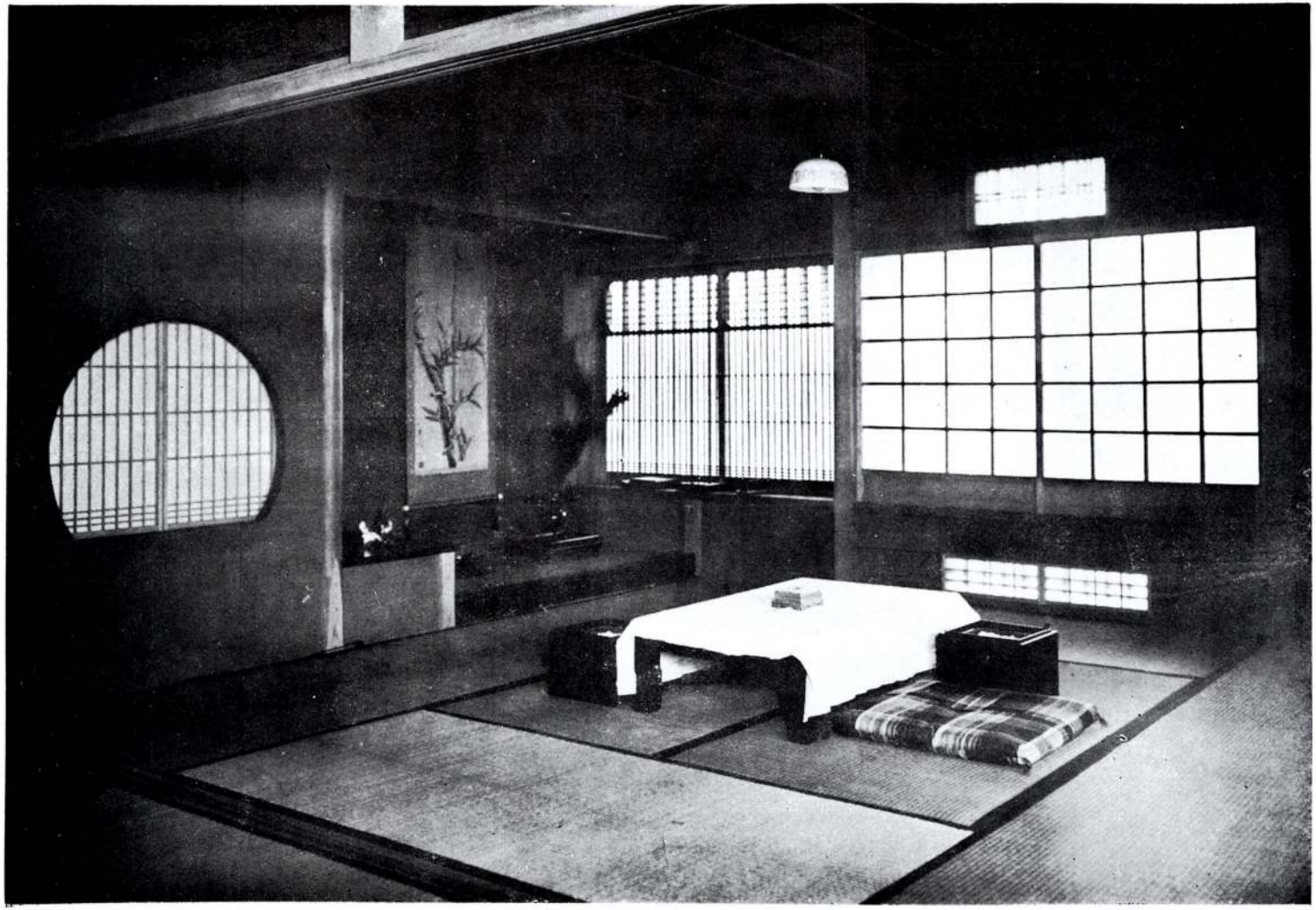
——大阪市北天下茶屋東方高臺〔圓山莊園〕内——



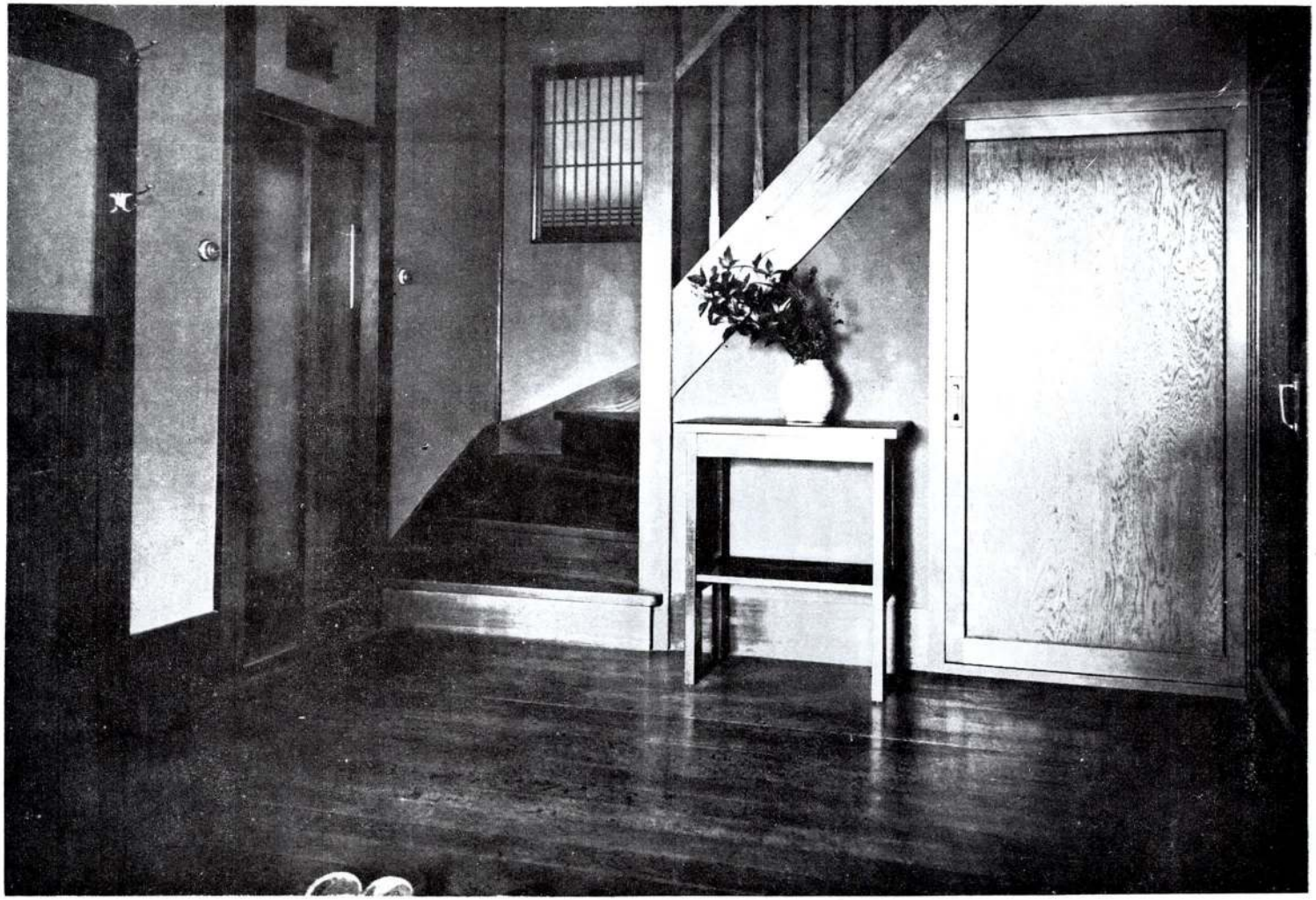
T 氏邸宅外觀（の二）



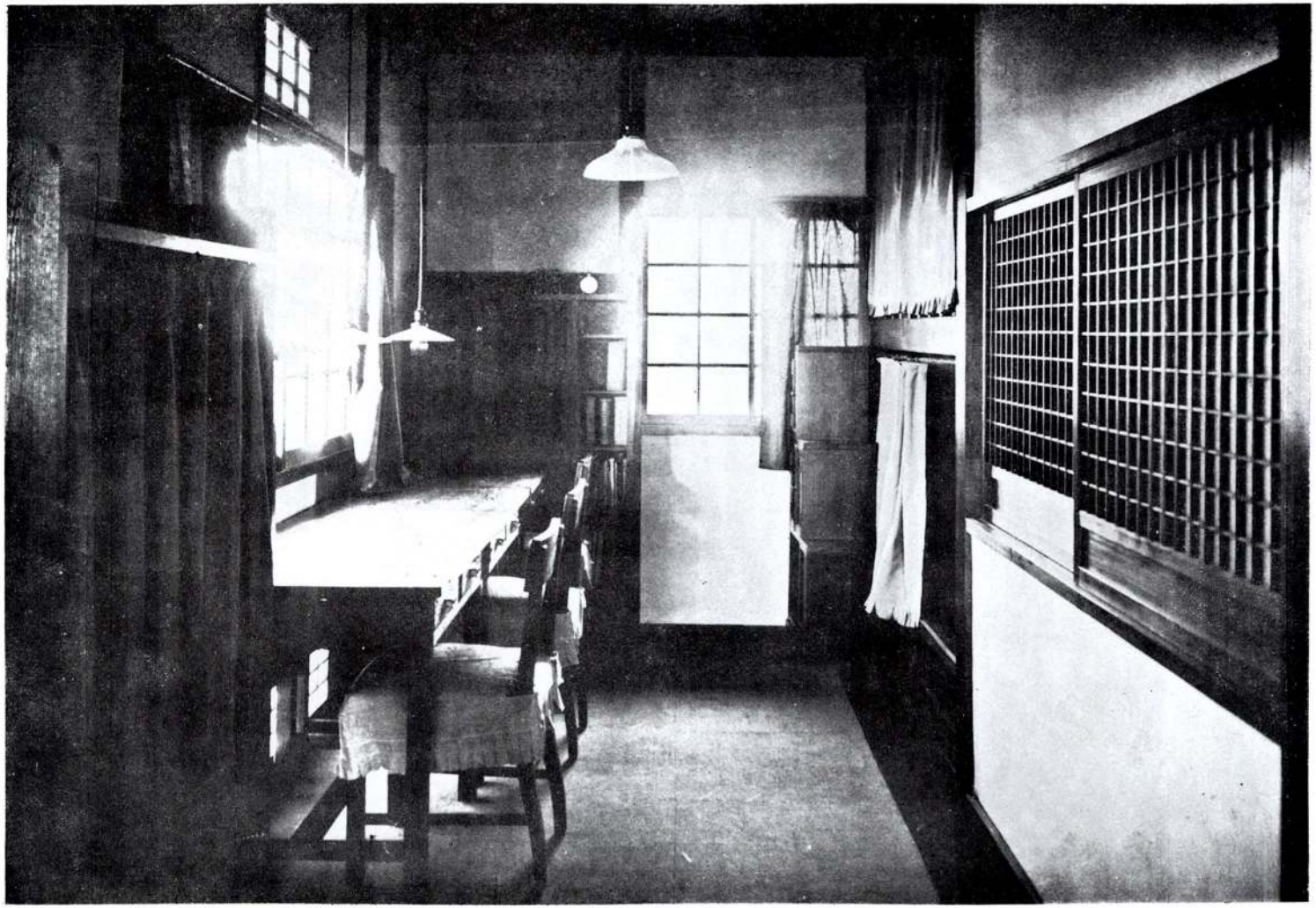
T氏邸洋館内部（上は室の北側下段は南側）



T氏邸日本座敷



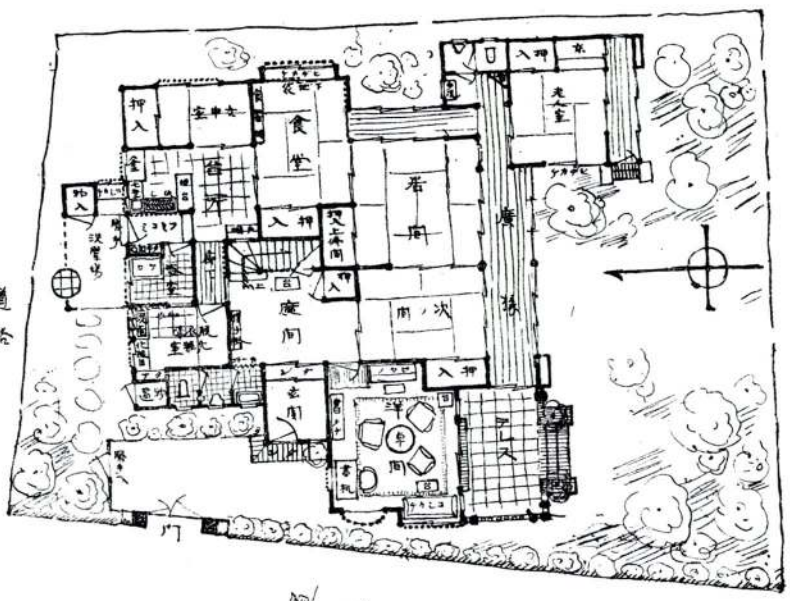
T 氏邸「廣間」



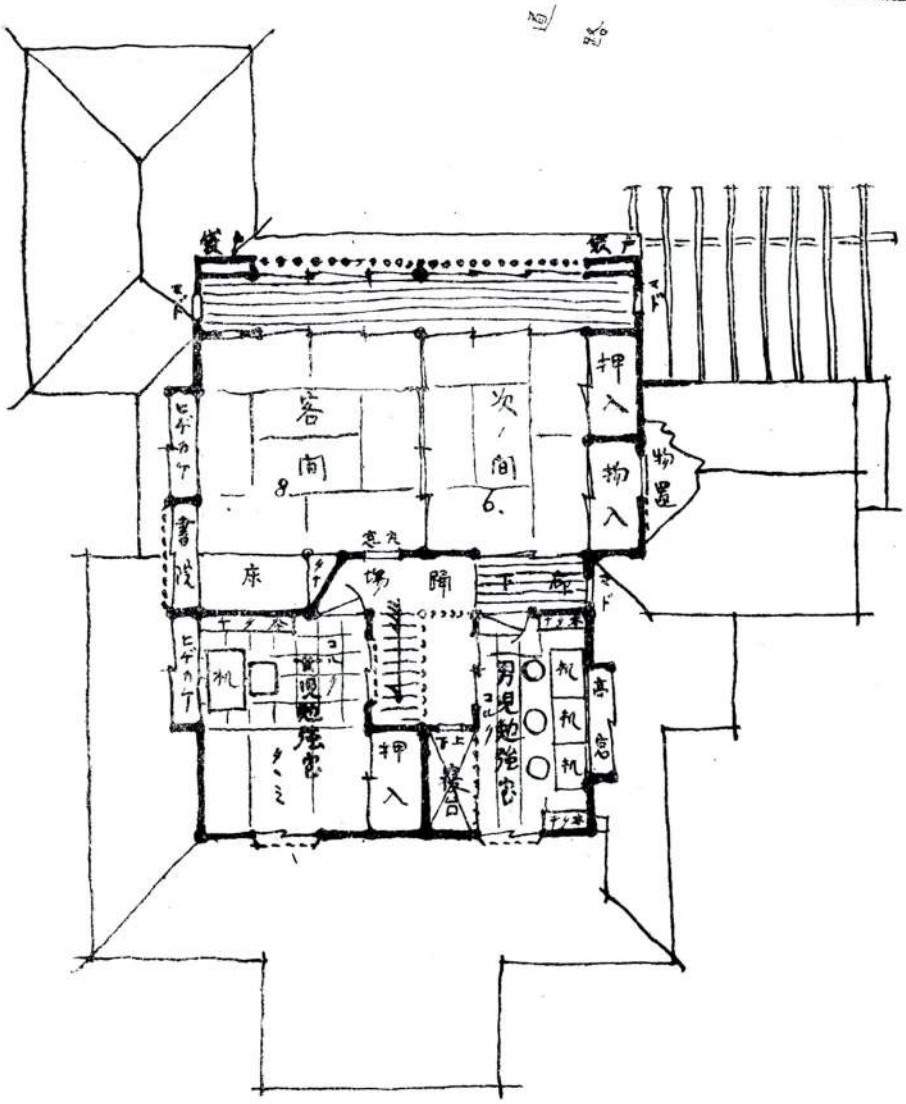
T氏邸〔子供室〕向つて右側のカーテン内は〔ベッド〕

中流サラリーマン希望ス
円山荘園高台下民邸階上平面圖 1/100

設計者 Y.O生

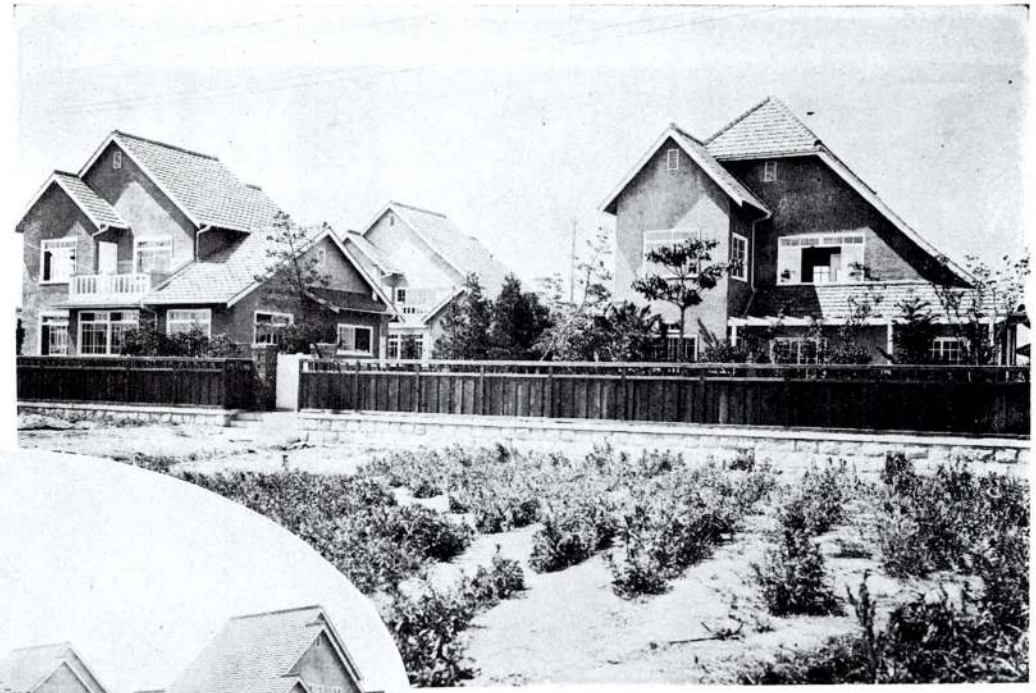


本家　四〇坪五一八
洗濯場　二、〇〇〇
テレス　三、〇〇〇
階上階下　六四、七六八
延坪
木造外部下見板張り「クレオソート」塗仕上
建築費並に水道衛生、家具装飾(庭園、井戸工事は別)
建具疊共　一〇、〇〇〇圓也.

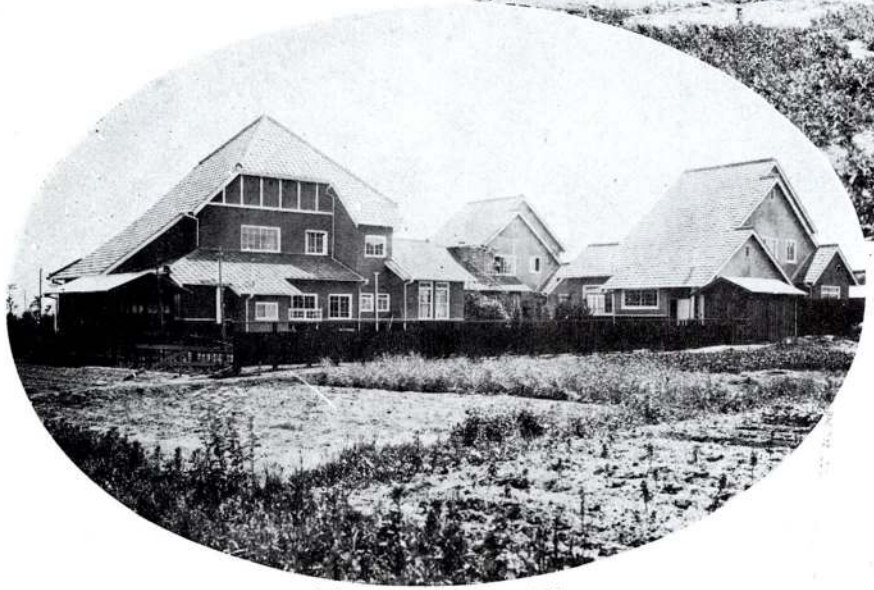


全邸階上平面圖 1/100

一九、二五坪



大阪高等學校官舍全景（正面）



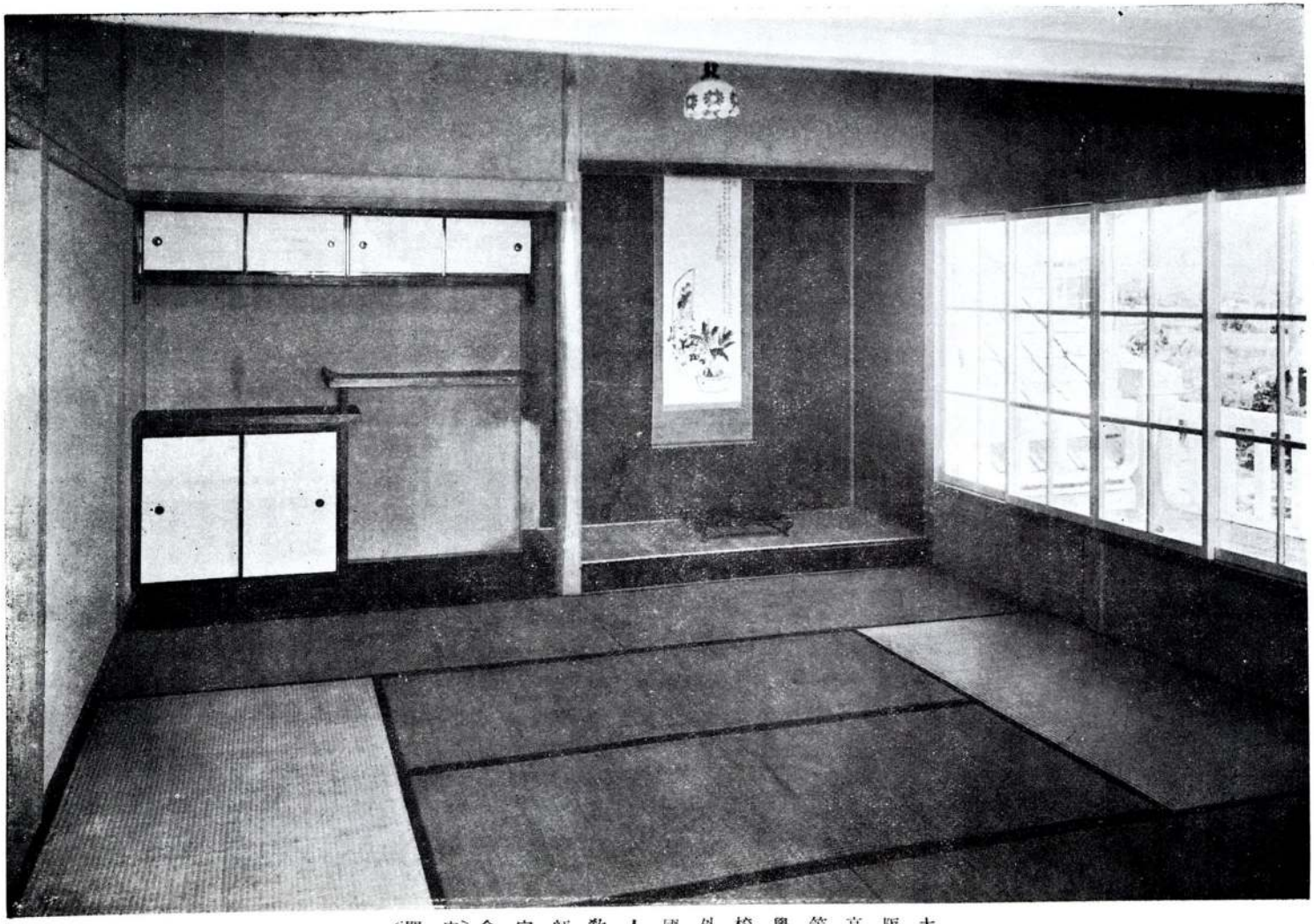
（同　北　面）



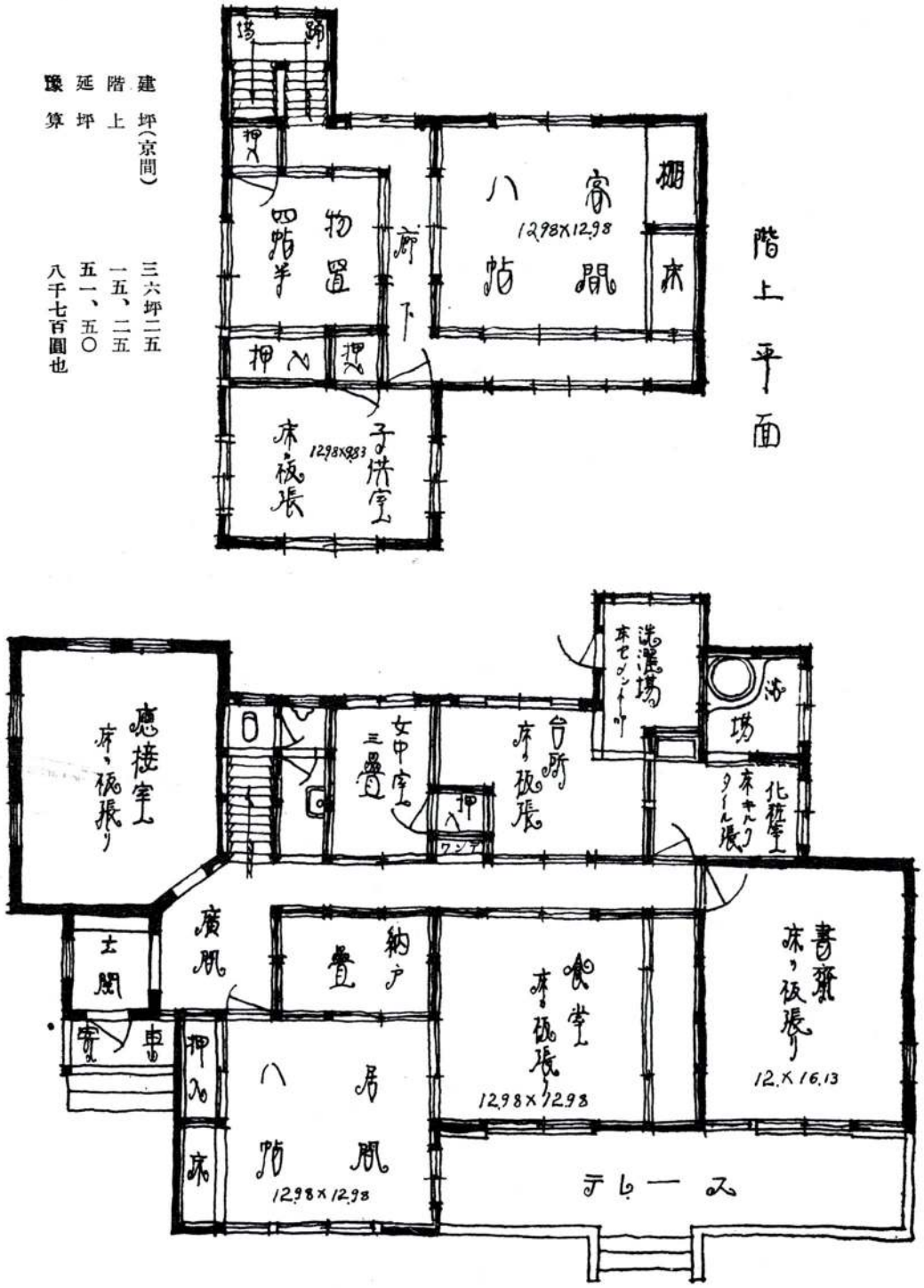
大阪高等學校甲號官舍〔應接室〕



大阪高等學校甲號官舍〔書齋〕



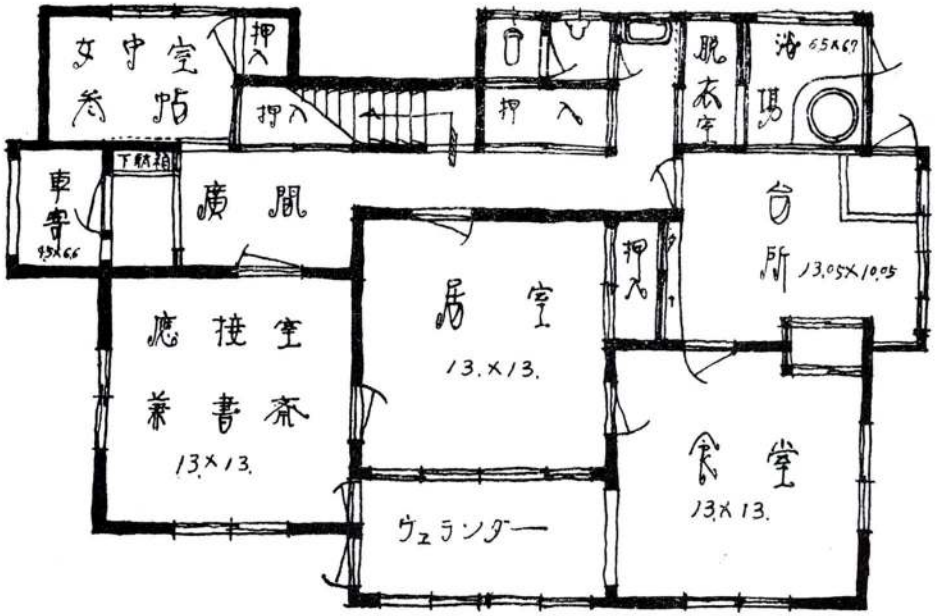
大阪高等學校外國人教師官舍〔客間〕



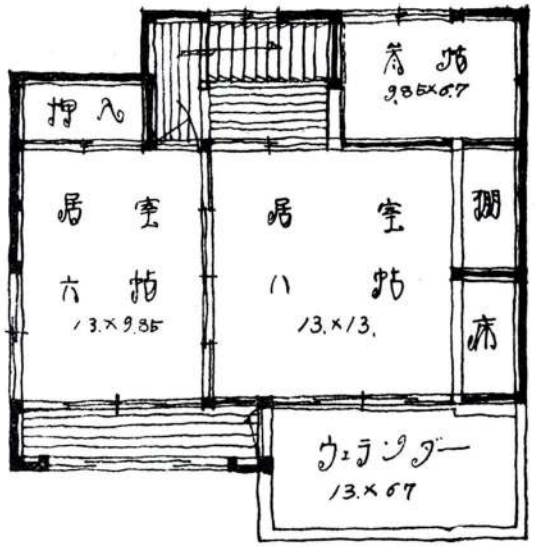
建坪(京間)　三六坪二五
階上延坪　一五、二五
坪　五一、五〇
概算　八千七百圓也

大阪高等學校生徒監官舍平面配置圖

(甲號官舍)



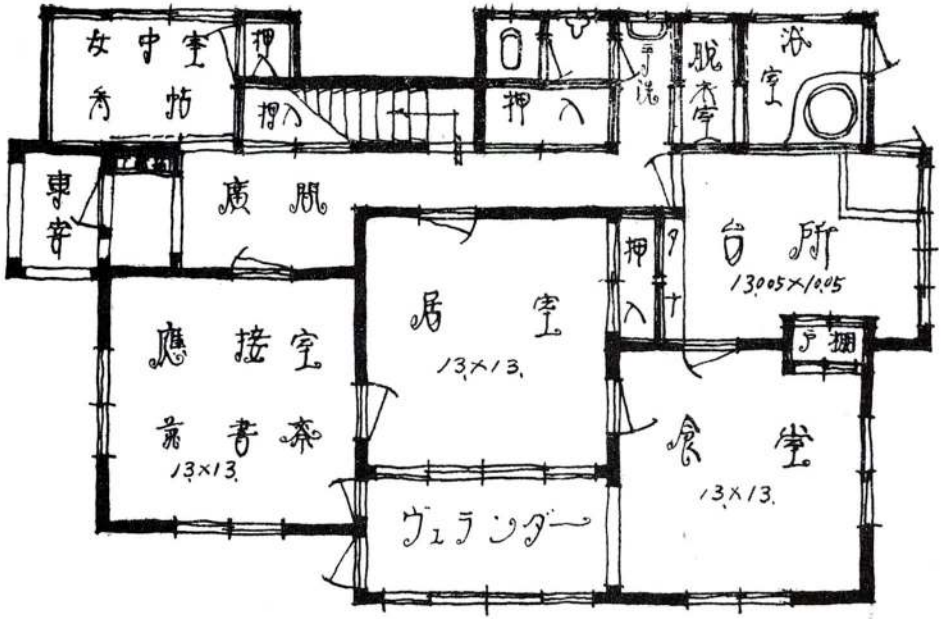
階下平面



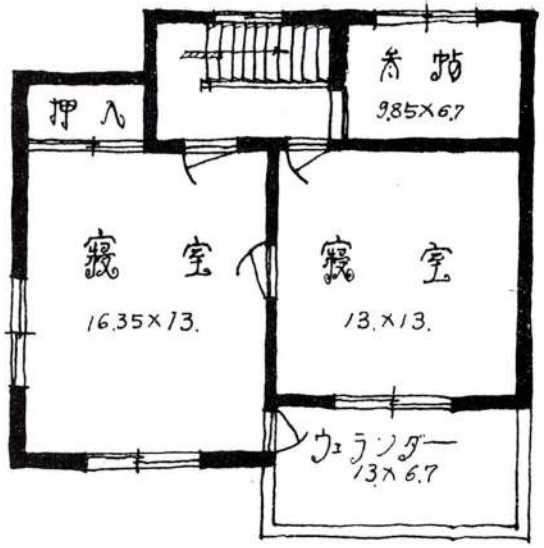
階上平面

大阪高等學校傭外國人教師官舍

建坪(京間) 二七坪二五
階上 一二、五〇
延坪 三九、七五
豫算 七千六百拾圓

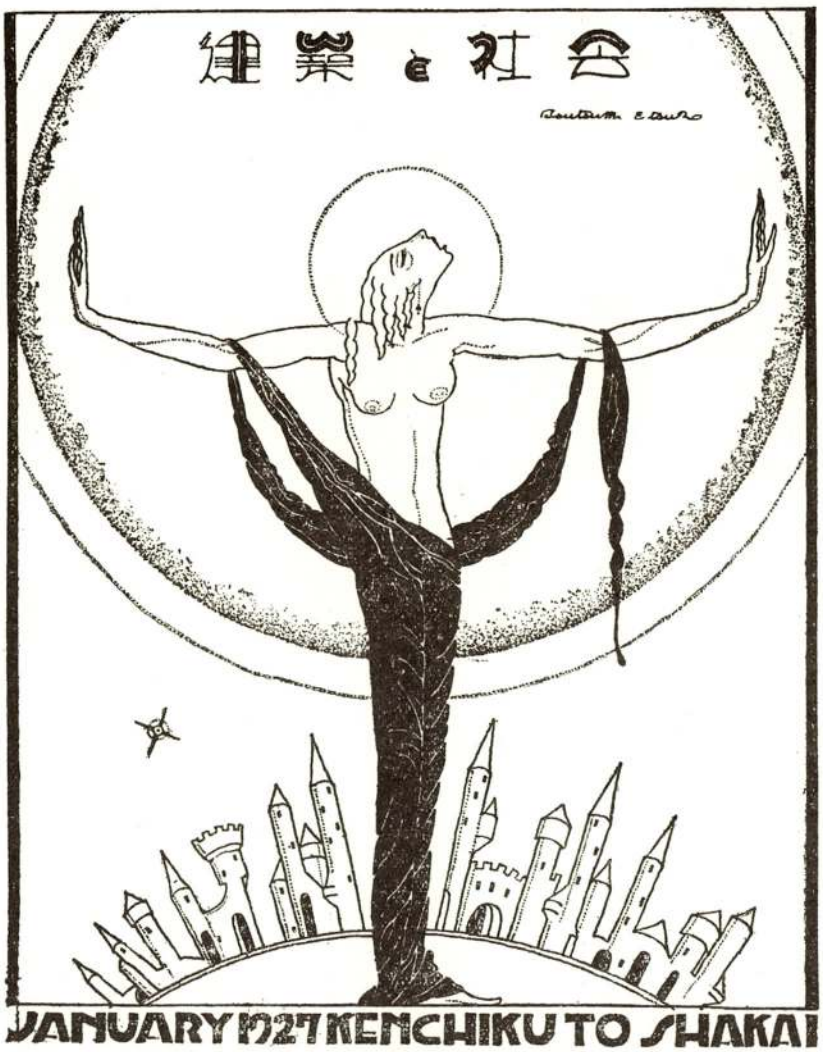


下階平面

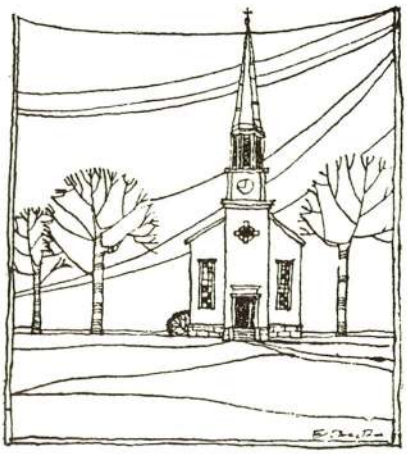


上階平面

大阪高等學校傭外國人教師官舍（坪及工費前と同）



次の『時間』　パスカルが、ガリレイ・ガリレオの地動説に對する宗教裁判所の判決を評した言葉に『世人がそれを信じようと信じまいと地球はそれらの人諸共に回轉するであらう』といふのがある。如何にも超絶的な、如何にも高踏的な、また如何にも鋭脫的な言葉である。――久遠の彼方から、永劫の彼方へ動いて止まない『時間』の流れは、凡ゆる『空間』の出來事に頓着なく、たゞ眞理の一線を辿つて息まない。我等は、今更らにその一ポイントを思想的に捉へて『新しき歳』だといふ。凡てに有限に生きてゐる現象界では、それが無限の裡に離合集散を繰り返して、それ身体が恐らく無限なるに、我等は凡てを有限的に觀、有限的に思惟せざれば止まない。されども、無限の――恐らくは無始無終の――自然は、そうした有限のくさ〴〵を載して永遠に動いてゐる。縱んば堅柔の異同を爭ふも、乃至、饅は山の芋から生れるのだと頑張らうと、そんな事にはお構ひなく、永遠は永遠を連きつ動いてゐる。たゞ我等の爲すべきは、この劫久線上に刻む『生』の一足々々が、我等もともに斯る自然の創造に協力することである。それは我等も自然の一つであるからだ。その協力が建築のわざであらうと、その他の事であらうと、斯る意氣をもつて次の『時間』に處したい。（江村）



我國將來の住宅

片岡安

〔一〕

我國には改造を急要とするもの數限りない程多いのであるが、その中に就いて最も重大なるものゝ一つは住宅であると言つても過言ではない。素より住宅なるものは如何なる國民に於ても文化の進歩と風俗習慣の變遷に伴ひ漸次其改造を必要とするのであるが、我國の現時に於ける程その必要の程度の大なるものは恐らく世界を通じて又歴史あつて以來嘗てない現象であるまいかと思はれる。然るに此重大緊急問題が我國民の間に比較的輕微に取扱はれて居るのは果して如何なる理由に依るのであるか、吾人の常に不可思議に感ずるところである。我協會に於ては從來我會誌を通し、或は適當の機會を捉へて數次此問題が國運進展上の急務なるを高唱し、經濟衛生、其他一般文化の向上に甚大なる影響あるを論じたのである。殊に大正十一年の秋には我協會は多大の犧牲を拂ひ阪急沿線櫻ヶ丘の住宅地に於て實物住宅の出陳を中心として住宅改造博覽會を開催したのは全く我國に於ける住宅改造の機運を促進せしめんと考へたからである。今回我會誌の特別號として住宅に關する論文資料を蒐集し、以て我國將來の住宅改造の進路を見出さんとするのは更に其促進に或るものを加へんとする運動に外ならぬのである。

我國の住宅が大々的に改造されねばならぬ運命にあることは敢て說明するまでもない。殊に都市の密集地に於ける住宅の如きは其可燃性であり腐敗性である點からだけでも、根本的に改造を急要とするものであることは、日々に新聞の罹災事實の報道を見れば了解されるのである。今日ありて明日を計られぬような可燃質脆弱の住宅では全く生活の安定を期する譯にゆかないではないか。歐米の各國は夙に都市密集地に於ける此の危險を慮かり、相當の注意を拂ひつゝ漸次その改造を進めて來たにも拘はらず、獨り我國に於てはその方面の

注意は疎漫であつた。殊に地震に對する抵抗力に就いても何等適當の施設を企てなかつたのである。又構造上腐敗性の甚しきものあるがために衛生上の施設を加ふるに不便であつたことは爭はれぬ事實である。更に壁體の構造に就いても深き注意を拂つて居なかつたために、防寒の設備を施すにも不適當であつた。此等の事情を綜合すれば、我國の住宅は火災、震災に對し、又衛生上の設備と、防寒の設備を施す上に構造上不適當のものであるから、先づ以て其構造に一大變更を加へねばならぬことを知るのである。

〔二〕

更に進んで住宅内部の配置と一般設備の關係を見るに、大體に於て我國の住宅ほど其研究の不十分なるものは世界の文明國中に之を見出すことが出來ないほど、單純幼稚なるものである。殊に都市の中小住宅に於て其甚しきを見るのであるが、郊外の邸宅や廣大なる敷地の輪廓内に建てらるゝ大邸宅でさへもが、概ね其配置と設備に就いては時代の要求に充たざる無意味の傳統的のものである。甚しき滑稽の實例としては書院造りや數寄屋造りと純西洋風の邸宅とが廊下にて相連りて一住宅をなせるものを指摘し得る。近來繪畫彫刻及一般裝飾に於て東洋風と相對して西洋風の趣味を味ふもの漸次增加し、住宅建築に迄その趣味が入り込つゝあるは事實である。その影響として此の滑稽なる實例が陳列館の出品同樣に我住宅の型式樣態を混亂せしめて居るものとも見られる。發達の過渡時代に一時混亂の狀態に陷るは已むを得ないとしても、我國の現時の此の狀態が果して進展の初期に屬するものと見ることが出來るかどうか甚だ怪しいのである。古來建築の樣式が變遷する時には必ず三十年や四十年の間はトランジション時代を現出する、又新しき設備の加へらるゝに際しても十年や二十年の期間を待たねばならぬ。燈火が油壺燈心の時代より石油ランプに移り、更に電燈瓦斯になるまでには三十年の星霜を經たと同樣に或はそれ以上に舊式の我日本住宅が現代化した配置と現代式設備を有するものになるためには可なり長き月日を要することであらう。けれども、實際我國住宅改造の進路を見るに唯時の問題として之を看過し得ざる狀況にあるを遺憾とする。

其理由は我國民は住宅の改造乃至は住居の改善に就いて極めて鈍感なためではないと想像される。更に進んで之を批判すれば現在主義者であつて預見思想に乏しきためではあるまいか、其日を無事に過せば足れりといふ現實主義であつて、自己又は子孫の生活の將來をより幸福により理想的に改造せんとする如き預見思想には極めて冷淡なためであるまいかと思はれる。殊に現世に重きを置かず、死後の世界に安立の信仰を繼くに熱烈であつて、現世の將來を輕く取扱ふの風習は預見思想の發達を著しく妨げたのではないか。從つて住宅改造の如き現世に於ける生活の將來をより善くより多く幸福ならしめんとする運動が等閑視されたのは我國民思想の然らしめたところであると見ねばならぬ。然るに明治維新以來開國進取し國基が確立し古來の弊風は一掃されて、こゝに現代式文化は盛んに取入れらるゝことゝなつた。軍事、教育、經濟產業の各方面ともに一齊に其面目を新たにし、それぞれ國際的進展の潮流に沿ふて其進路を見出さんとするに至つた。兵

器、鐵道、郵便、電信、電話、船舶等の設備一として現代式ならざるはない。しかるに我々の生活根據地たる住宅に就いては其改造の機運は容易に到着しなかつたのである。偶々それらしきものを見出すのは純西洋風の住宅の一部を從來の書院造り住宅に連續せしむる位のものであつた。而して純西洋風の住宅の一部は主として來訪者の會談、會食に充てられ、住宅本來の目的には餘り役立たなかつたのを常とする。極稀なる實例としては純西洋風の住宅に住居せんと試みた人もあつたけれども、それ等は概ね失敗に終つたと言はれて居る。

〔三〕

然らば我國の住宅は將來如何なる方針の下に改造されねばならぬか、之れ實に難事中の難事に屬する復雜至極の問題であるから、簡單にその解決案を見出す事は六ケしいのであるが、今假りに其解決案を根本論と內容論とに兩分して批判を試み、そこに我行詰れる住宅改造の曙光を探求して見たい。

根本論として先づ第一に考ふべき事は、我々の住宅內に於ける生活を何時までも座式とするや否やといふ點である。室內に端座することは我國獨特の習慣であるが、この習慣を基礎として構成せられて居る現在の住宅は、若し椅子式生活に移るときは全然用をなさぬものとなるであらうと思はれる。全世界の文明國民は凡て椅子式生活をなして居るのに我國民のみが座式生活をなしつゝあることは、如何にも不可思議千萬である。若し座式の方が椅子式よりも便利であるならば兎も角、其實不利不便の甚だしきものゝ多いのは今此處に呶々する迄もない。固より茶の湯の如き座禪の如き特殊の場合もあるけれども、食事をなし會談をなし、或は讀書に或は音樂に其他日常家庭上の作業に椅子式の如何に便利なるかは我々の常に體驗しつゝあるところであると信ずる。若し住宅外に於ける我々の生活を見んか兵營生活を始め諸官衙、學校、病院、銀行、會社等の室內動作は原則として椅子式となり、座式執務は殆んど其跡を絕つて了つたのである。唯家庭に於てのみ依然として舊來の座式の狀態を持續しつゝ無意味に傳統的習慣に捉はれて居るに過ぎない。此の住宅內に於ける座式慣習は果して何時までも持續されねばならぬ價値のものであるか什うか。恐らく如何なる人もその價値を支持せぬであらうと思はれる。殊に日夜公務に活動しつゝある青年壯年時代のものは誰れ一人として一時間以上も疊の上に端座し得ないのであるから、事實座式生活には已に不適當に習慣付けられて居るのである。又婦女子と雖も結婚期まで學校生活を續けた者は、大部分座式には苦痛をしつゝあると認定して差支はあるまい。唯從來我國の家庭生活は家長萬能主義で其從屬者は家長の趣味慣習に引き摺られて來た關係上、老夫婦の永らく慣習付けられたる座式に服從して其改造を企てないだけのことではあるまいか。吾人の知れる範圍にては新夫婦が獨立して家庭を營む際に其好める樣に住宅を經營せしめる時は必ず椅子式の所謂文化住宅型を採らんとするようである。住宅の如き人生の永き將來を支配するものゝ新設に際し、唯過去の慣習にのみ捉はれて現在已に靑壯年の好適と考へて居る樣式をも壓へてその實現を妨ぐることは寔に嘆しき次第であるが、我國の家長萬能主義の余弊を、斯の點に於て最も甚しく感ぜらるゝのである。

〔四〕

住宅改造の針路が其根本に於て沮止せられて居ることは上述の通りであるが、若しその沮止しつゝある種々の壓抑條件が取去られて、自由にその改造が企てらるゝようになつたとしたならば、如何なる方面に改造の根本方針が向けらるやを考へて置くことは、其壓抑條件の取去らるゝように努力するよりも更により以上緊要の問題であると思はれる。而して此問題の考究は住宅の部分的改造を企てるよりも更に重大なことでありながら、從來の改造論者や改造の試作者に於ては、比較的輕く取扱はれて來た憾みが多いのである。吾人は先づ第一にその欠陷に目覺めて此の根本方針を十分考究せねばならぬのである。

我國住宅改造の根本方針は先づ第一に晝間の居室を全部椅子式になすを原則とし、各室の配置も凡てそれに依りて割り出さねばならぬのではあるまいか。東京に於ける生活改善同盟會の決議によれば、住宅は居間、食堂を中心とし其好適なるを最大條件として配置をなすべきものであつて、從來の如く客間に重きを置くが如き虚飾的のやり方は排斥すべしと唱へて居る。其の主張は不適當のものではないけれども、何故に更に一歩を進めて座式の慣習を改めるべく說かざりしやを怪まざるを得ない。そもそも住宅の要素は何であるかを考ふるに、食堂、炊事場及寢室の三箇の分子を其主體とするのではあるまいか。居間とか書齋とか或は客間とかいふような部屋は食堂に附隨すべき第二次的のものであつて、所詮ブルジョア階級にのみ必要なる性質のものと思はれる。我國にては古來大官や富豪の生活を羨望するの弊風を存し、男子生れて彼等の生活振りを理想として進むを當然と考へて來たようである。住宅の如きは身分不相應ながら客間を用意し書齋を飾り、外面上住宅内容の整備せるを誇らんとする傾向を見るのもそのためである。其結果食堂臺所及寢室の三大要素は比較的不適當に配置されて、狹隘、不潔、非衛生、且つ不愉快なものたることが多いのである。生活改善同盟會の決議は斯點に於て大に傾聽の價値はある。而して住宅に於ける此の三大要素は座式たることが便利であるか將た椅子式たるを便利とするかを考ふるならば、現代の青年は恐らく擧つて椅子式に改むることに贊同するであらう。唯過渡時代に於ける我國の住宅は或は其寢室のみを疊敷として其使用に融通性を存して置くを便利とするかとも考へられる。

要するに我國住宅改造の根本方針として其必要なる三大要素を中心として配置をなし、其内容實質を好適ならしむることに全力を注ぎ、然る後に第二次的の要素を附加施設するを原則とせねばならぬ。住宅を以て貴族の大邸宅の縮圖である如く考へて其配置をなすことは絶對に避けねばならぬのである。むしろ現代の科學的施設を十分に取入れ最も合理的に利便と經濟と衛生とに注意を拂ひ、其内容の充實を計るならば趣味の向上も自からその間に新生の氣分を發揮し、如何にも住宅らしき住宅として其價値を增進するべきであらうと思はれる。

〔五〕

住宅の内容外觀詳しく言へば其配置、其樣式、其構造及其

施設に就いては、我國現在の住宅ほど改造の餘地の多いものは世界の文明國を通じてその比を見ないであらう。其配置に就いての根本問題は其概略を前章に於て述べたけれども、更に具體的に詳論せんとすれば可なり多くの頁を要するのであるからこゝにはそれを省略して、樣式、構造及施設に於ての注意事項を少しく述べることゝする。

先づ住宅の樣式即ちスタイルの問題を考ふるに、從來の我國住宅は木造として發達して來たものであるから、軒先の深い、壁體の薄ッペラな、明け放しの面積の頗る多い、言はば輕快な感じを與ふる熱帶風の建物であるが、暑を凌ぐことの必要の多いところからでもあらう、重々しい黑ずんだ瓦を以て葺き上げてあるために、其の屋根が建物全體を壓へ付けて居る樣な如何にも陰鬱な空氣に支配されんとする嫌がある。檜皮葺木羽板葺などの屋根を有する數寄屋造りに於ては其嫌は少いのであるが、大體に於て我國住宅のスタイルは木造建築としても其傳統的型式を重んずべき程度のものではない。況してや今後の住宅は木材一式を用ふる如きは特殊の場合として取扱はねばならぬのであるから。吾人は今後の住宅建築のスタイルに就いては新しき一生面を開きて、從來の單調な重々しい、陰鬱な氣分から脫却し、其外觀に輕快な、温か味のある感じを與ふるように取扱ふことが必要である。

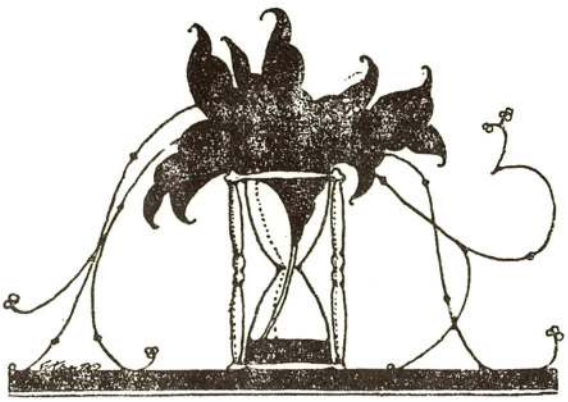
構造に就いては其改造すべき點は甚だ多いのであつて、一々こゝに詳述するの暇にないけれども、中に就いて最も重大なる要點を摘記すれば、都市又は密集地に於ては其構造を耐火耐震ならしめる事を原則とせねばならぬ事である。火災の恐るべきは言ふまでもないのであつて、其のために被むる我國民の損害は直接間接實に多大のものであるのみならず、吾人の處世觀に一種不安の空氣を覆はせ、やゝともすれば其日暮し主義の氣分を釀成せんとするのであつて、物質的精神的に我國民の精力に損傷を與ふること容易ならぬものがある。又震災に就いては我國民は特に負擔せねばならぬ運命にある以上、それに對する防備を豫め考究して置く事は絶對に必要な條件である。然るにも拘はらず我々の住宅の大部は殆んどそれに對する防備を缺いて居るのであつて、其不用意な點に於て恐らく文明國民としての資格はないのである。大正十二年の大震火災の實例を見ても如何に我國民が不時の災難に備ふるの用意が足りないかを感ぜさるを得ない。住宅は斯の點に就いて特に深き考を繞らすべき筈であるのに殆んど其用意を欠いて居ることは、特に吾人の注意を要する點ではないか。

密集地區に於ける木造の住宅に安心して居住をなしつゝある我國民の傳統的慣習は一日も早く改めねばならぬ甚だ不合理のものである事は說明するまでもない程明かな事實であるに拘はらず、防火建築促進に就いて吾人が常に採りつゝある宣傳は却々に其効果を發揮しないのは如何にも殘念である。毎年我國民の被むる火災の直接損害は二億圓に達するものと計算されて居るが、此の程度は恐らく毎年向上するものと見なければならぬ。人口一萬の都會には毎年三回の失火があるといふ計統上の事實より割出せば、貳百萬の人口を有する東京や大阪は毎年六百回內外の失火があり、六十萬の人口を有する名古屋、京都又は神戸は毎年百八十回內外の失火に襲はるゝものと推算さるゝのである。斯る高度の罹災率を有する大都市の家屋が大部分木造建築であるといふ事柄は之を冷靜

に考ふれば、到底一日も安心してそこに住居し得ない筈ではないか。都市の木造住宅が其構造を根本的に改めねばならぬ時期は今や已に遲しと待ち構へられて居るのである。而して其構造上我國の住宅が如何に改造を必要とするやといふ實際問題は此小論には詳述するを避けて他日に讓ることゝする。

〔六〕

我國住宅に於ける衛生及矮房の設備は一般に甚だ幼稚のものであつて、太古の時代と餘り變りないと言つても差支はないのである。汚物處理の方法が餘りに原始的であつて、其ために我國へ他の文明國の人々を招待し得ざる唯一の原因とされて居ることは、如何にも恥かしい次第である。又冬期に於ける我國の住宅は其矮房法の不完全なるがために可なり不愉快のものであることも事實である。其他今日の科學應用により現代の住宅が衞生上、經濟上又は娯樂施設に於て非常に利便を增進し、古代のそれと比較して驚くべき程度に生活の幸福を增大して居るにも拘はらず、獨り我國のみが原始的生活に甘ぜんとするは餘りに時代の進運を無視するものではないかと思はれる。斯の點に就いて考ふる時に恐らく如何なる人も一日も早く現代の幸福なる住宅に住居すべく希望せざるはないであらう。其希望の實現を急ぐの餘り純粹なる西洋模倣の住宅を建設する人さへもある。其結果は或は所期の通りには行かぬ場合も多いといふ事であるが、そは唯無意義に模倣したために其効果が十分に擧からぬのであらう。要するに我住宅に現代式の設備を加ふる事は住宅內部の配置、及其構造と共に改造の要諦の一であるが、其配置と構造の改造をなさずして設備のみの造造を企てゝも、十分に其成果を得ないものと見なければならぬ。又構造にしても、配置にしても、唯その一部のみの改造を企つることは無意義である。此等の改造の要諦は凡て之を綜合的に取扱つて始めて我國住宅の眞實の改造と言ひ得るのであつて、從來の如き斷片的の各種各方面の改造の試みが何れも十分なる効果を現はし得なかつたのは蓋し當然である。我國將來の住宅は斯の意味に於て綜合的の改造に依らねばならぬのである。而してその改造の研究と及實現に就いては唯少數の專門家や特志の人々に期待するようなことでは所詮其目的を達成し得るものではない。宜しく社會各方面の識者の協力に俟ち、我國民の有する最高の識見と最大の努力に依り、一日も早く改造の曙光を見出さねばならぬのである。



現代文化住宅の煩悶

村野藤吾

封建　英雄、官僚、藝者、書畫、骨董、宮殿、邸宅、寺院政爭、相場、詐欺、まだあるかも知れないが、日本の政治家や政黨なるものを考へるとそんなことばかり聯想させられるが、住宅問題などを政策や政爭にかゝげて眞面目に考へてくれないのは誠に遺憾である。歐洲戰爭の頃交戰國は各々軍需品工場に働く職工の爲め其の住宅を盛に計畫した。日本の住宅問題が輿論となつて表はれたのは多分其の頃であつたと思ふ。戰中戰後の好況時代に住宅難が甚だしくなるにつれて一層輿論を刺戟しその視聽を集めるに至つたが、さて其の解決は非常に困難で前途尙遼遠の觀がある。解決の方法とは勿論量と改造の問題で、一日も早く國民に合理的な住宅を供給することである。

輿論の風潮に前後して我が建築界にも住宅問題に關する議論が戰はされた。而して其の最初の試作展覽會なるものが先年上野に開かれた平和記念博覽會に於ける文化村となつてあらわれた。思ふに文化住宅の名は多分其の頃に生れたもので舊日本住宅に對する建築家の具體的改造案であつた。

文化村の諸建築は而し建築界を代表する改造意見でないことは勿論、なかにはあまり感心しないものも多かつたが日本の住宅改造に對する實際上の指針を與へて將來の住宅改造に大に資するところがあつたのは多とすべきことであらう。

其後日本建築協會は住宅博覽會を大阪の郊外櫻ケ丘に開催して大に朝野の興味をそゝつた。文化村に比し一段の進歩を見せ、殊に疊を含む二重生活に對し建築上の具體的意見が何

れの建築にもあらわれその苦心のあとを認めることが出來たが而し、今にして思へば、當時の企てが中産以上の生活を爲す者のために、洋風住宅の模型を示した樣な感じがして、今日多數の者が切實に求めて居る合理的な住宅に對する具體案を見せて貰へなかつたことについて、協會當事者の心意を遺憾に思ふ。こんな企ては今日やかましく云われる文化生活が、其の住宅問題の大局には、さして影響したとも思へず、住宅に對する世人の考へを浮薄にするばかりではないかと思われる。此の點になると文化村の場合の方がはるかに有効であつた樣に思はれる。殊に安達彌氏の出品の如きは現代日本の住宅故造に對し、最も端的にその改造意見なるものを提示せられて居たこと今に記憶して居る。

住宅博覽會の出品に此の切實なる要求に缺け、拂つた犧牲に對し世人が、やゝともすれば陷りつゝあるところの文化住宅の本質的な考へに對する誤解について眞面目な反省を促したとは思へない。文化生活—簡易生活—一間の家—ハイカラ生活—文化住宅—こんな風に思はせつゝある傾向に對し建築家は責任がないとは云へない。

今日世人が求めて居るところの文化住宅と云ふものは、やはり外觀に重きを置き過ぎては居ないかと思ふ。舊式な生活や二重生活を脫することについて、又過渡期に於ける生活の方法をどうするかと云ふことについて、はつきりとした見解に乏しく、只建築家に任せて居る樣に思はれる。そこに大きな缺陷がはらみはしないか、文化住宅に對する識者の鞭撻には理由があると思ふ。

住宅改造に關する議論がやかましかつた頃、生活改善同盟會の住宅改造案なるものが發表され、次で文化村の出品規定が發表された。何れも當代專門大家の意見として住宅建築の方向を左右するもので、多少の異見はあるが、大體に於て今日の文化住宅と稱せらるゝもの多くはその意見の如く進んで來たものと思ふ。而し、これ丈けでは最早吾々の要求を滿すことが出來なくなつた。たゞ椅子式に改め、科學的に改造した丈けてはいけない。吾々の思想を含む生活樣式と建築とを、各別に解決する樣な在來の文化住宅に不滿を感ずる樣になつた。そしてその有機的な連鎖について、更らに何等かの方向に進路を開く必要にせまられて來たのである。今や文化住宅の問題は文化村以來第二段の階梯に達して居るのではないかと思ふ。これについてはいろ〳〵の議論があるが、私は吾々の住宅を更らに洋風に近づけると云ふ說に贊成する。洋風と云ふのが惡ければもつと世界的にすると云つてもよい。

此頃男子も婦人も著しく西洋臭くなつたことが目につく、殊に婦人の服裝や身の廻りの品々、姿體、化粧法、などはその著しい現象であるかも知れない。一頃婦人の改良服なるものを見受けた。多分生活改善同盟會や何々女學校の先生達によつて考案せられたものであらうが、幸に此の低級な改良服なるものは世間の評判があまりよくなかつたので流行を見ずに濟んだ。そんなことをして居る間に婦人の服裝はどし〳〵洋裝に代つて行つた。器用な婦人になると、服裝やその歩きつぶりまで、本場の西洋人に及ぶのがある。子供の服裝なども其の通りだ。殆んど凡てが洋服に代へられて行くのを見るとその善惡は別とするもそれには理由があると思ふ。明治初年

の歐化は政策であつたが現代のは勢である。

此の調子で進むと今に義太夫、歌舞伎、落語、そんなものは第二の文樂になつて、説明附でないと一般には理解せられぬ時代が遠からずやつて來るかも知れない。そんなことを考へると片手落ちの改造意見などに思ひを寄せて居るわけには行かなくなつた。佐藤先生の話によると、今日の日本の建築で最も古く見える(古い?)建築はセセッションだと云ふ事である。つまり建築は、その直前の時代にあつたものが一番古く見えると云ふことである。古いと云ふ事は必らずしも醜いことではないが私は此の場合に限つて古いものは醜いものだと云ひたい。先生の言葉はよく流行の心理を謂ひ表はした、言葉として面白く拜聽したが、文化の進展のうちに取り殘されて行くものの姿をうつして住宅を眺めると考へさせられることが多い。止むを得ないことではあるが、今日の文化住宅は文化移動期に於ける一種の醜い謎である、それを解き得るものは只「時」ばかりであらう。

今日の建築界には西洋風になることを恐れて盛んに建築上の日本化を叫ぶ人達がある。國體、土、習慣、そんなものが聯想の的となつて、一日も早く日本には日本固有の建築を持たねばならぬと云ふのがそれだ。勿論日本固有のものと云つても舊日本の建築に歸ると云ふのではあるまい。話はよくわかつて居るが、さてそれが出來るかどうか、根本の問題になると洋化も日本化も同一とは思ふが、議論に役立たない議論は極遊戲であると思ふ。

一體習慣と云ふものは左程吾々を根本的に支配して居るかどうかと云ふに、私にはそうとは思へない。一度外國を旅行した人は誰れでも經驗して居る樣に、永い間椅子や洋服の生活をして、洋食ばかり食つて居ても左程不自由とは思はないたまに日本飯を食べたいと思ふこともあるが、それはほんの氣まぐれだ。外國で日本飯を食べると云ふことは、食べながらお國情調を味つたり、國を懐しんで見たり、或は家庭にのこした妻子を聯想したりする氣持であつて、日本飯を食べなければ死ぬと云ふものでもなければ洋食の代用食として日本飯を食べると云ふ人はあるまいと思ふ。夜分寢る時にゆかたを用ふることはゆかたが日本物だから用ふるのではなくて、ゆかたが便利だからであると思ふ。便利と云ふことは其の意味で世界共通の考へである。若しゆかたに代るものがあつたらそれを用ふることも出來るし、又用ふるに躊躇する人は物好きだと云わなければならぬ。便利が實用に役立たぬ時が來ればどし〳〵捨てなければならなくなると思ふ。ボーリス氏は其著『吾が家の設計』?のなかで疊のことを非常に賞めて居られるが、ボーリス氏の樣なプロジャパニースでもやはり西洋の人は西洋の見方があるものだと思つた。又、或る人は疊程氣樂なものはないと云ふが、西洋にも疊に代へられるものはいくらもあると思ふ。尤も現在日本に使はれて居る家具類などは餘程まづいもので、利用の方法も、造り方も、家具に對する考へ方も大部間違つて居るから西洋風の家具とはそんなものだと思はれては困るが、とにかく疊代用に西洋の家具を用ふるとしても、疊以上に吾々の氣持ちを安樂にもするし、又安逸な生活にふさわしい樣に案配することも出來ると思ふ。若し夫れ、青疊の上で、ゆかた掛けにアグラをかいて淺酌低唱の氣持ちを得るには、疊にしくものはないと云ふ人があるとすれば、その人達は茶屋酒を飯むがよい、そんなことは吾々の住宅問題には何の關係もないせいたくな考へであ

る。初めて日本の土を踏んだ西洋人は日本の建築が次第に歐化して行くのを惜んで何故日本は西洋の醜い模倣をやる必要があるか、日本には古來立派な建築があるではないか、日本人は何故に之れによつて新日本の建築を打ち建てぬかといふ人が多い。多分本氣で云つて居るのではないと思ふが西洋の人達は何時までも日本を櫻の國、日光の國、奈良の國、藝者カールの國と做して居る。日本はよく例外を求める國である勞働會議でも、醜業の禁示問題でも、著しい理由をつけては例外を求めて恥としない國である。而し住宅のことに例外を求めるのは躊躇した方がよくはないかと思ふ。奴隷、茶の湯、生花、禮法、サムライ、大和魂、ハラキリ等、祖先が數限りなく吾々に選してくれたものゝうち、今後、眞に吾々の生活に役立つものがどれ丈あるか、一體日本固有とは何を指して謂ふのか、主從、親子、既成宗教、夫婦、家族制度、まだあるかも知れないが、凡てそれ等のものに新らしい解釋を加へなければならぬ時代ではないか。何を日本固有と謂ひ、何を日本風と謂ふか、日本は常に動いて居ると思ふ。あまり國と云ふものに固著して、何事も國家的精神を加へ過ぎると困ることがある。政治家や教育家は職業柄さしつかへないが人として生活するのに何處の國のものであらうが、生命に役立つものはどし〳〵利用してはどうかと思ふ。若し、吾々の精神が世界の人達と一つになつて世界の文化を築き上げることに對し、共同の喜びを感じるなら、吾々はより進んだ文化的な國の長所を恐れずに、吾々の生活をよくするものを取り入れる丈けの雅量と、度胸と、確信とを持つてはどうか。それによつて、若し吾々の根本がおかされたり、國が滅びたりするなら、そんなものは早晩どうにかなるに違ひないから、一氣にやられた方が良いとも思ふが、それは杞憂に過ぎないだらう。立派な證據としてはルボンの著書があるし、維新の大業もある。よい例ではないがカリフオルニヤの日本人も居る。吾々に土と血とがある間は左程心配したものではないかと思ふ。

斯樣に考へて來ると吾々の生活樣式を世界的に近づけて行くことは、文化住宅の問題には最も都合のよい方法でもあるし、又押し迫つたことの樣にも思ふ。茲に世界的と云ふのは自然と科學の上に立つた樣式を指すことで、必らずしもある國のものばかりを指して云ふのではない。而し、其の生活樣式が日本在來のものよりも、西洋の生活に接近して居ることは丈けは事實であると思ふ。疊を廢することも、寫室を仕切ることも、椅子を用ふることも、細々としたことは坊間販賣せらるゝ書物や、雜誌に書いてある故、そんなことは茲には書かないが、何もかも此際徹底切つて洋風にすることが若し出來るとすれば改良服の樣な今日の文化住宅を更らによいものにすることが出來ると思ふ。實際、今日の文化住宅位ちぐはぐなものはないと思ふが、私は而し之れに對しては一種の同情を持つて居る、又肯定もして居る。日本の現狀から考へも止むを得ないものと思ふ。それを、一部の人達の樣に、頭から西洋の模倣であると云つてしふま說には賛成出來ない。これは獨り住宅の問題ばかりではない、廣く日本の建築樣式に關する問題でもある。

日本の建築は西洋の直寫であつて日本風に醇化されて居な

い、創造がないとはよく聞く言葉である。建築ばかりではない、美術や音樂や文藝なども恐らくそうであらうが、而し、何を日本風と謂ふか。答として滿足なものを曾て聞いたことがない。示されるところの對案なるものがバンガローであつたり、ミツシヨンスタイルであつては、折角の對案が何んにもならぬと思ふ。日本の産業がまだ幼稚なころ、逆輸入と云ふ方法があつた。日本のものを西洋に持つて行つて、西洋のレーベルを帖つて日本に入ると喜ばれた時代がある。日本の住宅國醉論者のなかには、樣式逆輸入の方法があるから御用心。

それかと思ふと模倣や傳統を口癖の樣に意氣地なし叫わりをしておきながら、其の對案を歐洲の近世建築に求めて、盛んにその直輸入をやる人達が居るのでこれにも御用心。

又、日本の建築は混亂して居る、日本の建築界は百鬼夜行の狀態であると云ふ人があるが、その混亂の原因や、混亂と倣さるゝ事が既に、その人達の畫いて居る眩影ではないかと思ふ。動くものゝ影、其本質、其塊が、何かを目的として移り行く方向に動いて居るかを瞭りと見つめる必要があると思ふ。日本の文藝が、日本の政治が、日本の科學が、而して日本の文化がその通りであると思ふ。恐らく日本ばかりではあるまい。

米田博士によると、世界は廣い意味で、文化移動期の狀態にある。故意と掣肘とはよくない方法である。文化促進の上には大の禁物だと思ふ。何もかも自然に任せた方がよいと思ふ。混亂を混亂として旨定してはどうか、傳統も、模倣も、獨創も、直寫も、凡て創造への過程とみれば、その一つにこだわつて居ることは神經質過ぎる。混亂を、亂脈を、そのまゝ現世の姿と見た方が氣樂だと思ふ。

日本の文化住宅は貧弱だと謂ふ人がある。その通りだと思ふ。而し、貧弱なものには違ひないが、只貧弱だと云つてしまつては無責任だと思ふ。よくないことだと思ふ。恐らく、その人達は立派な邸宅や、雜誌にある樣な西洋の住宅に比較して貧弱だと云ふのであらうが、西洋にも隨分貧弱なものも多いと思ふ。但し同じ貧弱さにも色々ある。金のかゝつた貧弱さと、金をかけぬ貧弱さとがある。金をかけぬ貧弱さは當り前だが、金のかゝつた貧弱さには手がつけられぬと思ふ。敎養と藝術を缺いだ高級住宅によく見受ける現象であるが、その社會に及ぼす影響を考へる丈けでも恐ろしくなる。或る人が今日の文化住宅問題は中流以上の人達に最も必要であると云ふのは、完全ではないが穿つた言葉だと思ふ。元來金の多寡によつて建物の出來ばえに差を生ずると云ふ考へが既に隨分馬鹿化た觀察であることまではわかつて居るが、さてそれから先きのことになると、世人は多く建築家任せであるから建築家と云ふものは、隨分無理な仕事をさせられるものだと思ふ。金に糸目をかけづにやつた建物によいものが出來た例は極めて勘ない。建築に金をかけ過ぎることは、建築家を墮落させるか馬鹿にすることが多い。それかといつて、金をかけなさ過ぎることもよくないことはわかつて居るが、世の中には金をかけづによく見せようと思ふ人がある、建築家の腕とはそんなもの位に思ひ込んで居る人かあるから慾が深す

ぎる。共に建築や貧弱に見せる手段を考へて居る様なものであると思ふ。要するに、金の多寡と建築の本質とは關係がないと云ふことである。

建築とは形を含む思想であると云つてもいゝ。金をかけてもかけなくても問題の本質にはふれぬ。金のある人が別莊に住むなら、金のない人は金をかけ過ぎては出來ない家を造つて樂しむもよし、丸木の小屋を作つて、その中で哲學の本でも讀むがよいと思ふ。そんな人から建築を賴まれたら隨分氣持のよいものが出來ると思ふ。

一體世人の文化住宅に對する考へは少し贅澤だと思ふ。生活に對するはつきりとした、考へなしに住居を營むことは、既に危險をはらむものと思ふ。國民の誰れでもが合理的な家に住む權利があるにもかゝわらず家らしい家に住むことが出來ないのは、多分そんな考へにもわざわいされて居ないかと思われる。どんな貧弱な家でもよいから、少でも合理的な家に住ませる爲めには、貧弱な位は我慢しなければならぬと思ふ。此の意味で、住宅公營も營利的な住宅經營も、生産住宅も、たとへ、多少の弊害はあつても、ボロ借家に住むよりもましだと思ふ。促し、いくら住みたいと云つても、金儲けより外のことは考へない人や、一人一人の生命を尊重しない人達によつて經營される住宅に住わされてはやりきれないと思ふ。こんな住宅に好んで住つたり、又、住むことを名譽と心得て居る人はきつと犬とラジオが附きものである。彼等の藝術はラジオ以外には出ない。大都市の郊外にある何々住宅經營地、何々文化村と稱するものは、皆とは云へないがよく見受ける現象で、其の低調な文化生活振には鼻持ちならぬことがある。

一國の藝術が全的に進行して居る場合には、著しそこにある新らしい衝動にかられて、ある刺戟がその藝術圈の一端にふれると、そこに新らしい藝術の形成が曙光を見せ、やがてその藝術圈全體を巡つて新時代の表現がおこり、詩に、音樂に、やがてそれ等の綜合藝術たる劇と建築にまで及ぶのであるが、若し之れに反して、各種の藝術が夫に孤立的な姿で存在して居る場合には、かりに、ある思想、ある傾向の藝術が現われても、藝術圈全般の速動にはなり得ないで、夫々の中心を中心として終るものである。日本の住宅が文化と有機的な連鎖に缺けて居る狀態が即ちそれだ。そこに日本の文化住宅をして、貧弱ならしむる原因をはらんで居る。住む人が進みすぎて居るか、住宅が進み過ぎて居るか、或はその何れもが文化の志向に反れて居るかと云ふことである。此の場合に於ける建築家の態度は注意すべきことであらうと考へる。

今日の時代は、最早專門家的批評の時代は過ぎつゝあるものと思ふ。住む人が、眞に、自己の創造物として住宅の內容に立ち至つて、自己のものに役立たせんとする傾向が現われて來たと見るべきである。それ故に、住む人は、先づ建築家に依賴する以前、彼れは既に生活上の藝術家であらねばならぬ。如斯傾向は、而し極めて進步的な人達の思想であつて、今日の文化住宅の本質的表現に對しその「貧弱」さを救ふ唯一の方法である。

人は自己の創造したものを役立たせる爲めに建築家に依賴する。建築家は人の望むところのものを與へ、望まぬものは

又捨つべきであらう。著し、建築家が理想家となり、建築家が政治家となり、建築家が藝術家となるなら、住宅の文化は依然としてその意味の貧弱さをたどるであらう。建築家は建築家に過ぎない、建築家は一個の工人としても亦立派にその立場を保證し得ることが出來ると思ふ。

先達私は、バトリックと云ふ人の書いた弛緩心理論を讀んだ。そのなかにこんなことが書いてある。現代の文化は人類が數千年の間に積蓄した緊張生活の産物である。愛と理想とが今日の如く叫ばれた時代は史上未だ曾てなかつた。然るに戰爭、殺戮、社會的爭鬪などは、却而益々深刻に、野蠻になつて行くのは、全く此の緊張文明の行詰りであつて、過般の歐洲大戰爭なども、現代人が弛緩心理を求むる結果であると云わなければ解決が出來ないと云ふことである。そこで、進化生活の高度の緊張は、折々原始的行動によつて解決されなければならぬ。人間はも一度武器を使用し、兩脚を使用し、其の筋肉を使用し、其の低級な頭腦を使用しなくてはならぬこれ現代の文明病を癒する方法である。其處に平和と調和が來るので、再び智力と意志の緊張した能率生活に復歸する用意をして居る。能率と云ふことは、注意力、集中力、自制力及忍耐の力を要する。そして是等の力は、極端な疲勞を起すもので、隨時休養の弛緩を要する。若し此の休養が缺乏すると均衡を回復せんが爲めに、大なる反動作用が來るものと覺悟しなければならぬと云ふ樣なことが書いてあつた。

よく今日の文化住宅には能率と云ふことが叫ばれる。佐野博士の住宅論を讀むとそんな意味を隨所に散見する。先生の御宅のプランを見るとその思想が最も端的に發揮されて居る。先生は流石に算數に長けた人だと思ふ。

外で働き疲れて家に歸ると家内から明日の計畫について相談される。右を向くと女中が茶を入れる。左を向くと煙草盆を出すと云ふ樣にされたらやりきれないと思ふ。疲れた頭は一層いら〳〵するにちがいない。主人の顔色ばかり注意する生活位家庭らしくないものはないと思ふ。能率萬能を心得て居る婦人が、主人の出勤退出の時間を心得過ぎて居るとしたら、今日の男は更らに苦痛を增すに違ひないと思ふ。能率本位の住宅とはこんな思想の持主に多くはないかと懸念される。

一體、今日の住宅に能率を必要とするのは多く婦人の仕事に關係あるものばかりであると思ふ。其の他のことは、左程能率の必要はないと思ふ。何故に能率が必要だと云ふに、それは婦人に時間の餘裕を與へて、教養や娯樂の爲めに機會を與へると云ふことに歸すると思ふ。而し、結果は必らずしも目的の通りに行はれて居ない。家庭の生活は簡素であることの必要なのはバトリックの說と同じである。而し簡素な生活と云つても、家の間取りを簡單にするとか、實用一點張りの生活をするとか、科學的な生活をするばかりでないと思ふ。現代人は色々の意味で複雜な生活やその考へ方に悶へて居るが、そのうちから、眞に吾々の生命に役立つもの丈けを殘して、それ丈けで生活しようとするのが簡素な生活だと思ふ。

現代人心理の複雜なまゝで簡素な生活丈けを家庭で營まうとするなら、家庭は淋し過ぎる處だと思ふ。そこで家庭はこうした現代人の惱みを捨てさせ、又その心に糧と休養を與へる爲めに役立つ樣に構成されねばならぬと思ふ。

「家」の機能は詰極そこまで行かねだならぬものと思ふ。よい家とは此の意味で、神の宮であるを思ふ。家のなかを機械仕掛けにしたり、天井も、壁も、床も、凡そ空隙と云ふ空隙をあますところなく、押入や引出しにし、家の中から無駄と云ふ無駄を殘りなく剪除して、能率生活に役立たようとすることが、はたして人類全體の理想、その中庸の生活、その簡素な生活を營むことになるものであるかどうか。私は之れについて詳しい批評を書く氣になれぬ。人が若し、偉い人になるとか、金儲、位階、野心、學問、色慾、奢侈、人生を裝飾するそれ等のものを捨てずに、複雑なまゝの心で生活するなら、家庭は次第に機械と、實用と、能率の處に變つて行くに違ひないと思ふ。そして、詩と音樂とは遂に現代の文化住宅から跡を絶つに至るであらうと思ふ。衞生の問題でもその通りである。臺所は主婦の實驗室だと云つては病院の様にするし、衞生的にしなければならぬと云つてはどの部屋もサンルームの様にしないと承知せぬ人があるのは困つたものであると思ふ。私は、室内を一個の舞臺と考へて居る。光線と色とを適度に使ひわけることは部屋を美しく見せる。適度の暗さは、人に安靜と思索を與へる。反省と休養を得るに適當である。時として心を神に歸らしむるものであると思ふ。實用を能率を、經濟を八釜敷く謂ふ人達も、田舍の謙遜な民家の設計を惡罵することが出來ないだらう。山奥の賤が伏家を見る時にその前に口をつぐむに違ひないと思ふ。人は時として直線よりも曲線を愛することがあると云ふことを承知して貰ひたい。美と實用とが一つになり、實生活がそのまゝ藝術となつて人生を美しく見せようとするには、現代の文化住宅病患者の頭腦を訂正する必要があると思ふ。

私は而し、吾々の生活を字義通りに原始に歸り土俗に歸らせようとするのではないが、舊日本の生活法を訂正するに忠實過ぎて、そのうちに失はれつゝあることに無關心であることは、決して、人生を美しくすることにもならぬし、吾々の家庭生活を正しくする所以でもないと信ずる。吾々は最早米國式能率心醉を止めて、バトリックが指摘した様に、アリストートルに復歸し、その中庸の敎へを遵守したい。私は敢へて現代文化住宅が理想とし、そしてその陷りつゝある缺陷に對し抗議したいと思ふ。

小供本位の家庭と云ふことが流行する。惡くないことである。而し、此の次代國民を愛するあまり、一切を擧げて子供の爲めに資すると云ふ考へは割引きして考へる必要がある。少なくとも、住宅の場合には必要であはと思ふ。有島さんの著書で、「幼き者へ」と云ふのがある。ある友人に之れを贈つたら讀む間涙を流して居たと云つてよこしたが、此の書物など、私は新時代の親と子の聖典だと考へて愛讀して居る。本能と理智とが適度に交感された美しい感情で、子供のために全我を投げ出して居るその態度を考へると、涙なしには讀めない。而しながら、それ程まで子供のことを考へて居てもやはり心のどこかに親と子の生活が相容れぬものゝあることを感じる。子供のためにエゴイズムを捨てきらぬ惱み、親と子の間には一沫の淋しさが漂つて居ることを認めざるを得ないのである。私は今日の家庭を、自分、夫婦、子供、親、兄弟と云ふ風に考へて居る。立派な云ひ表はし方ではないかも知れぬが、そう考へた方が親にも孝養をつくすことも出來るし、又子供のことをほんとうに考へることも出來ると思ふ。こうした家族的觀念の下に、之れが建物に影響して出來たものを私は住家と思つて居る。家屋の構成、配列などもこんな

考へが基調となつて出來て居るのではないかと思ふ。つまり私は自分を除いては夫婦と云ふものが家を構成する根本であると謂ひたいのである、このことは而し當然の樣ではあるが日本の家族關係は決してその通りに出來て居るとばかりは思われないのが私の謂はんとする主眼である。子供中心の思想も其の考への元は多分夫婦に歸する事であらうが、それが爲に夫婦の生活が犧牲にさせられる理由は少しもないと思ふ。親のために子供が身賣りするのもよくないことだが、小供のために親が命を投げ出す理由も成り立たないと思ふ。そんなことを考へ過ぎたり、理窟をつけたり　又本能と道德とを置き代へたりしては、人間を眞に生す道ではないと思ふ。本能と理智とは、よく道德に生命を吹き込むものである。家の構成に役立つものは夫婦を中心とする生活であると謂ひたいのである。そこで夫婦であるが、夫婦はお互ひに適度の性慾生活を持續することが必要である。性慾のない處に家庭生活はあり得ないのである。性慾生活は一切の家庭現象を支配して居ることは勿論である。此の意味で住宅とは、夫婦の性慾生活を營むところとも謂ひ得る。此の關係が住居の構成に及ぶところに文化的意義を多分に含んで居ると思ふ。住居の文化史的意義は夫婦の性慾生活なしには考へる價値のないものでその文化價値は先づ夫婦の性慾生活を基點として展開するものである。進んだ住宅とは、能率本位、簡易生活などで謂ひ表はすには單純過ぎると思ふ。尤も、以上のことは一夫一婦の制度を土臺として考へたことであるが、若し夫婦の性的關係が一妻多夫、又は、一夫多妻となり。異性間の性的關係が自由戀愛となり、自由結婚となつたら、勿論今日の住居は、本質的にも、外部的にも　その構成の上に過半の改造をよぎなくされるに相違ないと思ふ。こうした夫婦關係、異性間の性的關係が、どんな具合に住居の構成に及ぼして居るか、又及ぼすものであるかと云ふことについて、細々とした考へを書くことは許されないが、今日の文化住宅がこうした考への下に或るものは進み、又あるものは惱んで居ること丈けを書けばよい。進んだ住居とは、夫婦關係を中心として構成されるもので親　子、孫と云つた關係が逆になることは文化の志向に對する例外の例であると思ふ。住居は夫婦を中心とする家族が、各々獨立の思索を盛るに必要な部屋を得ることを以て理想としたい。一間の家とは、その要求を最少限に滿されたもので、決して物質的に最少限の生活を營むためのみに作られたものでないことを指摘しいのである。

大人が客間や書齋を持つから、子供もその專屬の部屋を持つことはあたり前である。惡くはないが、それかと云つて、私は此の頃流行する子供室なるものにあまり感心出來ぬ。數訓めいた繪などを壁にはりつけた部屋に押し込めて居ることは、少しも子供を善導する事にはならぬと思ふ。廣くもない家に最も良い部分を子供に與ゆることを以て子供を愛することの樣に考へる人は、子供を戶外で遊ばせるがよいと思ふ。

西村伊作氏の生活に對する態度及び座室に關する意見は已に定評がある。何人も氏によつて啓發されないものはないと思ふ。私の小文も亦氏の著書に負ふところが多い。而し氏の思想の卓越して居る割合に氏によつて設計された業建築にあまり感心させられないのは不思議である。

私は現代の文化住宅が惱みつゝある問題についてあまり長く書いたことを思ふ。而し斯樣に廣汎な問題について、此の小文がよく批評し得るとも思わない。たゞ私は二三の興味ある問題を選んで、現代文化住宅の進みつゝあることについて書いた積りである。故に、其の他のことや細々とした問題については本文の目的でない、あとは察してほしい。



英國に見る住宅の大變化

小川市太郎

私は今度の滯英一年有半の間住宅及住宅問題に關する各方面の材料を相應に蒐めて歸つた積でありますが、新聞社の餘暇引續き英國治自制度の調査に沒頭して居りますので、折角持ち歸つた材料を整理して、之を一般に御紹介することの出來ないのを甚だ遺憾とするのであります。ところで今度『建築と社會』雜誌の住宅號に是非何か住宅問題に關することを書けとの御要求でありますから、私が面のあたり英國の住宅について感じましたことの二三を申述べて私の責を塞がうと思ふのであります。

アパートメントの激增

最近英國殊に倫敦その他の大都市に於て最も人の注意を惹くのはアパートメントの激增です。戰爭以後昨年六月一日まで英蘭土だけで新に建築せられた住宅は六十一萬七千六百七十六軒でありますが、田舍ではフラット式のものが僅かに三パーセントに過ぎませんのに、それが倫敦になると十六パーセントを占めて居りますので、英國としてはこれは全く意外の事です。御承知の如くこれまで英國の中流の住宅と云へば、可なり大きな獨立家屋でありまして、日本でいふ三階の外にアチックとベースメントがあり、ドロウーウキングルームとキッチンの外に、ベッドルームが五六間若くは八間ぐらいあるのが普通であります。ところでこの頃新に出來る住宅は一階、二階、三階と分け貸をするやうに建てられた所謂フラット式のものが段々と多くなつて來るのみならず、以前からあつた獨立家屋もフラット式に改造せらるゝやうな傾向を生じて來たのであります。

建築費の暴騰

然らばそれは何故であるかと云ふに、第一の原因は建築費の暴騰です。英國では戰爭後、煉瓦、木材、建築勞働者の賃銀の騰貴は非常なものでありまして、從來のやうな獨立家屋を建てたるには、その建築費は恐しい高いものにつく、從つて家主が之を貸していま迄通りの收益を擧げやうとすれば、

餘程高い家賃で貸さなければなりません。ところで借手の方はどうかと云ふと、打續く不景氣の爲めに、そんな高い家賃は拂なれない。高い家賃を拂ふぐらいならばフラットで我慢すると云ふことになつて來たのであります。そんなやうな譯で從來のやうな大きな獨立家屋を建てゝも需要がなく、家主も勢いフラット式の家を建てざるを得なくなつたのであります。

女中の拂底

しかし英國の住宅がフラット式に變ることになつたモウ一ツの大なる原因は、女中の拂底であります。それは倫敦の例によつて見てもよく分ります。今日倫敦では女の數が男よりも五十五萬二十人あまりも多いのですが、女中がなか〳〵得られません。役に立たないヨボ〳〵の婆さんならイクラでも得られますけれども、若くて眞面目に働く女中を得やうとすれば、それは非常に困難であります。それはどう云ふ理由かと申しますと、こうです。

いま倫敦あたりのオフヰツスで働いて居るガールの給金は、仕事の種類によつて非常に差がありますが、大低一週間三十シルリング(十五圓)です。そうして彼女等は三度の賄は勿論のこと獨身者であれば、給料のうちから家賃(部屋代)も拂つて行かなければなりません。然るに一方女中の方はどうかと申しますと、働き盛りの若い女でありますと、大低一週間一磅(十圓)の給金が得られます。そして女中の場合には、部屋代は要らないのみならず食費は全部主人持でありますから、給金は丸殘りになることになります。それですから若い女などは進むで女中奉公に行きそうなものですが、彼女等の十中八九までは女中には行かず、工場がオフヰツスに行つて働くのです。

給金よりもボーイ

これは鳥渡考へると不思議のやうですが、少しも不思議でも何でもありません。なぜかと云いますと、女中奉公は工場やオツフヰスに比して收入は遙か多いにしましても、女中となると一週間に僅か半日の休暇があるだけで、あとは朝早くから夜八九時頃までも働かなくてはなりません。そして勝手に何處にでも出ると云ふ譯に參りません。然るに工場やオツフヰスの勤になると、朝九時から晩の五時まで働けば、あとは全く自由で、公園で芝生に轉げてボーイと戀を語ることも出來れば、活動や安芝居も見に行ける、それであるからうら若い娘子どもは、親が如何に勸めても女中に行かず、工場やオツフヰスで職を求めることになるのです。

掃除に困る大家屋

これが爲め近年倫敦の家庭では、到る處ヒドく女中難に惱まされて居ります。それですから倫敦などでは女中の權力が非常に强く、お主婦さんがうつかり女中に小言でもいはうものなら、女中クンえらい權幕で抗議を申立てサツ〳〵と出て行つて了ふ。昨年の夏のことですが、長く倫敦に居る私の友人の細君(日本人)が家族づれで海岸に行つたあとで、留守を預つてゐた女中の一人が自分の部屋に巡査を引摺り込むで不

しだらを働いたことが分つたので、呼むで其不都合を叱りつけると、其女中クン平氣なもので、妾は契約通りの勤をしてゐるのに、妾の私事にまで干渉せられる理由かないと云つて逆襲せられたので、英吉利の女中はコワいんですよと、その當時切りに恐しがつてゐました。よく英吉利の婦人なども、この頃倫敦の家庭では女中を使つてゐるのか、女中に使はれてゐるのか分らないと云つて居りますが、實際その通りですこんな風で倫敦あたりの多くの家庭では、女中が得られない所からして、これ迄のやうな大きな獨立家屋を支へて行くことが出來なくなつて來たのであります。食事の方の世話は主婦や娘達の手でやれるにしましても、家が大きへなるとベッドの始末と部屋の掃除は大變です。尤も英國にはチャーウーマンと稱して掃除專門の臨時雇の女がありますが、偶にそんなものを雇つて掃除をさして見たところが仕方がありませんから、勢い小さな獨立家屋に住ふか、然らざればフラットを借りて住ふの外ないのです。ところで倫敦の市内にはそんな小さな獨立家屋はないのですから、結局需要がフラットに向つて集中するやうになつたのです。かうなると自然家主も大きな獨立家屋の建築を手控へますと共に、いまゝで持つて居つた獨立家屋をも、三つ若くは四つのフラットに改造して貸すことになり、倫敦の住宅引いては倫敦の家庭生活に大なる變化を來すことになつたのです。

住宅難は小住宅のみ

英國は今日でも依然として住宅難に苦むで居りますが、それは勞働者向の小住宅でありまして、中流以上の大きな獨立家屋になりますと、貸家と賣家が到る處ザラにあります。しかもそれがこれ迄のやうな構造では、借手も買手もつかぬところから、次第〳〵にフラットに改造して行くのでありまして、メーダーベルや、サウスケンジントンあたりの金持の持つてゐる大きな家屋などはこの頃大概大勢の家族の合宿所に改造せられてゐるのを見ますが、これは確かに倫敦に於ける住宅の革命を事實の上に物語るものであります。

郊外の新住宅

之と同時に英國に見る住宅の大なる變化は、郊外に於ける小さな獨立家屋の盛んな新設であります。英國の大都市の住宅はこれまでは市内でも郊外でも大概三階の煉瓦建であつたものですが、この頃倫敦あたりの周圍部に出來るものは大概居間、食堂、臺所、便所、風呂場の外に三つ若くは四つのベッドルームしかない二階建の小さな家屋でありまして、周圍には青い芝生と植込があり、見るからに清新の氣が溢れて居ります。丁度昨年の夏私がクロイドンの飛行場に行つた歸りに自動車で、倫敦の中心から十六哩ばかり隔つたバーレーの新住宅地を通りましたときに、實に氣持の好い新建の貸家と賣家が並んで居りますので、車を停めて其處の事務所を尋ね買ふやうな振をして四五軒家を見せて貰いました。

驚くべき廉價

ところで實に驚いたのは、その直段の餘りに安いことですあんな立派な家が八千圓から二萬圓までゝ買へるのです。しかもそれが即金拂でなく、初め一割を拂込めばあとは二十ケ年若くは三十ケ年の濟崩で買へるのです。(普通毎週拂)その

うち二千三百五十磅と云ふ家などは實に堂々たるものでありまして、九百坪ばかりの地所に百坪ばかりの二階建の西洋館が建つて居るのです。それに土地は九十九年のリースホルドでありますから、まるで只のやうなものです。之から見ると日本の地所と家の高いのは呆るゝの外ないのです。

住宅と自動車

しかし、そのそちでも最も私の注意を惹いたのは、此等郊外の新住宅には戸毎に自動車の置場がついて居ることであります。之れは取も直さず自動車の發達が住宅に及ぼす影響を證據立てゝ居るものです。これまで英國では自動車の値段が高かつたのと車臺が重かつためゝに、自動車が一般に廣く個人的に利用せられなかつたのです。然るに此頃になつて英國ではモリスのやうな安くて輕い自動車が盛んに利用せられることゝなつた爲めに、市民の住宅と生活の上に大なる變化を持ち來すことになつたのであります。今日英國ではモリスのツー、シーターが百四十磅から二百五十磅も出せば買へるのみならず初め價格の三割を拂へば、あとは一ヶ年の年賦で可いから、大低の人に買へます。それから又英國ではガソリンが米國などより遙に高いが六志の油があれば優に六十哩は走られるし、運轉も譯なく覺えられるから、この頃倫敦あたりでは大低のものは、安いモリスの自動車を買つて、ウキークデーには郊外の閑靜な住宅からオフキスに通い、土曜日の午後と日曜には細君と子供の外に、犬まで乘せて遠方に遊に行くのが例になつて居るのです。斯る次第で、英國に於ける輕便自動車の發達はます〳〵大都會の遠い郊外に、小さな新住を增加せしめて行くことになつたのであります。

スチールハウス

それから最近英國に於て大に人の注意を惹いたのは、スチールハウス即ち外皮に鐵板を用ゐ、その內部を石綿で固めた木造家屋であります。これは英國の大工場主であるワイヤ鄉の工案に係つたるのですが、煉瓦建の家屋に比して建築費も非常に安くつき且つその工事も迅速に出來るので、住宅難の救濟上最も良好の方法であるとして、政府は之に補助を與へてその建築を奬勵せんとすることになつたところが、建築勞働組合から猛烈な反對が起り、昨年の議會に於て賛否の議論が非常に喧しかつたのです。私も倫敦の住宅博覽會で親しくその模型を見たのですが、その缺點は從來の煉瓦造に較べて見てくれが惡く趣に乏しいと云ふだけのことでありますから安くて早く出來しかも非常に堅牢であると云ふ以上、漸次廣く採用せられるのではないかと思はれます。

交通機關改善の急務

以上は英國の住宅についての私の所見を述べたのでありますが、吾れ〳〵日本人が高い家賃を拂つて木と紙で造つたしかも上下水道の設備もない家に鼠と同居し、夏は蚊と蠅に惱まされ、冬は火事と泥棒の襲撃にをびえてゐることを考へますと、彼等英國人の生活は誠に羨望に堪えないものがあります。しかし日本にも既に女中難の事實が現はれて來つゝありますから、從來のやうな人手を多く要する住宅の構造は注意して今から改める必要があるのと同時に、道路と交通機關にして發達すれば、吾れ〳〵は日々都會で働きながらも、閑靜な郊外地に居住して、平和と休養の生活を樂むことが出來るのでありますから、住宅改善の第一着手としては、先づ道路交通機關の改良に向つて進みたいと思ふのです。



紐育の勞働長屋

藤田進一郎

一

つゞれの錦の表面のあやが、美しければ美しいほど、裏面の糸のみだれは、いよ〳〵きたならしい。ブロードウエーの不夜城、幾萬の群衆が、享樂にたゞれた官能の刺戟をおうて、よもすがら光りの海にあへぐ世界の大都のきらびやかな生活と隣り合せに、貧乏線の遙かかなたに、ドン底の滓のやうな幾十萬の細民が、これでも人間のすむ家かと疑はるゝ豚小屋そのまゝの長屋のうちに、朝早くから夜おそくまで、煙草一服のむ間もなく、手仕事の勞働にいそしみながら、しかもその日のパンを得るにもおはれ、現代のレヴアイアサンたる大都市の排泄する汚物のやうな、目もあてられぬみぢめな生活をつゞけてゐる。

勞働長屋の貧民は、全市を通じて、十萬人にも上るであらう。かれらは、或はミシン勞働者(sewing machine workers.)と呼ばれ、或は長屋稼ぎ人(tenement toilers.)と呼ばれ、或はまた安賃銀被傭者(sweatshop employees.)と呼ばれてゐるが、普通長屋勞働者(tenement workers.)といへば、その全體を總稱することになつてゐる。ある場所においては大集團をなし、他の場所においては小集團をなし、市内の到るところに散在してゐる。かれらに日々の仕事を供給するのは、やはり同じ區域内の小さな店もちとか、代理商人とかであるが、これまた長屋勞働者に劣らず貧乏におつゝかれながら、馬車馬のやうに、年中働らきどほす苦勞人なのである。

一歩足をこの區域へふみいれると、この世の文明の様子がすつかり變つてしまつたやうな氣がする。ほかの町内とは似ても似つかず、ニューヨーク市の一部分とは勿論、アメリカの國の領分内とも思はれないやうな特殊の光景にうたれるのである。なかにも、八百屋の手押車と、屋臺店とは、特に目だつたこの邊の景物であり、その小さなごみ〳〵した店さき

と、いかにも陰鬱さうな小窓の並んだのとも、ほかではみられない圖である。そこにはいかにも貧民窟らしい過群と、赤貧とが、息のつまるやうな一種の雰圍氣を漂はしてゐる。このうちにすむ勞働者だちが、一生懸命、絶えず自己の生活と惡戰苦鬪しつゝある樣子が、直覺的に人の胸をうつのである。何となくそわ〳〵とした、忙がしさうな、氣のいらだつやうな、切迫した働らきぶりは、自然に夏の焰天下に、せつせと餌を穴にはこぶ蟻群の生活を聯想せしめる。

暫らくそこにたち止まり、この陰慘な舞臺の主人公である人々の生業狀態から眼を離すと、まづ第一に注意をひくものは、その住宅の有樣である。これ亦その主人公にとつて、いかにもふさわしくできてゐる。大ていは四階または五階で、稀れに六階、七階のもあるが、すべてエレヴエーターといふものはなく、新らしく建て加へられた七階のものを除いてはみなごみ溜の塵芥の堆積の樣に汚い上に、古色蒼然としてすゝけきつてゐる。薄ぐらうて電燈もつかない入口をはいると、まつくらな、ゆら〳〵と今にも倒れさうな階段へとつきあたる。別に露次口もあつて、狹くるしいトンネルのやうに、裏長屋とうしろの仕事部屋とにつゞいてゐる。火事の際に遁げだす用意の非常梯子は、型のごとく、屋根うらから第一階まで下りてきてゐる。これは法律の强制によるのである。どうしても入口の都合のわるいところへは、鐵製の階段がとりつけられてゐる。古びた鐵管の上の方へ引つぱりあげられてゐるのは、水道管であり、新式の衛生的な鉛管設備などは見當らない。一町も二町もゆく間に、瓦斯燈のついてゐる室を見受けないこともある。十軒のうち九軒までは、室のなかに湯水のでるやうにはなつてゐない。なかには冷藏庫から、とゝつけの洗濯臺や、浴槽までも、規定どほりに備へつけられたものもあるが、そこに住んでゐるものらが、これらの文明的施設を、少しも利用しやうとはしないのだから、まるきり塲所ふさぎの寶のもちぐされである。しかし蒸氣の暖房設備、湯と水をつかふ盥、および下水溝は、この區域内にはまだ少しもゆきわたつてはゐない。

長屋の壁は殆んどみな、鈍重な赤色に塗られてゐる。もとは五室の奥行をもち、一つのフローアには二軒といふことに定められてゐたが、今日では一軒が二軒乃至三軒、塲合によつては四軒にも五軒にも改造され、以前は一家族だけがすむやうにできてゐたものが、二家族から三家族、四家族、五家族までも住むやうになり、不衛生極まるものになつてゐる。僅か二室のうちに七八人も群居し、甚だしきは、一室内にちがつた家族の雜居してゐるのもある。鐵製の臺の上へ、裸の板をのせたのがベッドであつて、その上に眠る人數に應じて廣くもし、狹くもする。四人、五人、六人、時には七、八人までも、このやうな一つのベッドの上へ横たはり、夜があけると夜具――といつても祿なものではないが――が取り片づけられ、ベッドはそのまゝ食卓に早變りするのである。一つの室のうちにはストーヴもあり、料理道具もあり、椅子もあり、ミシンもあり。他の室のうちにはまたベッドもあり、夜具もあり、仕事の材料もあり、すべて一つところで食事もし睡眠もし、食事までもするのである。

これはいかにも誇張のやうにきこえるが、決してさうではない。勞働長屋の大多數は、みなこんな狀態なのである。

二室のうちに、三四人すんでゐるのは、よほどまだいゝ方で、極めて少數に止まつてゐる。平均すれば、二室に五人ぐらゐの割合となるであらう。行商人もしくは手押車の八百屋で、妻と子供とを働らかせるおかげで、二室の長屋を占領することができたならば、それはよほど上等の暮らしむきである。父親と母親と、または息子と娘とは仕事にでゝゆく。もし父親が失職し、母親だけが仕事にありつくことができたならば父親が終日裁縫機械にかぢりつき、留守番をしながら働らくのである。もしまた娘が失職し、父親と母親とが仕事にありつくことができたならば、家事の片手間に、ミシンを廻はすのが娘の義務である。子供がまだ小さくて、仕事にでゝゆくことも、仕事場で働らくこともできないならば、それ相應の賃仕事を引きうけてきては、めい〳〵にあてがふのである。要するに何から何まで、仕事、仕事、仕事の一點ばりである。朝から晩まで、仕事を休まず、手か足を動かしづめの働らきづめなのである。

二

この勞働長屋の貧民窟へ集まつてくるものは、人種からいつても、信仰からいつても、種々雜多である。殆んど世界の全人種、全宗教を網羅してゐる。ヨーロッパから船がつくごとに、たくさんの男女が、ボロを引きずりながらぞろ〳〵と上陸してくるが、それらはみな、荷馬車や、貨物自動車に、溢れるほど、貨物か何かのやうにゴタ積みにされては、このあたりの勞働長屋へと、ドン〳〵おくりこまれるのである。ギリシャ人もあればイタリー人もあり、ロシア人もあればポーランド人もあり、シリア人、アルメニア人、ハンガリア人等、人種博物館の標本をぶちまけたやうであるが、中に最も多いのはジユデア人で、國籍からみると、ヨーロッパ各國にゆきわたつてゐる。しかし、貧乏にやつれきつた、みすぼらしい姿には、いづれの國民とても變りはなく、ヨーロッパの本國で食ひつめたあげくのはては、かうしてはる〳〵と、たつきの道を尋ねてやつてくるのである。上陸の際の財産としては、移民檢閲官に見せなければならぬ十ドルの金の外に、何一つ目ぼしいものをもつてゐない。本當の徒手空拳で、新らしい天地に、新らしい運命を開拓しやうとの意氣ごみも、勞働長屋の豚小屋生活におちつくころには、もう全く衰へてしまつてゐるのである。

かれらのうちには、無論アメリカ本國人も少からずゐる。立派にアメリカ市民として生れた亭主で、いつのまにやら、この勞働長屋の仲間におちこみ、外國移民とゝもにドン底生活をつゞけてゐるものもあり、またアメリカ市民の家庭に育つた女房で、ふとした動機でこの區域を足をふみ入れたが最後、身を粉に碎いて働らき通しても、どうしても、浮びあがることのできないものもある。ニューヨークつ兒などゝいへば、いかにも豪氣さうにきこえるが、そのうちに生るゝ幾萬の子供は、かうしてコンスタチノープルあたりの貧民窟とあまり變らないやうな勞働長屋のうちに、野獸のやうに大きくなりつゝあるのである。

三

室には、裸の板の腰かけとテーブルとがある。ごみ〳〵と

とりちらかしたまんなかに、中年のハンガリア人と、その妻君と、十五歳ぐらゐの小娘とが、裁縫の手を動かしてゐる。ハンガリア人の脈管には、多少ヘブリユー人の血が交つてゐるらしく、妻と娘との顔には、イタリー人らしい暗いオリーヴ色を浮べてゐる。この二種族がどうして混血したのかは明かでないが、恐らく偶然のできごとによるのであらう。かれら一家族の間には、テーブルに近く、半製のヅボンが堆高く積みあげられてゐる。その各にはこれから二つのビジョーと一つの釦とがとりつけられねばならぬ。ヅボンの裾のはしを少しくまくしあげては糸でかゞり、内側はずつと上の方まで細い木綿切れで筋づけるのであるが、すでに假縫ひでくつゝけられてゐるのを、更に手縫できれいに仕あげるのである。

勞働長屋には、相當の取締規則があり、そこに住むものはみな、それを守らなければならぬ。いかに仕事が大切でも、その仕事を、勝手氣まゝにするわけにはゆかぬ。めい〳〵は一定の法規に合致した境遇の下において、働かねばならぬ。例へば、床の上は清潔に掃除されてゐなければならぬといふ。天井は眞白に洗ひ上げられてゐなければならぬといふ。壁は汚れてゐてはならぬ。仕事部屋のうちには、ベッドを据ゑてはならぬ。一室に三人も働らいてはならぬ。一室一人に限る。もしこのハンガリア人のやうな三人家族が、規則どほりにしやうと思へば、一人を除いた他の二人、父親と母親とか、母親と娘とか、もしくは父親と娘とかは、いつも家のそとの工場へ働らきにでかけなければならないのである。

このハンガリア人のやり方が、規定にはづれてゐるのはいふまでもない。室のうちは、とても衛生試驗に合格しさうもないほど、誰れが目にも不潔である。床の上は汚れ次第にすてゝある。頭の上には、煙りでまつくろにすゝけた天井があり、片隅にはベッドが横はつてゐる。型ばかりにあけた小窓は、晝なほ小暗く、十分な空氣の流通をも與へてゐない。空ぢうの空氣は、どす濁つたやうで、一種の惡臭をさへ放つてゐる。おまけに何よりもいけないのは、かれら三人が一室に勞働してゐることである。しかも、その筋の許可は得てゐないのだ。

『どうかね？』無遠慮な檢閲官は、だしぬけに戸をあけて、大きなこえできいた。たえずこれらの下層民に接觸して、法規の厲行をやかましくいつてゐる役人である。その心うちにも、言葉の調子にも、人情のうるほひといふものは、沙漠の砂のやうに枯れつくしてゐる。

『こゝでお前たちは、ヅボンを仕あげたことがあるかね？』『どうしたつて？』ハンガリア人はかすんだ眼を見あげていつた。かうして家のうちへ、見知らぬ人に不意にふみこまれるのは　珍らしいことではない。誰れかいやなやつがやつてくるといふことが前ぶれされ、あらかじめ入口の戸に錠でもかつておかないかぎり、衛生檢査官やその他の役人はいふにおよばず、刑事や探偵までも、時を嫌はず無遠慮に頭をつッこんでは、いろんなことをきく。時には格別の用もなさゝうに、ぶら〳〵乘りこんできては、密輸入の酒でも隱してはゐないかと、そこらぢうをのぞきまはる。いつも横平らしい態度で、バカに權力ばつて脅しこむが、何のためにさうするのか、ハンガリア人には一向理由がのみこめないのである。ヨーロッパの古い國でも、何もしらない役人は、よくさういふ

ことをやるが、このアメリカでは、多分さうするのが、役人一般の規則なんだらうぐらゐに考へてゐる。

返事がないので、檢査官は、いかにも傲慢らしい態度で前方に進みいで、噛みつくやうにいつた。

『ヅボンを仕あげたのかね？　エ？　お前だちは三人家族なんだね？　許可を得てゐるのかね？』

『何ですかね？』仕事の手をとめながらハンガリア人はきいた。

『お前の許可證がどこにあるかといふんだよ。書きつけさ、お前は書きつけをもたんのかね？』

この新らしい仕事を初めてからは、まだ間もなく、そんなむづかしい規則のあらうなどゝは、夢にも御存じない。肱をテーブルの上にもたせながら、檢閲官の顔を、神經質な眼ざしでキヨト〳〵と見あげるばかりだ。一たいこの紳士は何の用事でやつてきたんだらうと、妻君もけげんに思つたらしくそばの娘に話しかけてゐる。父親もたまりかねて娘にきいた

『このお方は、何の用事でこられたんだね？』

『書きつけなんですよ。許可の書きつけをみせろとおつしやるんです』娘はハンガリア語で答へた。

『書きつけだつて？』ハンガリア人は上をむいて、首をふつた。『ウンにやそんなものはもたねえ』

『ちや、特許をとつてゐないんだね、わしはさう考へるよ、一たいお前たちは、誰れの仕事をしてゐるのかね？』

ハンガリア人は自分の娘の顔ばかり見つめてゐる。檢閲官のいふことがよく分らないのである。檢閲官は言葉を續けた。

『ボスは誰れだといふんだよ。親方だよ、どこの何といふ親方に、このできあがつたヅボンを納めるのかね』

娘は答へた。

『あゝ、親方さんですか。ヅボンをもつてきた親方さんの名をおきゝになつてゐるんですよ』

あとの半分はハンガリア語である。母親の返事もまたハンガリア語だ

『ではストラカウさんだといふことを、お話しなさい』

『ストラカウさんです』娘はくりかへした。

『ストラカウ？　よろしい。わしはこれからストラカウさんに逢つて話しをしやう。もうこの仕事は一切こゝでしてはならんのだから、その積りでゐな。わかつたかね、こりやよくきかんか』といつて檢閲官はぢやけんに小娘の顔を自分の方へねぢむける。

『許可をとるまでは、仕事をしちやいけないことを、お父さんにようく話してやりな、いゝかね、早速マヂソン・アヴエニユー一番地へいつて、許可の書つけをもらつてこなけりやならんのだよ、くれるかどうかはしらんが、とにかくいつてみるのだね、それからまたこの床をきれいに掃除しなけりやならんぢやないか、天井ももつと白くするんだよそれ見い、あの汚れかたはどうだ！』

小娘はしきりにうなづく。

『ベッドもそんなところへおいちやいかんぢやないか、ほかの室へさツさと持つてゆくんだ。でないと、こゝで仕事をしちやならん、それに、一室一人だ、お前がた三人のうち二人は、仕事場へでゝゆかんけりやならん』

父親と母親とは、たゞず前方にかゞんで、わからない異國の

言葉を、骨をつてきゝわけやうと、熱心に耳傾けてゐる。をり〳〵はハンガリア語で『どうしたのか』ときくが、小娘の耳にははいらないらしい。小娘は檢閲官の言葉の意味を捕へるために、一生懸命なのである。檢閲官の言葉の終るのを待つて、小娘はきりだした。

『あたしたちは、もうこゝで仕事をしちやアいけないとおつしやるんですよ』

『何だつて？　仕事をしちやいけない？』

『さうです、一室に三人も働らいちやいけないんださうです、さうすると規則違反ださうです。たゞ一人だけならいゝんですつて。こゝでは一人だけしきや仕事してはならない、とおつしやるんです』

『どうしてだ？』　老人の顔は、刻々に暗くなつていつた。妻君は妻君で、心配さうな神經の昂ぶつた、何ともいへない不安な表情をしてゐる。ハンガリア人はくり返した。

『仕事をしちやいけねえつて？　仕事をやめなきやならねえつて？』

『さうなんだ、おまけに一室に三人はいかん』

と檢閲官は威だけ高に宣告した。

ハンガリア人は右の足を意味ありげに投げだした。見れば輕からざる怪我をしてゐるやうだ。そこで小娘に向ひ、以前手押車の商賣をやつてゐたが、ふとしたことでこの通り足に負傷をし、車を押して歩くことができなくなつたので、已むを得ずかうして、家のうちで裁縫の手傳ひをしてゐるといふことを、檢閲官に說明するやうに命じた。事情をきいた檢閲官は、

『それは氣の毒だが、わしの力ではどうすることもできん。法律だから、仕方がない。お前は本部へいつて、左樣に申し立てるがよい、わしの知らんことぢや』

驚きと失望とで、親娘三人は、ぢツつと默座して顔を見合すばかりである。ヅボン一つの仕あげが五セント、父親もこのごろは仕事になれて一人前の裁縫師になつたので、三人が朝五時から、晩の十一時まで働らきとほせば、一日に二ダースは仕あげることができるやうになつた。それで一週間に七ドルと二十セントをもうける勘定だが、なか〳〵豫算どほりにはゆかず、どうかすると、總收入が六ドルから五ドルにまでも減ることがある。そのうち一週間に二ドルは家賃として家主に支拂はなければならない。

あきれて口の塞がらない父親は、たゞ溜息をついてゐる。

『さうか！』どうしてよいのかわからない母親は、しよんぼりと首をたれたまゝ、手持無沙汰でゐる。

『わかつたらう、もう仕事をしちやいかんのだよ』檢閲官はかういひながら、ポケツトから札をとりだし、仕事の品物に封印した。

『仕事がしたければ、本部へ出頭するんだ』

四

檢閲官はそれから、親方の長屋の方へもまわつていつた。かれはこの方面の取締りについては全權を握つてゐる。ポケツトのうちには、法律のシムボルである封印がある。たつた今それをハンガリア人の仕上げかゝつてゐるヅボンに施して否應なしに仕事の手をとめてきたのである。もし封印をとり

除いたならば、處罰されなければならぬ。しかもそれがとり除かれない限りは、何人も手をさへてはならぬ。封印をきつて手をさへやうとすれば、契約者は、工場檢閲官に對し、どうしてこの許可を得てゐないものに、仕あげ仕事を託したかを辯明しなければならぬ。契約者の行爲は明かに規則に違反してゐるからである。さうなると自分の品物にも手をさへてはならぬ。ハンガリア人からたとへ品物を返して來ても、受けとつてはならず、また賃銀を支拂ふこともできないのである。

親方の家は、裏どほりの長屋の三階にある。最初は住宅としてたてられたものだが、今は、裁縫工場に改造されてゐる。うす暗い階段と、變な臭ひのするギシ〳〵いふ梯子段とを通つて、室のなかへはいるのである。室はミシンのまわる音や人のはなし聲で一杯になつてゐる。入口の戸をあけて誰れかはいつてくると、半白の頭髪を戴いたヘブリュー人が、長髯を胸のあたりまでも垂れながら、アイロンを温める爐のそばから、肩ごしににらみつけるのが習慣である。他のものも、或はミシンの上に、或はひのし臺の上にのしかゝりながら、頭だけもたげて、一齊にこちらを見る。うち見たところ陰慘な、暑くるしい汚ならしい仕事場である。

『お前はコスロウスキーといふ男に、仕あげ仕事をやつたらう』

檢閲官は主人らしい痩せこけた、眼ばかり光つたジュデア系のシリア人に尋ねた。

『コスロウスキー?』神經質さうに額を皺めながら、腰の低い態度できいた。『コスロウスキー? そんなものは知らない、仕事をやつた覺えもありません』

『仕あげ人だよ』

『仕あげ人? あゝさうでした、ホンの少しばかり、ヅボン一足だけ、それもをり〳〵、ヘイ』

『かれは許可をうけてゐないことを知つてゐるだらうね』

『ヘイ、いゝえ、一向存じません、ほんとにかれは許可をうけてゐませんのでしたか、それは全く思ひがけないことでヘイ』

『知らない道理はなからう、前にもわしから注意しておいたではないか。とぼけちやいかんよ、とにかく本部へいつて辯明してもらはう。で、品物には封印を施してきたからね、それを受けとつちやいかんよ』

『分りました』主人は少からず昂奮しながら答へた。『イヤ、決して品物は受けとりません、仕事もこれからは一切だしません。——しかしそれはいつのことでしたか?』

『今朝のとき、現品は今に本部の方へ引き渡されるだらう』

『さうですか、仕方はありません。——だがちよつとこちへ、どうぞ』

檢閲官は主人について、隅つこのテーブルのそばへいつた。

『何とかならないもんでせうか』ジュデア人獨特のへんなアクセントできりだした。

『あなたはほんとによくできたお人です、こゝにホンの少しですが差上げたいものがあります——こんな間違ひをするなんて、よつぽどどうかしてゐる』

『いゝや』

檢閲官は首をふつた。『お金なんかはいらん。かうなつて

は、わしの力でどうする事、もできん。品物にはもう封印がかけられてゐる。お前は許可を受けてゐないものに仕あげ仕事をだしちやいかんといふことを、思ひ知らねばならん』

『それはもう、全くさうです、しかしあなたはよくできたお方です、とにかく、少しすでが、とつといて下さい』

『どうしてお金を貰はなきやならんのかね、とにかく本部へ出頭して説明して貰はうちやないか。わしの力ではどうすることもできん』

『それはわかつてゐます、がとにかくとつといて下さい。これからさきを宜しく頼みます』

『それはいけないよ、わしの力ではどうすることもできないんだから、お金の問題ぢやない、法律の問題だ、法律をよく守りさへすればいゝんぢやよ、わしの要求は法律を守ること以外にない』

主人は不思議さうに繰り返した。

『法律だつて？　そりやよくわかつてゐます。法律を守らなきやならんことはわかつてゐます、しかし、しかしです……』

そのうちに檢閲官もだん〳〵と折れてきた。結局どうなつたのか、曖昧な態度で、ウヤムヤの問答をしながら、物靜かにでゝいつた。

一例をあげるとまづこんな有樣である。この檢閲官に贈賄しやうとして一生懸命になつてゐる主人は、これでもこの貧民長屋での裕福な親方であり、巾きゝなのである。

五

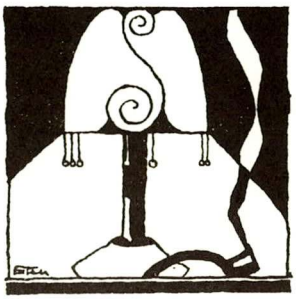
ほかの長屋でも、裏通りのビルディングでも、仕事場でも工場でも、その樣子はみな大同小異だ。男も、女も、子供もみな悉く毎日、外套をつくり、チヨツキをつくり、ヅボンや、半ヅボンや、ヅボンつりや、股引や、バツテや帽子をつくつてゐる。下着や、首巻や、コルセツトや、スカートや、シヤツや、胴巻をつくつてゐるものもある。毛糸、毛皮の縁とり造花、蝙蝠傘、カラー、あらゆる種類のものを網羅し、大ていはミシンを用ひ、ミシンでいかないところは手縫でしあげる。こんな仕事をやつてゐるものは、みな一家の支持者で、かれらの手に養はれてゐる小供や、學童や、老人や、片輪ものに至つては、そこらあたりにウヨ〳〵してゐる。マンハツタンでもブルツクリンでも、少しく貧乏くさい樣子をした場所へゆくと、必ずこれらの人間の働らいてゐる勞働長屋がある。拔けめのないイタリア人などが、ウイリアム・ウルドルフ・アスターなどの金持ちから、一圓のアパートメントをかううけ、小さな一室、二室、三室ぐらゐの小アパートメントに改造して、これらの勞働者にまたがしをする。それからこんな勞働長屋の過群生活が初まるのださうである。

勞働長屋は、到るところみなずゐぶんみすぼらしいものであるが、それでも、まだむかしよりはやゝよくなつた方だとのことである。前後の室と、廣間と後ろの室との間には、必ず小さな窓をあけてゐる。これは、以前は一つのアパートメントであつたものを、二つにも、三つにも仕切つて、二軒にも三軒にもした頃には、すべて塗りつめてしまひ、窓らしいものは一つも見當らなかつたが、新たに設けた衛生取締りの規則によつて、あけさせたのである。しかしこれも小さな窓

では、あまり功能があるらしくも見えない。

かうして勞働長屋の勞働者は、來る日も〳〵終日激烈な勞働に服しながら、その日のパンにもおはれ、子供を敎育するといふやうな餘裕も考へももたない。油斷なく取締らないと工場法に違反して、十二歲未滿のものまでも工場で働らかせるのである。私は東部のある貧民窟を視察した際に、取締の警官が、滿十四歲に達した證明書をもたない子供を、四五人までも、ネクタイ工場からおつぱらつてゐるのを見た。

勞働長屋區內の世話燒きは、巡査である。喧嘩の仲裁をしたり、子供を學校へ驅りたてたり、不都合なことをしたものを叱りつけたり、なか〳〵忙がしい。巡査の外にはいろ〳〵公私の救濟機關もあつて活動してゐる。大學のセツツルメントから、ヘブリユー協會、公園、運動場の設備など、市の方でもいろ〳〵骨ををつてゐるが、その恩惠は、あまり廣くゆき渡らず、利用の機會はあまりに少なすぎる模樣である。のみならず、その親たちは生きてゆくだけが力一杯で、わが子の幸福などを顧みる暇はない。おまけに無智ときてゐるので次代は現代よりもいよ〳〵墮落の外はないやうである。この勞働長屋が、ニユーヨーク市の癌腫として、大問題になつてゐるのも、これがためである。



室内建築の眞理

本野精吾

私は建築と云ふものを二つの分野に分けて考へて居ます。即ち内部的建築と外部的建築とがソレであります。内部的建築と云ふのは内部から機能的に發能したものを指すのでありまして、最も極端な例としてアジャンタの窟院を擧げる事が出來ると思ひます。コノ例にありましては外面は全然無であります。之れ程迄には行かずともラベンナのガラ・プラセヂアの墓等は殆んど内面の機能的成育が全部でありまして外面は極度に簡素な外觀を備へて居ます。初期ビザンチーンの建築は概して内面的と云ふ事が出來ます。ラベンナのサン、アポリネールの寺院にしろコンスタンチノープルのハギア、ソフィアにしろ外面は最も簡素な機能上及構造上の純粋の表現に外ならないのであります。之に反して全く外部的建築と云ひますのは内部的機能を全く持たないか極僅かに持つて居るものを指すのであります。例へて云へばライプチッヒにありますドイッの國民戰爭紀念塔の如きものは最も好適の例であります。尤然とした山の如き大紀念塔で内部に空室がありますが別に何等機能的素質を持つて居ませんアクロポリスの神殿パルテノンの如きは半ば内部的であり半ば外部的と考へる事が至當と思へます。神殿自身は内面に向つて簡素な神體の容器としての機能の上に成育し、外部に向つては壯嚴華麗なる外部的表現を完成して居ます。

コウ云ふ風に考へて來ますと、室内建築と云ふものは（室内建築と云ふのはドイッ語のInnenarchiteKtur から考へついた言葉です）機能的に發育した建築の内面に向つて作らきかける表現と見る事が最も正當であります。實用を主として建築の骨丈を組み上げソレに着物を着せる事を建築の美的取扱と考へ、ソノ内面に着せる着物を室内裝飾と考へる事は最も普通の考へ方でありますが此の考方は最早過去のものに屬するのであります。十九世紀の半ば頃全歐洲を擧げて此の種の考に支配されて居たのでした。ギリシャの殿堂の正面の形を國會議事堂の前に附けたり、ゴシックの御寺の細部の形を博物館の裝飾にしたりしたのは此の時代に著しい現象を呈したのでした。建築の内部に向つても同じ意味の事が行なはれました。從つて機能的に發育する筈である處の内部に向つて虚僞の裝飾が盛んに附け加へられ、建築全體は一つの裝飾の遊戲の様な狀態に化してしまつたのです。

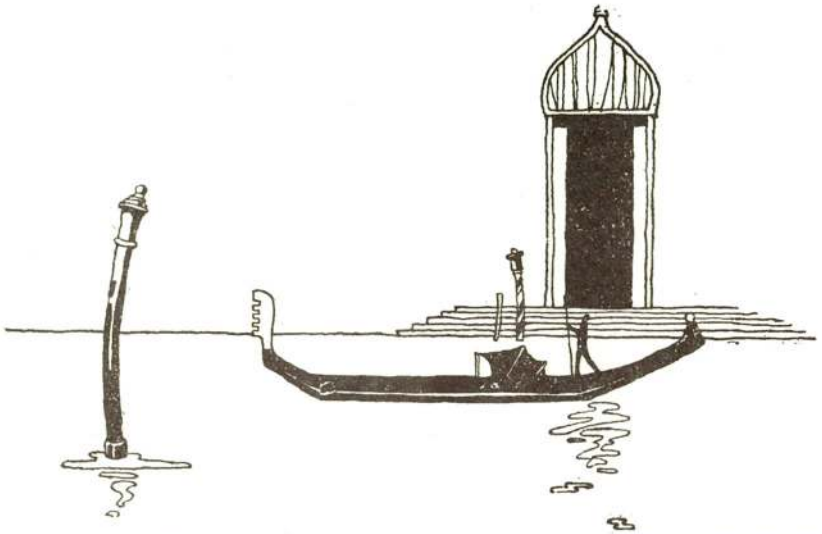
コウした狀態に對して起つた革命が即ち十九世紀末に於ける歐洲の狀態であるのです。獨墺に於けるセセッションは裝飾の虛僞性から脫して建築を總ての眞實の上に合理的に組み立て樣とする努力であつたのです。之れは即ち近代の表現派から構成主義への進展に其礎をなした樣に思はれます。ソウして最後にフランス現代の最も進歩したるものと考へる事の出來るガニエ、ペレー、コールブッシェ等の純粹機能的建築に迄の還元を誘致したものと考へるのは至當であらうと思ひます。コウした考は複雜を極めた實際の現象を極度に整理し單純化した考へ方ではありますが、コノ考への中に室內建築の眞と云ふものが何んな處にあるかと云ふ問題に就ての一つの鍵が與へられる樣に想ます。

室內建築の機能的成育と美的感能との關係—之れは次で起つて來る重要な問題であります。建築美は機能的に成育したものがソノ全部であるかドウかと云ふ問題であります。物體の機能を基礎として決定される式態は決して其の全部ではないのでありまして、建築美の基礎的根底をなすものと考へるのが至當であります。コノ機能的形態を基礎としてソノ上に感能の作用を加へる事に依て始めて建築が人間の魂への糧になる素質を具備する事が出來るのであります。コノ事は曾て十九世紀の美的感念を基礎として進み立てられたる建築美に對する基礎感念即ち實用と美とは常に相反するものとして對立せしめ實用の分子を破壞する事なくして美的に取扱ふものを最高の建築美と考へたものとは全く異なるものであります何となれば近代的考察によれば機能的に成育したる其の者に美の根底を感ずるのでありますから曾ては美に反するものとして取扱はれた分子が美の根底を形造るのであります。ソウして美的感能の批判は之れを補助し修正する所の役をするのであります。從つて機能的成育と美的感能の作用とは相對立するものでなくして全く純一なる作用の中に發生するものであると云ふ考が最も近代的考察の基礎であると思ひます。

コウ云ふ事柄を基礎として室內建築の眞理を求めますならば、室內に於ける各の形態の質量と線と物質と色彩との物語る所のものは一々全體としての美的構成に素因をなすものであると云ふ事が考へられるのであります。丁度近代の音樂がタッタ一つの修飾音譜し全體に對して重要なる使命を果す樣にコウ云ふ風に考へた室內建築にあつては一つの點一つの線も全體が奏する所の一つの室の交響樂に對して重要な關係に立つのであります。

コウ云ふ風に機能的に發育したものが其儘美的建築の基礎をなすと云ふ境地に迄達するには人間其者の發育が充分高い境地に届いて居なければ成り立たないのであります。最も肉體的及精神的に訓練されたる。

舞踊家の一つの通常の步行も已に完全なる美の素質を有すると云ふ事を考へる時に此の事は最も明瞭になると思ひます。現代最も純粹機能的に成育したる建築美がフランスに於て生れた事は決して過然でないと思ふのであります。コウ云ふ種類の建築美が一つの室內から家の全體に進展しソレが家の群に迄擴がり、ソウして人間の全體の集團生活の大きな有機的組織に迄進展する時に人間の生活は眞實に美しくソウして幸福なるものになると思はれるのであります。コウ云ふ風に考へて來ますと最初に揭げました內部的建築と外部的建築との二つの分野も單に考察上の一つの方便に過ぎず全體は一つの渾然とした人類の有機的生活樣式の中に熔け込んだものであると云ふ事が明になると思ひます。



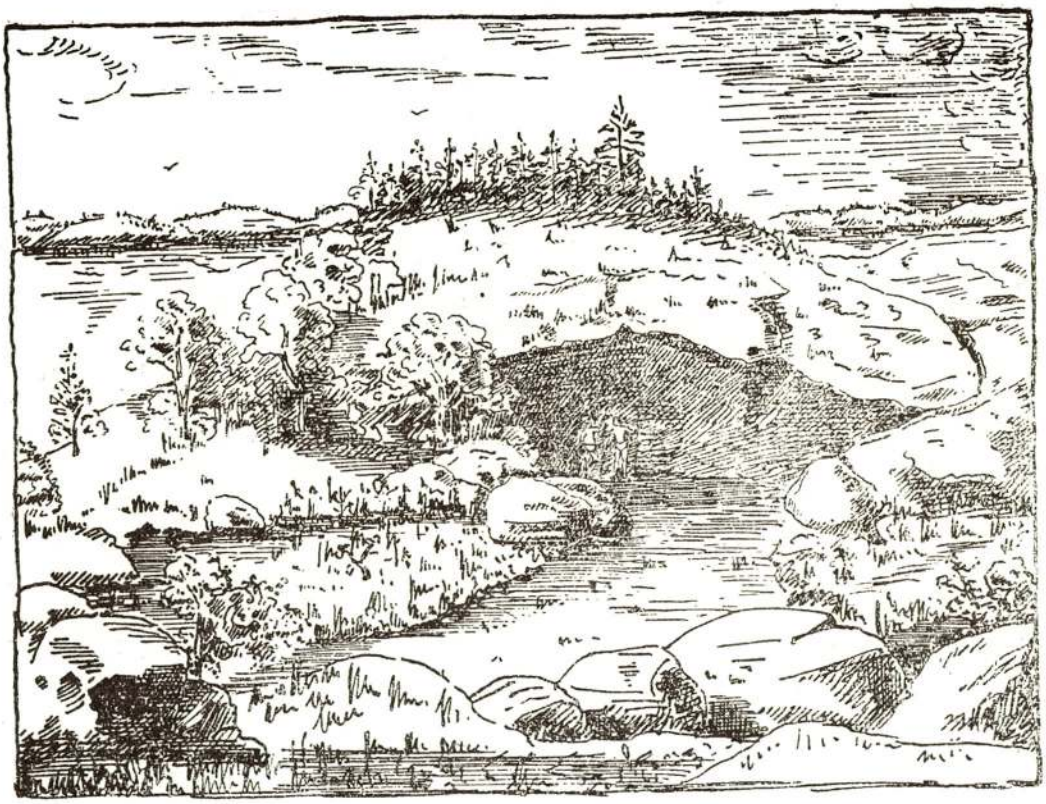
住宅進化の話

古塚正治

いつの頃にか人類が地球上に創生してその居を營む如になつたのは……？、恁うした創生期に就ては地質學上から、人類學上から、生物學上から或ひは考古學上から、それ〳〵學者によつて、その説かれてゐるところが區々であつて一定してゐない。假りに非常な努力が拂はれて、その創生の時期が明かにせられたとして、それから後、所謂史上にハツキリとした住宅研究の資料が遺された迄での過程を想像して見るとそれは少くとも數萬年乃至それより以上の年數ともなるもので、おそろしく永い、とても私共の想像も及ばない過程であるに違ひない。そして、これを説明せんが爲めに骨を折つて推論を重ねてみるとなると、それはとても大きな頁數を待たなければならない。假りにそれが完成したとしても全然假定に立脚した推論であるのであるから必ずしも是認し得ると云ふ結果には到達し得ないであらう、けれども恁うした數萬年間乃至より以上の永い年月の間に人類が遺して行つた不可思議……！それ等の朧げながらの遺蹟の頁を逆に捨ひ讀みして歸納してみると、はからずも今日の建築樣式が生れた基調を明かにすることが出來。住宅進化の過程が、その創生時代の人類住居の基調のうちに胚胎してゐたことが知れて來る。

元來住と云ふ問題は、その形式は無論今日の如うではないが、人類が創生して食の問題に解答が得られたと殆んど同時に起つた最初の問題で、これに續いて起つたらうと想像せられる衣と共に當時から生存基調の三大要素として時と共に今日に迄で及んでゐる。その内で、住は他の二要素に比べて智惠と努力との多くを要求する關係だらう、比較的進化が遲れてゐた如うである。

兒供の時代に聞かされた日本の神話に、女神の『イワト』入りといひ、神武天皇の『ツチグモ』征伐と云つた傳説、これらの字義や前後の狀態から考へて見て、當時の生活が大體に於て穴居の時代であつたことを想像せしめるに充分である。と同時に、一部の人達は建築史上で云ふところの所謂天地根元



（第一圖）岩崖を利用せる住居

宮造りの如うな住居を持つて居たかも知れない。だが、それは當時では未だ極く特種階級の人達の住居であつて、一般民衆はやはり、穴居が主なる住居であつたと想像しなければならない。その後黒木で造られた素朴な宮居の造營にも衆庶を驚かせ、更に數百年後に瓦家の壯嚴なる寺院の建築を見て、隨喜の渇仰を集めたものである。日本の建築としての遺蹟はこの頃から以降が分明せられてゐるのであつて、それがだん〳〵に布衍せられて我々れ生活上のすまひとなつたのは、未だ幾百年もたゝない、全く近世のことに屬してゐるのである。恁う云つた過程は世界の住居の進化上にも大體に於て認められるところであつて、地理的關係から穴居が樹上の生活であつたり、水上の生活を營ましめたり、テント生活の形式を基調としてゐると云ふに過ぎない。

興味を中心とした住宅進化の話としては、資料に富んだ有史以降のものよりも、その以前の朧げな數萬年間の所謂遊牧生活の時代に就いて書いてみようと想ふ。

こゝで有史以降と云ひ、有史以前と云つたつゝろで、その區別は明かではない普通度築史上では西紀前四千年間位迄でのところを遺蹟によつて取扱つてゐるのであつて、有史以前と云ふのは即ち此の有史時代の遺蹟が無くなつてからそれ以前と云ふ意味であつて、それから先きは幾萬年か確定し得ない。またこの先き新發見があつて、今の有史以降の年代が、その先きに二千年でも三千年でも押し擴げられて行つたら、その以前を有史以前と云ふことにして好い。

斯種の面白く書かれたものにヴキオレ、ル、デユーク氏の『總ての時代に於ける人類の住居』と云ふのがある。且つて七八年以前に、それを譯しかけて四

五回建築世界誌上に掲載したことがあるが、それきりになつてゐる。内容は物語的に書かれたもので、いま私の書こうとしてしてゐるところと、よく似合つてゐた如うに記憶する。その前後に恩師工學博士佐藤功一先生が『建築評論誌』上に此種の方面を兩三回に渡つて發表せられたことのあるのを記憶してゐるが、いづれも朧げな記憶になつて終つた。

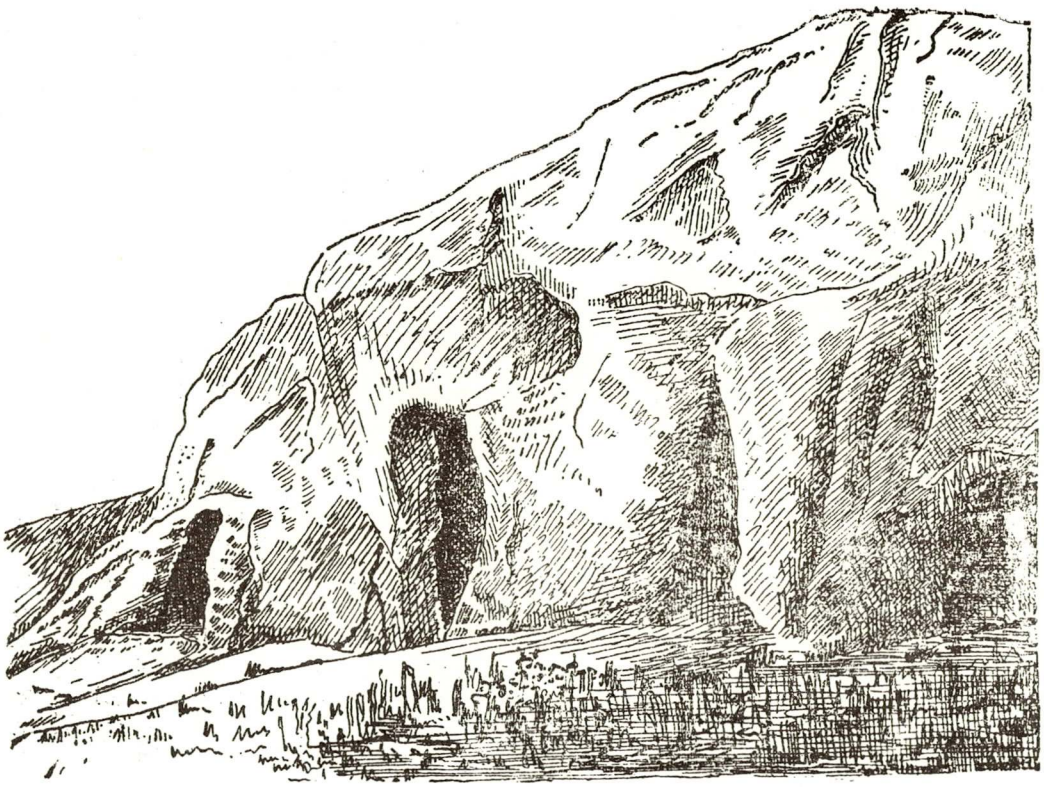
私の議論が、いつもの如うにドグマチックなものだとの非難もあらうが、恁う云ふ見方、こう云ふ考へ方もあると云ふ意味で讀んで貰ひたい。

創生時代の人類が其最も容易に手に入れ得る自然の食物をとつたと同樣に、その生命永存の本能を充たす爲めにも自然のうち彼等の最も利用し易い一番手近な資料を以て、その避難所（Shelter）を求めたらうと云ふことは考へ得べきことであらう。

當時の創生期に於ける人類には、田を耕すの知識なく、狩獵や漁獲をする爲めに或ひは谷間の溪流を求め或ひは高原に居を移さねばならないと云ふ工合に絶へず、その居所は次から次へと移されてゐたのであつた。いま私共が見てゐる獅子や虎の如うな猛獸よりは、どんなにか大きい獅子であり虎であり、マンモスやら、その他の得體の知れない創生期の兇猛暴惡極りなき獸類からも追はれ追れて日も足りない、あはたゞしく遊動を續けなければならない生活であつた。從つて、その時代には到底その居所を構へるとか、これに改善を加へよう等と云つた考へは毛頭浮ばなかつたものだと想像せられてゐる。斯う云ふ譯であるから當時の人類の避難所と云つて



（第二圖）立樹を利用したり造てし住居



（第三圖）洞穴時代の住居

は岩崖、それより以上に適當な場所はなかつた。そこでは唯だ一つの開け放たれた出入口があり、これに木や石で戸を建てれば好いと云ふ譯であるからである。（第一圖參照）

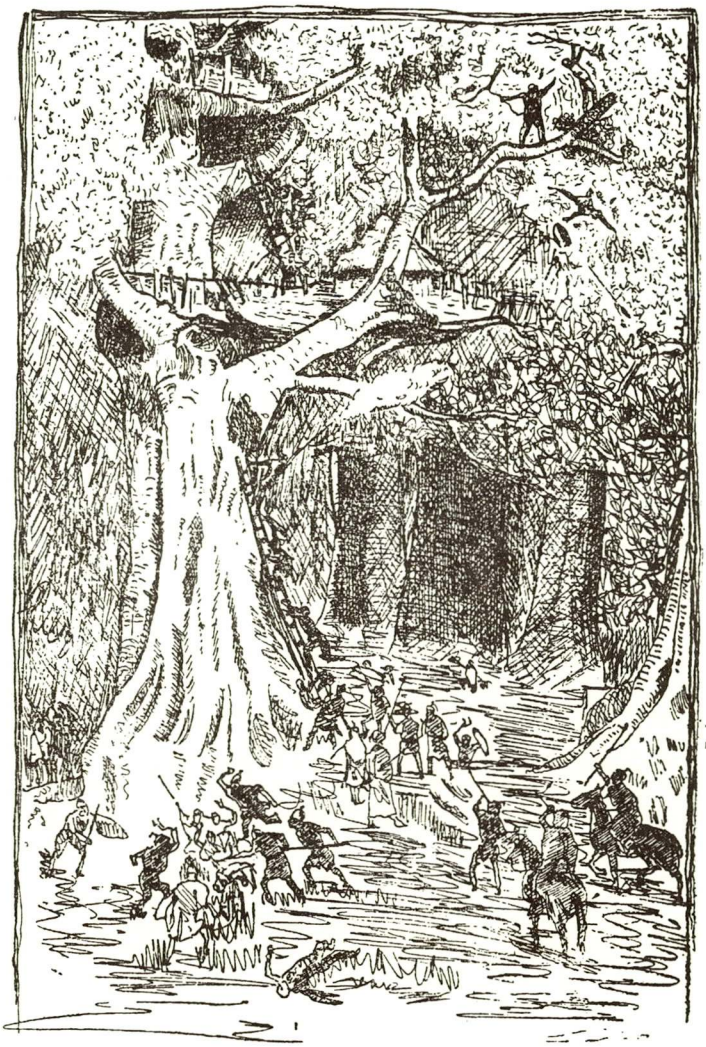
岩崖の生活から人類は樹上に居を求むることゝなつた。樹によると何等これに工夫を施す迄でもなく避難の居所に充分なるものもあつただらうと考へられる。例へば大木の枝や梢を引張り降ろして、大きな石塊を重として骨組となし、これに縱橫に雜木の枝や葉を絡ませば難なく避難所が出來上らうと想はれる。斯種の形式をとつた避難所は地球上到るところに其遺蹟と想はれる形骸の多くが發見せられる。そして此生活は可也に永い世紀に渡つて續けられたものであつた證據として、これに使用した石の一群が世界各國に遺蹟を存してゐる、それは木の幹＝ながい年月のうちに化石になつてゐる例も少くない＝を中心として二三十尺の圓形に石塊の一列を造つてゐるのであつて、全歐洲、亞弗利加、乃至は東洋の諸國にも發見せられる（第二圖參照）

斯種の居所を想起し歸納せしむるに充分なる＝勿論それは非常に進化せるものではあるが＝原始人的居所がアルゼンチンのブノレスアイレスの近郊に於て發見せられたと云ふことである。そこは樹木も岩石もない、所謂南米の大叢原中に居住する原始人的人種で、その居所を營むのに、狩獵から得たる獸類の肉を喰つて、その殘骸を以て造つてゐるのがあると云ふことである。

恁う云ふ工合に、原始人類の營んだ居所には岩崖あり樹下あり、或ひは其他の想ひつきに出來上つたものがあつたらうけれ共原始人は尙移動生活を續けてゐたものであつて、そ

の居所を完全に明るいものとして造營する丈けの工夫を凝らす時を持た無つた。實際彼等には憩ふ爲めに多くの時を費すよりは、狩獵のために、漁獲のためにより多くの時を用意せなければならなかつた。彼等には、あしたの日は何處に彷徨ふべきかゝある丈けで、居の改善等には、とうてい想ひは及ばなかつたのであつた。

岩の多い地方では都合の好い、より善き多くの避難所を求め得たらうし、それには種々異つた形式のものもあつたに違ひない、斯等の洞窟に居を求むることゝもなつた。勿論、洞窟は樹下を求むる如うには何處にもあると云ふ譯には行かない。けれ共此種のシエルターを造つた例も亦世界に多い、そのシエルターを大樹に求め岩、崖に求めたとしても、尙原始人の生活を脅かす兇猛なる獸類の害を防ぐためには充分なるものではなかつた。この意味に於て新に見出された洞窟は當時の原始人の居所としての理想的避難所であつたらうと考へる。自然は都合よく多くの洞穴を造り、これに廣狹長短あり、種々の出入口あり、時には誂へ向きに光線が岩間から洩れ入るものがあり、通氣の工合も能く整つたもののもあつたらう。

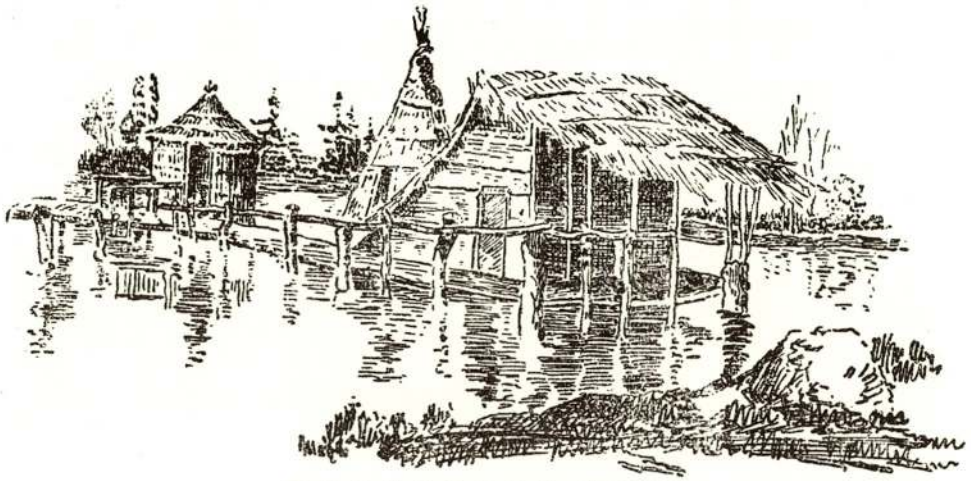


居住の代時活生上樹　（圖四第）

斯様に安全なる居所を得た原始人には、其日その日に移動して居を求むると云ふことが取り去られ、あしたの安全を持ち得て始めて自己の狀態を改善しようとすることに想ひが及んだものであつて、これが抑も人類住宅の進歩開發への第一歩であつたのである。

間もなく人類は家具や仕事や調理の整へに手をつけた。それから種々の形式や、より善き器具への本能が芽ざした。續いて、彼等は其求むる洞窟のより大きい。より天井の高い。

より採光通風の充分なる洞窟へと移つて行つた。進化の續けらるゝ儘に石器を發明し、動物の骨や牙を以て諸種の器物を整へ、所謂原始的裝飾等も生れるに到つたものであるそれから程經て陶器も發明せられたものであると云ふことが古代人の穴居の遺蹟から歸納せられるのである（第三圖參照）



（第五圖）杭上生活時代の住居

悉うした穴居の原始人には、それから以降ながい間より善き居所の案出發明せられることはなかつたらしい。彼等はその內にあつて總ての敵に對する被護となつてゐた間、夏の暑い日も、冬の寒い風も、雨も暴しも防がれた。そして何とが善き工夫が考へついた時代は、それからは早や數百回の世紀が繰り返へされてゐた後であつた。

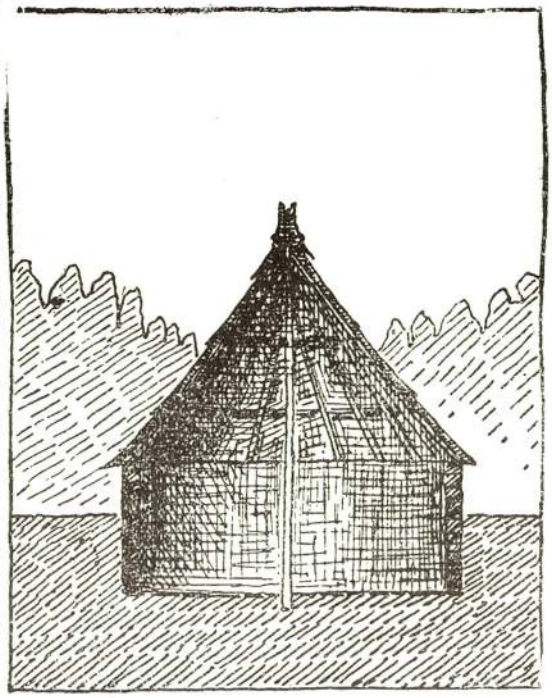
漸く彼等はより健康的な一層好感的な居所を見出すべく次第に慾望を嵩めて行つたが、なほ其身をおくに安全な……と云ふことが最く多く返り見られた。それからも幾世紀かの月日が通氣の悪い、光の少い。濕氣の多い穴居と云ふことに留意することになり。始めて居所の問題に彷着せざるを得なからしめた。實際多くの洞穴が岩脈を傳つて落つる水滴に濡らされ、浸透し易い材料を通して浸み出す水には弱らされる時には岩間から吹き入る煙等の悪瓦斯にも見舞はれることもあつたらう。時には食を求むる爲めに永い旅路に登つてゐる內に自分の居所は他のものに掠奪されて終つたこともあつたらうと考へられる。更にまた是等の穴居者の上にも病が見舞つて來たこともあらう。ロイマチス系的の如うな病氣が頻々と見舞ふに連れて、彼等も湖や河の傍の生活を追ひ一つは猛獸の害から遠かり且つは其食物の豊富にして簡易なる生活に想ひ及んだ。

遂には人類の智育と云ふことが培かはれ、如何にして木に工作を施し得るやと云ふことを案出して、新知識への第一步が始まつた。丁度この時代から所謂有史以前の住居の建設と云ふことが創始する。兎に角悉うした時代が何年あつた？と云ふ如うな事は勿論私共には了らない、たゞ一つの想像の上に立脚したに過ぎない。

創生第二類時代

穴居から一步進んだ原始的住居の建設は喬木の上に、木の

枝や葉で造られたもので、地上相當高いから從つて敵が近寄難い便がある。丁度鳥が樹上に巢喰ふ如うな形である人はこれに出入するには、繩梯子の如うなものを使用したものだらう。この形式の住居は比較的安全なる避難所であつた許りでなく、到る所巢喰ふに便利である。それが爲めに恁うした樹上の生活は、其後可也りにながい間續けられたもので、今日に於ても尙よく此種に彷彿たる生活が存在すると云ふことである。第四圖に示せるものは恁うした敵襲に對する防禦の想像圖である。（ヴアン・デヤ・ベント氏著のアツパトメントハウスのプランニング頁二五より拔萃）



（第六圖の一）　樹木又は岩石の利用時代に入れる住居

やがて次の形式が創造せられたのも、やはり敵襲に備へる建築をすると云ふ方法である。斯種の住居は歐洲では、スイス地方の如うに湖水の多い國々に多くの遺蹟を發見せられる如うである。

この方法では水面へ多くの杭を打ち込んで、これに床を架け渡すもので、この目的に湖上へ打たれた杭の多くがネゼネバ地方に發見せられ、その他全世界に渡つても、その遺蹟の存在が多い。

絶えざる人類の開發は石器を以て杭を形造り、家具を拵へ諸種の器具類の製作にも成功した。この目的に使用せられた石器の多くが遺されてゐる。それに續いてブロンズ乃至銅器の時代を導いた。此時代から人類には或種のキレ地を織り出した如うである。考古學上では此間を次の三期に區別してゐる。



（第六圖の二）　樹木又は岩石の利用時代に入れる住居

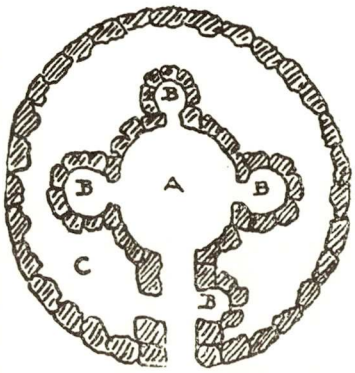
第一期、地方的石材のみの利用時代
第二期、各國の石材を利用し、第一期時代のものに比較し

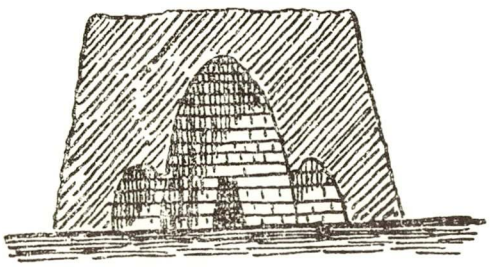
て一層立派な工作を施せる時代

第三期、銅及青銅利用に到つた時代。

人類の知的發達は漸次增進した如うで、例へば第一期時代の人類には杭にしても、漸く直徑一尺內外のものを利用せるに過ぎないけれ共、第二期時代の遺蹟には、より大なる材料を利用し、工作の如きも、一層進んだものであり、時には合成、材料をも發見せられる。第三期時代に到つては耕作の業を會得した如うであつた。此時代の杭上生活の遺蹟から發見せられるうちに、果實の種子や麥粒や米粒がありこれを搗き上げた石器類があると云ふことである。この時代には家畜の數種もあつた如うである。第五圖及第六圖は恁うした創生時代に屬する水上生活を想像して造りたる模型であつて、西紀千八百八十九年の巴里博覽會に出品せられたるものである。







（第七圖）最後の創生期時代の住居？…サルデニヤ地方の土民の住居であるあ…

有史以前の混沌たる住居生活にも、おい〳〵末端に近づいて行つた、敵襲からも漸く逃れ得る秩序も保たれた、耕作から伴つた生活の安全も得られたが、それ以上に大きな革命的現象に遭遇した、それは他ではない洪水と火と云ふ、二つである。先づ第一に火は是等の杭上生活者の住居を燒失することゝなつたらう。續いて金屬の發明—特に鐵發見—があつて世

界の進轉は異常なる結果に導かれた。それは粗石時代から研磨石時代に移動した等の比ではなかつた。人類が洞穴から杭上生活に移り、金屬の發見を待つて、生活上の器具はより善き改進となり、より善き住居を造り得ることゝなつた。彼等は斯等の金屬を以て他の金屬の研磨に利用し、仕事の能率を嵩め、猛獸防備により有力なる器具の製作にも成功することゝなつた。

恁うして始めて驚く可き住居造營の新規軸を生み出した、その規模と云ひ輪換の上にも大なる進境を見出すことが出來た。やがて起つた住居に上には人種的特徴が生れる結果を起し、地方や、氣候や風土、材料の相違等が、その住居建設の函數として見られなければならない時期が生れた。各國により相異れる形式をとつた住居—それの地方的色彩を持つた住居—それの基調がこの時代に植へ付けられたと見られる。

勿論當時の住居は極めて幼稚な形式であつて、杭上生活からは尠しく隔りのある形式を生んだのではなかつたに違ひない。事實はやはり、その以前の住居の形式を模倣したものと考へていゝ、斯種の遺蹟も亞弗利加地方のものから歸納せられ得るものが多い。

人類の進化は愈々顯著なるものとなり、住居の改善は敵襲防禦にも完成に近づいた、その周壁に土壤を積み重ね、部落に防備の石疊を築くことゝもなつた。此期の後期に屬する遺蹟に僅にうかゞうことの出來るものがある。

恁う云ふ時代の住居建築の方法としては極めて原始的な單純なるもので、木あり石あり、粘土を主材としたるものであつて多くの場合は簡單なる間取りであつた。それから追々と間取の多い形式が生れた。

有史以前の內、創生期に屬する住居は建築的價値から云ふと凡んど問題とせられる程度のものではないそれから我々の普通取扱つてゐる、建築史時代の住居に入る間は多く恁うした住居に屬したものであつて、即ち今から約六千年以前の人類の住居であつたと云ふ譯である。人類が木と石とで其住居を建築することを悟つて、彼等が槌を持ち鋸を使用し鑿を發明して如何なる喬木、大岩と云へどもこれを易々利用したのはそれから以降に過ぎぬ。



二上山麓の民家

南河内二上山西麓と石川河畔

伊藤正文

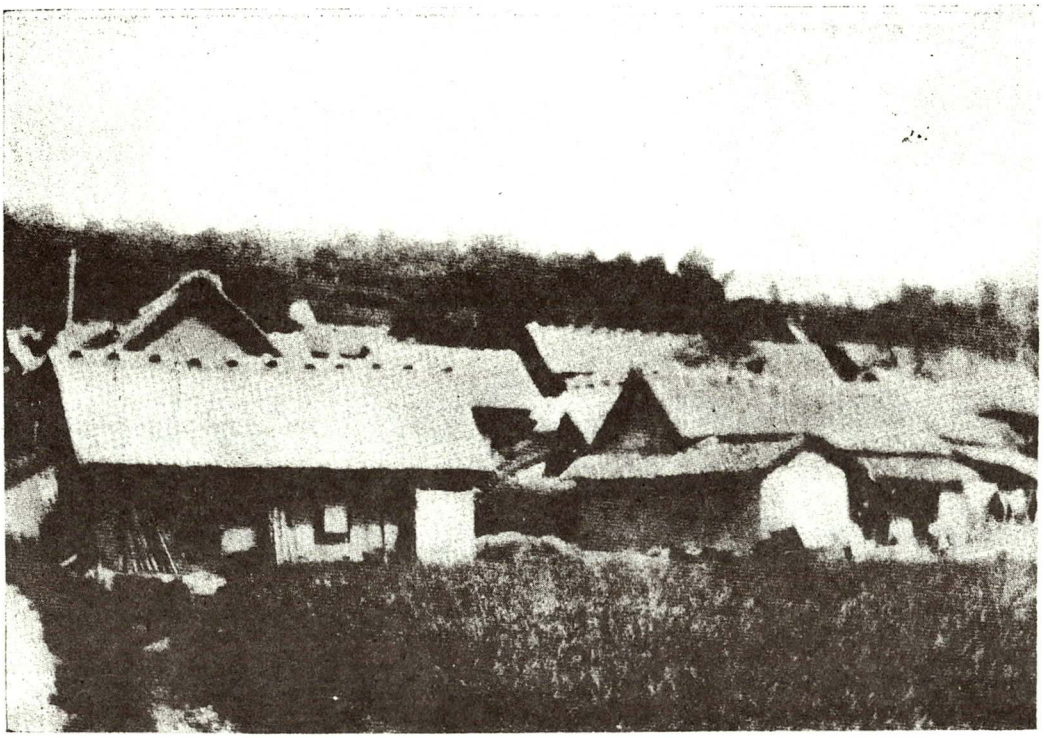
私は此稿を人文地理、又は建築學的研究の立場からでなく此地方を訪れる一個人の感觸の興味からの紹介としたい。寫眞は凡て湯淺十三二氏の好意と努力の賜である。

（二五八六十一月）

田園住宅の建築に就てはすでに日本の各地方に渉つて、多くの研究がなされ、又その結果が發表されてゐる。

大和の農家或は民家はその中でも古代からの傳統による特異な面白味を持つものであるが、こゝに紹介する南河内地方の村落とその民家は大體の手法について見るならば、大和のものと大同小異、先づ同じ形式によつてゐると云つて差支ない様に見受けられる。

大阪の東南郊六七里の地、生駒山脈の南麓から大和川の支川石河の清流に臨みながら南へと逆れば、右手に道明寺天神磐田の森、應神天皇御陵、日本武尊御陵等の松の繁茂した小



駒ヶ谷村の聚落（2）

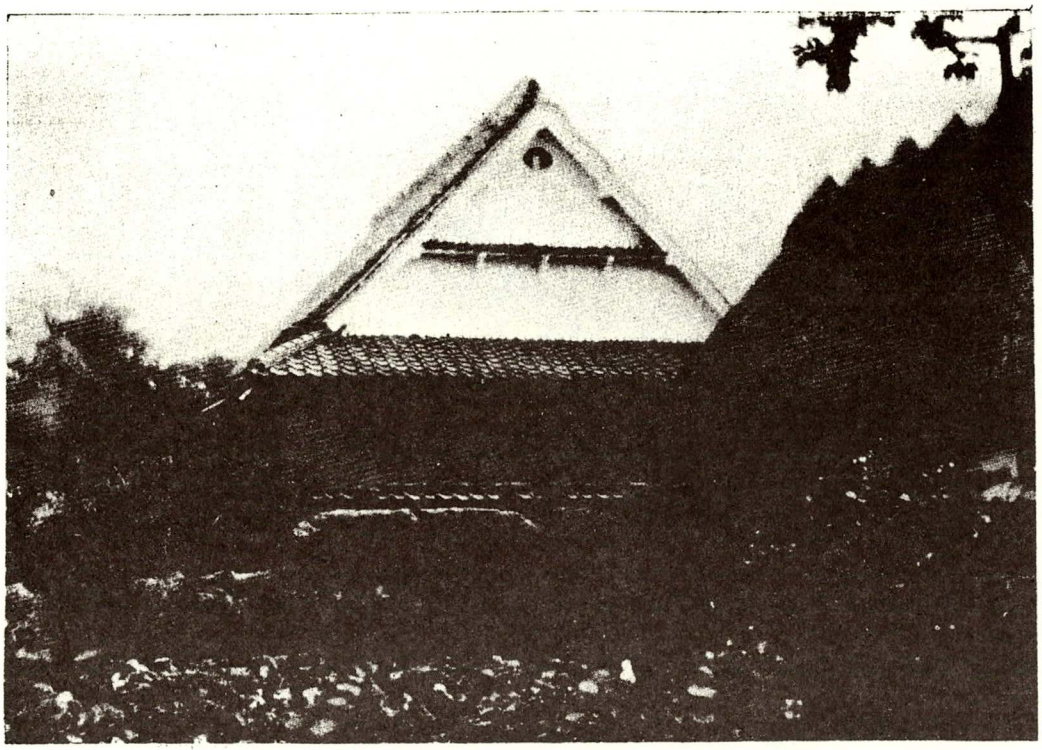
丘が連り、南方遠く紀泉の峰々が紫に煙る、右手は北の方生駒、志貴の山々に連る二上、葛城、金剛の山脈が東の空を駱駝の背を、思はせる様な曲線で劃してゐる。

その中の平野を南から北へと流れ貫く石川の水は清澄な昔ながらの趣をたゝへて白砂の床を走つてゐる。夏ならばあゆ狩、螢狩、初秋の葡萄、冬の蜜柑、春は連く小丘を紅に染むる桃圃の花見と、四季を通じて人足を誘ふにも豊かな處、それが古、大和時代の民衆にとつてどれ程生活に好適の土地であつたかはたやすくうなづかれることである。

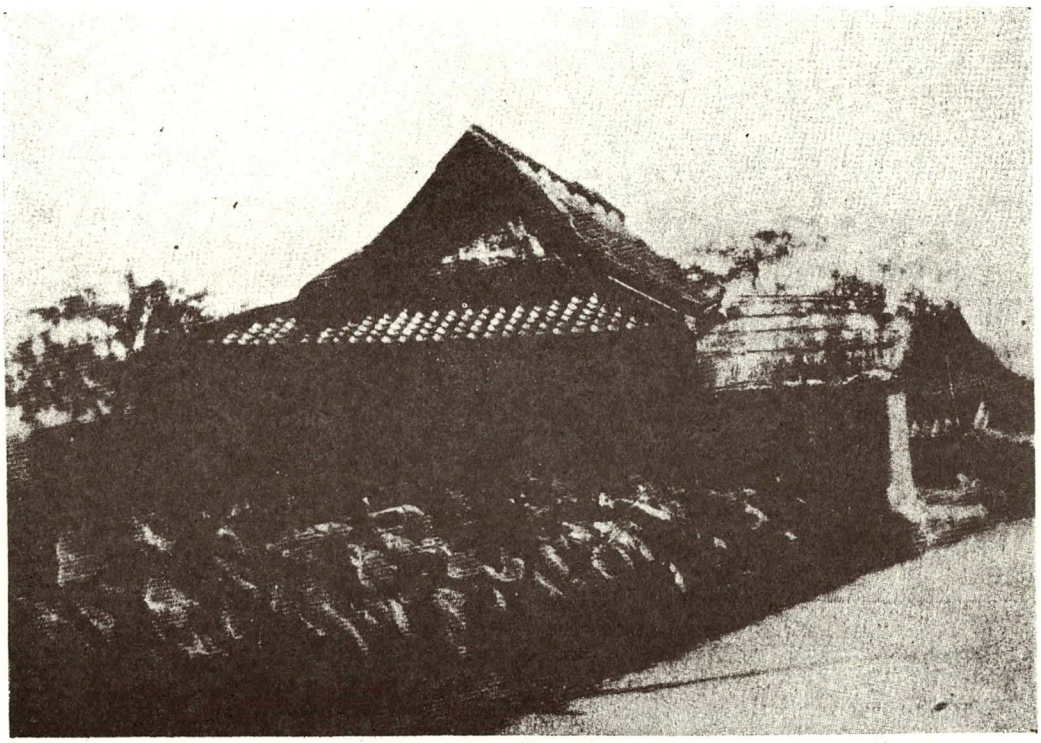
今は古代日本の文化の殘影を僅かに忍ばせつゝも日月と共に廢れ、大阪近郊の農村部落に過ぎぬ有様とはなつてゐるけれども近畿地方の温暖な氣候と、住むに心地よき平野は背に小山脈を廻らして、長閑な日向を樂むには充分な處なのである。石川の東岸から二上山の麓に向ふ緩傾斜の街道の幾筋かを狹む田圃をへだてゝ午さがりの明るい陽を受けて山を背に眞白にチラチラ輝いてゐる三角形の切妻壁の集群が所々に見えるのが村落である。

關西地方の田園では民家が密集部落を作り、關東地方の農家は一つ一つ散在してゐると云ふことは、今氏の研究によつても見ゐてゐる通り、此地方では大概丘の裾に集落を成してゐる。此邊の民家は主家を平入りにし、此方面が南に向いてゐるのが一般である。從つて遠方から眺めると家の向が揃つてゐるので、黄土色と白色の大小の切妻壁が輝かしいリズムを見せる。

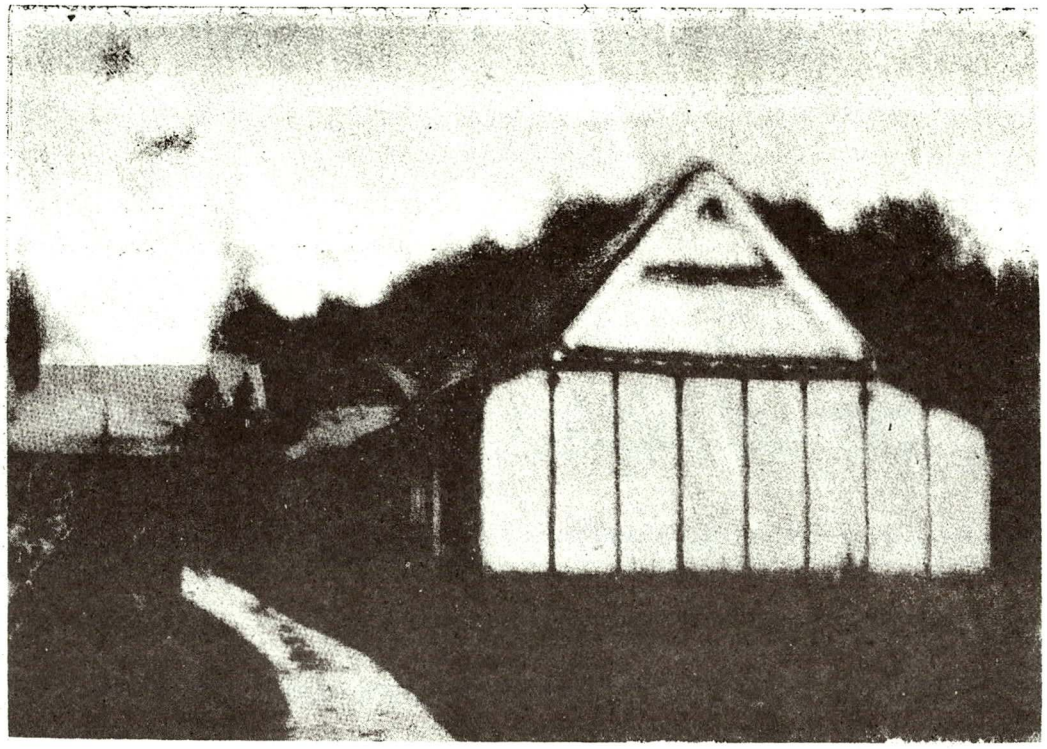
丘の裾が弧線を描いて延びると段々畑の麥の若芽が之に沿ふて美しい曲線の縞模様を見せることも春先の景觀であるが



（3）　家ろ或の村寺法通



（4）　家ろ或に筋道街の「志　喜」



（5）　れづは村の「谷ヶ駒」

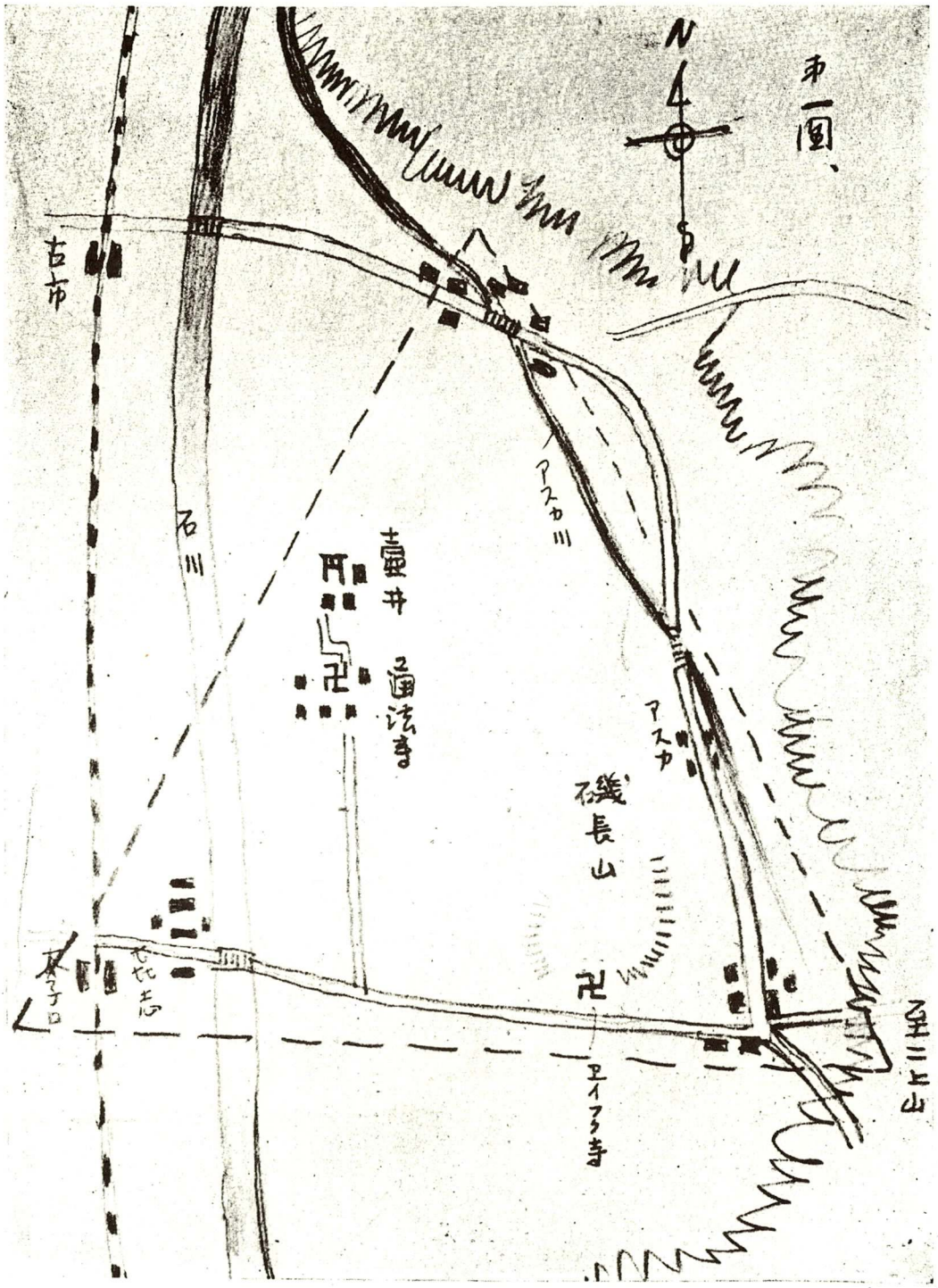
此うねりに從つて民家が建て連らねられてゐる村落等は殊の外に美しい。

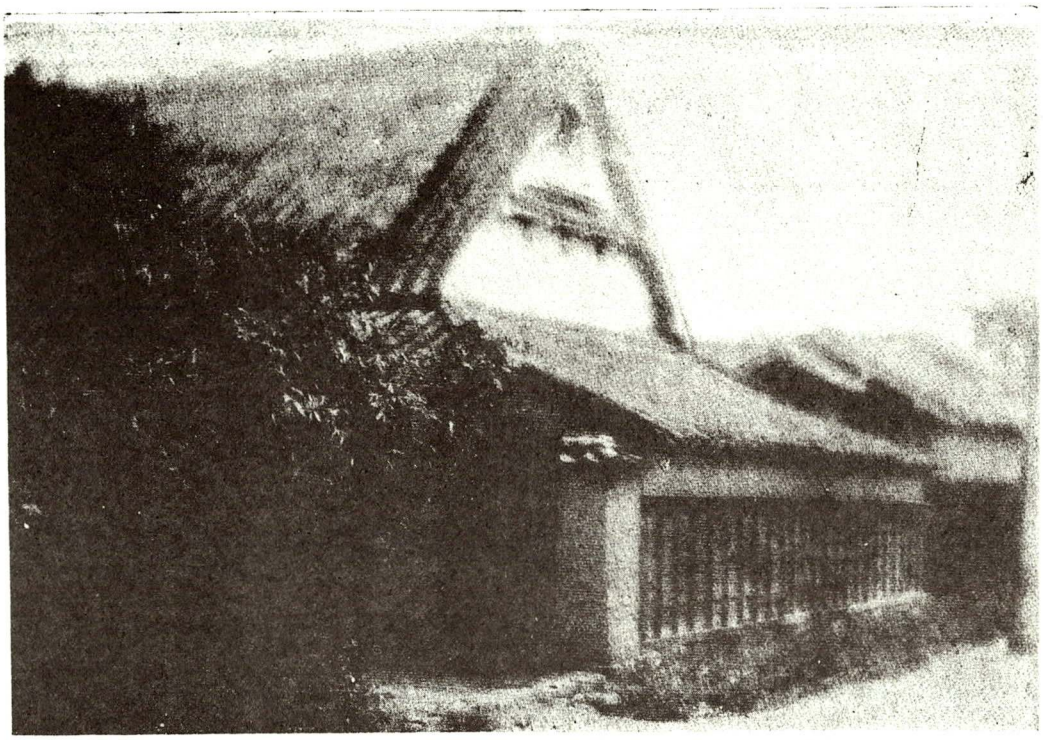
古市町から石川に架せられた木橋を渡る。河原の砂原には時ならぬ紅の花咲くかと見れば村の娘や妻女達の洗濯姿である。河原に示された布等を見ると古代日本の民族が朝鮮を經て移住したと云はれる一つの學説をすら思合はされる節がないでもない。

河を渡つて數丁にして駒ケ谷村に入る。此邊では大きい村落である。中央に飛鳥川と云ふ小川が流れ、月讀橋と云ふ名ばかりの小橋が架せられてゐる。此小川を狹む兩側の丘は葡萄畑の蔓と桃の小枝に覆はれてゐる。此凹地を更に奥へ上ると飛鳥と云ふ村落へ出る。

此邊の村は何所も同じであるが、民家の各戸には境界が明にされてゐない、塀があつても道路との境に築かれた土塀で笠にのせられた丸瓦が綠青色に苦むして所々落ち、古いものは塀として名ばかりにくづれてゐる等感傷詩人の眼を嬉ばしめ相な風致がある。隣同士の生活にはいかめしい塀や忍び返しの必要のないのが當然であつたことを今更の樣に都に住むものゝ心に藉がへらせられる。此等の村の各戸の土塀や籬は侵入者を防止することや土地の所有權の限界を明示する目的には役立てゐない。生活の內輪を見すかされる目かくしにもならない。籬の朝顏、夕べ土塀に咲く南瓜の花のいろどりを助け人々の野良への出入りに目を樂しましめることに趣がある

又一路太子口喜志から街道を下り石川の河南橋を渡つて進めば、一里半程で磯長村の春日と云ふ村落に入る。茲から二上山の南の峠を越して大和の當麻寺附近に出られる道筋であ


N
S
古市
石川
アスカ川
吉野
飛鳥寺
アスカ
磯長山
至二上山



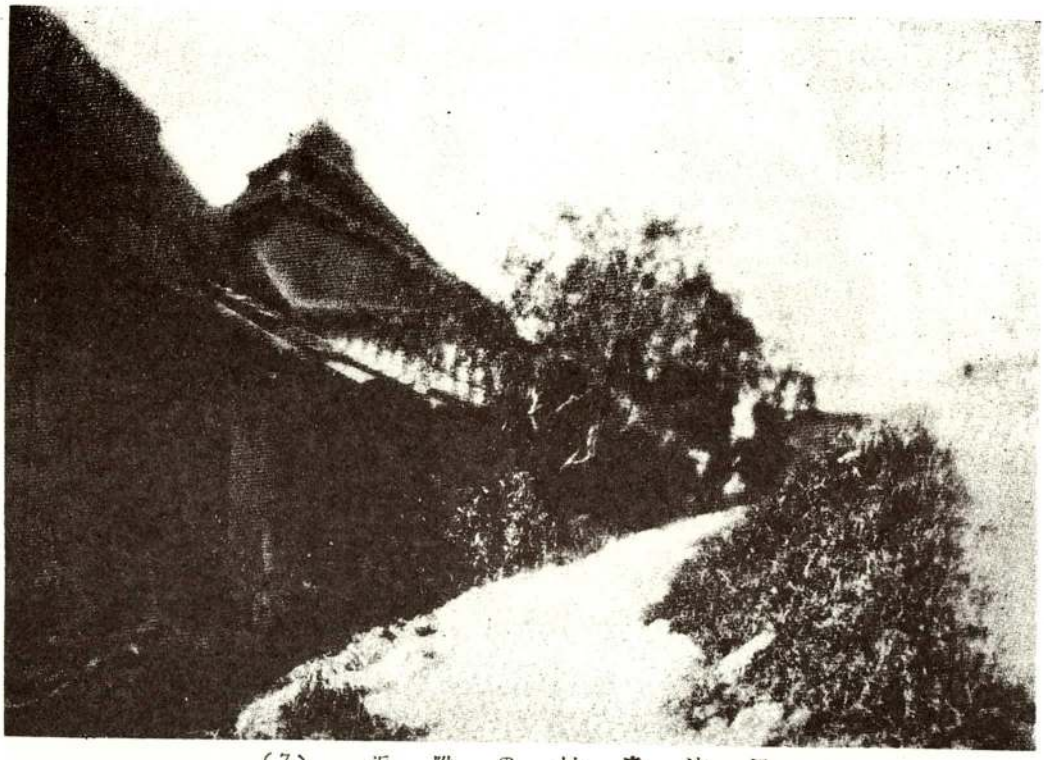
「壺井」八幡社の附近（6）

る。此春日へ入る手前磯長山の南麓は叡福寺即聖徳太子御廟のある處だ。春日から駒ケ谷へ飛鳥川に沿ふて下る街道があるが、此喜志春日、駒ケ谷を結ぶ三角形を地圖の上で考へるならば此範圍が此地方の民家として昔からの特色を保つものが最も多いのではあるまいかと想はれる。地形がら云へば石川及飛鳥川を狹み、山脈の裾の最も濶けた盆地である上に大和へ通ずる二路、即ち二上山の南と北の峠路が此地を通つてゐる爲に、古代に於ける大和地方との交通の要路を爲してゐたとも思はれる。

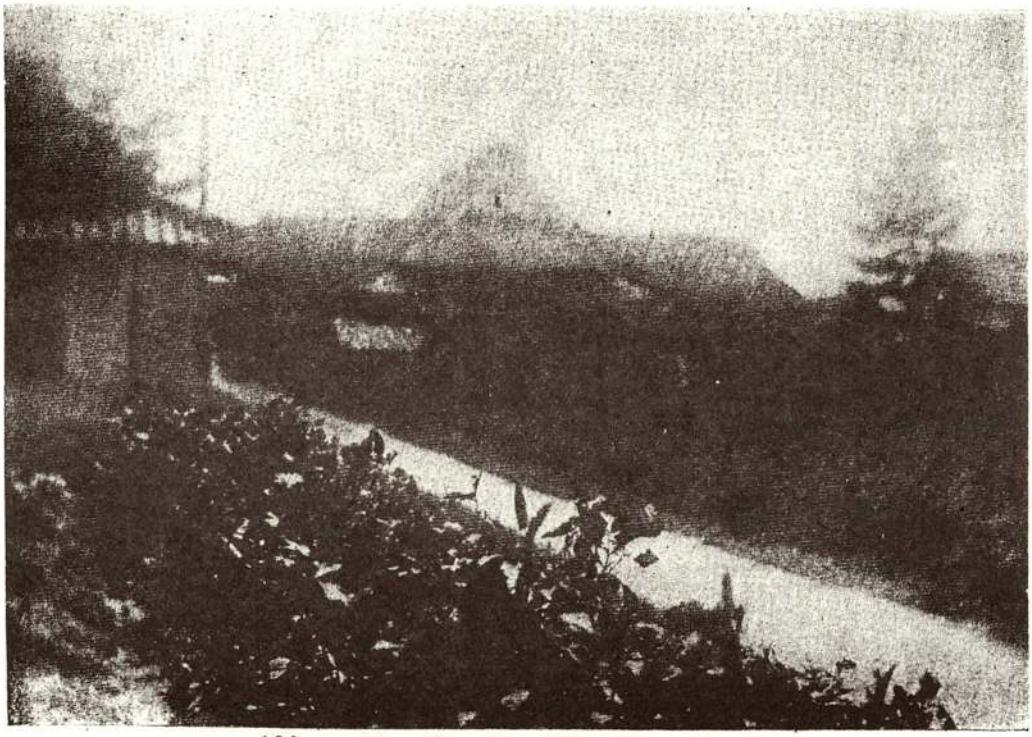
此三角形を爲す地滯の中央に位置する通法寺と稱する字があるが、源家、頼義、頼家、頼信の三氏の墓が同名の寺にあり、門の扁額には源家祖郷の意味が記されてゐる。

又此村の北二丁程で壺井と云ふ村があるが此も八幡社の石段下に壺井の井戸が殘つてゐる。此兩村落は形の上から面白い民家が多い。秋更けた頃、白い大根の束をつんだ車が町へと急ぐ朝、村落の辻の土塀の上から赤く熟れた柿が重さうに實つてゐる背景には、黄土色或は白色の切妻屋根の重りが見えてゐる。夏の午後なすび畑や芋畑の繁みに圍まれた瓦屋根が輝いてゐるのも豊かな眺だ。

河内の他の方面と異り、此古い形式を保つて集落をなしてゐる點に於て此地の歴史が恐ばれて、興味深く感せられる。古へ、大和川口が今の、大阪に近い頃、大阪灣から川を逆つて二上山を目標としつゝこの地に入る旅程が當然の順路であつたと想到される。從つて所謂神代から大和を中心とした文化の繁榮に伴ひ矢張此の地もその昔から相當に榮えてゐたものと想はれるのである。更に此等の村に入つて一つ一つの民

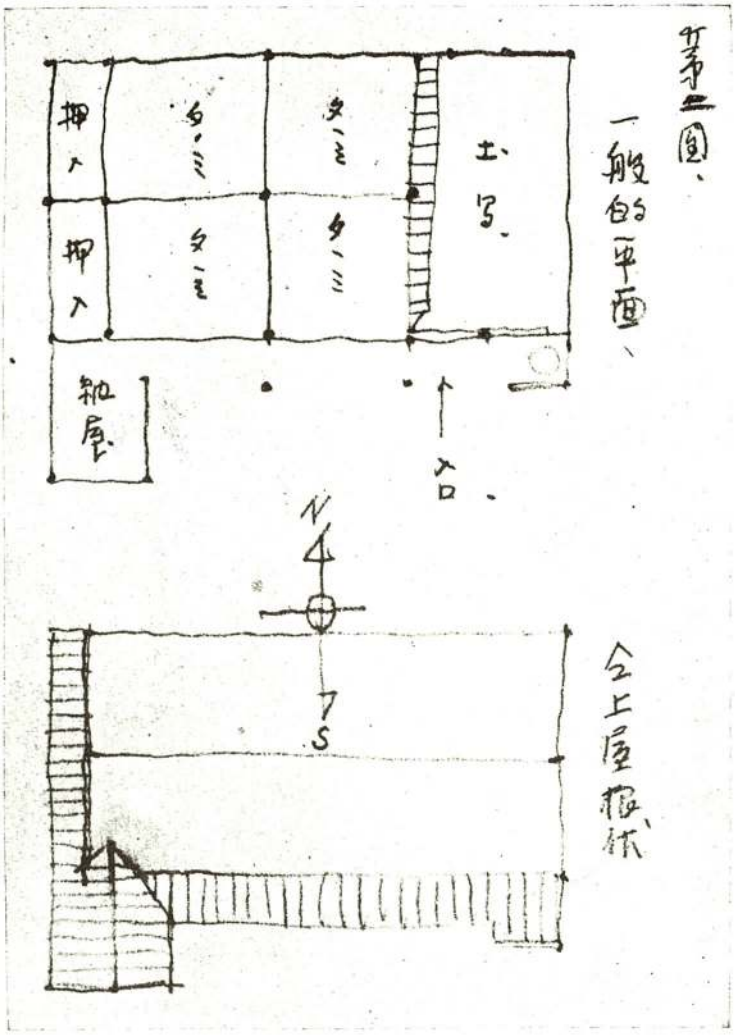


(7)　近附の村寺法通



(8)　夏晩の村寺法通

家について見るならば我々都會に住むものゝ目には、タイルヤテラコッタに依つて化裝されコンクリート建築を見馴れてゐるが爲に汚らしいとも見える土の壁、危險にも思はれるわら葺屋根によつて擾はれた單なる民家ではあるが先づ形と色



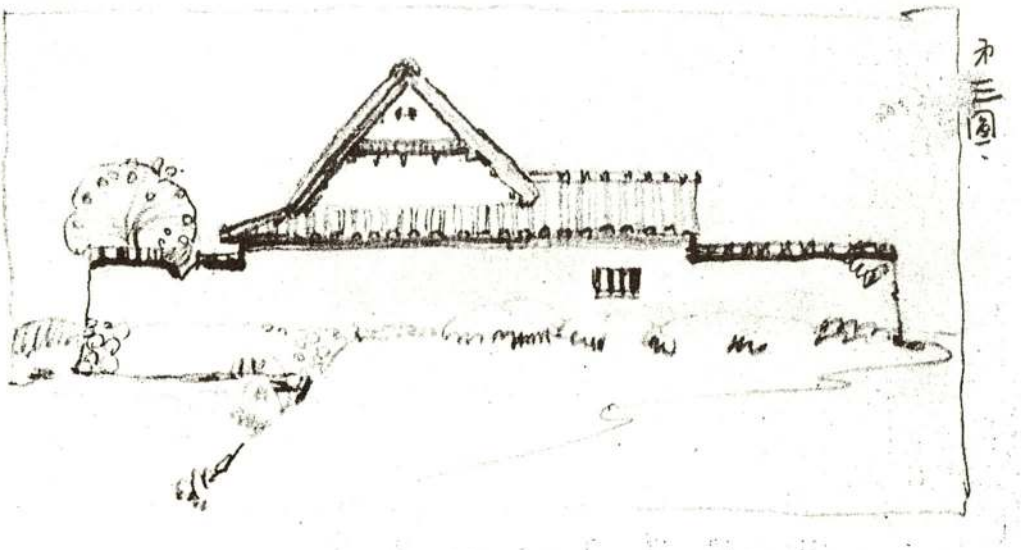
に適當な日本瓦の大さとうねり、わら葺のふくらみに對する壁面の取扱ひ等に、和蘭、スペインの住宅の意匠に比較してかなり多くの共通點を見出し得ることも面白い。一見して明るい陽氣な感觸をうける點は奈良法隆村の民家其の他大和地方の民家が何となく信仰的な暗さを持つのに對して可成な相異が感ぜられると同時に住民の思想と集落發達の過程及宗教思想の影響の多寡等について考慮せしめられる所がある。建築各部の取扱ひについて見ても最もよく民族としての趣味が表現されてゐるかにも思はれてならない

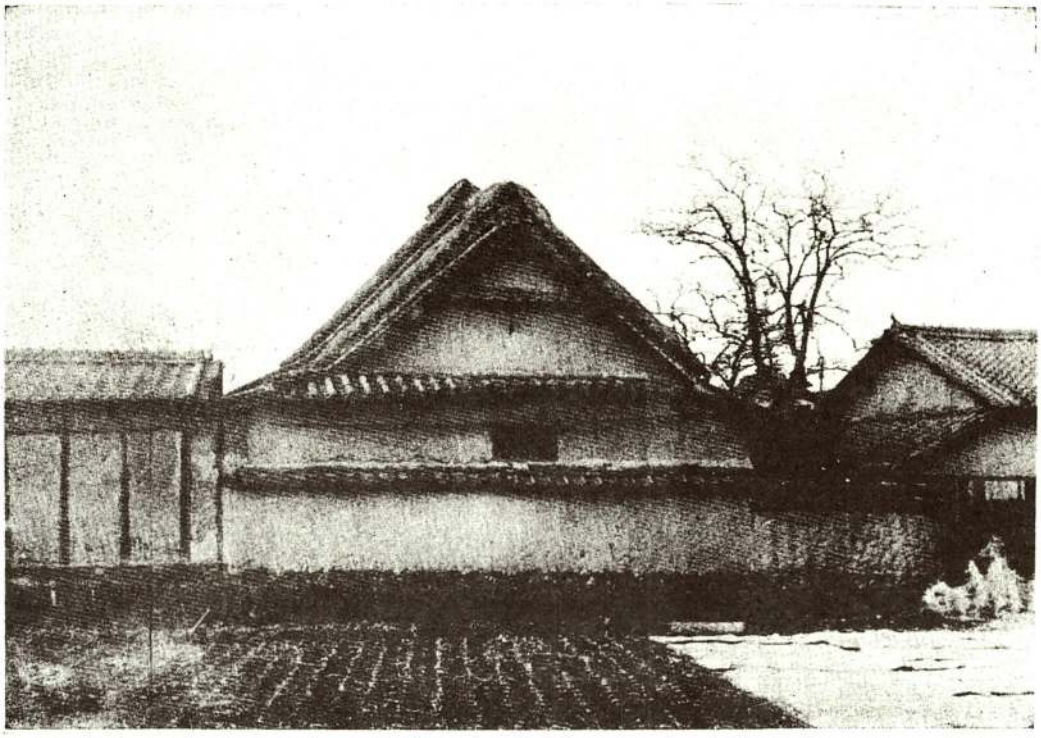
一戸の構としては主家附屬家、土塀によつて或は樹木迄も加へて動かすことの出來ぬうま味をもつた構圖を作つてゐる土塀は建物の一部であり柿の木も建築物を形成する一要素として働いてゐる、コンポヂションのうま味は形のみならず色にも見ることが出來る、古味がついた青苔色を混へたわら葺の色と壁の白又は土色を仕切るに瓦の鼠色を以つてし周圍の風景としつくりと調和してゐる。勝手元に咲く茶山花の花一輪にも壁を背景として色鮮かに畵家の筆を待つものゝ如く笑ましげに見える。廣く平な壁面を瓦の端の線のコントラストで面白味を見せた住宅建築手法はスペイン、伊太利、南フランス等でよく見られるが河内の民家に於ても同樣な手法を見ることが出來るのみに於いて自然に備へられた氣品と味ひの豊かさと深みとは和かな環境の中から我等に迫るものがあるのを否定出來ない。和蘭の民家も美しい、スペインの住家も美しいが河内の民家の美しさがそれ等に遜色あるものとは思はれない。屋根勾配



(9) 駒ヶ谷村の或る家

ならず、色調及形に於て更に滋味のある面白味が感ぜられる。納屋が西南へ突き出して小さい一つの切妻を見せる。納屋の奥には極めて小さい下地窓等が切つてあつて眞ひるの納屋へ入ると小さい窓から射すくめられるやうな陽の光があふれ込んでくる。納家と主屋が作る矩の手の部分は南





(10)　近　附　「志　喜」

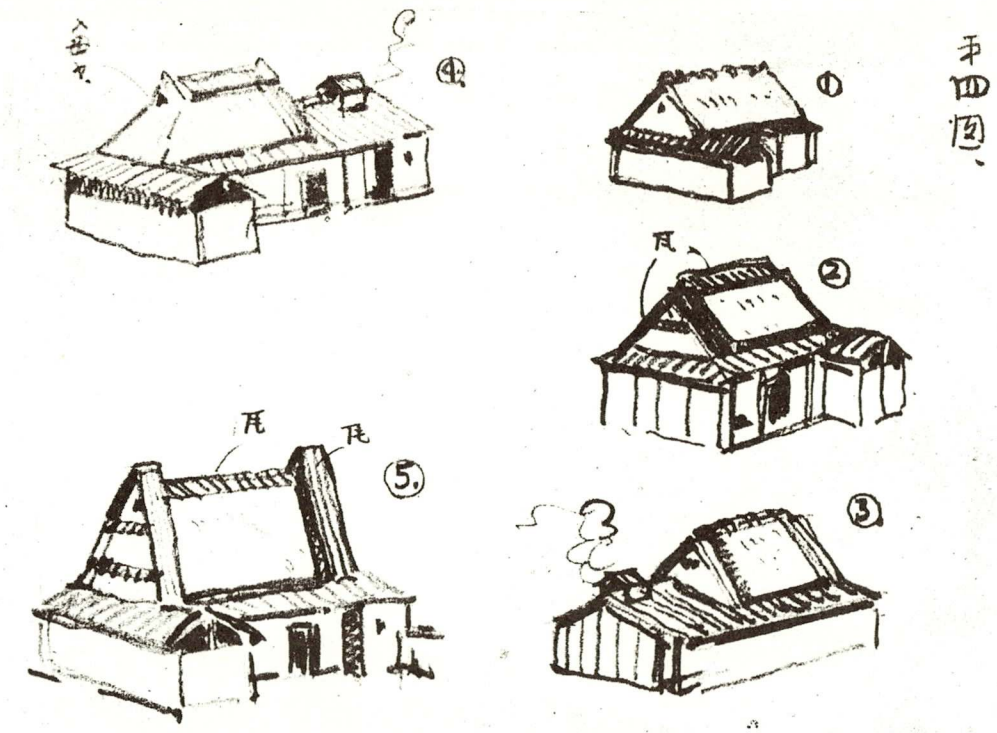


(11)　麓　東　山　長　磯　近　附　「日　春」

東に向つて午前の陽を向へ秋から冬にかけては留守居の老人の繩打ち場所になつてゐる。此の地方から大和へかけて長く蓄へた特有の土をねつて築れた壁の色は陽をうけて一倍美しく彩られる。

豊かな工事には白亜がぬられ一般のものゝ壁は土そのまゝになつてゐる。此等の民家は間取りよりも屋根の形に特色がありよく見ると共通した手法ではあるが各戸に意匠を凝らせ、或は家の定紋等を描き込んだもの等があるのもゆかしい。

その間を縫つて桐や、柿の小枝が大空に描かれた屋根のスカイラインを和らげるかにのび上つて見える。屋根の形を見ると切妻が最も多く、其他の形としては切妻に「モコシ」又は下屋を附けた形になつてゐる。稀に極めて小さい入母屋が煙出しに利用されたりしてゐるのを見る。之等を分けて見ると圖に示す五種とその各コンビネーションによる變化によつてゐることがわかる。



じつと一つの屋根から裾まで見入るならば、屋根の重味の感と、軒下の廣がり及びその高さとの適當な按配、切妻壁のあまりにも廣い三角形を二段又は三段に銀鼠色の瓦をのせた小廂で仕切り、妻の先端近く各戸に意匠を變へた小窓が焦點を作つてゐる等建築手法の上からも敎へられる點が多いのを感ずると同時に所謂、現代の文化住宅によつて滿されかねてゐる我等近代人の渇を醫するに足るものを見出す嬉がある。

手法を時の序次から見るならば瓦がのせられたことは後のことであり、始めの頃には所謂天地根元の宮造りの手法が踏襲されて藁束乍らも勝男木の形式を保ち、今にそのまゝ棟の水平線に豊かな變化を見せてゐるのではあるまいか。

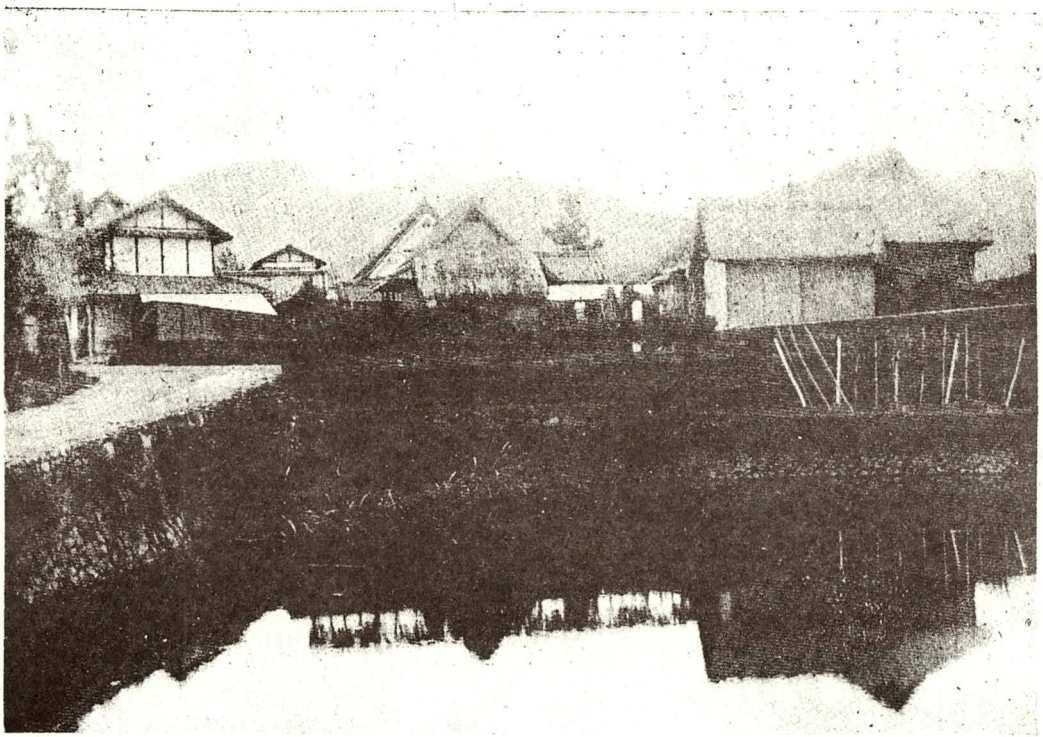
瓦が用ひられたことは佛敎入朝以後の事であることは當然と



(12)　近　附　「田　山」



(13)　前　午　の　秋——近　附　「子　太」



(14)　山上二さ池のれづば村の「日春」

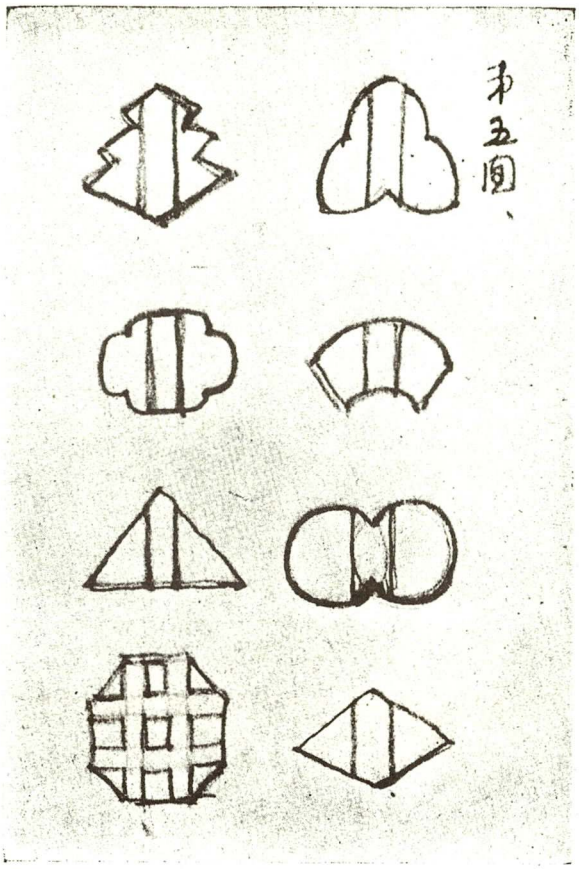


(15)　後午の「日春」

して、瓦を以て主屋の屋根全體に覆はなかつたことは經濟的關係のみとも思はれない。主家を藁葺のまゝに殘して下屋をその周圍に廻らし、或は納屋を持ち出し、之に丸瓦時に棧瓦を葺ふて重味の均衡を整理し、色合を調和せしめた點に更に興味をそゝられるのではないか。

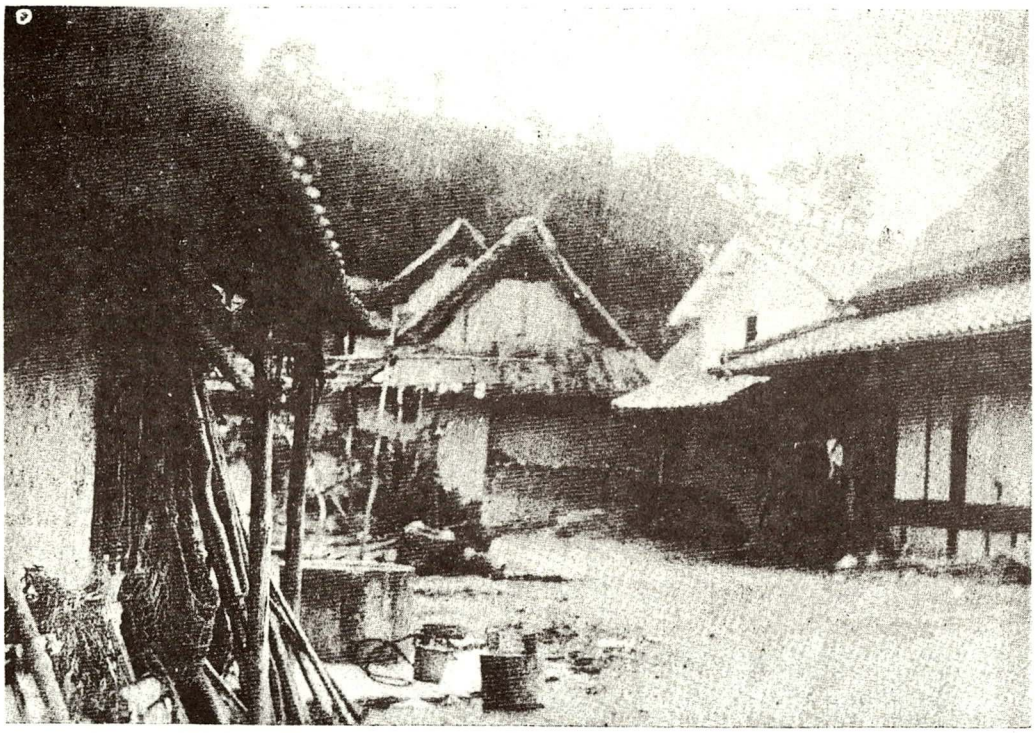
切妻壁の瓦ひさしは高さの高い壁面の水切りを考慮し前にも述べた樣に餘りにも廣いブランクな壁に水平に一線を描いてリズミカルな面白味を加へたっ又第五の樣な棟の兩端の切妻上部のみに瓦の帶をかけたものは或る識者の說には大陸の建築の影響をうけたものと解釋されてゐる。それは支那內地に見る兩切妻の煉瓦建築に於ては切妻壁を屋根から幾分建上らせて兩側から屋根を壓へた形式が見られるが、此の手法の影響であると云ふのである。しかし斯の如き手法の起源等についての說は右であつても左であつても僅かな材料によつて組立てられたものゝ手法の功妙さは起源因緣を詮索するに先だつて我々の直觀に訴へて來る强味を持つ。

我々は此等の民家が建並ぶ村落の陽を浴びて淸らかな空氣を呼吸する時、そこにある村そこの家屋、或はその土地に住む人々の生活をば正直に受け入れて感ずるまゝに感ずることに依つて却て眞實にそのすべてを理解出來るに違ないと思はれた。又勾配の强い藁屋根と勾配の低い瓦屋根を接續した主家を持つものは稍大きい構へである。瓦葺は目測で約三寸五分か四寸の勾配、藁葺は矩勾配であるが勾配が異り料料の異る屋根を並置して大膽なコンポジションを見せてゐる。。此形式では瓦葺の部分が、周圍の下屋に接續してゐて間取から見ると土間の部分を瓦が覆うてゐるものが多く從つて煙出しのガラリが瓦の棟の上に突き出して構圖の面白味を助ける。屋根材料の質によつて水勾配の差が出來るのは當然ながら、强いて二つの材料を一棟の家屋に混用する等、推斷ながら外觀の美に苦心の存することが想像出來る。



第五圖

切妻の小廂を受ける腕木の鼻を注意して見ると其部の天井野椽である丸太をそのまゝ壁から突出したもの、軒の丸桁を二本切妻へ通して小廂の支へとしたもの、或は母屋の鼻を腕木に利用し、小さい持送りを三箇程つけてゐるもの、或は又野椽の鼻を漆喰で包み波形にぬり上げたもの等があり、何れ



(16)　近　附　「日　春」



(17)　時　暮　夕　の　村　寺　法　通



(18) れ づ は の 北 の 「日 春」



(19) 近 附 村 寺 法 通

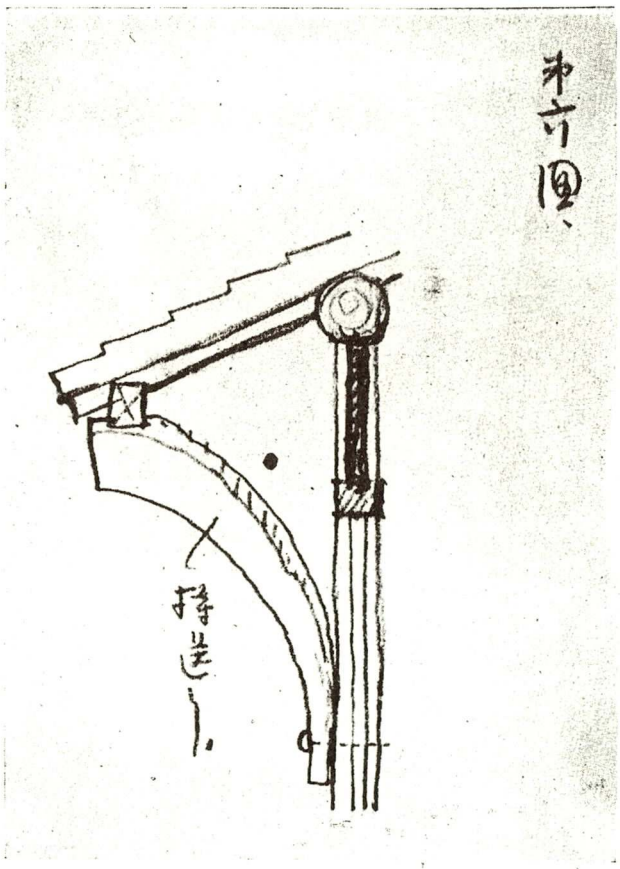
も構造上合理的な取扱ひである。

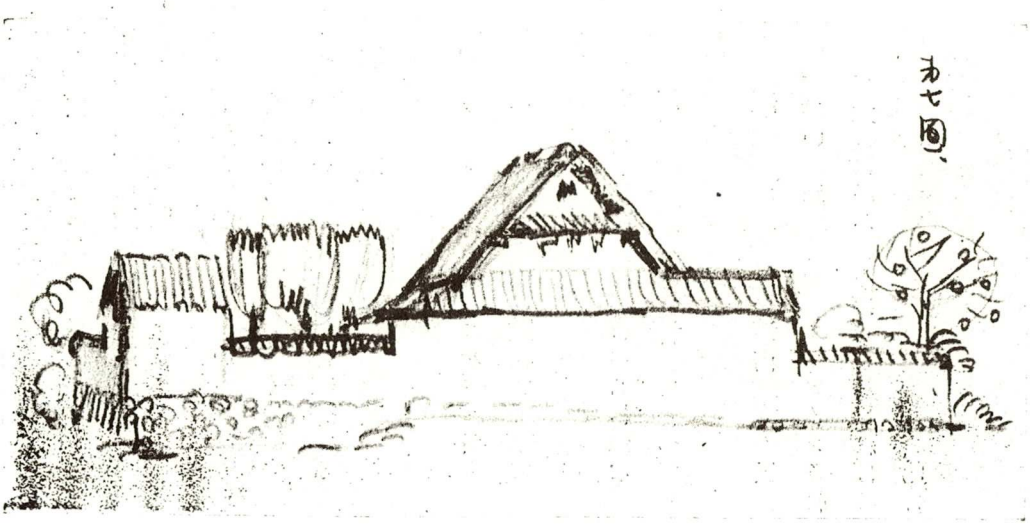
切妻壁上部の換氣孔には色々の意匠があるが主なものは扇形、瓢形、輪違形、菱形、松皮菱形、八角井桁形、等、枚擧に遑ない程千差萬別である。

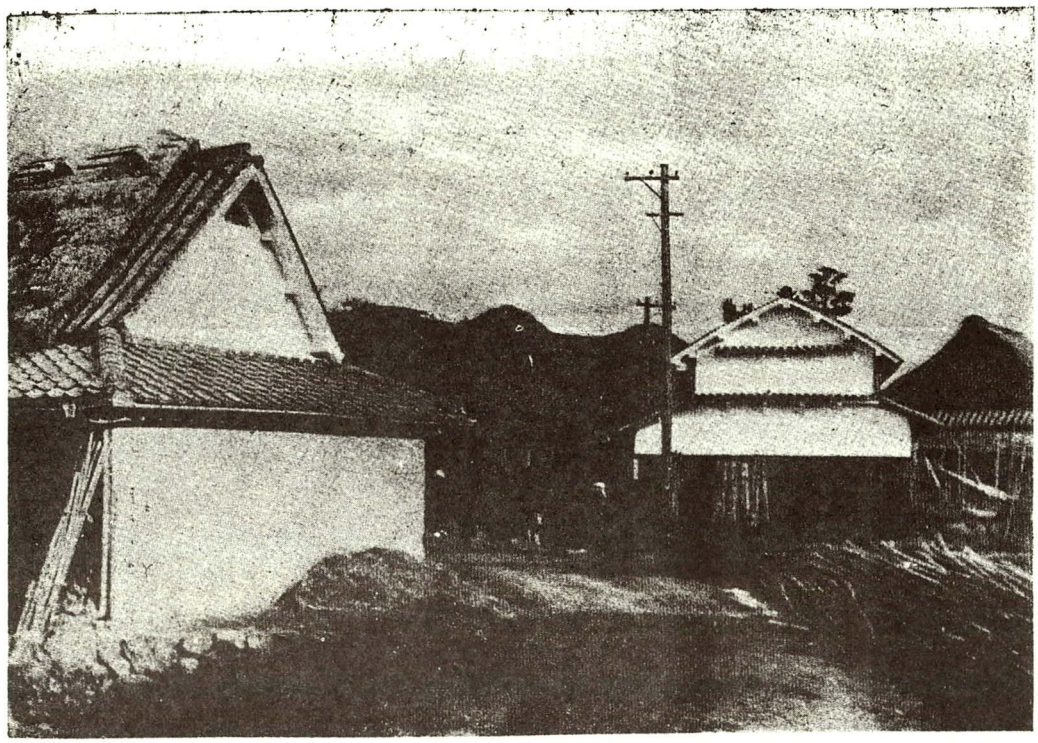
前面の下屋は孤立の方立と大な持送りとによつて、軒桁を支へ、床は土間で路面又は庭から一段高く盛土して栗等の山木で山留してゐるのが一般の手法である。此大きな持送りは入口の柱から突出してゐるもので、孤形を爲す太い枝や幹をそのまゝ利用してゐる。

此入口の障子は各地方の民家にあるものと同じ腰高障子が入れてあり、下家の隅を便所に仕切つてゐる。

倉は大抵構への乾に置くことゝして、倉の壁と主家の壁と構への土塀とは一つに連らねてぬり上げてゐるから







「飛鳥」の街道筋(20)

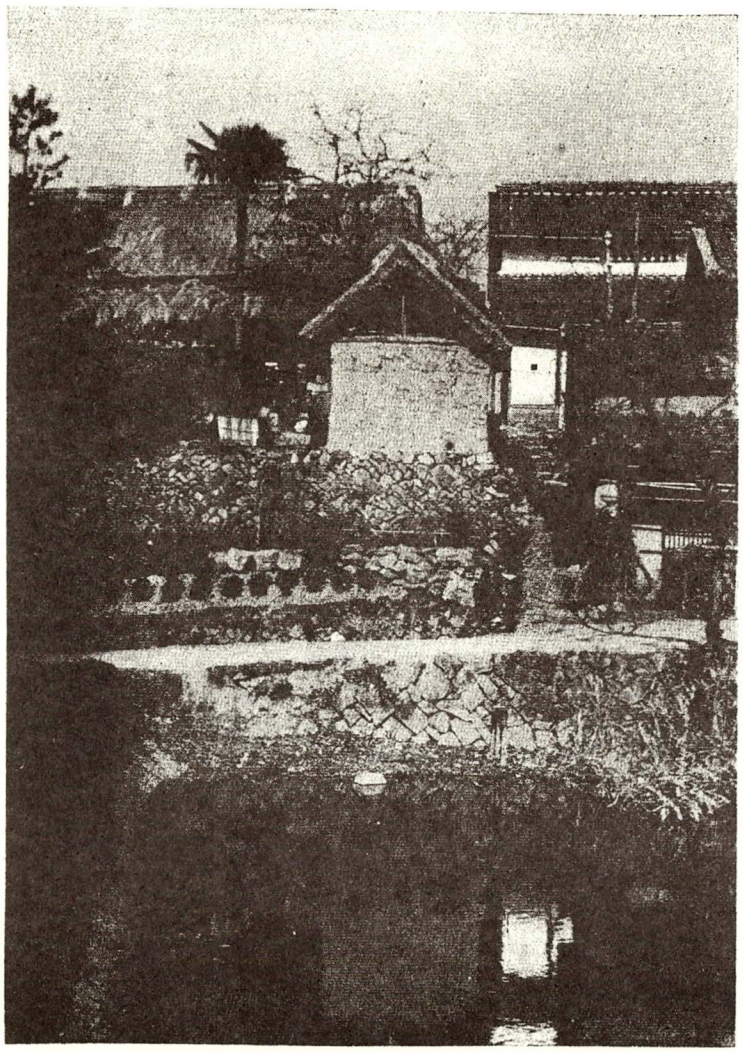
前に述べた通り倉までコンポジションを作つてゐて、田圃や畑の水平線に對して屋根や樹木による一構の輪廓線の高低が愉快な變化を見せてゐる。田に圍まれたもの又は土手にかゝつてゐるもの、盛土の上のもの等は壁裾を直徑四五寸程の玉石でつみ、壁面の面白味が增される。

私の見方が大分細部に入り過ぎたかも知れない、餘りくだ〳〵しくのべることは却て實際からかけ離れてゆくのを恐れる。あの夢見る樣な環境と、温い色の土壁の村を紹介することが主であつた。私は此等の民家の形式に親しみを感じそれを保存したいと思ふ。

驛に近い方面には赤いセメント瓦の屋根、モルタルぬりの文化住宅の姿がボツポツと此等の民家の間に點在して來たのを見受けて、淋しい心持を抱かせられる。

强大にしてバルガーな大阪市の同化力を避け得られぬならば、大阪の文化に對する正當な批判が心ある村人によつて爲されることが望ましい。

或は又住宅建築家や民家研究者によつて、河南地方の民家の古い形式の中にひそむ、長い時間によつてリファインされた美しさを温い心を持つて大切にひろい上げられなければならないのではあるまいか。私は南河内の民家を愛する、此言葉を繰返して紹介の筆を擱くことゝする。（了）

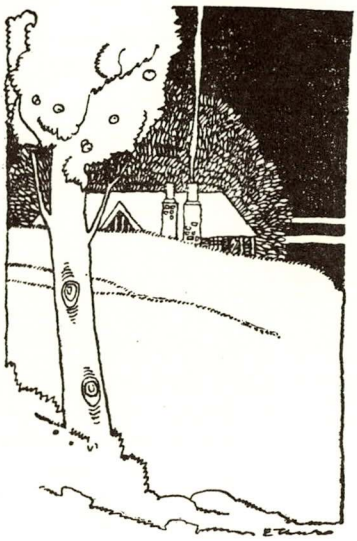


(21)　端　西　の　「日　春」

早春の靜かな樫林の奥。
朽ち殘る去年の落葉の上に
疎らな　日光は
家畜のやうに　愛らしく睡る。

潤い青室に
梢　梢の　透き徹るエメラルドの萠芽は
みごり兒の初のほほゑみと
溶け入る銀色に煙つてゐる。

此處は　私の夢見る　樂しい家庭のやうである。
ごんなに　はるばると再び徹風(たよかぜ)は
美しい白雲に　數々の　季節の香料や珍味をのせん
孤獨な私の食卓を訪れるか……



非文化住宅

南　信

故郷へ歸りました。

北國の寂しい街です。

藁葺の家、煤でぬり固めた桂、天井、廣い長押、鎗が三四本かけてある。庭には黄菊が四五輪、秋が深い。

五間持放しの軒桁は珍らしいと或人の言つたその軒桁のある椽側で、おやぢは裏から竹を切つて來ては竹箒をこしらへおふくろは干柿にする柿をむいて居る。

十一月には珍らしい小春です。

これは、北國の、私の家の見取圖です。

其處へ、忙し相な顔をして、がさ〳〵と這入つて行つたのは、すまない氣もちがする。

こうした家で私は生れ、育つて來ました。

だから、どちらかと言へば、山家の　の方です。

文化住宅のきらひなのは、そんな事から來て居るのかも知れません。

とも角、私は文化住宅といふ言葉を聞くと　首すぢがぞくつとする様な氣もちがします。

お客様がよくこうおつしやいます。

『やはり文化住宅を御設計になりますか』

私はぞくつとします、そして返事に困ります。

又　或るお客様はこうおつしやます。

『御設計のお家を拜見致しましたが、大變文化的に出來て居ります様で。』

私は、又、ぞくつとします　そして返事に困ります。

こう、文化住宅といふ言葉がきらひになつたのは、どういふ動機か自分にも分らないのですが　兎も角文化といふ言葉は、健實といふ言葉と反意語である様に、私には考へてならないのです。

朝鮮から歸つて來た友人が申しました。

『君は朝鮮のハイカラを知つてるか。朝鮮のハイカラは金

緣の目がねをかけて、金鎖をぶら下けて、金の指輪をはめて巧に日本語をしやべつて居る。』

笑ひ事では無い。日本のハイカラが、アメリカから組立住宅を取りよせて、得々として文化ぶつて居るのはどうするのだ。

アメリカ金だ　プラチノンだ　人造眞珠だ、婦人洋服は安くて良い——文化生活といふものは安くて見て呉れの良いものゝ事だ。節だらけの米松の柱でも　壁でぬりつぶしてしまへば立派なものだ。文化住宅はそうして出來る。明日はどうなつてもかまはぬ。安くて、一寸見がきれいで、臺所にエナメル塗のシンクの一つも在れば　建築雜誌が寫眞入りで書き立てゝ呉れる。そして第二の文化生活讃美者が眞似る。やはり節だらけの米松だ。

こうして、日本の生活が全部、節だらけの米松になつたらどうするのだらう。怖ろしい事だ。

私は故郷に歸つて、土地の故老に會つて、そして、この話をいたしました。

この田舍の街にも文化が這入つて來た。

故老は申しました。

これも時代の風潮で仕方があるまい。これもすぐあかれやう。そして又健實な時代が來る。

私のこの故老の言葉を信じたい氣がします。

私は故郷の、私の家に歸つて、がらんとした、お寺の樣な座敷に寂ころんで、眞黑な天井をながめながら、『現代住宅批判』といふ問題を考へなほしました。答は土の上に建てよといふ事です。非文化住宅たれといふ事です。健實に歸れといふ事です。明日を思ひわづらへといふ事です。

建物本來の意義を忘れて、臺所を押入とをいちくる建築は早くやめたいと思ひます。臺所と押入の問題は、何とか改善會の御婦人方にまかせて置いて、建築家まで醫馬に乘らなくても良い。建築家にはもつとやりごたへのある仕事が有り相だと思ひます。

縁側からサンルーム

縁側といふものが日本の住宅に對して如何なに重要な使命を持つてゐるかと云ふ事は、先般大熊博士其他の先輩方が詳しく御說明になつた事であるが、現在の生活改善の叫ぶ聲によつて生れた新住宅が如何にこれを取扱つてゐるかと云ふ事が私の最も興味のある問題の一つである中にはかなりに前途を指示したやうな巧妙なものもあるが、又極度に失敗せるものも多い。

縁側の價値や、廢止云々は別として、自然的傾向として基礎なり外壁なりが洋式の物長を採用しつゝある今日、それが從來の形式をそのまゝ存在させる事はかなり困難なものであつて、先づ一般的にこれを洋式のサンルーム、ベランダ式のものに變化されつゝあるのは、最も意義のある事であるが、その兩者の特質と使命を如何にして自然に、しかも兩者の缺點丈を省いて合致させるか、と云ふ事が最も意義の存する所である。先づ日常普通に我々の感じつゝある日本式縁側の短所とも云ふべき點をあげて見れば次の如きものであらうと思ふ。

一、外部を洋式にした場合に、調和させるべくその構造が中々困難であること。

二、我々の生活の變化に從つて、在來の縁側の構造が、不自然になつて來たこと、そして割合に地坪を要するこの部分が、多少むだに思はれて來たこと。

三、餘りに雨戸、障子、縁板等が開放的である爲に、戸締も(盜難)よくないし、空氣の流通がよさすぎて、冬期等煖房に困難なること

等之が其の主なるものであらうと思ふ儘てこの縁側の改造に際して如何にこれを考慮するかと云ふ問題であるか、先づ大體としてサンルーム式に形を變へる事がその當を得たものであり、只このサンルーム式になすべく附帶條件として次の如き重要な點がある。

一、縁側の構造が、冬は低い太陽の光線を充分に座敷に取りいれ夏は座敷迄には陽が射さぬやうな庇の深いものを特に考へること

二、餘りに木組を細くして、夏向きになす事は、冬期に於ける寒い感じに對して調和に困難であり且サンルームの性質上ガラス障子が大部分であるから風雨の豫防並に戸締りに不適當であるから相當に構造上の考慮を拂ふ必要がある細い薄手の構造のベランダが冬期に於て寒さを恐るゝ如く閉されペンキの剝げた木部は腐朽して風を通し、寂寥の中に裏枯れた雜草の庭に臨み、從つて冬中は殆ど使用されぬやうなサンルームの弊を、私達はよく見受ける。之等は、サンルームの名稱をサンマールームに履き違へた失敗であつて、これでは日本式縁側より劣ること遙である。

一般に、近頃の所謂文化住宅なるものゝうちには、餘りに輕快味を尊び過ぎる傾向がある。サンマーハウス式の平面的の色彩の明るいものが喜ばれて、構造迄がすべてさう云つた感じのものになつて行くやうであるが、これは現代に於ける時代相の一端には相違ないけれども、問題が建築と云ふ時流に超越してゐなければならぬものにこつては、恐るべき害である。

三、次に設備に對して、サンルームには特別の注意を拂はなければならない。そ

れはサンルームなるものが、夏は日光を防ぎ、風を取り入れ、冬は風を防ぎ、陽を取り入れ、反對の要求に對して、完全にその職責を完ふし得るやうになす爲めには、その設備の力に俟つこと大である私は庇を深くして、日本式の下屋のやうになすことが理想的である事を前にも記したが、それよりもごく簡單なよしずの如き庇を夏期丈取付けて冬期はこれを取拂、充分に陽を受け得らるゝやうにしなければ、かへつて無理がないやうに思ふ。

又夏期に於けるサンルームの持つ有難味は、外部の即ち庭（さいふよりも土）に對して、非常に接近させる事であるが、これは比較的差廣の入口を設けて、これから庭に出入り出來る事が必要であるが、又直接土に下り立つ事は考へものであつて、どうしても混凝土の叩きのやうなもの丶、少し幅の廣いものが必要であり、土には第二段に接せしめる方がよい。

このサンルームの入口が、又非常に苦になる問題である　夏期に於てはなるべく巾の廣いものがよろしく、極端に考へれば、全部引違ひ障子か何かにしておいて、開け放して縁側のやうにしたいのであるが、これは冬期になつて困ることであつて、冬期にありては、入口が見える事も寒いのである。

勿論窓の高さは、相當に必要であつて、一尺二三寸から二尺五寸位迄にはしておきたい。であるから、この入口の位置は、なるべく正面の（南側）の場所はさけた方がよい。理想としては、西側か東側かの、そして主家壁に近い箇所が最もよいやうに思はれる。

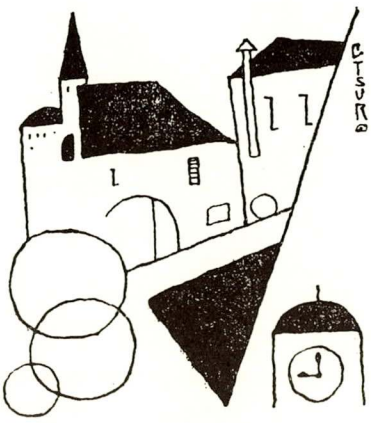
次にガラス障子は、一般的に考へれば、透通しでなければならないが、そして窓掛けの如きは、勿論夏と冬とは、取換る必要がある、この窓掛けの色彩によつて、サンルームの感じを夏期の氣分と冬期の氣分に換へる事の出來る効は非常に大である。

同時に之等木部のペンキの色であるが、餘り輕快にすれば冬期は親しみが薄くなるし、餘り氣地味にすれば、夏の氣分と釣合はぬ。強いて云へば、うす暗いやうな感じの色が無難であつて、さもなくば寒暖に關係のないやうな色がよく何れにしても、黝んだ地味な色合はよくない。鼠色や樺色のやうなものはうつりがわるい。

最後にもう一つ戸締りの事に就て書いて置きたいと思ふ。一體に日本の家屋は洋式の建築に比較して戸締りが緩慢である樣側の如きはその甚しいもので、近來ガラス障子の如きものを二重に建てるやうにしてあるのもあるが、何れにしても、不完全勝である室と室との仕切りにしても紙一重といふやうなものが多い。

サンルームの如き窓硝子の多い部分では、隨分完全に金物類で締りをする必要があり、これは盜難ばかりの爲ではなく、風や雨の多い我國では特に研究すべき專柄で、在來の降り吹きの際には、窓や樣側の雨戸を閉めきつて晝電燈を點ずるが如き弊から脫せねばならぬ。木造建築が雨仕舞の不完全から腐朽を早めるの弊は、一番考慮を拂ふべき點であると思ふ。

それから尙これはサンルームに限つた譯ではないが、日本式の疊敷の座敷に、高い洋風の窓をつけることは考ふべき事で、夏期の通風に際して、少し風通しのよくない室では、丁度室の下層の空氣が沈滯して、非常に暑い普通の疊敷の座敷なれば、矢張り、窓も外部の樣式の如何にかゝはらず、低い窓にしたいのである。



住宅設計上の考察

松本儀八

「建築と社會のスペシャルナンバー」として住宅號を出すから、住宅設計上の一考察と云ふ見出しで執筆する樣にと協會からの命であつた。自分としては豫々其方面にイクラか趣味を持つて携つて居る事でもあるし幾等かの經驗を追懷して、夫れに日頃の感想をつき混ぜ、茲に杜撰にして斷片的ながら本稿を草してみた。夫れも住宅設計の上に第一の問題となる「間取（プランニング）」に關する事項の一端を主としてゞある」。

仍で間取（プランニング）と次の樣な問題との關係を捉へてみた。

一プランの單純化
二プランの姿勢（エレベーション）
三椅子式と坐居式との割合
四間取（プランニング）と造作、家具
五間取と衛生的設備

（一）プランの單純化

日本風の家の間取（プラン）は建坪の割合にどうも小間が多い、洋風建にした所で日本人の拵へる家は大方その樣な傾きがある。つまり室は狹くとも間數を多く取りたがる僻がある、之は便利な事がある代りに、又大變不經濟な點もある。夫れと云ふのも小さな室々に仕切るためには勿論相應の經費を要し、實際に使ふ段になると遊んで居る室の方が多いと云ふ始末。

最近別段に大陸式（コンチネンタルシステム）（米式）を學んだと云ふ譯でもあるまいが、間數を節約して出來る丈けユツタリと寬いだ室に住んでみたいと云ふ氣分を慕ふ連中も次第に增へて來た。

在來コノ室も欲しい、アノ室も置き度いといつて配列された間取、それが出來上つてみると實際に使ふ室よりも遊んで居る室の方が多い。そしてオマケに遊んで居る室の位置程いゝ方位（アスペクト）にあるなど、時折見たり聞たりする事である。

さもなくとも家族が能く使ひ、能く親む室は便利で愉快な使勝手のいゝ室に自ら決る樣である。右樣な見地からしても居間と食堂などを一室に纏めて、採光、通風、眺望其他最もいゝコンヂションのもとに位置、太さを振り宛るとか、書齋なども少し太いめにして其一隅を應接に利用するといつた調

子に、出來得る限り間數の少い、廳揚な間取、所謂プランの單純化を圖る事はやがて全建坪を縮少し得ると云ふ結果にもなる。尨大なる建坪を擁して誇りとして居つた時代はイザ知らず、現代に於ける中流クラスの生活者に取つては、利にして便なる事が結局愉快なる實生活を營ましめる事になりはすまいか。そうなれば、プランを單純化する意義も存するのである。

(二)プランの姿勢（エレベーション）

プランの姿勢即ち格好を見れば、大體其家が纏つた家か、便利な家か、それとも不便で、不衞生的の家かと云ふ見當もつき、家としてその品位の一端までも窺知する事が出來ると云ふもの。

所で間取（プラン）の姿勢なるものは十軒十色といひ條、住まんとする人の職業に依ても自ら異る或ものを見出す事が出來る。

或る眼科醫の邸宅のプランは御職掌柄と云ふ譯でもあるまいが、直射光線を避け、ケバ〳〵せぬ落付いた室に仕度いと云ふ趣味が、自然そういつた間取（プラン）の姿勢を守る樣になるし、又同じお醫者でも、肺病專門の或醫師の邸宅の如きは、前と正反對に、採光、通風、換氣等を最も嚴格に主張さるゝ關係から、矢張り之が間取の姿勢にも關係するといふ譯である。

又お醫者の樣な柔かみのある（職業に柔み、堅みなどゝ云ふ言は或は當らないかもしれぬが）職業と、銀行家の樣な比較的几帳面の堅苦しい職業の人との間取（プランニング）に對する要求、前者は單調でない變化に富んだ間取を希望し、後者は几帳面な室の配置を好み、又田舍の夫れと、都會の夫れとは、それ相應の姿勢の現れでなければなるまい。

兎に角間取の際其姿勢の如何を各方面から考察する事は肝要な事であらうと思ふ。

(三)椅子式と坐居式との割合

どの邊まで椅子式の室にしようか、疊の室は何所と何所にしようかと云ふ樣な事も、間取の劈頭に於て必ず問題となる事である。

椅子式趣味者は何といつても衞生的で便利なのは椅子式生活に限ると主張し、坐居式（疊式）趣味者は又我國民性、風俗習慣と經濟的方面から論じ、流石に疊敷萬能を主張するところ何れにも相當の理由がある。

所で坐して使ふよりも、椅子式にする方便利であるとするならば其室は椅子式に則り、又在來の特長とする所も之を取入れると云ふ主義。畢竟彼我の長所を取込て程よく調和を得樣ふとする、所謂和洋併用式とでも言ふか、そういつた希望を有つた者も大變に多い。

自分が今日迄關係して建た住宅に就いて之を調べてみたが次の樣な數字が現れた。

	外觀洋風建	外觀和風建
一、全部椅子式生活としたるもの	八、八	七
二、椅子式を多量に取入たるもの	二一、一	一四
三、疊敷と椅子式とを折半程度にしたるもの	三一、五	五一
四、疊數本位とし僅かに椅子式の室を取入たるもの	三八、六	二八
五、全部疊敷生活としたるもの		

（上の數字は百分率である）

外觀洋風建に於て坐居式、即ち疊敷本位の生活をなさんと

せしもの三割九分弱、全然椅子式に生んとするもの九分弱を算して居る。

又外觀和風建に就いて見るに、疊敷本位のもの五割、椅子式を多量に取入れんと希望せしもの僅かに七分と云ふ統計になつた。

之に依て之を見るに、其構へが洋風、和風、何れであらうが椅子式よりも疊敷の室を多分に要求すると云ふ譯である。

中には椅子式本位に試みられた家も、數年を經ずして一部疊敷の室に改造したり、日本家の建增しをせなければ困ると云ふ所が段々あるのから察すれば、中流程度に於ける現代生活としては、和洋併用、然かも坐居室の量の多い生活に落付き度いとの傾向である。

（勿論之は自分丈けの統計であるから、一般視する譯には行くまいが、或る流れの一端を知るの資料になるかもしれぬ。）

（四）間取と造作、家具

御寺建てゝ佛像置かず、佛像作つて魂入れずと云ふ事があるが、之は所謂目的の機微に觸れないと云ふ形容であらう。

住宅に於ける間取と家具との關係も丁度そういつた樣な按配の點がありはすまいか。

安置さるべき目的物の佛像が何體であるか。そして坐像、立像何れであるか。坐巾や、丈高の寸尺はどうであるか。夫れらに沒交涉で、御寺の建物が先に出來上つたとしたら、どんな結果になるのであらうか。幸に具合能く當嵌つたら御慰みとでも云へよう。

佛像造つて魂を入れないと云ふのも全く之と同樣、不徹底の沙汰を意味する言葉であらう。

住宅の間取を成すに當つて、實生活に最も關係の深いものは、內部の造作や、家具である。

其家具の形狀、數量等は家族の人員趣向から割出されたものであつてほしい。そして室としては之等を安らかに包容し得る太さでなければ、色々の點に不都合が起るのである。

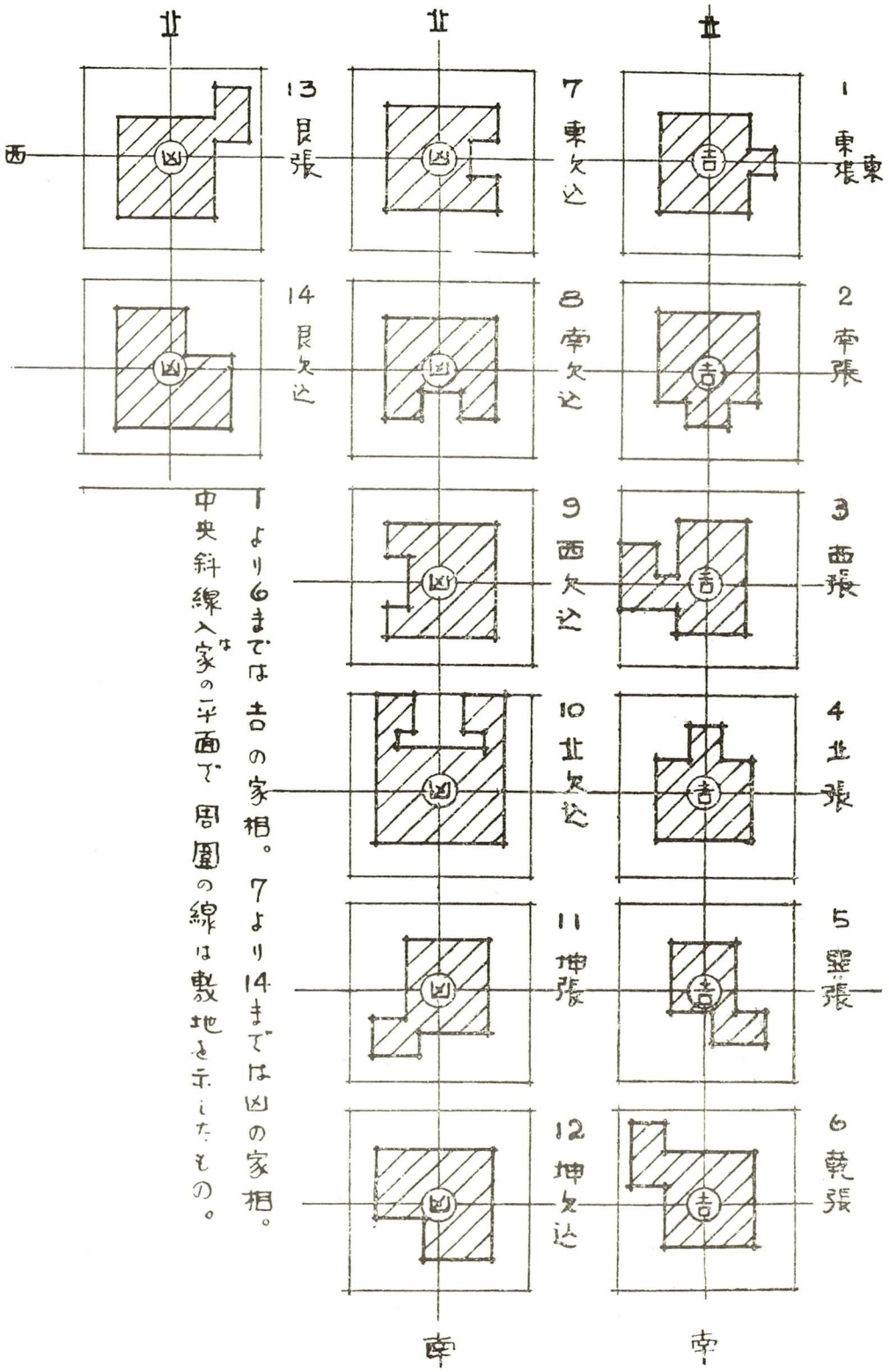
要するに建物が出來て室の太さが決てから家具の配置や其數量や使勝手を考へようなどと云ふ事は、住宅などでは恐らく賢者の學ぶべきことではあるまい。

繰返して言ひ度い。間取（プランニング）と云ふ音の中には、家族と云ふ事を中心として、造作や、家具と云ふ強い音色を有つ余韻が欲しいのである。

（五）間取と家相、方位

同じ住むなら時代文化の閃きを成る可く多分に取入れようと云ふ今時、ヤレ家相だの、方位だのと口にする其事すらも、寔に不合理の樣に思はるゝが、さて實際問題となると夫れはなかなかそうでない。

寧ろ吾々の豫期に反し、素人の方の多くは家相、方位を適當に按配して、凶相を避ける事に依り一家の安心を得よう、つまり家相、方位によつて善所しようと云ふ人達も相當にあると云ふ事を、今日迄色んな人々の住宅を手に掛けてみた經驗から今更の樣に其感を深ふしたのであつた。そして其家相、方位の中でも、申合した樣に共通的の要求とでも云はうか、擔ぐ條項とでも云はうか、よく其問題となるのは「家相からみた間取の出張及欠込」や「便所、井戶、土藏などの配

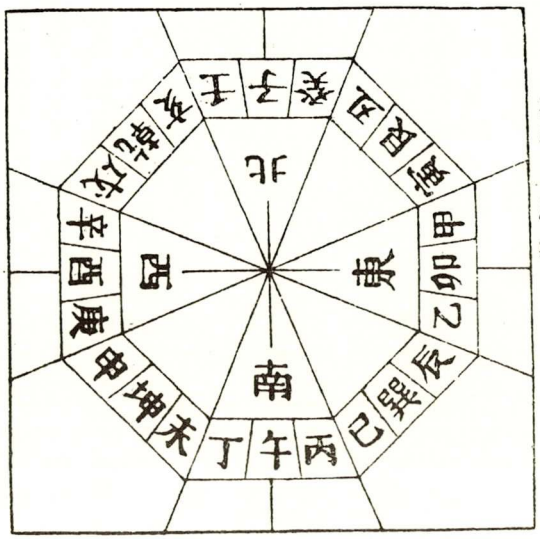


1より6までは吉の家相。7より14までは凶の家相。
中央斜線入家の平面で周囲の線は敷地を示したもの。

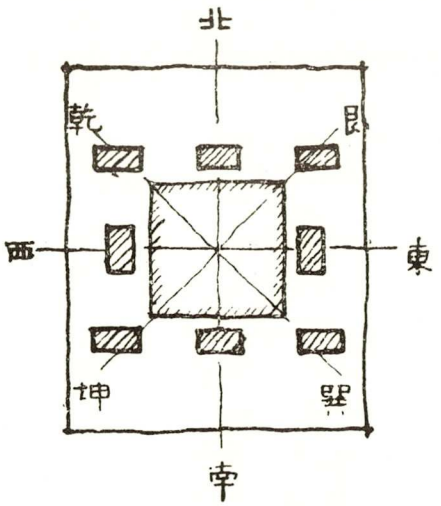
置關係の良否から齎らす吉凶」などが眞先に主要な條件とさるゝのである。次に家相、方位上特に詮議せらるゝ吉相、凶相の主なる數例を摘出する事にした。

(1)張出及び欠込家相の吉凶

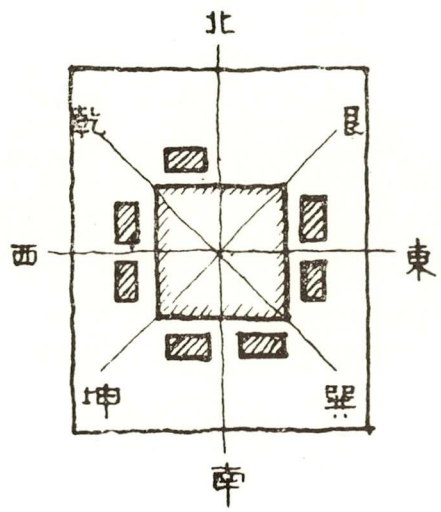
圖中1から6までは所謂吉相と言ふのであつて1の東方張出しは家業繁昌の徴、2の南張出しも住人財福の吉相、3の如く廊下を通じて西方張出しとなれるは其家の婦女に幸ちあるの相、4の北方張の家は貯財益々榮ふるの吉相、5の如く東南即ち巽



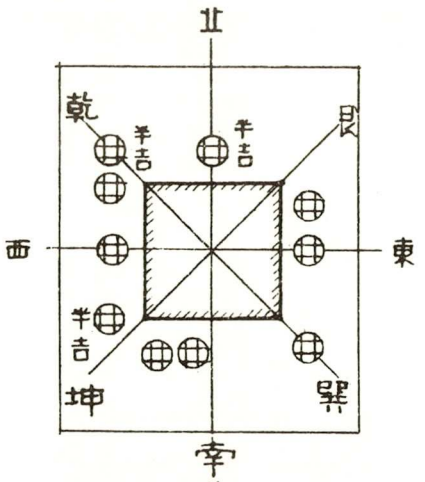
家相、方位盤



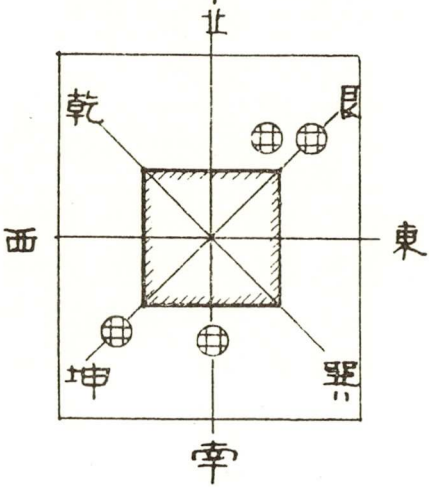
厠の凶方位



厠の吉方位



井戸の吉方位



井戸の凶方位

張は家業大に繁昌し加ふるに遠方より福分を招來するの吉兆ありと稱へ、6の乾即ち西北の張出ある家は吉相中の大吉相であつて福德、財寶常に集り、住人大に立身出世の幸運を享くる事が出來ると云つて居る。

之に反し7より14に至る凶相の方では78の如き欠込は家運衰微の兆ありとし9の西方欠込は家の中に口舌爭論が絶へない凶相であるとか、10の如く北方欠込は其家に病人多く福分逃出するの相ありといひ、以下同樣に病難又は他の禍を招く凶相だと云つて居る。

(ロ) 井戸の吉凶方位

艮、坤、南の方位に井戸を設くる事は大凶相で、福分を失ひ、貧困に陷り不仕合多く、病難襲來する等兎角憂ふべき事柄續出するの相だとふひ。

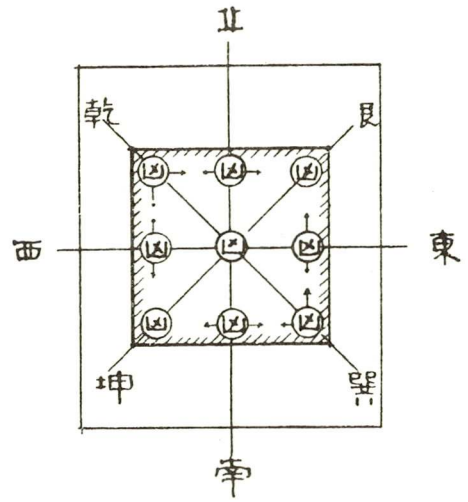
東、巽、西、午と未の間其他圖に示す樣な位置に井戸を設ける事は家業繁昌、福分集來、主人の願望達成し、家内和合する大吉相だと言ふのである。

(ハ) 厠の吉凶方位

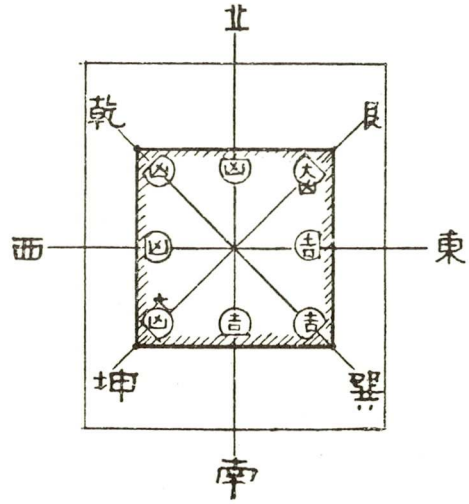
凶の方位に厠を設くるときは、何れも福分の招來を杜絶するとか、家業衰退、病難襲來、不幸續出するの外、下の病にゝ冒さる等の不吉の相であるとし、加ふるに子孫までも禍ひするなどと如何にも不安氣な事までも言つて居る。

東、西、南、北、即ち四仲の正當を外づれた圖の如き方位にある厠は最吉としてある。

竈の吉凶方位



竈の炊口向吉凶



(ニ) 竈及其炊口の吉凶方位

圖中凶所を矢の方向の何れかに外づす事によつて吉相となると云ひ、竈の炊口の方位に就いても、西の方に炊口を向ければ爭ひ事の絶へぬ間がない。艮、坤の方に向れば病氣、其他災害に罹るの相あるとか、矢張り井戸や厠などと同じ樣な事を云つて居る。又炊口の數にしても三、四、五は吉相で家内安全子孫繁榮すれども、二及び六は破財又は不和の凶相だと稱へて居る。

(ホ) 土藏其他の方位

三階建の土藏は其大小廣狹に拘はらず大凶相である。

方位としては本家から巽、乾の方に設くるを大吉相とし、夫れから門、玄關、納家、茶室等夫々方位の上から吉凶を云々せられて居る。尙は建物の棟の高さや、向きと吉凶關係など色々樣々な事を聞かされる。

兎角迷信も極端に走れば迚も始末におへぬと思ふ事さへチヨイ〳〵あゝ。

建築家の立場として迷信打破の指導其宜しきを得る事は勿論肝要だが、一面頑迷なる家相、方位信者達の趣味、希望をも達成せしめ得る生活の容器たらしめる事も何より必須の條件とみねばなるまい。

由來建築家の中には住む人の趣味や希望を取入れるよりも設計者自身の趣味、趣向を無理押に押付けようとする人があると云ふ事を屢々聞かされた事がある。他山の石の樣であるが、或は玩味すべき穿つた言葉かもられぬ。

(六) 間取と衛生的設備

間取に際して考慮を拂ふべき事柄も段々とあるが、衛生的設備を奈何に取扱ふかといふ問題も其中の大事な一つである例へば採光、換氣、通風等に關する窓の位置、太さ、形態から、給水、給湯、排水等の配置關係、其他浴室、便所の位置、樣式、煖房設備の選定など、何れも忽に出來ないもので就中近來は煖房裝置と云ふ事を今更の如く八釜しく云はれて來た樣である。

寒い時分に室內を煖むる事は　決して閑人の餘技でもなければ、富者の娛樂でもない、全く衛生上肝要な事であると云ふ事が近來どうやら一般的に認められて來たのであらう。

ところで在來の日本建と煖房裝置の關係、それは其間取、構造、材料等の點から不適當であつたためか、局所煖房即ち圍爐裏、火鉢の樣な直接採温を以て滿足して居つたものであるけれど、之は室內の空氣を汚損する許りでなく、手先、足元を火に炙して身體が温つた樣な氣持はするが、事實は低い温度の空氣中にあるので、同じ室の中でも火を遠ざかるに連れて寒さを感ずるので、自然煖房の必要さを感ずる事になつて來る。

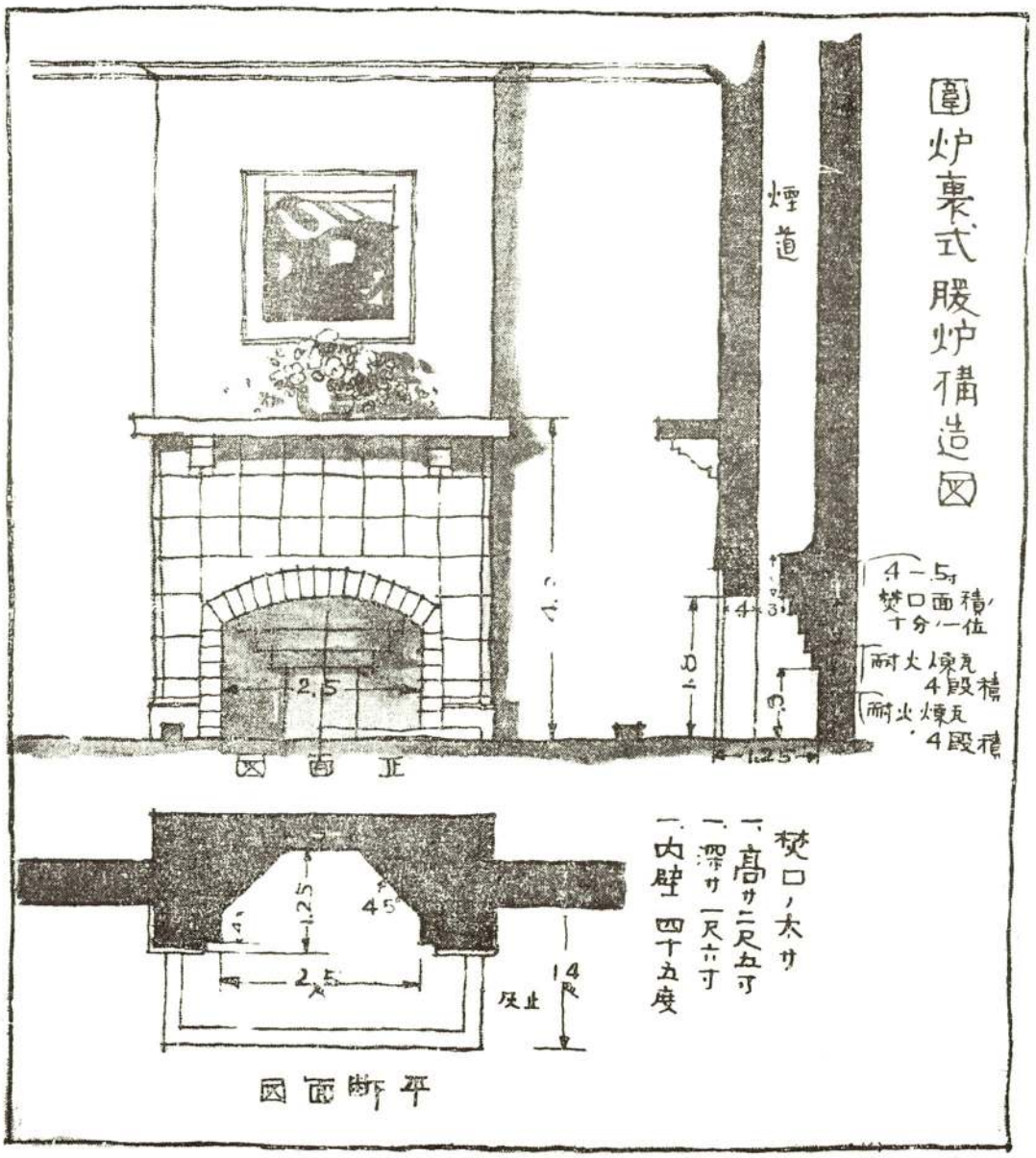
然し單に暖房と云つても其種類、樣式、多種多樣であるが住宅暖房裝置の條件としては、次の樣な要素を具ふべきである。

煖房裝置の條件

一、設備費と經常費の經濟的たる事
一、安全にして危險の憂なき事
一、便利にして取扱簡單なる事
一、衞生的にして、人に親しみを與ふる事
一、故障の起らぬ事
一、長時間放置しても室內の温度を一定に保ち得、又温度の調節が容易に行はれる事
一、建物とよく調和し美觀を損ねざる事

等である。

平面計畫(プランニング)即ち間取に際し煖房裝置の種類、位置と、出入口


圖炉裏式暖炉構造圖
煙道
4-5寸 積/佐 面一 分口 焚
耐火煉瓦 4段積
耐火煉瓦 4段積
2.5
4
1.25
正面図
焚口ノ大サ
一、高サ二尺五寸
一、深サ一尺六寸
一、内壁 四十五度
45°
2.5
1.4
尺止
平断面図

や、壁體との關係などは、ついで起るべき問題である。ストーブ（ファイヤープレース）、媛爐、放熱器（ラヂエーター）、何れにしても出入口と相近接する樣な事はどの方面から考へてもよろしくない。

石炭、石油、瓦斯等を燃料とするストーブは勿論、電氣ストーブ等は間取の計畫にさほど關連せず（電熱はコンセントプラッグにコードを繋ぐ事によつて）何所の室々へも移動し得らるゝ便利なものであるが、何れも局所媛房で直接人體を溫ると云ふ程度のものに過ぎない。

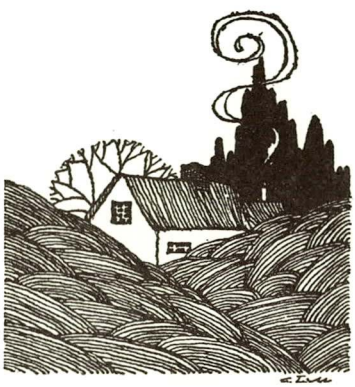
中にも衞生的方面からみれば、電熱利用の方が優良ではあらうが、電力の高價なる今日としては、經濟上から一考を要すべき所がある。

蒸氣式媛房なる水を汽鑵内で蒸發させ、此の蒸汽を鐵管にて各室に導き、室内の放熱器（ラヂエーター）に送り込んで室内を媛むるの裝置（システム）もあるが、色々の缺點があつて住宅等に使用して成績良しくない。又無管溫氣式（パイプレスホットエヤー）として地下室に熱氣爐（ファーネース）を据へて空氣を溫める設備、簡單にして頗る經濟的の方法もあるが、溫度の調節が思ふ程自由に行きかねる嫌がある樣に思ふ。

私共は今日迄住宅媛房用としてアルコラーボイラー。アルコラウンドボイラー。ラヂオボイラーの樣な溫水式を選んで居るが、總ての點から先づ成績佳良と認める事が出來よう。

そして可成小型のボイラーを据へて、之に補助として薪炭の燃料を投入する媛爐、又は電熱を利用するストーブの併用を勸めて居る。之は一室に二ケ所若くは夫れ以上の放熱器（ラヂエーター）を置いて所要溫度を得ようとするよりも、却て此方が感じもいゝ樣に思ふ。

圖の樣な圍爐裏式の媛爐をアチコチに試みてみたが、在來の火床（ファイヤーグレート）棚などを置くよりも、却て寬いだ感じがして成績も好いように思ふ。



住宅の構造に就いて

酒井勇三郎

住宅が我々の安住の場所であるといふ點から考ふれば、其形式に於て洋風であれ、和風であれ、或は和洋折衷であらふとも、亦其内容に於て採光、換氣、暖房、通風、照明其他科學の許す限り充分な設備を有するものであつても、其家屋全體が堅牢安全で無い限りは、決して我々が安住の目的を達するものと云ふ事は出來ない。

外觀の美麗な内部の設備の充實した、文化の粹を集めたと誇る住宅に住みながら、まさかの場合安住所夫れ自體が地獄に導く罠であるといふ有樣では實に恐るべき限りではあるまいか。

元來其形式と内部の設備とは住宅として勿論非常に必要な要素には相違ないが、例ば人體の肉であり着物であり其化粧であり裝身具であつて、其本體は何處までも其骨格即ち構造で有らねばならぬ。其骨格が均整を保ち且つ堅牢であるものに其等の裝飾内容が充實して始めて、完備せる住宅となるのであると思ふ。

然るに住宅を建つる場合には稍もすると、其形式と内部の設備とに重きを置くに比べて、其構造の點に就ては甚しく閑却されて居る樣な觀がある。予の狹い經驗の範圍でも、住宅を建つる人から構造の理論を無視しなければ出來ないやうな注文を受ける事が屢々ある。此の場合に施主の希望を容るゝとすれば、此無理を敢てせねばならぬ。又設計者としても、外觀や平面に就て隨分構造上無理を敢行したくなる場合が間々あるのであるが、之等は注意して避くべき事であると思ふ。

建築の材料は種類が多く、其材料に應じて種々の構造法があるので、茲に此を詳說するのは不可能であるから、以下單に住宅を建築しやうと思ふ人の爲に主として木造に就て、自分の常に注意を要すると思ふ極めて大體の事を前に述べた見地から少しく摘記して見やう。

(一) 平面

此處には間取に關する便不便の事を述べやうとするのでは

無く、只構造上如何なるものが堅牢であるかと云ふ事を主眼とする。間取は建築材料の如何に拘らず成るべく簡單なものが構造も容易であるから堅牢なものが出來得るのである。又理論上からも地震等には安全の度が多いのである。併し採光通風、外觀其他周圍の環境等に依つて簡單にのみは行かぬが成るべく無理の無い形を欲する。殊に木造住宅の二階建の如きは、階上階下の間仕切は合はす方がよい。此は全部合はす事は出來ぬとしても、荷重の最も多く來る周圍の壁の如きは階下の間仕切上に是非共來るやうにしなければならぬ。そうでないと隨分無理な構造法となるのである。次に階上が階下の平面の一方に偏して來る場合がある。此は坪數が多い住宅には比較的無いが、切り詰めた平面では屢々出來るのである斯ういふ家は平家の小屋が二階建の胴を押す傾向があるので之を充分防ぐには平家の小屋に筋違を入れて置かぬと本家まで傾斜せしむるのである。此の爲に傾斜した例は屢々見受けらるゝのであるから、斯ういふ平面は成るべく避けて、二階の部分は出來るだけ家の中央に設けて兩方に平家が取り付くやうにするのがよい。

（二）切妻屋根と方形屋根

屋根本來の性質から云へば、切妻屋根よりも方形屋根の方が、雨を防ぐにも風を避くる爲にもよいのである。奈良京都の古建築と見ても、重な建築は皆四注即ち方形屋根が多いのは之が爲ではあるまいか。併し外觀其他の爲めに切妻屋根が却て方形屋根より住宅建築としては多く用ゐらるゝやうであるが、雨と風の當りは烈しく且つ地震の場合には、烈しく此切妻を押すのである。關東大震災の際に煉瓦造の切妻屋根が小屋組に押し倒されて、此切妻の部分丈け隨分慘めな倒れ方をしたのが多く見受けられたのである。それで切妻の屋根を造る際は、此妻を押さぬやうに切妻の足元から小屋の內方に充分筋違を入れて其力を防ぐことが肝要である。

（三）地盤

地盤は硬い程善いのである。岩、砂利層、砂利混りの粘土層、硬き粘土層等が優良な地盤で、水分の無い砂地、粘土層等が之に次ぎ濕氣の多い砂地、粘土層や埋立地等は餘り好ましく無い。又硬軟相接する所もよくない。東京大阪等の都會地で此等のよくない種類の地盤に建てらるゝ大部分の住宅がしかも尙最も惡い地形で建築せらるゝのであるから、益々以て地震等の危險が安せらるゝ譯である。

（四）地形（基礎）

基礎の構造は種々あるが從來の日本式の混凝土を用ゐざる地形よりも、混凝土を打つた地形の方がよい。混凝土を打たない割栗地形でも、割栗石と目潰砂利とを交互に入れて充分眞棒胴突にて搗けばよいので、彼の東京の淺草寺が關東大地震の際にも瓦一枚故障を來さなかつたのは只割栗地形であつたらうが、併し當時の請負奉行が有名な河村瑞軒の說に從つて、表面の割栗石が碎けて搗き込み得ぬまで搗いたと云ふことであるから、其費用は莫大なもので到底我々の住宅建築に

は望めない、それよりも現今では便利な強い材料即ち混凝土を使用するのが得策である。普通木造二階建位の住宅ならば土地の硬軟にもよるが、建物の四周を連續して掘り下げ、割栗石と目潰砂利とを入れて搗き堅めた上に、厚さ一尺内外の混凝土地形を施せばよいと思ふ。それから上腰迄を煉瓦を積み上げるもよし　又混凝土を其儘腰迄打ち上げれば一層よいと思ふ。床下の空氣抜は廣く明けて空氣の融通をよくしなければ、床下が蒸れて淚菌が發生し、大曳根太等を腐朽せしめ又白蟻の害を被る事がある。

杭打地形は能く堅牢の樣に思はれるが、成る程軟かな地盤にはよいには相違ない。併し之は地下水が地表に近い時に限るのである。杭が常に地下水中に這入つて居れば非常に強いものであるが時々地下水が乾くやうな土地ならば永年經過しない間に腐朽して、充分の効果を現はさないから却てよくないと思ふ。

煉瓦積でも混凝土地形でも下から植込み棒當を入れて土臺を据付くる際に此棒當にて締め付け土臺が地形から離れぬやうにする事が肝要である。

（五）土　臺

土臺は檜材がよい。杉材でも赤味の部分は檜に亞いでよい此等の土臺は豫め『コールタール』又は『クレオソリューム』等の防腐劑を塗沫して、腰煉瓦又は混凝土地形の上に据付け植込み棒當にて締め付くるのであるが煉瓦積の上には、純『セメントモルタル』を敷くのがよい。と云ふのは煉瓦は吸水性の多いもので地下から濕氣を吸ひ上げ、それが土臺に及ぼして腐朽を早めるから之を防ぐ爲めである。地形に用ふる煉瓦はよく燒けた硬い品ほどよい。見えない所であるからとて軟かな煉瓦は禁物である。

土臺の据付けが終れば、隅々の所は勿論間仕切の所でも燧土臺を入れて置くのが良い。從來の日本建築には、能く沓石の上に太枘穴を堀つて柱を建てるが之は良い方法ではないから、日本風の建築でも洋風地形を採用して、煉瓦又は混凝土を腰まで積み上げ、其上に土臺を据付け、地形と土臺を一體にした方が良いと思ふ。

（六）柱及胴廻り

柱は一間毎に建つるのが基本で、間仕切其他の都合では間中に建つる事も二間以上明け放す事もあるが、何れの場合でも土臺に長枘を指して込栓打ちにするのが、從來日本建の入念の仕事の部に屬するのであるが、是ではまだ不充分であるから、此の取合は鎹打ちとするか、又は短冊鐵物等で補強するのがよい。柱間の壁地の部分は、此の柱に三尺内外の間隔に横に貫を通して楔締めとし、柱一間々の時は中央に壁貫と稱して、竪貫を入れて横貫に釘付けにするのが普通であるが貫が薄く壁下地の竹も細いから餘り堅牢と云ふ事は出來ない間内の壁には筋違を入るゝことは柱が太くなければ出來ないが、外廻りの壁には是非共筋違を入れて、竪貫と筋違とで通貫を挾むやうにするのがよい。

此の柱に脚固、胴差、桁を始め敷居、鴨居、天井廻縁等を

取り付くるのであるが、脚固め四方差等になると、仕事は成る程巧妙に考へられてあるが、柱は四方から尾入れ缺きと枘を彫り通すのであるから、柱の正味殘る所は殆んど僅かとなつて仕舞ふ。此は脚固め許りで無く胴差類も之の通りであるが構造上甚だよくない方法である。故に柱を弱めぬやうに、枘は短枘にして尾入れは深く入れずに兩方より差合す横材を出來得れば段違ひとして、鐵物を以て締め付くるがよい。脚固は薄い材料を柱の兩方から挟んで、棒當にて締め付くるもよいし、又太い材料を用ふる時は、筋棒當にて締め付くれば誠に堅牢に締まるのである。胴差隅々の取合も鐵物で巻くか筋棒當にて締め付くるのがよいのである。二階建の家は此胴の部分が地震とか、暴風等の際に最も多く故障の來る部分であるから、殊に鐵物にて補強する事が肝要である。

鴨居とか無目とかの取合は、尾入れ遣り返しの仕事が手際良く出來るから多く行はるゝ方法で只戻らぬ程度に楔を打つが普通である。柱は總體に、鴨居無目其他の横材で堅牢に横の繋ぎが出來れば非常に建物が丈夫になるが、日本建在來の方法では、長押の取付がない柱は柱と柱の繋ぎにはならぬから、此鴨居のすぐ上に柱と柱とを繋ぎ締めつくる棒當を入るゝのが最も良い。此の棒當は徑四分位もあらば充分目的を達するから是非推奨する。

以上は日本建に就て述べたのであるが、西洋風の建物は柱を一間毎に建つるが、其間に一尺五寸間内外に間柱を建つるのであるから、日本建よりも堅牢に造る事が出來る。

此は貫の代りに柱間に胴繋ぎを入れて、筋違を切り込み之に間柱を缺き込むが、又は殺ぎ付けるのであるが、筋違が柱の外面に『サヌリ』に入るゝことが出來るから、日本建よりも都合が良いのである。楣、無目其の他胴差類等は、前に述べた所と變りは無いから成るべく鐵物で補強するのが良い。斯うして胴體即ち、軸部が堅牢に出來れば、地震に對しては木造建築は決して、恐るゝ事はない耐震的の建物となるのである。只木材の缺點として免れ難い燃燒と腐朽とがある、其腐朽に對しては雨露の爲に軸部が犯されぬ樣構造に注意せねばならぬ。

(七) 軒廻り

軒は建物保護の點から云へば、其出は多い方がよい。成るべく三尺位有つて欲しい。軒を三尺も出す場合は屋根葺材料にも依るが、餘程勾配の緩い屋根で無い限りは、化粧棰にするのである。此化粧棰は屋根を支ふる棰では無い。謂はゞ僞構造である。此上に野棰を置いて屋根の重量を支ふるのである。然し屋根葺材料が重い時は野棰丈けでは持てぬから、桔木を用ゐて軒先を槓杆の働きで支へて居る。隨分無理な構造法である。此桔木は欅とか栗とか樫とかの強い材料が良い。鐵材は如何かと云ふに、此は餘程強い軟鋼材を用ふれば別であるが生中の強さの鐵材を用ふる事は禁物である。何故かと云ふに、強風が軒先を煽る力は毎平方尺に三十封度以上も來る事があるから、隨分強い力である。此力に煽られて若し一亘鐵材が曲つたとすれば元に歸らぬ、軒が降つたら降つたなりになつて非常に困つた失敗談もある。若し鐵材を用ふるとすれば計算して安全な強さのものを用ふるがよい。木材とて

も計算の必要はあるが多少屈曲する事があつても其彈力で元に歸り曲つた儘で戻らぬ憂は無い。木材と鐵材で勿論鐵材の方が強いには相違ないが、其強度を過信して注意を怠る恐れがあるから附記する。

(八) 屋根葺材料

屋根葺材料は建物の爲めから云へば輕い程よい。熱の傳導關係もあるが、熱を防ぐ方法を講じ價格の點を顧みないとすれば銅版葺が最もよい。亞鉛引鐵板葺は郊外等では長持はするが都會地では極めて壽命が短い。此は工場の煙突等から發する亞硫酸瓦斯が雨に遭つて稀硫酸を造り亞鉛を溶解するからであらう。瓦は雨の爲にもよく、職人も馴れて居るのと我々が祖先よりの傳統的趣味に合致するので決して惡い材料では無い。只重量が重いのが缺點である。

今は『セメント』で各種の特許瓦が出來てゐるが何れも日本瓦よりは輕く、丈夫でもある。只建物の樣式に依つて適不適があるから夫れに調和するものを選定すべきである。

石盤石石錦盤は輕い點は瓦に勝るが、緩勾配の屋根には不適當である。葺方に依つては緩勾配でも雨は防げるが、六寸以上の勾配か、小さな屋根か、若しくは軒先等の輕量を要する部分に葺くのがよい。

此等は何れの瓦でも谷は勿論であるが、殊に二階建に平家の屋根勾配が取付く所に雨漏りの生ずる事が多い。此は二階建の竪壁に吹き付けた雨が、平家の屋根に落ちて流るゝ、其雨量が多い爲めに瓦の谷から溢るゝからである。在來の日本瓦の如く谷の深い瓦でもそうである。まして谷の淺い多くの特許瓦や、石盤石錦盤の類は殊にそうである。石盤や石錦盤は、此部分は豫め捨て谷を造つて雨漏の注意を爲すから其の失敗はない。日本瓦も下葺土(土屋塗)があるから多少漏れた雨は之れに吸收せられて屋根裏が濕氣を含む位で止まる事があるが、特許瓦類の葺上を使用せぬものは往々失敗に終る事があるから、此部分は石盤葺屋根同樣是非捨谷を造るがよい此雨漏りは假令室内に現はれぬとしても、必ず其部分より漏つた雨水は、建物胴差其他軸部の主要材料を腐朽せしむる事が多い。室内に雨漏りがすれば、何人も直ちに防ぐ方法を講ずるが直接落下しないものは多少の雨漏りはあると知りつゝも、案外平氣で放置するもので後日取り返しの付かぬ程腐朽を來して、喫驚するものであるから注意しなければならぬ。

(九) 壁

主として外部の壁に就て述べる事とする。從來の日本風の壁に於ては土藏の如き大壁と普通の眞壁の何れでも、上塗は石灰蠣灰を主とした白漆で角叉糊を入るゝのが本體である。併し價格も安く、仕事も容易な點から普通借家の壁等には、『ニブ』と稱して角叉糊を入れない水練りの壁が塗らるゝ角叉糊は壁材料としては比較的高價である爲めに可なり上等の仕事でも左官が糊氣のない角叉を〝ゴシ〳〵〟と無理に漉して、形式的に角叉を入れたと云ふ樣な仕事が間々あるから左官の仕事は、充分注意を要するものである。次に洋風木摺壁の仕事は安價の仕事であれば。木摺上に漆喰を極薄く塗つて其上に梨目土を塗り次に上塗りを施すのである。内部であれば之れでも持てるが、外部は駄目である。内部の仕事でも木摺上に塗る漆喰を能く押へ付けて漆喰を木摺の隙間から内に押し

込み、裏面に塗り込んだ漆喰が固まつて、漆喰の落つるのを防ぐのである。併し左官は成るべく漆喰の入らぬ様にと考へ手早く裏面に押し込まぬ様に塗る、中塗には梨目土よりも中塗漆喰を塗る方がよい。外部の仕事であれば、上塗には『セメントモルタル』を塗る。併し此の方法は上塗『セメントモルタル』が時日を經過するに從つて、細かい龜裂が生じ、其間から雨水が浸入して中塗と上塗又は中塗と下塗との間から醜い剝落が生ずるのである。それで價格が高價となつても、木摺から直ちに防水劑を入れた『セメントモルタル』塗りにすると脫落の憂は無い。然し『モルタル』は如何しても、細かい龜裂を絶對に防ぐと云ふ事は先づ不可能と云つても可なりである。外部の壁の表面を種々地を荒した仕上げ方にするのは、一つは此細かい龜裂を目立たぬ樣にする一種の逃げ仕事の意味も含むのである。以上述べた樣な細かい龜裂から多少雨露も浸み込むし、又此『セメントモルタル』壁が薄いと雨露が裏面に浸入する事は免れ難い。そうして次第に木摺を腐朽せしむるのである。木摺の代りに種々の金網類が使用せらるゝが此は木摺よりはよい。殊に『セメントモルタル』を直ちに塗る場合には良いのである。併し裏面に雨露の浸入のあるのは同一であるから其下に『フエルト』を張つて其上に金網を張り壁地を塗るのであるが、それよりも費用は嵩むが、柱及間柱に杉の四分板位でもよいから、羽重ね張りにして其の上に金網を張つて壁地を造るのがよい。所謂文化住宅として、隨分種々の試みがあつて結構には相違ないが外部の壁等には注意が少ないのか可なり甚だしいものも見受けらるゝやうである。左官の仕事の如く上下の開きの大きな仕事では單に體裁のみに走らず構造に一層の注意を要すると思ふ。

(一〇)階段

從來の日本家屋の階段は實は梯子と云ふを適當と思ふ。二階建が不便であると云ふ聲を聞くが、之は階段が不適當であるからである。階段の勾配を緩にすれば面積は多く要するには相違無いが、其下を押入とし、上にも押入を取る等の工夫を爲さば面積も大した不經濟では無い。假令面積に多少の犧牲は拂つても、勾配を緩かにし、成るべく屈折階段にすれば老幼者にも危險も無く、日常何程の利便が伴ふか知れぬ故に從來の如く階段は一間以內に昇り詰むるが如きは是非避けねばならぬ。今日尙建築取締規則の制限に對して住宅を建築するものが、許可の制限を規則其物の如く思惟するは、實に誤れる考へと思ふ。

(一一)防鼠

此は實に厄介な仕事で、又容易に目的を達し難い仕事である。鼠は多く建物の軒廻りと土臺の雨押際や下見板と壁との取合等より這入るのが普通であるが此部分を充分注意して閉塞したとしても、地面に穴を穿つて地形下を潛入するのである。故に地形を深くするか、又は床下を鼠の破り得ぬ程混凝土叩きと爲すがよい。軒先胴廻り腰等內部に鐵板又は金網を張る場合には、只取締規則を免るゝ爲めの形式的仕事は何等の効が無い許りで無く却て害を爲すのである。何となれば不完全な鐵板や金網は鼠の潛入を自由に許して此を捕ふる猫や鼬の侵入を防いで鼠に安住所を用意する如き矛盾を來すから苟も防鼠工事は形式的に流れず徹底的に其目的を達するやうに綿密な注意を以て施行せねばならない。(終)



家相流布の原因と其本質原理

葛野壯一郎

『建築と社會』の新年號に、編輯者から何か『家相方位』の事を私に書けとの御注文です。大正も早十六年の歳を數へて世間は眼の廻る様に忙しく變りつゝ有るのに、なほかつ依然として私が『家相方位』論をこゝに繰り返へさなければならぬといふ、そんな必要が果して事實有るのでせうか。私は疑はざるを得ません。しかし編輯者からわざわざ左様した御注文の有るところを考へると、世間の何處かには未だ〳〵有力にそんな要求が殘つて居る事が思はれる計りでなく、私が始中出入する倶樂部等でも、何うかすると『家相問題』が話題になつて、可かり強硬な信者の有ることを時折見受ける事から推すと、日本人の住宅觀察の上に、此問題が今でもなほいかに根强くこびり附いて居るかゞ略判つた様な心持にもなるのです。何うしてそんなに根强くこびり附いて居るのか。『家相や方位説』は果してそれだけ根强くこびりつくだけの價値のあるものか何うか。もしそんな價値の有るものならば、何故もつと積極的に研究し、是を稱揚する學者が出て來ないのか。今日『家相や方位説』を取扱つてる人達は、多くは舊式の餘り問題にもなりさうには思はれない易者、賣卜者の亞流です。新らしい建築術を學んだ人達には、一人として是れを稱揚しない計りでなく、務めて否定し、迷信俗説として排斥して居るにも係らず、何故世間は半信半疑の狀態で、依然として此説を持續して居るのでせう。何う考へてみてもそれは不思議な現象です。それにはきつと何か相當の原因が無ければならぬ事です。凡そ世の中の事實に、偶然といふ事は決してない筈なのですから、是れにもたしかに動かす事の出來ない原因が有つて、自然斯うした結果に導かれて居るものに相異ありません。私共は『家相の是非』を論ずる前に、先ず此原因から探求してかゝるのが順序では有りますまいか。私共は多年その探求を怠つて居たものの様に自分には感ぜられるのです。自分はたしかに否定の立場にありながら、何かしら其吉凶説に一種の興味を感じて、强いてそれを曲げて見たくない様な氣持のする事から第一矛盾して居ます。世間が迷

ふなどと大きな口をきく自分を、先づ恥しく思はなければならぬのでは有りますまいか。私は今此家相論を執筆しながらもつく〳〵とこんな事が考へられてならないのです。

自分が『住宅と家相』の少著を發表したのは大正四年の事です。大した廣告もしない割によく賣れて、豫想外に數版を重ねた事實を思ふと、當時此問題に興味を持つた人が可なり世間には多かつたことが想像せられます。在京中のある夕、偶然銀座街頭で家相の古い本を一冊買つたのが動機で、その後同種のものを彼是れ買ひ集めて讀む内に心の動くまゝに、公務の餘暇元氣にまかせて書き綴つたのが此少著です。その後書店からの需に應じて、もちつと委しい『家相講話』を書きましたが出版したのは上卷だけで、下卷に筆を染め始めた頃には、もう倦々して了つた様な氣持で完成せずに、其儘今日まで打ちやつて居ます。『人間は生活の必要から家を造るがその家によつて人間は逆に自己の生活を支配せられる。住宅設計の如何が人間生活の禍福と相關連する事は今も昔も變りはないが　しかし所謂世間賣卜者流の説く様な性質のものではない。現代には現代の家相術があり、今日吾人の稱導する建築術が即ちそれで有る』といつた様な意味のものが、『住宅と家相』當時に於ける私の結論です。その後講演や雜誌で數回家相に關する意見を發表した事は有りますが、何時でも家相説に對する私の結論は同樣で、今でもやつぱり同し考へを持つて書きもすれば人に話しもして居るのです。それは判り過ぎる程判り切つて主張で、恐らくは何人にも異議の有らう筈のない意見だと思ひます。

ある建築の大家が、家相説についてこんな意見を話された事を記憶します。それは『注文者が家相説を持ち出して建築家を煩はすのは困つたものだが、是れは何うする事も出來ない。吾々は左樣いふ人を病人だと考へて、病人の云ふ事ならば仕方が無いのだから、其病人が滿足される樣なプランを作るより他はないのだ』と、こんな意味の意見です。尤も一坐談で大した責任のある話では無かつたのですが、併し此場合にも私は相當考へさせられたのです。此大家の云はるゝ樣に吾々建築家は、此問題に對して左樣簡單に考へて居て宜いもので有らうか。何故もつと現代の建築家が家相説の是非を突き詰めないのであらう。而して左樣した病人が若し有りとするならば、務めて是れを健康な人に回復させるのが私共の仕事ではないのじやないか。病人だから仕方がないと打ちやつて置くと、その本人が獨り永久に回復しない許りでなく、其近親や友人に傳染しないとも限らない。つまり此大家は眞面目に家といふものを考へ、建築家のなす可き仕事に、本當の理解を缺いて居るものとしか私には思はれなかつたのです。

斯うした事から私は、舊式の家相説が依然として生命を持つて行くといふことの原因の一つに、技術家の此問題に對する怠慢といふ事實を思はざるを得ないのです。住宅建築には特別の抱負を持つた大家ですら、なほ右の樣な無關心な考へで此問題を處理しやうとせられるのですから、一般建築家の冷淡なのは當然です。成る程、現代の建築術を學んだ者には古い家相や方位説が一向に興味を呼び起さないのは判り切つた當然の事かも知れません。併し建築術を學んだ技術家は少數であり、世間の人は多數なのです。その多數が家相や方位説を依然として重んずるならば、建築家として默つてこれに

屈從す可きではなく、極力其蒙を啓く事に努力しなければならぬ筈です。つまり自己の職業に忠實であらうとするには、是非左樣なければなら事で、然も之れが今の一般の技術家に缺けて居るため、いつまでたつても家相說は止まない結果となるのは自明の事と思はれます。『家相などと、そんな馬鹿々々しいものゝ研究などが出來るものでは無い』と、若い建築家達ば一口に是れを斥けられるかも知れませんが、只馬鹿々々しいだけでは、技術や學問に決して忠實なる所以では無いと信じます。世の中にはくだらない馬鹿々々しいと思はれる事に、意外な理屈や力を持つて居るものが珍らしくないのです。技術家が頭から馬鹿々々しいものとして一顧をも與へない態度が、結極その馬鹿々々しいものをして何時までも榮えしめる結果となつて居るのでは無いかと私には感せられるのです。

原因の第二としては、注文者の無批判といつた樣な事が思はれます。家を注文する人が、凡て智惠や學問に優れた人達ばかりならば別に問題は無い譯ですが、盡く左樣とはゆきません。どちらかと云へば財產を造る智惠は優れて居ても、家などに就てはあまり理想も抱負も持ち合せのない人達が多いのです。中心に定つた意見があるではなし、それかと云つて他の意見を批判的にかみ分けるだけの才能智力をも缺いだとなると、極度に迷ふといふのが當然有り得る自然の結果です是れを適當に指導して其建築を誤らせないのが建築家の本分とも云ふ可きものなのでせうが、さて熱と誠意を以て其本分に殉ずる建築家にも乏しいとなると事がいよ〳〵面倒です。『何うでもよい、まとまりさへすれば』といふのが、先づ大方の技術家が持つ心持かと想像します。或はそれは私だけが持つ心持で一般はそんなものでは無いと、お叱りを受けるかも知れませんが、正直に告白すれば、少しく事が面倒になれば、いつでも自分は斯うした心持に支配され勝ちです。何故もつと强く主張が出來ないのかと感じないでは有りませんがそれが其通りには行かないで注文者の無方針に引づられ、幾枚でもあての無いプランを造るといつた始末です。此透間につけ込んで威力を振ふのが家相說です。最初から家相といつた樣な事には、少しも考慮を拂はなかつた注文者が、知人などの言葉につり込まれて、左樣した方面に耳を貸す樣な例は決して少なくないと思ひます。つまり注文者に批判力が缺けて居るからなのです。其說を聞く事は必ずしも惡い事ではないかも知れません。家でも建て樣といふ時には、務めて多數の意見を參考にする事は、惡いどころか寧ろ必要なことでは有るのですが、果してそれが自分の考へに合ふか何うか、充分に批判の上で採決がきまらなければ結極一層迷ひを深くするに過ぎない結果になります。こんな事實に一再ならず遭遇して來て居る自分としては、家相說の流布に對して其原因に技術家の怠慢とならべて、注文者の建築に對する無批判を數へざるを得ません。

原因の第三としては、家相說が時折適中したかの樣に見ゆる事です。是れも可なり有力なものゝ一つかと考へます。何處の家にも不幸といふ事はある。それが時たま家相說のいふところにぴつたり合ふ樣な場合に起る誤解です。無論不幸にはそれ〴〵不幸の原因が有つて、家が斯うで有るから其れが祟るとか禍をする等といふ理屈のない事は判り切つて居ても

そこは人間の淺薄さです。何だか妙な氣持になつてつく〳〵家相を信ずる樣な傾向が生ずるのじやないかと思ひます。よく世間には幾度居住者が變つても常に病人や死人が出るので其家は家相が悪いからだと評判され居住者が無くなる樣な例が有ります。一寸聞いて見ると、成る程左樣かも知れないと思はれないでも有りません。併し一々其原因をしらべて見たならばきつと其眞相は判る事で、それが所謂家相説などのいふ樣な性質のもので無いことは明らかです。構造の不備、即ち濕氣が多いとか光線が不充分とか、或は又換氣が悪いといつた原因は、たしかに居住者の健康を支配する有力なものです。左樣した事實から家が居住者の健康と密接な關係をもち病人を多く出す家といつたものも有り得る事は事實ですが、それは所謂家相説とは全然根據が違ふのです。單に家相が悪いといふ漠然としたことで、（家相家の立場からすれば勿論相當な陰陽説による理由は有るとしても）簡單にその家の善悪を片づけて了ふにはあまりに輕卒不用意と云はなければならぬのです。科學といふものが全然知られなかつた時代ならば兎に角、凡てが合理的に立證せられる現代では、まるで電燈を消して、蠟燭の火で物を探す樣な　滑稽主極の事實といはなければなりますまい。

家相説に對する一般の過信も、亦原因の第四としてたしかに揚げる價値があるかと考へます。家相説の正體が一向に判らないで、只何かしら古くから傳へられて居る事であるからそこに一種の神秘的な尊敬心を持つて有難い樣な氣持をもつ事です。書畫や骨董品などにもよくそんな例が有ります。思想や學問にも亦其例が乏しくない樣です。家相信仰の如きも、云はゞ保存せられた不思議な骨董品の一つで、只何かしら其淵源の古いところに有り難さが感ぜられて居るのです。尤も今日一般に唱導せられて居る樣な説の流行は、重に德川時代中期以後の出來事らしくは有りますが、その説の根據とする陰陽説は、支那から學問の傳はると同時に傳來し、平安時代から、かなり廣く應用せられた思想なのですから、たしかに古いと云ひ得ると考へます。つまらない宗教などが、依然として生命を持續して居るのも全く同じ理由なのでせう。明治以來過去五十年、日本は隨分進歩した樣ですが、然しその内には未だ〳〵多數の古い人が居り、古い思想や學問の勢力といふものにも相當強いものが有ります。急激な進歩をした國としては是れは當然の現象であり、又一面に於て古いものが凡て悪いのではなく、その内には是非保存しなければならぬものも多分に有ることは當り前ですか、只古いから昔しから傳へた事だからといふだけでは、いかにも理由が薄弱です。それだけの事で現代の建築を律せられては、家こそ迷惑な事で、若し家が口を利くことしたら定めし苦情が澤山ある事だらうと想像されます。

家相説の如き、いはゞ傳統的迷信といつた樣なものを、技術家が務めて排斥しない計りか、反つて助長する樣な行動をとる事も、やはり家相流行の原因の一つに數へなければなりません。注文者の意向を聞いてプランを作るとき、其注文者が家相信者の場合、前以て其家に出入の易者の意見をも併せて聞き、後で左樣した苦情の起らない樣な策をとつたり、又は堂々と易者の證明書を添へてプランを註文者に提出する樣な事が嘗つては行はれたのです。現在でも同樣の手段が行は

れて居るか何うかは知りませんが、或る時代には左様な方法が平氣で行はれた事だけは事實です。これでは家相説の排斥どころか、寧ろ助長となる事疑ひなしで、技術家の權威も何も有つたものでは有りません。商策として止を得ない事といへば云へる樣なものゝ、決して當を得た行動でない事は明白です。

以上大略述べた樣に、大正十六年の今日まで、古い家相説が依然として生命を持續して來たには、それ相當の原因が有つて決して偶然ではなかつたのです。技術家の怠慢、注文者の無批判、家相の適中したらしく見える事實の誤解、過信、愚かなる商策と斯う次々に考へて行くと、さも有る可き事がうなづかれると思ひます。而して急速に發達した日本の文化といふものは、外形はいかにも整つたらしく見ゆても、そこにも此處にも穴だらけといふ事が判るのです。此穴が綺麗に埋められて、本當の日本となるのはさて何時の事でせうか。前途遼遠の感を強くせざるを得ません。

さて家相説の流行は流行として、其正體は何んなものでせうか。勿論現代の建築を律する樣な性質のものではないとしても、住宅觀察の上の一考察として、多少は考慮すべきものか何うか。何を原理とし方則として所謂家相の吉凶判斷なるものが出て來るのか。只くだらない、馬鹿々々しいで捨てゝ置かないで一應は考へてみる必要が有らうと思ひます。これだけ根强く行はれて居るものとすれば、そこには何かしら眞理に觸れるものが有るのではないかといふのが、誰れにも起る疑問なのです。此疑を解く上にも、是非斯うした考察をする要が有るかと考へます。

家相説の内でも最やかましいのは鬼門です。この鬼門といふ言葉は、あらゆる忌む可きものを暗示する日常語となつて居る程、一般に深くしみわたつて居ます。何故に鬼門が左樣に恐れなければならぬのか。事實恐れなければならぬものを恐れるには何の不思議も有りませんが、理屈もなしに只盲目的に恐れつゝしむのではお話になりません。然も世間一帶の風潮がそれなのですから、此點は是非明らかにして置かなければならぬ重要の事かと考へます。

鬼門といふのは申すまでも無く東北の隅で、十二支では丑と寅の間、五行では土、八卦では艮と斯ういふ割當になります。鬼門といふ名稱のよつて來るところは、此方角に當つて人間の靈鬼即ち魂のとゞまるところが有るといつた樣な傳説から來て居る樣です。夜の暗黑即ち陰氣が破れて、晝の陽氣に移るあけぼのゝ時。先づ一天ほのかに白け初めるのが、此方角からで有るところから、何かしらそこに一種の神秘を感じた古代の方位觀が、新の如き傳説を生んだものと私は考へて居ります。陽氣の初まりで有る、根元である、人間生活に一番大切な生命の根元ともいふ可き熱と光をもたらす太陽の光りが、此方向にはらまれて居るのであるといふ樣な考が、此方角に一種の神秘を感じ種々の傳説を生み、貴み恐れ謹しむ可き方位として、土地や建物が無意味に此方面に張り出したり、便所とか汚水溜とか不淨のものを設けるのを差控へるといつたことになつたのではないかと考へます。鬼門ではなく貴門である等と説いて居る、昔の家相家の説を聞くと一層その感を强ふします。

八卦の卦象を見ると(☶)かういつたものが畫れて居ります。

が、(一)は陽、(--)は陰を現したもので、陰の内に陽の動かんとする象とでもいふのでせうか。そんな風に想像せられます。又艮は山の象とあります。山といふのは動かないといふ事を表現したもので、夜の陰氣が凡て此方位に止まつて動かず、そこから陽氣が出發するといつた意味の樣に想像せられます。屋敷の内でも此方角に當る部分は、成る可く餘地として綺麗にして置くのがよいといふのも、その邊の意味が含まれて居るものらしく思はれます。

五行に當てると東北は土となつて居ります。五行といふのは云ふまでもなく木火土金水の五つで、一切のものが斯うした五つの物質の象で表現せられ、その陰陽が十干即ち木の兄(甲)、木の弟(乙)、火の兄(丙)、火の弟(丁)といつた樣な調子になるのです。すべて方位や家相の方では、此五行の相生(即ち二つのものが相和するかたち)と相尅(即ち相殺するかたち)とをやかましくいふので、相生を吉とし相尅を凶とするのです。木は火を生じ、火を土を生じ、土は金を生じ、金は水を生ずるといふのが相和の方面で、木は土を尅し、土は水を尅し、水は火を尅し、火は金を尅すといふのが相殺に當つて凶の象となるのです。鬼門に當つて土藏などのあるのを凶いとするのも、日本の藏は主として土を厚くつけた土氣に屬するものであり、それが五行の土に當る東北に控へるのは土氣の上にまた土氣を重ねることゝなるからいけないと言ふ事になるのです。

東北の鬼門に次いで西南の隅を裏鬼門などと稱へ、同樣に土地や建物の構へに注意を要するといはれます。此方角は八卦の方では坤で、(☷)こんな象が畫かれて居ります。すべてが陰のかたちです。此方角は東北即ち艮の正反對で、太陽が子午線を過ぎて漸く此方向に廻るところに午後から夜へかけての陰氣が始まるといふ樣なことから、陽と陰の轉換するところに重要な意義を認めたものでせう。坤を表現するものは大地で有るとし、大地が萬物を生み育てると同樣の德のある方角であるから、やはり貴み恐れるといふのであると思はれます。五行の配當は同じく土で、便所や湯殿、勝手元等、凡て水氣の有るものを忌むのも土は水を尅すといふ理窟からなのでせう。

裏鬼門に對して等しく重要とされるのは西北の隅即ち天門です。これは八卦の乾で、(☰)かういふ坤の卦象とは反對の全部陽氣の象が畫かれて居ます。夕日が西に沈んで殘りの紅が此方角に當つて光り輝くすがたから出たものと思はれます西南の大地に對して、天空の象を以て表現せらるゝので、一切のものがこゝに納まるといふところから、倉庫等を造るには最良い方位とされるのでせう。五行では金に當るとするので、土藏の如きは土金を生ずる理からも吉いわけになるのです。一家の主人は八卦に當てると乾、即ち天の德を帶びたもので有るから、此方角に主人の居間を造るのが最良い等の說も二三聞いた事が有ります。

西北の反對東南は八卦では巽で象は(☴)、即ち陰の上に陽の重なる東北の靜止的なとは反對の活動的な方位で有ることを示して居ます。巽は風の象とあるのも同樣活動の意味でせう。五行では木が配當せられますが、是れにも同樣の意味がある樣です。午前九時とか十時の新鮮な活々した日光を受ける方角といふところから、自然左樣いふ考へが出て來たもの

と思はれます。此方向に門や入口のあるのを最吉しとするのも、やはり活動といふ點からの理屈と見えます。倉庫の如きも商品等を納れるものは此方角が吉いと云つて居りますが、同樣の理によつて居るものと考へます。

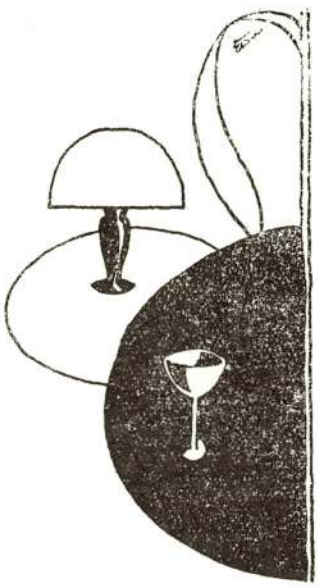
その他東は八卦では震(☳)、雷に象るとし五行は木、西は兌(☱)、澤の地に象るとし五行は金、南は離(☲)、火に象り五行も火、北は坎(☵)水に象るとし五行も水、皆それ〳〵陰陽の象に應じて物を配備するのです。

是を要するに東北の山に對して東南の風、西北の天に對して西南の地、東の雷に對し西の澤、北の水に對して南の火といつた調子に、方位の前後左右相對の理により適當に土地や家の構を整へるといふのが家相説の根據で、その理論とするところは陰陽順逆の理に有ると考へてよいと思はれます。八卦の八方觀やそのシンボルとする山とか風とか天とが地とか雷澤水火の説が果して何れまで眞理を語つて居るものか何うか。或は五行の八方に對する配當が事實正しいものか何うか是等は何れも古代の人が自然を正直にながめて、象の上にその變化を現はさうとつとめた東洋流の考へとしては、私は非常に興味ある面白いものと考へるのでは有りますが、併し是れを以て現代住宅觀察の規準とし、其設備や構造までを律して行かふとする事がいかに無謀な事であるかは論ずるまでも無い事と考へます。殊に五行の相生相尅説の如き、自然隨順を以て唯一の眞理と考へた時代ならばとにかく、現代の科學的文化といふものは、五行説からいへば相尅本位の文化、自然叛逆の時代とも考へられるのでありますから、そんな時代に斯うした單純な古い考へを持ち出して、其れだけで物が定められる理屈のないことも亦當然です。水と火は相尅であるしかし此相尅の理を利用して蒸氣を發生し汽車や汽船が走つて居るのです。火と金も相尅である。しかし此相尅の理によつて機械も出來れば鐵骨の家も建つて居る理屈で、幸か不幸か現代は相和の時代ではなくて寧ろ相殺の時代であるといつた方が正しい樣にも思はれるのです。自然を眺めて見ても、必ずしも相生のみではなく、相生相尅相待つて造化の妙はある事は明らかです。今時五行説の如きが、何れだけの價値のあるもので有るかなどゝいふ事は、説明するまでもなく判り切つた事かと考へます。

以上不完全ながら私は家相説の正體、原理といつた樣なものに就て一通り述べたつもりです。斯樣な方面に無關心の讀者には、或は充分お分りが無いかも知れません。併し是れ以上説明することはこゝには無用と考へます。それには自ら別に方法がある譯でありますから、讀者はそれによつて更らに探求せられる事を希望します。只私は此機會に何故家相説の如き古い考察が、依然として今日まで生命を持續して居るかといふ問題にふれて、其原因を考へて見たと同時に、一言其家相説の根據、原理といつた方面に所見の一端を記したまでゞす。俗間傳へられる支葉末説に至つては元より區々です理屈などのあつたものでは有りません。それこそ考へるも無駄な樣な事ばかりです。只根本原理といつた樣な部分を正す事だけが重要であり、現代の建築家にとつても、それだけの事は決して無用ではないと私は信ずるものです。

何れの時代にも人間生活に必要なものは光りと熱と　而して適當な換氣で有つたに相違ありません。八卦の方位觀や五

行の配當の如きも、そのよるところが陽氣即ち大陽の一日に於ける移動による光線の變化に他ない事を見ると、その目的とするところは住宅の採光問題であり、通風が重んぜられたと考へてよいのでは有りますまいか。天門、風門などの名がよく是れを暗示して居ると思ひます。誰れが住むとしても日當りと風通しの宜い事を望むのは、昔も今も變りは有りません。此意味に於て家相説が、住宅建築に多少とも指針となつた時代のあり得た事は想像せられます。しかし現代は左樣では有りません。もつと確實な建築術が有る筈です。今の建築術は即ち家相術であり、又有らねばならぬと私は考へます。家は何んな形をとつても宜いといふのでもなく、又窓や出入口にも皆それ〳〵の方向は有り、便所や湯殿、勝手元が各適當な位置を得なければならぬのは少しも變りは有りません。家の高低、餘地の處理、各室の配置盡く重要なことです。只是れを考察するに當つて、わざ〳〵古い家相説を採り出す必要が何處にあるのでせうか。吾人の習得した學問や智識は立派にその解決を與へる筈であり、又與へる可く努力されて居る筈です。電燈の世界に行燈や蠟燭によらふとする愚を世間は何時までくり返へさうとするのでせうか。私にはそれが不思議でならないと同時に、その原因を考へて現代技術家の是れに對する責任も亦輕くない事をあはせて思はざるを得ないのです。



住宅建築の敷地選定に就いて

池田實

〔一〕はしがき

先年、市内のある有名な神社の社司さんから、その神社の境内に於ける本殿、拜殿、その他の各建物並に攝末社に至るまでの各改築修理等に關して、意見を求められたことがあつた。そのとき私は、各社殿の改修も必要で又結構なことではあるが、それよりも、その神社としては、大局から觀察を下して、先づ第一に神社敷地の擴張が肝要である。市内に於ける人家櫛比のまつたゞ中に存在する御宮として、何よりも境内を擴げて置くことが先決問題である。ことに土地の價格は逐年高まり行きつゝある大阪としては、必要なる隣接地を得ることは、後年になるほど困難の度を增して來る。先づ敷地を擴張してその形を正し、周圍には盛に植樹を行ひ、宮居は森林の中に包圍せられ奥深く鎭座ましますやうにして、所謂森嚴嵩高の感あらしむると同時に、一面防火にも備へることが第一である。各社殿の修理の如きは、その後に於て一擧になさずとも、逐次ぼつ〳〵と、これを行つて良い、寧ろ第二次的であると唱道し、しかし、そんなことをいつては、建築家としては、誠に不利な言ひ分で、それでは成立たないかも知れず。敷地の方はまあどうでもよい、それは二の次で、先づ至急社殿の改修が必要だと勵めなければうそかも知れんがと、笑つて附言したことのあるのを今思ひ出す次第である。

近頃、ある友人が、その住宅を新築せんとする意志があるので、間取の具合や、用材の種類、價格などについて、色々と意見を聞かれたのに應酬したが　話半ばで、私は、一體その敷地はどうなんだと反問した處が、いやまだ敷地は考へてゐない、どこぞいゝ處があつたらと思つてゐるのだとのことであつたので、それはいかん、間取その他のことは、それは二次的にしたまへ。それよりも先づ敷地の選定を第一にしてそれに對する研究を先にすべきである。まさか紙上の住宅や空中樓閣でもあるまいからと、からかつたこともある。

なべて一般の建築について、その種類用途の如何にかゝはらず、敷地の選定は、建築に於ける第一條件である。敷地の選定宜しきを失せんか、建築それ自體は如何に完備しても、

大局に於ける失敗は、建築後如何ともすべからざるものがある。また〳〵『建築と社會』の編輯係から、『住宅號』を發行するに際して、『住宅建築の敷地選定に就いて』の寄稿を請求せられて、筆を起すに當つて、一二思ひ出す所を記して、建築に於ける敷地選定の重大なる地位を占むるものであることの一助としてはしがきとする次第であります。

〔二〕 住宅敷地選定の考察點

一般建築に關する必須條件は、住宅建築に於ても、各部程度の大小輕重の差こそあれ、それ〴〵必要なもので深く考慮せらるべき筈である。從つて、それは住宅建築の敷地の選定についても同じである。こと細かに說明することは寧ろその繁に堪えぬかも知れんが、今その考察點を大別して、左に列擧して見やう。しかしその多くは世の多くの識者に常に說かれてゐる所で何等目新しいものはない。

第一　大體の方面について
第二　交通上の關係からして
第三　衞生的見地からして
第四　保安上の立場からして
第五　風紀的關係から
第六　經濟上の見方からして
第七　用途地域の關係を考慮に入れて

次下。少しく簡易に說明を加へて見やう、しかし敢て、學術的といふのではなく、單なる常識的に過ぎないことを諒とせられたい。

〔三〕 大體の面方について

住宅建築については、その新築に際しては、勿論のこと、既設建物を買入れるに關しても、又借家する場合に於ても、總じて所謂『住』に即して、先づ第一に考慮せらるべきは、大體如何なる方面を選ぶべきかの問題である。之を大別すると

イ　市街地の中か
ロ　郊外地か
ハ　田舍か

の三者とすることが出來る。而してそれ〴〵特徵として、長所があり又多少の缺點も伴ふ。從つてこれを一概に確定的に判斷することは六ケしい。

市街地の中は、萬般に亘つて便利である、しかし地價が高く、安價では必要な充分な面積の敷地が得にくい、又衞生的にも保安的にも缺點の度が高い。

郊外地は市街地の中に比しては、大體に於て、市街地の中に於ける缺點の度を低からしむるが、窃盜が多かつたり一面便利といふ點に於ては、その度を低める。

田舍は敷地の面積は必要なだけ充分に得られ易い、衞生的にも大體良好であり得る、保安的にも大なる脅威が少ない。しかし郊外地と共に、近頃は警察力の手薄から時々强盜などの來襲があり、又日常生活の不便が甚だしい。尤も交通機關の連絡がうまくいけば、よほどその缺點を補うことはできるが。

以上の三者の比較研究について、その判定を下すべき根本資料は果して何であるかといふと。(一)主人公の側から職業

社會的地位及趣味等と(二)その家族の側からの通學、趣味及生活狀態等とである。

例へば主人公が、繪家とか彫刻家とか、小說家とかいふやうな職業が職務の人ならば必ずしも市街地の中を選ぶ必要はなく、寧ろ郊外地か田舍の閑靜な地を卜すべきであるが、日夜市街地の中の劇務に交涉を有する人は勤務地との距離は重要事項で、郊外地位はよいとしても田舍では不便でしやうがない。又社會的地位からしても、日常來訪の客に接する必要のある人にとつては、田舍は勿論、郊外地でも不便とするであらう。しかし又所謂重役的地位に在る人で、朝は十一時すぎ、正午近くに會社にいつて、あとは俱樂部で午餐を採り、撞球か圍碁に時間をつぶして、その間に用の足りる人は、遠方の田舍でも充分であらう。世務の繁雜から既に遠ざかつて餘生を靜に送り得る立場の人にとつては田舍が最もふさはしい。更らに趣味の方からいへば、古語に『君子は水を愛し、聖人は山を樂しむ』とかいふやうなこともあるが、人によつて、山間原野を好むものと、海とか河とか又た池沼とかの水邊を愛するものとによつても、又娛樂の方面の關係からしても種々に變化が生ずる筈である。

家族の側からしては、先づ第一に、子女の通學の關係上小學校は大低近くに得られるとしても、中學校、高等女學校程度では、可成寄宿舍に入れないで、家庭から通學し得るを理想とするであらうし、又夫人は趣味として草花等を樂しむ庭園の外に、少しは野菜位を植える菜園、鷄その他の家禽位少し飼つてみる餘地もほしいとなると、可成敷地を廣く採り得る方面として、郊外地か田舍の方がよいとせられる場合もある。日常生活の狀態としても、來客の多少繁簡に應じて、接待上の便否も考慮に入れないわけにはいかぬ。

かう述べ來ると、市街地の中か、郊外地か、はた田舍か、果して住宅建築の敷地としていづれが適當なるかの結論に到達せぬが、大體論として先づ郊外地が良いことに歸着するであらう。只今日の如く郊外地が住宅地として最も多く適當しながら、夫人連の內にはどうも淋しいといふ感じと、新聞紙上で毎度見參する强盜、窃盜・あきすねらひの襲撃だけは、最大缺陷で、これは警察力の充實とその注意力に信賴し得るやうに改善して貰ひたいものだ。官廳の仕事は、とかく一偏定めたことは、時代がかわり、環境がかわつても、舊態を墨守して仲々改められない弊がある。市中の目抜きの場所でも人口が減じ、事故が尠くなつても、一反配置された人員はいつまでも、その儘にしてある傾向がある。わが大阪市あたりでも、舊市內と新市その他の郊外地等に關しても、人口、面積、事故等の適當なる新なる正しき統計を基とし少しく將來をも豫想して警察官の配當などは、舊慣を全然一掃し、考慮に入れずして新規蒔き直しにやりなほして欲しいと切望して止まない。

とにかく各人色々な事情のもとに、敷地の選定上に變化のある所、そこに面白い所があるので、各人皆々にとつて一定不變で、誰れもが好み又誰れにも適當な所と、嫌つて不適當な所とが一致しあへば、それこそ困つたもので、變通自在な所に妙味があるのだ。

一面本協會から、各人に對して、山間か海邊かなどの質問を發して回答を求めてゐるやうだが、色々と分れる所そこに

よい所があるのである。私は、まだ聖人の域に達せぬ君子の仲間と見わて、水を好む。海邊を選ぶ黨の一人である。道樂に釣が好きで便利である。夏の夕の凉風の心地よさ、一寸した散歩にも遙かに沖をながめて、水天彷彿一白糸を劃するの境、淡彩の墨繪の如き島山、雲の映ずる海面の千變萬化する色彩など、壯麗の情深すべく正大の氣養ふべきである。

序に眼界の開けた、眺望の佳良なる點も一條件とすべきでその他環境のあらゆる狀態は敷地選定の基本であること、又人によつては、出勤、歸宅の方位に關して、東に向いて行くとか南に向いて歸るとかの嗜好を持つものもあることをこゝに附記して置く。

〔四〕 交通上の關係かてらして

日常執務し勤務し交渉し活動する場所と住宅との距離關係は、一年にしても休日なき主人公にとつては三百六十五日の往復七百三十回のこと、日曜日祝祭日の休みをもつ人、通學する學生、生徒たちにとつても、六百回の多きに亘る日毎日毎の問題である。されば他の條件の滿足され又は忍ばれる範圍内に於ては、なるべく短縮さるべきである。これも業務の種類社會的地位によつては敢て問題とするに足りない人もあるが一般的には住宅敷地選定上の重要な事項の一に屬する。

活働場所と住宅との距離問題も實は空間的の距離の遠近問題ではなくして、その間に費すべき時間の長短と費用問題である。その內費用問題は長期に亘る定期券でも求めれば住宅を持たうといふ人達にとつては大した事項ではないが、交通時間の問題は大に考慮せらるべきである。

大體に於て日々の往復に要する時間は約片路三十分位を適當とする。出來るだけ短ければ短いほど良いわけであるが、活働場所は多くは市の中枢地區であるから、三十分以內の所では、どうしても他の衞生的保安的の方面からして適當な敷地が得にくい遺憾な點がある。

この往復空費時間は事實上は空費に止まらずして、往復害費時間である。大都市に活働する人は日々の實驗に徵して既に明々白々の事實であるが、市內電車も郊外電車も、一般の出勤退歸時刻の所謂ラッシュアワーには、すしづめの鮨鰯ぶらさがりの狀態で、歸宅時刻の勞れた心身の運搬には、非常な害毒を被らしめてゐる。そしてこの狀態は今日の處益々その度を增すとも仲々急には救はれない有樣である。勤勞一日八時間に對するこの往復害費時間の一時間は、それだけ、休養、慰安、研究の時間を削減するもので、一年一人三百時間乃至三百六十五時間である。これを片路一時間とすると實に一往復二時間で勤勞時間の二割五分に當る譯で、相當考慮を煩す價値のある重大問題たるを失はぬ。

中には日々の往復時間は讀書するか新聞にでも眼をさらせば敢て空費でもなく浪費でもないといふ論者もあるが、今日の現狀では決して充分に利用し得る餘地はない。却つて心身の過勞を惹き起すの弊がある。

次は市內又は郊外電車、鐵道の驛又は停留場からの徒步距離の長短が考へらるべきで、郊外に於ける停留場附近の發達の狀勢が明にこれを如實に物語つてゐる。

なるべく電車に近いがいゝといつても、鐵道又は軌道に餘り接近すると、列車又は電車の通過毎に震動と音響とを蒙つ

て感心しない、殊に地盤の餘り強固でない土地ではその害が一層甚だしく。又平常はさほど感じないでも、病氣などで神經が過敏となつてゐるときは、耐へ難い程度に感ずることのあるのも見逃すことの出來ぬ事項である。

又住宅敷地の前に通ずる道路は相當な廣さの幅員をもつたものでなければならない。しかし、それも程度問題で餘り廣すぎて、電車の布かれる道、又は何街道とか名の付くものになると日々牛馬車、荷車、自動車などの交通が頻繁で、振動と喧騒と砂塵と牛糞と馬糞とに惱まされるの缺點がある。反對に狹すぎるのは勿論不可であるが、少くも自動車の自由に這入り得る幅員、消防ポンプの乘り込みに支障のない程度とすると、先づ前面道路の幅員は三間以上たることを必要とする。若しそれ以下とすれば三間道路より極めて短距離に入り込んだ所でなければならぬ。最狹の場合でも、前面道路は幅員九尺以上でなければ、建築法規によつて建築し得ないことは法の適用を受くる市街地にあつては注意すべきことがらである。

尙ほ交通の不便な所は、主人公が夜更けておそく歸る場合に支障が生じ易く、家族のものにとつては、日常品の購買にも子女の通學にも、急病の際良醫を迎へるにも、家庭間の交際にも、電報の發信にも、郵便の配達にも、その他色んな場合に不利である。殊に雨の夜、風の日、雪の朝など道路の不完全なと來た日には誠にみじめなもので、郊外地、田舍などの他の長所をこの交通上の關係から全然沒却し去る場合が尠くないことを忘れてはならぬ。

一體勤勞場所と住宅とを全然別にして遠くはなすことが、徒に平面積に膨大し行く現代都市に對して果して理想的であるか否かは根本的に大に攻究すべき大問題であると思ふが、今しばらくこれには觸れることを避けた。

〔五〕 衛生的見地からして

建築に於ける衛生的方面は他の方面に比して最も重要なる地位を占むるとは今更ら贅言を要しないとであるが、殊に住宅建築に於ては、衛生は一層肝要な事項で。住宅建築の主體は衛生にありといふも敢て過言ではないと信ずる。從つて住宅敷地の選定にも深くこの衛生に留意すべきは勿論である。

人生に於ける衛生上の大諦は、息、眠、思、食、便の五つであるとは私の持論であるが、その第一は息である。從つて住宅建築敷地の選定上第一に注意すべきは、清氣である。即ち空氣の清澄なことでオゾーンに富むことである。換言すれば、積極的には、山間とか綠樹帶とか海岸とかゞよいわけであつて、消極的には空氣を汚染すべき原因のなるべく少ない土地を選ぶべきである。その空氣を汚染するものは主として工場で、そこから發する有害瓦斯、煤煙、粉塵等がその害の大なるものである。又たとへ有害でなくとも工場より發する惡臭も又安眠、熟睡を妨害する工場の騒響も避くべきもので總じて工場の風下に當る場所は宜しくないわけである。

次は空氣の流動狀態で、風位、氣流の關係で、夏期は通風の良い涼しい、空氣の乾燥した土地、冬期は寒風を遮ぎつて溫暖を保ち得る土地が望ましいわけである。

大公園ならば殊に宜しいが、小公園でもあれば、その附近は住宅敷地として最も望ましい所である。

又脚氣その他の病氣の元をなす濕氣も大に嫌ふべきもので低き濕潤なる土地を避けて、高燥な土地を選ぶべきである。なほ同じ高臺でも、その內に凹地に當る所は矢張り避くべき所で、盆地は雨天の際など下水溝の不完全なため汚水があふれて濕潤を來す場合もある。部分的には高層な建物の北側又は西側で日光の直射を遮斷するやうな場所も濕潤を來して宜しくない。

市街地又はその附近の郊外で上水道のある所はよいが、若しその敷設してない土地では水質の良否と水量の多少とも注意を要するし、下水の排泄にも心を配ばらなければならぬ。工場から放出する汚水、廢液は或は地中に滲透し或は不完全な溝渠を流下する場合が多い、殊にそれらの水質その他に基く風土病の有無も調査する必要がある。

又牛、馬、豚、羊その他を飼養する牛舍、厩、その他の畜舍、牛馬市場、多數の鷄などを飼養する場所の附近は、惡臭の烈しいのと、これにあつまる蠅の多いので、病毒傳播の媒介をなす點からこれらも避くべき場所の一つである。

なほ理論的には何等支障ないとしても　感情上餘り面白くないものは、避病院、火葬場、墓地の附近の敷地である。

局部的には、沼、澤、池等の埋立地、有機物、腐蝕土又は塵芥等で埋立て又は地揚した敷地もよろしくない。

〔六〕　保安上の立場からして

概括的に言へば、保安上危險な虞ある物品を製造し若くは加工する工場、かゝる物品を貯藏する倉庫類、又はこれらを處理し若くは取扱ふ場所建物の附近は當然最も避くべきもので、たとへ理論的には充分の豫防設備方法が講じられてゐるにしても、所謂不慮の災害、不可抗力の天災などが何時起らぬとも限らぬので、最も留意することが肝要である。

その保安上危險の虞ある物品とは、之を大別すると、火藥類の爆發性のもの、硝化綿等の發火性のもの、セルロイド、石油類等の引火性のもので（詳細は市街地建築物法施行令第三條參照）ある。

その他火氣を取扱ふ工場、一般に大規模の工場等も、火災その他種々の災害を惹起し易い虞があるので、その附近は住宅敷地として適當でないことは明かである。

建築に對する脅威は色々あるが、日夜頻發する火災は、その尤なるものであつて、生命財產を託して、殊に夜半安眠熟睡を專らとする住宅にとつては、火災は直接の強敵であるから、住宅敷地は火災の發し易い場所から遠ざかるべきは論を俟たない。

劇場、活動寫眞館、寄席、觀物場等の興行場、その他大規模の木造建築の附近も避くべき場所の一つである。

又低地の敷地は大體に於て地盤が軟弱であるから、地震に對する設備として、地盤の强固なる敷地、概して高地を選ぶべきである。併し高地の末端にえてしてあり得る崖地は震動に對して危險であるから、その崖地の上も、その下も共に避べきことを忘れてはならぬ。固より建築の構造上耐震的にすることは可能ではあるが、萬一を考慮してなるべく之を避くることが、すべての方面から見て寧ろ賢明な方法である。建物の堅牢といふ方面からも埋立地は宜しくない。

又萬一の災害に際しての避難といふ立場からして見れば大

公園の附近は最も望ましく、小公園でも無いには優るし、大道路にも餘り遠くないのをよいとする。

〔七〕 風紀的關係から

環境の感化力は極めて偉大なものがある。孟母三遷の教もふるめかしいが、眞理は常に新しい。志操の堅固なものには敢て差支ないとしても、それでも時に間違は起り易いもので殊に、誘惑の魔手の力は仲々強いものがあり、機會はともすれば常規を逸せしむる場合が少くない。況んや、志操いまだ固まらざる子女の教養に思ひ至れば、住宅敷地はその環境のすべてをして善美なるものであらしめたい。

この見地よりして、風紀上避くべきものを擧ぐれば、待合、席貸、劇場その他の興行場　遊技場　料理屋、飲食店等で、その程度にはそれ〳〵等差はあるが、注意すべきものと見て差支ない。この中に娯樂機關までを含ませることは、本來からいへば妥當を欠くの誹を免れぬが、今日の現狀に於ては、遺憾ながら、日常の接觸物としては避くべきものゝ内に入るゝことは萬止むを得ぬ次第である。

こゝに子女の教養といつたが、なほ廣くいへば、家庭に於ける召使即ち書生、下女、下男等の風紀維持の上からも亦然るべきものであることを考慮しなければならぬ。

〔八〕 經濟上の見方からして

住宅建築の敷地を求むる點に於て、經濟上から見て、なるべく地價の安いことは、相當の廣さの敷地を得る上からも望ましいことである。しかし比較的安價な敷地は交通上、便利上　その他の條件から見て、欠點の多い場所になりやすい。田舍の安い敷地は結局交通の不便な、日常生活に不利な所に限られてゐるといつても間違ひない。郊外地に於ても地價は交通の便否に正比例するを免れないわけである。

けれども市街地の内又は郊外地は年々その地價を高めつゝ行く點から見て、今相當高價な所は、やがて幾年ならずして益々高價になり行く敷地であるから、損はない。積極的にこれを考察すると、目下の處多少交通不便ではあるが遠からず便利になるに違ひないと、先見の明を以て比較的安價な敷地を早く手に入れるのが勝であらう。

日常の勤務などに要する交通費も相當に考慮に入るべきでそれは單に主人公のみの問題ではなく、家庭全體の問題に聯關するもので、又日用品の購買の便否と加ふるに比較的高級住宅地に於ける通弊の一である所謂別莊相場としての高價を貪ばられることも考へなければならず。公設市場の有無遠近なども、經濟上考慮せらるべきものである。

水道、電氣、瓦斯の供給、需要なども便利といふ方面と共に經濟的にも考慮すべきである。

〔九〕 用途地域の關係を考慮に入れて

市街地建築物法の施行されてゐる區域内に於ては、用途地域制が布かれて、住居地域、商業地域、及工業地域が指定され、その外にそれらの指定を受けない所謂未指定地があるので、結果四種に分れて建築上相當な制限がある。

この地域の制限は同法及同法施行令、同法施行細則等に明

に示されてゐるが、その大要は、住居地域には住居の安寧を害する虞ある用途に供するものを禁じ、商業地域では商業の利便を害する虞ある用途に供するものが禁ぜられ、又工業地域には保安上危険な工場、衛生上有害な工場などをこゝに集めさす方針で、殘る未指定地は、工業地域に集むべきものゝ外は建築し得らるゝのである。

しかしながら、住居地域だからとて、住宅ばかりが出來、商業地域だからとて商業用の店舗ばかりが出來、工業地域だからとて工場ばかりが出來るわけではない。

住宅建築の方面から見ると、地域はどの地域でも法規的には何等差支ないので、住宅建築にはほとんど地域的制限はないといつてもよい位である。但し住居地域内では高六十五尺を最高限とし、建坪は敷地面積の六割迄に限られ　工業地域及未指定地内では、高百尺迄、建坪は敷地面積の七割迄に限られ、商業地域内では高百尺迄、建坪は敷地面積の八割迄に制限されてゐるので、高の方は住宅建築では六十五尺を超ゆるものは先づ少なからうから、どの地域でも殆んど同じわけで。建坪の方は、住、工、未、商の各地域に依つて、十分の六、七、八の割合迄の制限があるから、この點は、地域によつて大に差違を生ずる。しかし一體住宅建築としては相當廣い空地を必要とし又希望するわけから考へれば、これらの制限に關しては、積極的には地域制限を顧慮するやうなことは先づないと見てよからう。

しかしながら、住宅建築の敷地としては　やはり當然住居地域内に於て選定するのが至當である。こゝでは、前述の衛生上、保安上及風紀上住宅建築の敷地上避くべきものはすべて將來建築し得ないし又それらに用途を變更して使用することも出來ないのであるから、現存のものは別としても、所謂住居の安寧を害される虞がないからである。又商業地域内に住宅敷地を求めると、住居地域内はど住居の安寧は保護されないし、又一面商業用の敷地を住宅敷地を以てそれだけ狹めるわけになるから、なるべく之れも避けた方が建築道徳的にも都市全體のためである。

工業地域内に住宅敷地を求めると、その附近に將來衛生上有害又は保安上危險の虞ある工場が出來て種々な害を受けても、これが除害を要求するわけにはいかぬ。工業地域は一體そういふものをこゝに集めて一面これを保護する主旨なのであるから、かゝる地域内にはいる住宅はそれを覺悟してゐるものと看做され、自ら害を招いてゐることになるので、結局工業地域には住宅敷地を求めるべきものではない。未指定地に於ても工業地域内はどの程度のものではないが、相當害の起り易い中程度の工場は許される筈であるから、この地内も住居地域には不適當である。

只工場に附屬する職工住宅のみは、餘り遠方から通ふのが不便であるため、その工場附近にこれを建築することのあるのは萬止むを得ない場合もあるが、これらは例外特殊のものと見て、一般住宅建築の敷地とは別なものと見て意見を述べたのである。

なほ一言附記しておきたいことは、既に市街地建築物は施行されても、まだ地域の指定されない區域でも、都市計畫の方面からして、相當調査が進められて、大體工業地域としての豫定されてゐるものがあるから、住宅敷地を選定するには

豫めこの方面の内意を參考に聞きたゞす必要があると思ふ。最近知人の間にも工業地域の豫定地内に新に住宅の新築をなしたり、住宅敷地を求められた實例などがあるのを遺憾としてゐるものである。一體工業地域として指定する敷地は、工業用として必要な條件を具備したものを選ぶのは元よりであるが、一面、住居地域又は商業地域として不適當な敷地が多くそれに向けられる傾向があるからである。

之に反して、住居地域として指定される敷地は、所謂清氣高燥な敷地で衛生的に最も適した敷地を選んで、閑靜でもあり、既存のものについても害の多いものを避けてゐるのであるから、總體的に住宅建築の敷地として理想に近いわけであることを深く留意すべきである。

〔十〕餘　說

以上は一般の普通住宅についてその建築敷地の選定上考慮すべき諸點を述べたのであるから、別莊などについてはそれこそ別問題である。又一體一人で本宅と別莊とを持つなどは特殊な場合のほか、一般住宅欠乏問題の起る時代には、避くべきことの一つである。

又父祖傳來の土地であるからとして、その環境のかわり行くにかゝはらず、依然として舊位置を保持し行くなども考へものので、都市の健全なる發達の上から見て、犧牲を拂ふことも現代都市人たる土地所有者の考慮を煩したいと思ふことの一つである。

住宅建築敷地の面積についても、田舍なら別としし、市街地の中又は郊外に於ては衞生上その他の見地からして、相當の廣さを要することは勿論であるが、大抵百坪乃至二百坪位迄に止めて貰ひたいと思ふ。一人で廣大な住宅敷地を占有することは、それだけ他の人が住宅敷地を求むる上に於て支障の度を高めるわけである。

又古語に子孫のために美田を買はずとかいふこともあるが住宅建築も子孫のためまで考へない方がよいかもしれない。そうすれば人一代の家庭内の人數も、かつて佐藤博士のいはれたやうに、最初は夫婦に子供一人位からの小家族から、中途には子供がふえて大家族に膨脹し、最後には又老夫婦位に縮まることもあり得るので、住宅の必要な建坪にも時々大小の差が出來、從つてその必要な敷地面積にも大小の差が生ずる場合をも考慮して、時々改めて敷地を選定することにするのもよいかも知れぬ。（了）



庭の設計に對する一考察

大屋靈城

一　建築家と庭園

建築家の中には隨分庭園の設計に優れた人もあるが概して無頓着にやつてのける人が多い。それは自分の範圍ではないそれは專門外だと云つた樣な考を頭から持つて居る人も間々あるような氣がする。一般の建築家にあつては或はそれですむかも知れんが住宅の設計に携はる建築家はそれでは少々困りはすまいか。勿論建物は建物、庭は庭でそれ〳〵專門屋が居てそれを司るのであるから却つて他の事を知らぬ方がいゝようなものゝ建物と庭の間には隨分密接な關係があつて兩者は離れられない因緣を持つて居る。殊に住宅では建物と庭とこの二つが揃つて初めて住宅を完成するので而もこの二つがひつたゝ相接合し、相調和してなくては立派な住宅をなし得ない。この點は丁度夫婦が相倚つて一家を形成するようなもので建物が夫であれば庭は婦である、似合つた男女が夫婦を形成すれば實に外見も立派だし内政もうまく行くが『提灯に釣鐘』では不緣のもとである。即ち家と庭ともその通りで似たもの同志を結合させて初めていゝ住宅が成り立つのである

男が女を娶る際にはその女に就ての一切を調査して自分が氣に成つて初めて婚約をする如く家を建てたら先づその家に最も氣に入るような庭を造つて結びつけてやらなくては一つの住宅をなさないのである。

又時に女が男を養子に迎ねることもある如く、天然の森や木立の中に家を建てねばならぬこともある、この場合は一般とは反對に庭の方から家を選擇すると云ふ事に成るから建築家はどうしてもその庭に相應しい建物を設計せねばならぬ。又一般の場合を考へても一つの立派な座敷が時にその庭先の方向や、奥行、地形等の關係から全く價値を失ふ場合が澤山

ある。それは多くの場合住宅内の建物の配置を過つた場合に起る。

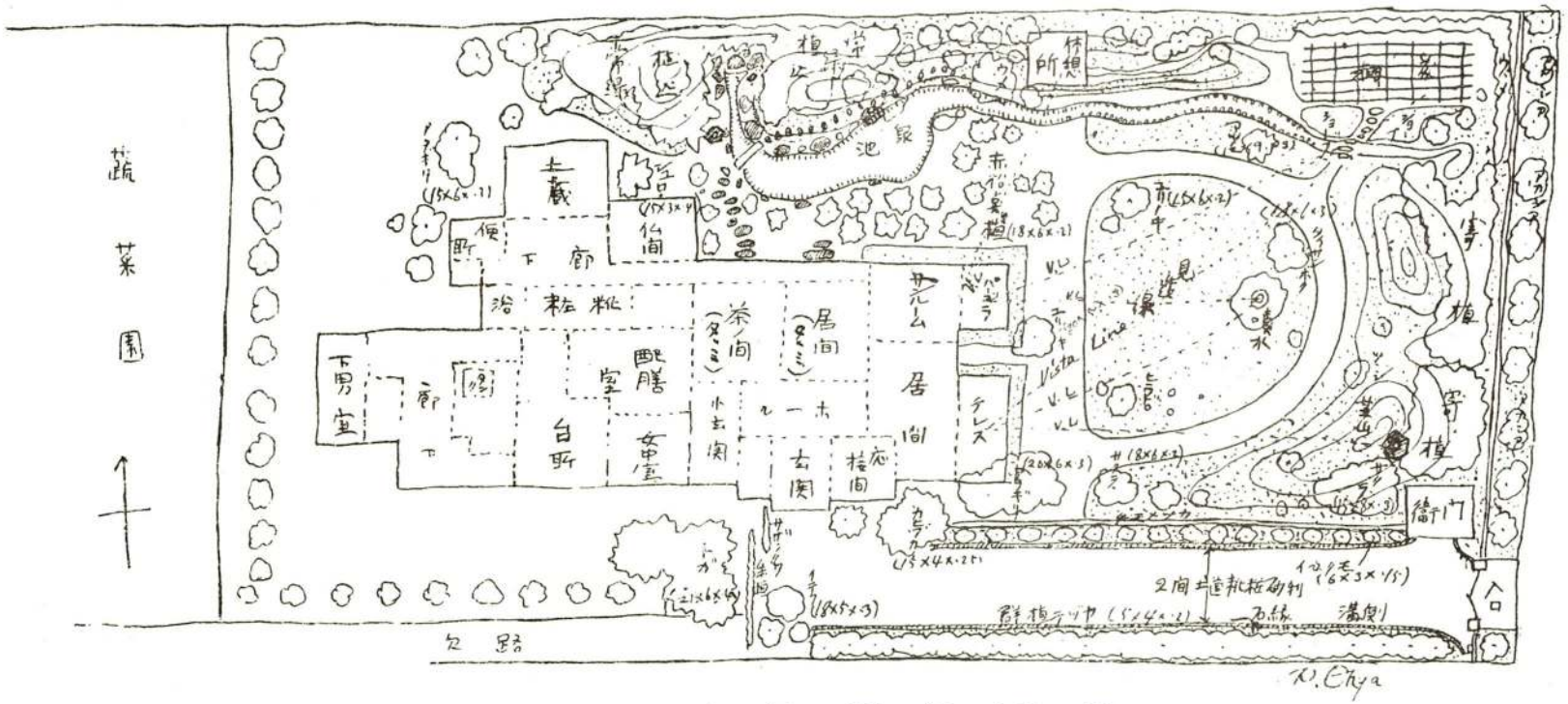
卽ち建物の周圍の空地のとり方、建物の主要各室の方向、配置、換言すれば住宅内の地割、これが甘く行かなかつた場合によくかくの如き失敗を招くのであるされば建築家が先づその主要建物を宅地内に如何に配置するかと云ふ事を考ゆる時、その周圍の庭のことを考慮に加へねばならぬあである。卽ち建築設計の當初から庭園設計と云ふ事を加味して行かなくてはいかんのである。例へばその家の玄關に自動車を着けるように玄關口を設計した場合には門から玄關までに前庭として自動車の廻り得るだけの廣さを準備して置く事は勿論、その内部に於ても廣い幅の道路がつけ得るような平地のある事を前提として設計にとりかゝらなくてはならぬ。若し左樣なことを無頓着に玄關のみが自動車のつくような形に出來たとしたならばその玄關は全く實用的の價値がないものとなる出來てしまつてから今少し後に引込めて建つればよかつたとか、今少し左によせたらばよかつたとか後悔して居る主人に出つくはす事があるが、これは全く建築家に庭園設計の智識がなかつた爲か果又あつたにしても不注意にもこの事に氣をつけずにやつた結果である。

かく論じて來れば譬え十分の智識を具へぬとしても一通りの庭園設計に關する智識は住宅建築に携はる人の是非持つてなくてはならぬ重要な智識であることが分かる。

二　住宅と庭園

住宅にとつては時に庭園は建物以上重要な位置におかるゝ場合がある。例へば別莊とか王侯の宮殿とか離宮とかの建設に當ては多く建物は從であり庭が主である。例へば伊太利のビラ（Villa）の如き殆んど全力を庭園の結構に盡しその中に小さな建物が配されて居る場合が多い。又我國の山莊の如く誠に御粗末なバラックの周圍を雄大な庭園が圍繞して居る事もある。かくの如き場合は例外とするも一般の住宅にあつて庭園は實に重要な役目を持つて居る。

アメリカの下層階級の都市民（主として勞働者）の住居に供せられて居るアパート、メントハウスなるものには庭園を有せぬ住宅もあるが其他にあつては世界の住宅は悉く庭園を有して居ると云つても差支あるまい。殊に近年世界各國の住宅建築に大なる影響を及ぼしつゝあるガーデンシチーの思想が益々この住宅に於ける庭園の價値を認めしむるようになつて、今日迄建物本位に考へられて居た住宅も今では殆んど庭本位に設計されねば滿足が出來なくなつた。これは世人の空氣衛生に對する思想の進歩にもよる事であるが人間の自然を親しむ本能性に基づくことゝ信ずる。彼のスカイスクラッパーの如き無謀なる高層建築を建て並べて喜んで居たアメリカ人にすら今日では田園住宅の有難さがシミ〴〵と解かつたと見える。先月日本の都市を視察に來たアメリカのウキスコンシン大學の都市計畫擔任敎授レオナルドスミス博士が『金と命は換へられぬ』と云つた一言がこの間の消息を明かに物語つて居る。卽ち地價が高いからと云つて宅地一ぱいに建物を埋め而もアパートメント風に高く、深く（地下に）建て込んだ町は滅亡であると云ふのだ。如何に米人が田園住宅を戀しがつて居るかゞ窺れる。


蔬菜園
土蔵
便所
下廊
台所
女中室
下男室
浴室
茶間
居間
玄関
居間
テラス
池泥
赤松
待合所
庭門
入口
2間土直乾板動物
群植デザイン
万緑
満開

平面図 設計 庭園 邸工

アパートメントの流行した初の頃はアメリカかぶれの日本人はアパートメントこそ理想の住宅樣式だなどゝ叫んで居たが此の頃はそんな馬鹿な事はさすがに言ふ人がなくなつた。

庭園は室内の日照、通風等に缺くべからざる役目を持つて居るのみならず、それ自身一つの戸外室である。

陽光の直射する芝生、陽足の透き通る若葉蔭をつくる樹林塵埃を吸集する水面一つとして吾人の疲れたる身心を慰めざるはない。飢渇は飲食に依て滿たされ疲勞は庭によつて恢復するのである。かくの如き精神の清涼劑を缺いで一日たりとも樂しく住むことが出來ようか。

庭はかくの如く住宅に必要なものであるからその設計に周到の注意を拂ひ建設に相等の費用を投ずるが當然である。然らば進んで如何樣なる注意をもつてその設計にかゝると云ふ點を少しく述べて見よう。

三　庭園設計の要旨

庭は美を本位として設計すべきか果又實用とか衞生とか云ふ點を主として考ゆべきものであるかと云ふ問題は建物の場合と全然同一である。建物がそのもの用途性質等によつて時には美を本位に建てらるゝ場合もあり又時には實用本位に出來上がることもある如く、庭にありても同樣の事があるのである。然し今日の一般住宅に於ける庭園は先づ衞生を本位として考へねばならぬと思ふ。美即ち造庭の美は內容の整ふと共に自然に外部に顯れ來るべきものであれば特にこれを初より主眼として設計するにも及ばぬかと思はれる、又實用と云ふ如きも蔬菜園、果樹園と云ふ如き臺所に緣のあるものは別に畑としてこれを考へなくては到底食用に供し得べき程度のものは作り得ぬから、これを本位にすれば庭園の目的を達し兼ねることも起る。これからの住宅の庭園はどうしても衞生本位に設計さるゝが一番至當だと考へる。

卽ち餘り建築本位に流れず樹木本位に仕上げる。例へば石造の階段とか壁泉とか塑像とか飛石か休憩所とか石燈籠、記念碑とか云ふ如き人工美を成るべく少くして芝生とか泉池とか樹林とか木立とか叢と云ふ如き自然美を多量に取り入れる換言すれば死んだ材料を捨てゝ活きた材料によると云ふにある。

又樣式の上から云へば此の頃建物に半洋風の住宅が流行する爲に庭園も勢いその傾向を帶びて來る、そして洋風に造り上げられた庭の部分と日本風に仕上けられた庭の部分との接合部の調和に骨折れる場合が多くなる。今この點を圖に依て說明して見よう(圖面參照

假りにこの圖に見る如く一つの洋風建築の中に疊敷きの座敷(北向きの部分)がありとせばその部分を和風の庭に他の部分卽ち東向きの庭を洋風の庭に設計する。兩庭の中間に一つの休憩所又は四阿を配する、そして、それを中心に左は次第に日本庭らしく右は次第に洋風らしき庭の造り方に移る。而もこの四阿の樣式を和洋折衷式の樣式に設計することによつて兩者の調和をはかるのも一つの方法である。

若しこゝにかくの如き添景的の何物をも置かずに兩庭を結びつけようとすれば仲々骨が折れると思ふ。袖垣とか石燈籠等もよくこの役目をすることがある。

次に温い庭を造らうと思へば南面に成るべく喬木を配せぬ方がよい而も建物の近くに高い木を澤山植うる事を避けねばならぬ(圖面參照)若し欲しい場合には成るべくアヲギリ、トチノキ、ホウノキ、プラタヌス、ユリノキ、カヘデ、フヂと云ふ如き落葉樹を點植し下枝を切り拂つて幹越しに庭の奥を見透すことの出來るような植樹の方法をとるべきである。

然し、それかと云つてよく大邸宅の平庭に見るが如く大きな飛石を澤山に用ひて一面を砂敷きにすると云ふ如き庭の作り方は夏期炎熱の反射によつてたまらなく暑いから成るべく通路のみを殘して一面を芝生にするがよい。

又涼味の多い庭とするには成るべく家に近くに幹の綺麗な常綠樹、例へばアカマツ、マキ、タイサンボクの類を適當の間隔に點植し、その奥に池を堀り水上には瀧を落し水下は溪流として遠く引きて沼に導き水草の類を育てゝその花を樂しむと云ふ如き構造に工夫するも亦妙ならん乎。

次に日本式の庭園を築くに際しては成るべく狹き地積内にも多くの材料を用ひ洋風の庭にありては全くこれと反對の心持ちを以てせば可なる場合多し。これ全く日本式庭園は大なる自然の景趣を小なる地積内に縮景して作らるゝ場合多きによるものである

次に如何なる庭園に於てもビスター、ライン(Vista line)を考慮して一木一石を配するに非ざれば折角の名石、名木がその眞價を發揮し得ざるのみならず時に廣き庭園を狹く感せしめ茫漠として幽邃の氣を失ふ事もある。

ビスター、ラインは見透線とも稱し室内より庭の主要部に引きたる一つの線であつて成るべく長いものを選ぶがよい、即ち噴水とか石燈籠とか藤棚とか休憩所又は大木の如き添景の爲に配置されたる美的裝飾物が成るべく他の叢又は樹木等によりて視線を遮られ室内又は要所より見えないと云ふ如き事のないように、豫めその方向を圖示してこの線上には樹木等を植込む事を避くる爲に用ひられる線である。

又門から玄關までは特にこれを前庭として一つの異なつた樣式に設計される場合が多いが成るべくこの間の距離は長い方がよい、そして若し餘り短い場合は出來れば圖の如く入口を玄關より直角に曲げて、その距離の長からんように工夫する。門より玄關までは住宅では大切な場所であるから成るべく整然と作らるゝがよい、道路もキチンとした而も幅の相當に廣きものを用意し排水側溝の如きも成るべくつくるがよいそして玄關の近くには成るべく不潔な臺所、物干等の見ゆるのを防ぐような植込み又は生垣の類を配するがよい。

次に苑路の如きは廣い庭では必ず二人以上の人が列んで通れるだけの幅にして置きたい。何故ならば食後の苑内散步等に一列に並んで步くのでは興味を削くからである。

四 設計圖

設計圖は成るべくプランとエレーベーションを用意し出來れば鳥瞰圖を添ゆべきである。そして成るべくプランの上に材料の品名又は樹種、例へば噴水、石燈籠、藤棚、マツ、カシ、イテフ、と云ふ如きを記入しその横には寸法をも記入して置くがよい。例へばアカマツ樹高一五尺枝張七尺幹目通直徑三寸と云ふ如くそしてこれは普通

(15×7×0.3)

と云ふ風に略して記入する。

又樹木をプランに表はすには樹冠を附し幹根の所在を點によつて示す。樹冠は即ちクラウンにして枝張りの太さを表はしたる圓又は波線である。この波線を又大小其他尖らし等して常緑樹、落葉樹、針葉樹等の區別を示すことも出來る。

尙地形の高低は成るべく同高線（コンターライン）によつて表はすことゝし普通高さ一尺毎の線を以て記入するを便利であると考へる。詳細は拙著『庭本位小住宅』を御參照ありたい

以上は庭の設計上に必要な注意をかいつまんで述べたのであるが、最後に一言したい事は建物は工事竣工と共にその目的とする形式内容を整へる事が出來るが、庭は工事竣工後少くとも五年乃至十年後に於て初めて稍その趣きを呈して來るものである。而して年月を經ると共に次第に本當の形を表し本當の景趣を味ひ得るものである。工事竣工の際には誠に貧相な出來艶に見えてもこれが十年と月日を經たるあかつきには立派な作品となり得るのである。さればその設計も十年百年を見越したる設計でなくてはならぬ、殊に植樹設計に當つてはこの考へが必要である。

洋家具の見分け方

文化住宅の椅子式生活が流行し始めてから、一般家庭に洋風家具の取入れらるる數は次第に多くなり、なほこの趨勢は將來一層發達すべきものと考へられますが今日は未だ過渡期時代で、洋家具を使用してゐる人達もその洋家具の知識に就いては存外乏しいやうであります、殊に今日家を建てると云ふ場合でも、單に家の建築費の豫算を建てゝ、それに資金の殆んど全部を注入すると云つた有樣で室内裝飾特に洋風住宅しは大切な家具に就いては殆んど豫算を計上してゐないのでありますそれ故折角家が出來上つても、その中に置かれた家具類は寄せ集めの、不調和極まるもので、生活氣分を損ふこと幾千か知れませんこれは是非家を建てる場合は最初から、家具類に就ても相當の豫算を取つて置いて、そして適當な專門家を煩はして設置されたいもので。家を住みよくするための最も大切な事の一つであります。

偖て洋風家具と云つてもその種類は種々樣々で、材料も非常に複雜のやうでありますが、ここでは主として一般家庭に用ひられる洋家具を標準としての話しですから、主として木工仕立の洋家具に就いて述べるのでありましてその材料となる木材の種類は、存外範圍の狹いものであります、卽ち洋家具の最上の材料はマホガニーでそれに次いでチイーク、續いてオーク、これは輸入材でありますが、一般普通に使はれてゐるのは日本材の楢のことで、今日オーク材と云へば、まづ楢と思つて間違ひありません、オークに次いで櫻たも栓と大體この順序になりますが、これ等は殆んど高下の別はないもので、その材質の如何に依つて順位は前後します、なほこのほかに南洋材が最近大分使はれてゐます、ラーワン、タンニール材などがそれで、これは値段がすつと安いので、格安品に多く使はれます。

そこで誰にも判りよいやうに、それ等の材料の價格を比較して見ますと、一番澤山使はれる楢を標準として、楢を一とするとマホガニーは七倍、チークは四倍尤も櫻は略同値で、栓一割安、南洋材二割安、又製品即ち家具に出來上つたもの、値段の開きはこの位かと云ひますと、楢を一としてマホガニーの家具は三倍高、チーク二倍それから栓は一割安、南洋材は二割安と云つた割合で、即ち同じ机でもマホガニー材の机は、楢のものより三倍高いと云ふことになります。

次に各材料に就いて、それ〴〵の特質を述べますと、第一

マホガニーは俗に赤く塗つたものをマホガニー色と云ふやうに、あの赤い色を素地の時から持つて居る木材で特徴は日本の桐に似て、ごく狂ひの尠いことであります、產地は熱帶地方

チークも熱帶植物で日本へは主としてシヤムのバンコックから積み出され來るものでこれも狂ひの來ないのが特徴で木地は青黑味を帶びてをり、家具のほか建築材にも相當使はれます、一體このチークでもマホガニーでも熱帶產の材料の狂ひの來ないのは、日本に來るまでに非常に永い時日がかゝるからで、普通伐り出してから三年以上かゝると云はれますが、そのため充分乾燥してゐるからで、ごんな材料でもこの乾燥さへ申分がなければ絕對に狂ひの來るものではないのです。

オーク　材はむら〴〵とした美しい斑のあるのが特徴で見た眼が非常に氣持よいので最近盛んに洋家具として使用され出したものです尤も七八年前まではこの代りに欅が使用されてゐたもので之は狂ひが生じ易いので嫌はれてゐたのですが近來乾燥法が發達して、十分に乾燥さへ出來てゐれば、絕對安心と云ふことが判つたので、今日では洋家具と云へば楢材と思はれる程に盛んに使用されてゐるのです。

たも　殆んどすべての點が楢と大同小異でありますが、たゞ楢と違つてこれには木目が澤山あつて著しいもので、日本の部屋にも調和し、机、簞笥などに用ひられ、又洋館内部の腰羽目にも愛用されてゐます。

櫻　これはマホガニー色に仕上げるのに最も相應しい材質なのでその方面に使用され、一寸マホガニーと間違へられます。

栓　材質はやゝ柔かい方で加工が容易、且つ柾目に使ふと日本間によく調和して、さうした家具を作るに重寶がられてゐます、その他はこれと云ふ相違がありません

南洋材　これもマホガニー色仕上げに適するものでさうするとと一寸櫻と見分けがつかないので、よくごまかされる憂ひがあります、然らばその見分け方はどうすればよろしいかと云ふと、材質の柔いことゝ、木口の幾分荒いことで容易に見分けられます、即ち机なら周圍、もしくは塗りの尠い裏側を改めればそれと知れます、又材質の硬柔を確めるのは一寸亂暴ではありますけれど、南洋材は木目の間の部分はごく柔かく爪でも傷がつきますから、その部分を一寸爪で押して見ればすぐ判るのです、それにこの南洋材は非常に材質がもろく細い腕木などは往々にして折れることがあります。

洋家具の材質に次いで大切なのは塗で、洋家具は日本家具と違つて、生地の儘のものは殆んどなくすべてが塗も仕上げで、その種類は

1、日本式の漆塗り
2、ラック
3、ワニス
4、楢などの如く楢自身のあくを利用して仕上げるもので、これは一寸澁い塗り方

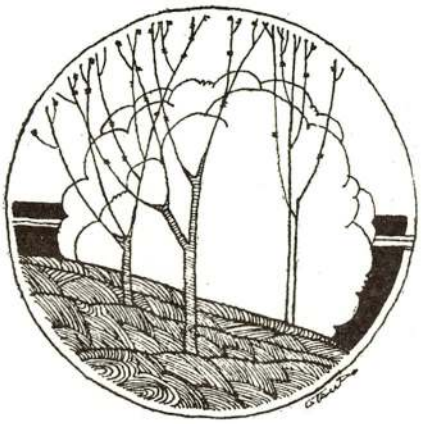
中で日本式の漆塗りは從來から行はれてゐる方法で、漆塗りはかぶれる廣れがあると云はれますけれど、これは粗製のためで、塗りあけて一ケ月以上經つたものが、十分に磨いて仕上げたものなら、決してかぶれる廣れはありません

漆塗りははげる缺點がありますが、これも軟弱な生地をかくすために、塗りの途中で布をはつて、その上に又漆を塗るから、その布の間からはげるのであつて、もし材質のいゝものを用ひ、生地の儘で塗り上げれば絶對にはげる廣れがありません、この生地塗りには木地色みがき出しと、すりうるしの二種がありますが、多少加工費用はかゝりますけれど、これなら製品は高尚且つ決してはける廣れがなく最上の仕上げが出來ますそれに漆の特色は熱と濕氣に耐られる點で、これはラック。ワニスの遠く及ばぬ處であります。

次にラックは洋家具の塗りとしては最も普通なもので、殆んど普通の洋家具はこのラック仕上げと云つてよろしい、ワニスも殆んどラック同樣の性質のものですが、これは主として建築材に使用されるもので、例へば腰羽目などに塗られ、費用もラックより多少安くあがります。

塗り方は最初にこの粉で目ごめをなし、その上に好みの色づけをして、次にラックなりワニスを塗るのですが、それも一度ではなく何回も繰り返し塗るので、普通四五回は行はれますそして毎日塗りが乾いたらサンドパイパーで磨いて、その上に又ラックを塗り、最後の仕上げの場合は俗にタンポと云ふ綿のかたまりにラックをしませてそれで磨きながら艶出しをして塗つて行くのです、このラックは今も云ふ通り熱に弱く、水にも甚だ抵抗力の少いものですが、しかし仕事の上には早く乾いて、割合に費用がかゝらず、それでゐて落ついた艶がありますから、一番適當なものとして使はれてゐるのです。

尚ごく粗末な生地を塗りつぶしてもかまわぬ場合はエナメルが用ひられ、又ワニスに似て、耐熱性のものに近來バルスパーと云ふ塗料が用ひられますが、これは費用の點で一寸一般化しない恨みがあります。（宮澤節一）



建築殊に住宅と造園の關係

椎原兵市

建築と造園との關係は極めて密接にして、且つ有機的なもので、兩者が完全に融和する時に於て初めて其の美は表現され、强調されるのものである。のみならず遺憾なくその機能を發揮する事が出來るのである。換言すれば建築美と造園美とは正比する性質のものである。

之を都市と其の公園、公舘と其の前庭、住宅と其庭園などに就いて觀るも興味のあるもので、左に造園上より見たる偶感を述べて見よう。

偖て文化の象徴たる都市の著名なる建築物、造營物などと公園系統との關係を觀るに、我國の都市には其の間何等共通せるスピリットを認め得られないのである。今日我國の都市計畫なるものゝ圖面を展觀しても、主として交通上の道路計畫にのみ偏し過ぎて、そこには極めて情操味の少ない無味乾燥な道路擴張のきらいがないとはいへない。彼の伯林中樞地たる王宮よりブランデンブルグ門に至るウンデンテンリンデン街或は巴里のコンコルド廣場等と比すれば隔世の感がある吾人はもとよりそれを摸し、それを適用せよといふものではないが、要は都市觀の相違を論ずるのである。又公園を單獨に觀察しても都市公園として吾々の描く理想に近きものは極めて少數で、强ひて實例を擧げれば東京市の日比谷公園大阪市の中の島公園、名古屋市鶴舞公園の如きは、やゝ都市公園としての體をなすものである。その他のものは何れも都市民の社會的施設の場所として、保健に休養に快適に、はた亦都市美觀の一助たるには餘りに遠い現狀である。

次に同じく近代文化を代表するが如き觀ある堂々たる公舘も、其の前庭の設計如何に依りては其の輪奐の美は發揮されないのみならず、前庭の實用味を遺憾なく利用する事が出來ないのである。我國の諸都市に散在せる大小の公舘中、其の前庭が眞に麗はしく建築と渾然相融和して所謂綜合美を發揮し、且つ實用的にその機能を盡してゐるものが幾許あるであ

らうか。余の知れる範圍に於ては、伊勢の徴古館の前庭位のものである。之れに反し最も惡例とも思はれるものを擧ぐれば、先づ東京驛とその前庭である。その前庭の現狀は如實に此の間の消息を物語るものがある、即ちそこには何等の統一もなければ連絡もない。全く沒交渉の感を與へられるのみならず、實用上の見地より見るも、驛前の交通系統の攪き亂されつゝある事は一般諸彦も感知せらるゝ事であらう。あれ程の廣袤を擁しながら交通の整理さへ出來ないとは考へられぬことである。最近の話によると目下改造中との事である。望むらくは名實共に東洋唯一の大停車場の威觀を現はす樣改造して貰ひたいものである。

偖て吾人の住宅と庭園に目を轉ずれば、更に時代錯誤の數々を散見するのである。住宅建築の方面は最近著しく發達し曰く『バンガロー』、曰く『コッテージ』曰く『ライト式』曰く『スパニッシュ』と漸次各種歐米の文化が現實に流れ込んで、大都市の近郊に洋風住宅や別莊が簇生して、互に妍を競ふてゐる。この風潮は我國建築史上誠に喜ばしき現象ではあるが、造園上の立場より詳細に觀察する時は、遺憾ながら、そこに欠陷を可成り認めない譯にゆかない。庭園そのものゝ價値は後段に述ぶるとするも、住宅の本體たる建物の配置や一般庭園の地割が何ら惠まれた地勢や、背景、借景などの自然的環境を利用する事なく、如何にも準備なく 無計畫に家を建てられてゐるかの如き感を禁ずる事が出來ない。

由來住宅設計に於ける第一の問題は與へられた敷地に對する地割の決定である。此の地割が十分に研究されてゐるものが少ない。次は庭園が建築樣式を考慮されてない。即ち建物とその周圍を繞る庭園の間に何等美的調和もなければ有機的統一もない。況や實用的な保健、慰安、休養などの施設に於てをや。

かゝる欠陷の原因は何れに存するか

一、施主即住宅建設主の庭園に就ての理解なき事

一、建築技術者と造園技術者の提携のなき事

一、從來の所謂庭師なるものに對する信用が相等に殘つてゐる事

一、造園技術者が少なくまだ造園設計が普及されてなき事。

等が主なる原因をなしてゐると思はれる。從前から施主に眞の庭園の理解が乏しくして庭いぢりといへば、全く贅澤三昧の如く見做されてゐる。蓋し從來の庭園なるものはその構造が餘りに觀賞本位であつて、實用と云ふことを全く無視し徒らに珍木奇石を聚集するが如き感があり、一部の人々の頭には庭園を以て骨董品かの如く考へられ、庭園本然の使命を理へず之れを利用すると云ふ事を知らぬものが多い。從つて庭師の過信と因襲による出入商人との關係が未だに保存されてゐて住宅は純歐風の壯麗なものを建てゝも、庭園は矢張り茶庭趣味より知らぬ程度の所謂庭師なるものに任せてゐるか、然らざれば庭園なるものは、素人にても出來るものと心得て江戸時代に出來た京都の名園などを庭師を連れて見學し得んとし、我が庭に直に摸倣を試みて失敗する者もある。蓋し歐米文化の輸入と國民性の變化した、今日獨り庭園のみ茶禪一味の庭が床しいとて過去の藝術を摸倣する事が出來ようか。斯の如く一般の人々にはまだ十分庭園の理解を有せざる事が、庭園の進歩發達を阻碍してゐると思ふ。嘗て武田五

一博士が偶感として述べられた『常識に富んでゐる素人は常識に缺けてゐる建築家よりは都合のよい住宅を計畫することもある、趣味的分子の多い住宅のこと故、趣味性の多い素人が、その趣味性を滿足さす計畫を立て得るに不思議はないが、その科學的方面はどうしても建築技術者の手腕を俟たねばならぬ』住宅建築に於て然り、庭園に於ては更に常識と趣味性に富んでゐる人を要する譯で、その人にしてはじめて造庭術に入り易ひのである。彼の山縣侯の椿山莊や、有栖川宮樣の御自作と稱せられてゐる舞子御別邸（現住友家別莊？）の如きは好例であるが、之は賢明にして趣味に深き、宮樣、山縣侯なるが故にかゝる傑作を出し得たもので、その庭を見たる者は此間の消息を如實に物語つてゐる事を悟るであらう。

然しながら、近代的造園は獨り趣味と常識のみを以て出來得るものではない。庭園は近代文化の所産たる、科學を應用せる新興藝術を加味せる一大綜合藝術であつて、其の内容は極めて廣汎で、且つ複雜である、例へ其の表現は單純に見へても其の設計には農林、土木、建築、彫刻、美學等の智識も要するので、科學に根底を有する事は、敢て他の藝術に讓らないのである。斯の如く科學と深き趣味、常識によりて表現される藝術を從來の庭師によりて求め得る事が出來ようか。否古來の因襲による單なる出入商人に委ね得やうか。

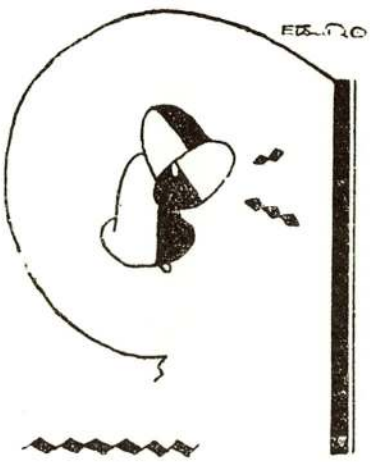
造園術と並行して發達すべき建築は過去數十年間に長足の進步をし、歐米技術者に敢て劣らざる程度の優秀なる技術家を輩出し、立派な建築設計事務所や、請負業者も多士濟々である。之を明治初年の鹿鳴館當時、外國技師の指導を仰いだ時代に比すれば隔世の感があらう。然るに一方造園方面に於ては未だ搖籃の域を脫せず、建築界に比すれば十年乃至二十年の遲延がある。近來その言論界には可なり論及されるものあるが、未だ優秀なる設計、施工に當る技術者と現代庭園に理解を持つ熟練なる職工を有せない。のみならず一般社會から理解され利用されてゐないのは遺憾である。我國の建築界が今日の如く長足の進步をなし一般社會から重用される樣になつたのは、一ッは建築構造、材料の變化に因るも、四十有餘年間絶ねざる建築技術者の努力の賜ものであつて偶然ではない。造園技術者も大に努力勉勵すべきであるが、其の手足となりて働くべき庭師の養成が更に一層の急務である、即ち適切なる智識と新技術を授けて善導し時代化せる庭師を養成する事が刻下の急務であり、新智識を有する造園家の責務であらう。

前述の如く建築と庭園とは相互に密接の關係を有するを以て完璧なる住宅を求めるならば、建築家と造園家との協調提携が必要であるのみならず、建築家は庭園を、造園家は建築を研究する必要が切實である。現代の建築家の中には庭園を研究し、現代的庭園の理想を理解して、その設計に應用して呉れる人が少ない。勿論造園家の内にも建築上の智識に乏しき事は更に甚だしくして、建築家の折角苦心の傑作をして破壞してしまふ造園家も頗る多い。これを過去に於けるそれ等專門大家の系統を視ても自ら判明せる如く眞の建築家は一面又造園家であり、眞の造園家は一面又建築家でなければならぬ

更に自分は施主と建築家に望むに住宅の計畫に際しては先づ其の敷地の置位撰定から一般配置圖の設計を造園家に委ねられたい、例へば與へられた敷地に對して主建物の位置（そ

れには玄關、勝手、座敷等の大體の方向も含む）門、前庭、奥庭、菜園等敷地の環境と施主の趣味等により立案せる配置圖である。その配置圖が決定して建築家が建物の設計を行ひ建物の設計が出來上つて、更に造園家が全庭園の實施設計圖を作製すると云ふ順序になる。勿論其の間に於ては施主、建築家、造園家の三者は同目的の爲めに相互に意見の交換を行ひ、協調を計らねばならぬ。從來多くの場合此の順序は兎に角く配置圖の作製もなくして直ちに建築設計のみで現場に建物の位置を決定する場合が多く、建物が建つた後では如何にも變更が出來ず悔を後日に殘す例を可成り見受ける。

要するに建築と造園との關係は如上の如く密接で完璧なる綜合藝術を完成するには、今後は兩者が一層理解に勉め協調して努力せねばならぬと共に庭園に理解なき施主や因襲と傳統とを事とする職工に對して善導して行かねばならぬだらう斯くしてこそ本邦造園界も建築界に伍して眞文化の建設に携はる事が出來得るといふものである。



住宅の簡易鋪裝法

小山九市

鋪裝の意義

苟も人や馬が歩く處何らかの足ざわりの良いものがなくてならぬ、これらは室内では疊や諸敷物類、屋外では敷瓦、アスファルト、道路では改良鋪裝といふ事になつてくる。故に鋪裝といふ言葉を簡易に解釋すると、足がさわる所の凹凸を均らして平滑なものにするといふに外ならない。

鋪裝の必要

鋪裝の意義が前述の如く明らかなる以上其必要は說く迄もない。現今我國が遲蒔乍ら鋪裝問題に目醒めて來たのは自然の勢である、然しこれは單に屋外道路に限られてあつた家屋に關係して言及せられた例を餘り聽かぬ。

即ち在來より家屋關係には例へば正面通路であるとか軒廻りであるとかは只形式的に鋪裝された事を見るが、中には大邸宅に貧弱な鋪裝がされて居つたり、小住宅に必要以上の高價な鋪裝がされて居つたりするのを見受くる事がある、是等は畢竟するに鋪裝に關する智識の缺如に基くもので着眼はよいが方法が拙いといふ事になる。

殊に住宅に於ては市街地道路の鋪裝の如く苛酷なる交通荷重がないのであるから、耐久力といふよりも寧ろ美觀乃至は周圍との調和といふ事が必要になつてくる、是等は現今の住宅に於て考慮されて居るかどうか予は甚だ疑はざるを得ない

高價な地上に高い工費を拂つて居を構へる以上希くば鋪裝すべき空地は悉く是を鋪裝して、四時の生活に家人が小供や下女に到る迄其れによつて享くる利益を遺憾なく享受する必要がある。

予は本文に於て一般鋪裝の種類を述べ殊に住宅に推奬すべき簡易鋪裝の種類と工法に就て述べて見たいと思ふ。

場所別に依る鋪裝の種類

(イ)家屋關係

室、廊下、玄關、庭、浴場洗場、流し場、ベランダ、テレス、陸屋根、諸通路

(ロ)道路關係

市街地人道、市街地車道、電車軌道、山道、坂道、府縣村道、公園道、遊覽遊歩道、橋面、軍道

鋪裝の受ける作用別に依る種類

イ、人……下駄、靴

ロ、畜……牛、馬

ハ、車……重量鐵輪車、輕量鐵輪車、重量貨物自動車、乘用自動車、市街地電車、速度、擊突作用

ニ、氣温……寒暑等

ホ、天氣……晴雨風雪氷濕等

ヘ、雜……車の集中作用、車が捩れて通る作用、撒水せる水の作用、塵埃、火災

材料別に依る鋪裝の種類

イ、無機質……石、煉瓦、セメント、特殊セメント、砂利、碎石、砂、土、硝子

ロ、有機質……天然アスファルト、油系アスファルト、木煉瓦、コールタール

ハ、屋内材料……リノリウム、疊、ゴム板、コルク板、木板其他のマット類

路名別によに鋪裝の種類

イ　前述家屋關係の鋪裝各種

ロ　石道……板石道、敷石(石塊)道

ハ　煉瓦道……普通煉瓦道、鋪道用熔固煉瓦道、敷煉瓦道

ニ　土道

ホ　水締め砂利道

ヘ　アスファルト道……シートアスファルト道、アスファルトコンクリート道、アスファルトマカダム道、アスファルトブロック道

ト　セメント道……一層式セメント道、二層式セメント道、鐵筋混凝土道、鐵網混凝土道、セメントブロック道

チ　タール道

周圍の建物別による鋪裝の種類

イ　住宅道

ロ　商業街區道

ハ　倉庫並に工場地帶道

ニ　ビルデイング地帶道

等であつて、路程は以上の關係を考慮に入れて撰定するのである。

鋪裝の備ふべき必要條件

イ　構築費が廉い事

ロ　牽引の容易

ハ　辷らない事

ニ　騷音を發せない事

へ　塵埃を發せない事

等は其條件になつて居るが住宅鋪裝に於ては是等を殆んど問題とする必要が無からう。即ち交通が苛酷でないから路體の寸法も小で濟むし、亂り、騷音、塵埃なども殆んど顧慮する必要が無からう。只住宅鋪裝としては周圍との調和、即ち色合が大切である。

鋪裝工事の化學

道路は種々なる材料で石を搗き固めたものである、故に鋪裝工事の化學は接合劑の化學研究にあると云つても差支へない、此の材料としては

一、廉價なる事

二、作業し易い事

三、水其他の破壞力に耐へ得ること

等を眼目としてゐる、それには現今に於ては專らアスファルトとセメントを使用して居つて、補強の目的で水硝子などを使ふ事がある。水及粘土も亦一の接合劑である。

斯く接合劑が決つてしまへば次は石の化學である、普通道路用石材として必要な性質は價格が廉い事は勿論の事、其他

一、靱軟性乃至硬度が高きこと

二、吸水量が少なること

三、接合價(Cementing Value)が高きこと

四、耐磨力耐火力が大なる事

五、形狀大さ粒子などが良く揃つて居る事

等を必要とする、然しこれらの要求は本式の道路としての要求であつて、住宅の鋪裝に於ては必要に應じて是等の要求を加味せなくてはならぬが、先づ一見して相當なる硬度と非吸水性があれば大概の岩石類は其使用に耐へる、只其要求點はやはり色合である、新奇を好めば好む程其撰出が困難であり且つ工事に手數がかゝる。

住宅鋪裝工事の注意事項

(イ)鋪裝する地盤が堅固であらねばならぬ

これは普通道路工事のやうに重い荷重を支へる基礎固凝土の必要が無く、只普通道路工事にやる表面磨滅層を單に地面におくのであるから、自然地盤を相當硬くして且つ上層が外力で龜裂や破壞を起さぬやう相當密着し得る下地を作らねばならぬ事になる。

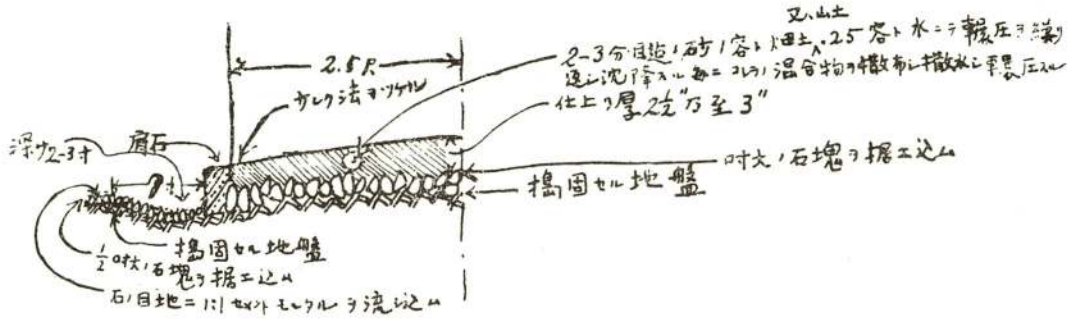
(ロ)路面が自然的に排水せられなくてはならぬ

即ち住宅鋪裝は正面玄關であるとか正面通路であるとか特殊の場所以外は常に掃除する事が出來ぬ、故に雨水の自然排水作用によつて常に美觀を保たしむる必要がある。

推奨する住宅鋪裝例

水締め砂利道

これは大阪の如きデルタに發達した都市又は川に近い田舍道によくある例で一例をいふと天王寺公園の市民博物館裏の坂道は只今はコールタールを表面に流して居るが其流さない前は此種鋪裝の好例であつた、今これを住宅に應用する場合工法の一例を左に圖解に依つて示したい。假りに鋪裝の巾を五尺とする。



第一図　水締ノ砂利道鋪装ノ一例ヲ示ス

兩側排水溝の寸法は一は鋪裝の巾との調和を保たしむる爲めに七寸としておいたのであるが要は排水と掃除にあるのであるからこれに限つた事は無い、半圓形或は弧形を擬んだのは竹箒を以つて容易に掃除し易い爲めである、⌴形常滑土管を使つても差支は無いが美觀はさて措いて第一掃除し易い爲めには餘程大なるを要するし又繼ぎ目の掃除が完全にゆかぬ缺點がある。

附近の土砂が雨天の時鋪裝面に流れ込む心配が無いなれば格別排水溝を設る必要はない。

本鋪裝の要點は砂利と粘土の配合と輾壓にある、重いローラーを使へば格別であるが、然らざる場合は蛸木にて充分締め固める必要がある、其時水加減が必要で餘り多過ぎてはならぬ、手で握る時漸く原形を保ち得る程度が佳い、輾壓毎に沈降するから次ぎ〳〵に此の配合物を補充して下駄穿きでも壞れぬ程度に充分硬めておく必要がある。肩石は輾壓の際土砂が崩れぬ爲めの土留めであるから餘り大きくする必要は無い。

市街地の水締め砂利道は永年に亘る交通車重によつて自然的に輾壓せられた鋪裝で、市街地道路としては缺點を持つて居るが、是を住宅に應用すれば頗る雅致に富むだ趣きを呈するもので、殊に兩側に青苔が生え初めると寧ろ莊重の感を與へるものである、在來より社殿の外廻りや外苑に應用されて居る。

タールの簡易鋪裝

不完全乍らも在來の水締め砂利鋪裝がある時これにタールを塗布すれば廉價で優良なる鋪裝が得られるのである、其方法は豫め施工部分の起伏、穴、波狀變形等を矯正しておいて天氣の良くなるのを俟ち、路面が完全に乾燥した時タールを豫め沸騰點迄加熱し置き且つ塗布の際自由に流れ得る爲めに出來る限り熱い間に於て塗布するので其加熱溫度は購入の際其品物の沸騰點を確めておいて其範圍内に於てするを適當とする、良好なる塗布用タールの一例を示すと次の如きものである。

國産蝙蝠印アスファルト規格

商品名稱	針入度 25°c 100gr 5sec ↓範圍	比重 25°c	引火點 開蓋式	熔融點 球環式	伸度 25°c 5cm 5/m	蒸發減 163°c 50gr 5hrs	蒸發減後針入度 25°c 100gr 5sec	二硫化炭素可溶性分（瀝青全量）	四鹽化炭素可溶性分（瀝青全量對する%）	固定炭素
(1) アスファルト										
5度	0－5	1.04－1.12	260°c＋	70－135°c	0cm＋	0.5%－	原針入度の70%－	98.0%＋	97.0%＋	28%－
10〃	5－10	1.04－1.09	250°c＋	65－80°c	5cm＋	〃	〃	98.5%＋	98.0%＋	25%－
15〃	10－20	1.03－1.07	250°c＋	60－70°c	10cm＋	〃	〃	99.0%＋	98.5%＋	20%－
25〃	20－30	1.03－1.06	245°c＋	54－62°c	50cm＋	〃	〃	99.5%＋	99.5%＋	18%－
35〃	30－40	1.03－1.06	240°c＋	50－54°c	80cm＋	0.7%－	〃	〃	〃	17%－
45〃	40－50	1.03－1.06	225°c＋	48－52 c	100cm＋	〃	〃	〃	〃	17%－
55〃	50－60	1.03－1.06	220°c＋	46－51°c	〃	1.0%－	〃	〃	〃	16%－
65〃	60－70	1.03－1.56	220°c＋	45－49°c	〃	〃	〃	〃	〃	〃
75〃	70－85	－1.06	220°c＋	43－48°c	〃	〃	〃	〃	〃	〃
90〃	85－100	1.02－1.05	220°c＋	42－47°c	〃	〃	〃	〃	〃	15%－
110〃	100－120	1.02－1.05	210°c＋	40－44°c	〃	〃	〃	〃	〃	〃
130〃	120－150	－1.40	210°c＋	36－42°c	〃	〃	〃	〃	〃	〃
(2) ブローン・アスファルト										
5度	0－10	1.03－1.07	210°c＋	80 125°c	0cm＋	0.5%－	原針入度の70%＋	99.5%＋	69.5%＋	25%－
15度	10－20	1.03－1.06	210°c＋	65－95°c	1cm＋	〃	〃	〃	〃	20%－
25度	20－30	1.02－1.05	200°c＋	40－85°c	2cm＋	〃	〃	〃	〃	19%－
35度	30－40	1.01－1.04	190°c＋	55－75°c	3cm＋	〃	〃	〃	〃	18%－
45度	40－50	1.01－1.03	190°c＋	50－65°c	5cm＋	〃	〃	〃	〃	18%－
(3) ミネラル・ラツバー										
5度	0－5	1.02－1.07	210°c＋	130－145	——	0.5%－	原針入度の70%－	99.5%＋	%＋	25%－
10度	5－10	1.02－1.06	〃	100－130	——	〃	〃	〃	〃	20%－

（備考）　上表中　＋……は以上　……－は以下を表はす

茨城縣助川驛　日立鑛山（久原經營）で大量生産して居る。

セメント混凝土鋪裝

普通の色の外に製鐵所の高爐セメント、ソリデチット等は稍白味がゝつて居るから顔料の配合によつて色々の色を出すことが出來る。

普通混凝土厚さ一寸の上に一吋乃至二吋大の碎石（凝灰岩御影石等の色物を使へば益々上等）の片面をよく磨いたもの二一三才セメント一才水五六升をよく捏り合はして厚さ一寸位一樣に下地の混凝土が硬まらぬ內に、且つ磨いた面が上端に出るやうに置いて行く、但し此際石の表面にセメントが附着しては折角の美觀を損ずるからよく水洗して硬化養生せしむる、良質のセメントを使つて施工を完全にしたなれば龜裂は起らぬが、然らざる場合は龜裂を生ずるから充分注意を要する大阪市

品種 / 項目	一號タール	二號タール
15°Cに於ける比重	1,225以下	1,24以下
水或はアンモニア水	重量1%以下	重量1%以下
170°C以下の輕油其他の蒸溜物	重量10以下	
170°C－270°C/蒸溜物(中油)	重量にて12－24%	重量にて10－18%
270°C－300°C/蒸溜物(重油)	重量にて4－12%	重量にて6－12%
フエノール又は原タール酸	容積にて5%以下	容積にて4%以下
ナフタレン	重量にて8%以下	重量にて5%以下
遊離炭素	重量にて22%以下	重量にて24%以下
ピスコシテイ又はコンシステンシイ	3－20秒	20－100秒
沸點	220°F－240°F	260°F－280°F

塗布量は鋪裝面の狀態に依つて異るが一般に一ガロンを五乃至七平方碼の鋪面に塗布すれば良い、塗布直後は清淨なる二分目以下細砂を極薄く一樣に撒布する。

我國各地の瓦斯會社で製造するタールは竪式レトルトに依りて製造せられるものが多いから遊離炭素が尠くて結果は良好である、タールを使ふ時には泡立ちが止む迄沸騰せねばならぬ、これは水分を除去する操作で品質を向上せしめる爲めである、又本品は引火し易いから安全溫度以上に加熱する事を嚴禁する。

アスファルトの簡易鋪裝

これは前述のタールの代りにアスファルトを用ひれば良いアスファルトにしてもタールにしても色は黑色であるが實際に鋪裝すると風化によつて褪色するから美感を損せぬのみならず芝草の青色と對稱して良く調和する色であるから住宅に於ける應用の範圍も廣い。

然し此等二者の鋪裝に當つては其場所の撰定がよろしくなくてはならぬ、予の考を以てすれば先づ廣濶で日當りの佳い場所を適當とする、流し場に應用する場合には本式の道路工事の如くアスファルトと骨材との混合物を以て丈夫なる路體を構成せしめなければ水に對して溶解し破損の虞がある、又アスファルト類は油類に弱いから自動車々庫等に鋪裝してはならぬ。

我國でのアスファルトの製造所は日本石油會社のみであつて蝙蝠印として普通に販賣して居る、今同所の製品の種別を擧げると次頁のやうであるが、普通の鋪裝工事用としては四〇度乃至五〇度程度のものが良好である。

アスファルトブロック鋪裝

現場でアスファルトを加熱する煩を避けて、豫め加壓成型したるブロックを買つて鋪裝するのであつてこれもアスファルト鋪裝同樣非常に美觀を增すものである、其方法は豫め準備せられた地盤の上に一、三、六混凝土を一、五乃至二寸置きそれが固つてからその上に三分通り一、二セメントモルタルを敷き均らし其上にブロックをたゝいて敷くのであるが普通は目地を用ひない、ブロックには種々なる形狀のものがあるから普通の燒物製タイルと種々混合して鋪裝すれば面白い配色を得られる、我國でのアスファルトブロックの製造所は重に

大阪市港區新炭屋町三一　ロックアスファルト株式會社

電肥後橋信濃橋間に使はれて居るソリデチット鋪裝は龜裂が起らないのを以て特徴とするから普通に使つて安心である。

セメントプロツク及タイル裝

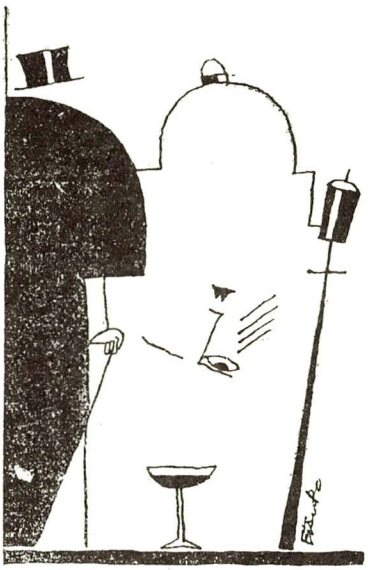
市内の百貨店の屋上鋪裝によく赤色タイルを鋪裝して居るこれは廉いからでもあらうが色合全體が周圍と對照して見てどうかと思はれる點がある、又燒物であるから自然色合と形狀とが不同になつてくる。自由自在の色合及形狀を出さうと思へばやはりセメントブロックに限るやうである、然るに普通セメントに於ては色合を加減する事が出來ぬ、故に廉く擧げやうと思へば白味の勝つたセメントを使ふより外に途が無い夫にはやはりソリデチット種か白色セメントに色々なる顏料を加へたものを使ふ外に仕方があるまい小野田セメントやソリデチット本社では此種のブロックを製作して居るから何時でも入手し得る、その張り方は前述アスファルトブロックに準じたらよい、それから先の技巧はブロックの形狀であつて或はクラインプラスター式の波形によるとか龜甲の組み合せを用ひるとかすれば相當なる美觀を保つ事が出來る。又模造グラニットの如きものを鋪裝に應用するのも一趣向である、要するに斯種製造工業は今後我國に於て發達されなくてはならぬと思ふ。

シベータイル鋪裝

これは白耳義で產する一種の乳色グラスでセメント若くは煉瓦の上にモルタルで張り付けるやうに出來て居る、我國での販賣所は神戸の小谷商店と聽いてゐる。千日前の活動寫眞館の外廻りに用いて居る、これは莊麗を極める鋪裝用に適するが何分にも硝子であるから辷らないとも限らないから鋪裝の際目地中を多くして、これで抵抗を取るやうにせねばならぬ。

以上は單に住宅に於ける簡易鋪裝法を羅列したに過ぎぬのであるが、今後我國に於て住宅の鋪裝が普及したなれば、住宅價値を增す上に於て利益する點が多からうと思ふ。

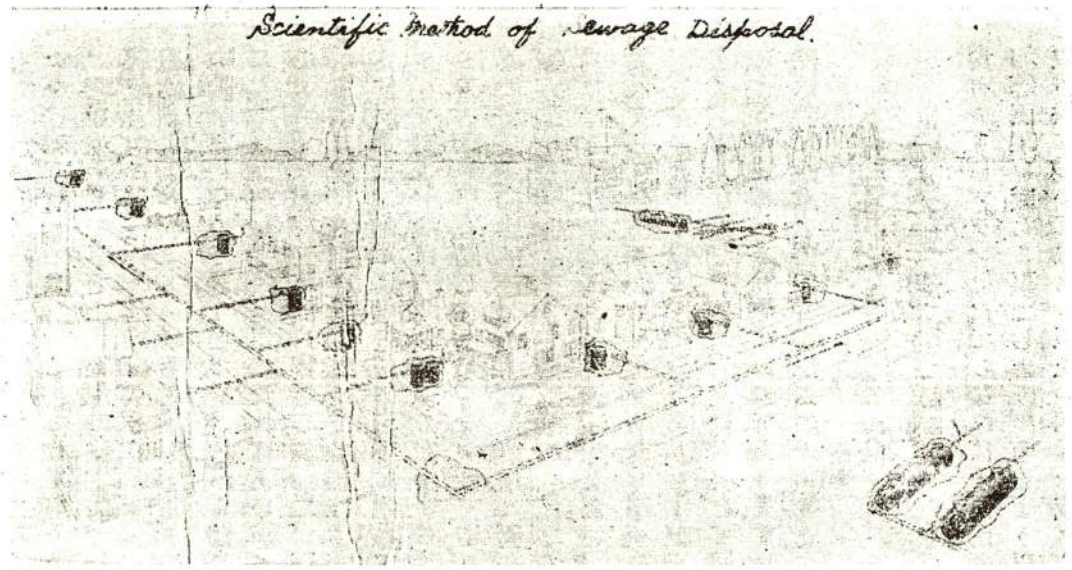
（大正十五年十一月三十日於大阪）



住宅に於ける汚物處理法

澤部實之介

汚物處理法の構成について大正十四年五月より四回に渡りまして吾が建築と社會誌上に發表致しました事は御存じの事と思ふのでありますが、住宅の汚物の簡單なる處理法、何人も實際問題に直面して居りながらこれが解決に相等の困難を感じて居る事でありまして、之れが有効にして簡單に經濟的にして實用的な即ち一斑的な家庭用の汚物處理法が出來得ますれば、眞に結構な事と申さねばなりません、今家庭用の簡單に出來る汚物處理法について記する事に致しました。而しこゝに述べます處の住宅に於ける汚物の處分方法でありまして、東京とか大阪、神戸、名古屋の如き府縣には各々水槽便所に關する處の取締り規則がありますから上記の府縣にては理論的又は實際上有効に物語る處分法がありましても、規則に於て定められた點に合致しない時は認められて居らない事を御了承願いたいのでありますから、こゝには主として住家に於ける汚物の簡單な處分法でありますから、規則に適合しない事がありますが、而し決して適合しないが故に不合理な物であると思ふ事は早計にも程があると申さねばなりません。此の點は特に御承知ありたい物であります、家庭用即ち小人數用として最も簡單に處分法の合理的な物が出來ますれば眞に結構な物でありますが、而しなにしろ一寸人々が手をつける事が困難であると云ふ事及び汚物であるが爲めに研究する事も餘り好まれていない事でありますから當然より以上の發達を見る事は困難であります。而し米國等では極め簡單な方法で、汚物を處理して居ると云ふ事を見聞せられて居ると云ふ事で協會の樋口氏も其の點を非常によい手段であると思つて居ると云ふ様な話しで、氏は米國に於て實地に於て其の結果を見て居られる事と信じます。御話の如く米國の住宅では極めて簡單な方法で處分をして居るのでありまして、實際實物を御覽になる時は、現在の我が國で行つて居る汚物處理法の複雜さを御知りになる事と思ふのであります。而しこれには相等の理由がありまして、總て前にも申しました所の水槽便所の取締り規則を程底として、工事會社が



施行して居る物でありまして、不便極まる事が住宅用の物としては起るのでありますが、米國の住宅等に於て置設せられて居る物は結構な物でありますが、而し其の全部を國土、風俗、習慣時に常用食物の異なる我が國に於ては一朝にして其の全部を受け入れる事は出來ないのでありまして、米國に於て多く用ひられて居る處のコースタンのセプテイクタンクの如きは、外觀と云ひ構造と云ひ申し分はないのでありますが、これを數年前我が國に輸入し、住宅用として其の設置を計つた會社があつたのであります、が研究の助らなかつた點もありましようが、全然失敗に終つた事が有るのであります。

以上の如く規則に依つて其の起源を持つて居る汚物處理法には、便所を水洗式にするとか、輕費が多くかゝる事、比較的廣い場所を要する等の不便があり、外國より直接タイプを取つた物には、實狀に況せられないと云ふ有樣でありますので、住宅向の簡單に出來る輕費の入らぬ汚物處理法について記する事に致しました、在來の處理法の住宅向でない點を列記する事に致します。

一　便所を水洗式にせねばならない事

住宅に於ける便所を水洗式にすると云ふ事は衛生的施設から申しますと、結構な事でありますが、決して　輕費の小額な物ではありません、水洗式とするためには水壓が大でなければならない、さすれば、ポンプ一式、水洗便所の一式工費を合しますれば少なくとも二百五十圓は入用で、決してこれでは滿足する點の物ではありません、その上に汚物處理法には三百圓は掛かゝるのでありますから、少なく共六百圓と云ふ物を要するのであります、かゝる輕費は決して住宅の便所としては安價な物でないと云ふので、コースタインのセプテイク、タンクが目論見せられたのでありまが、不成功に終つたのであります。

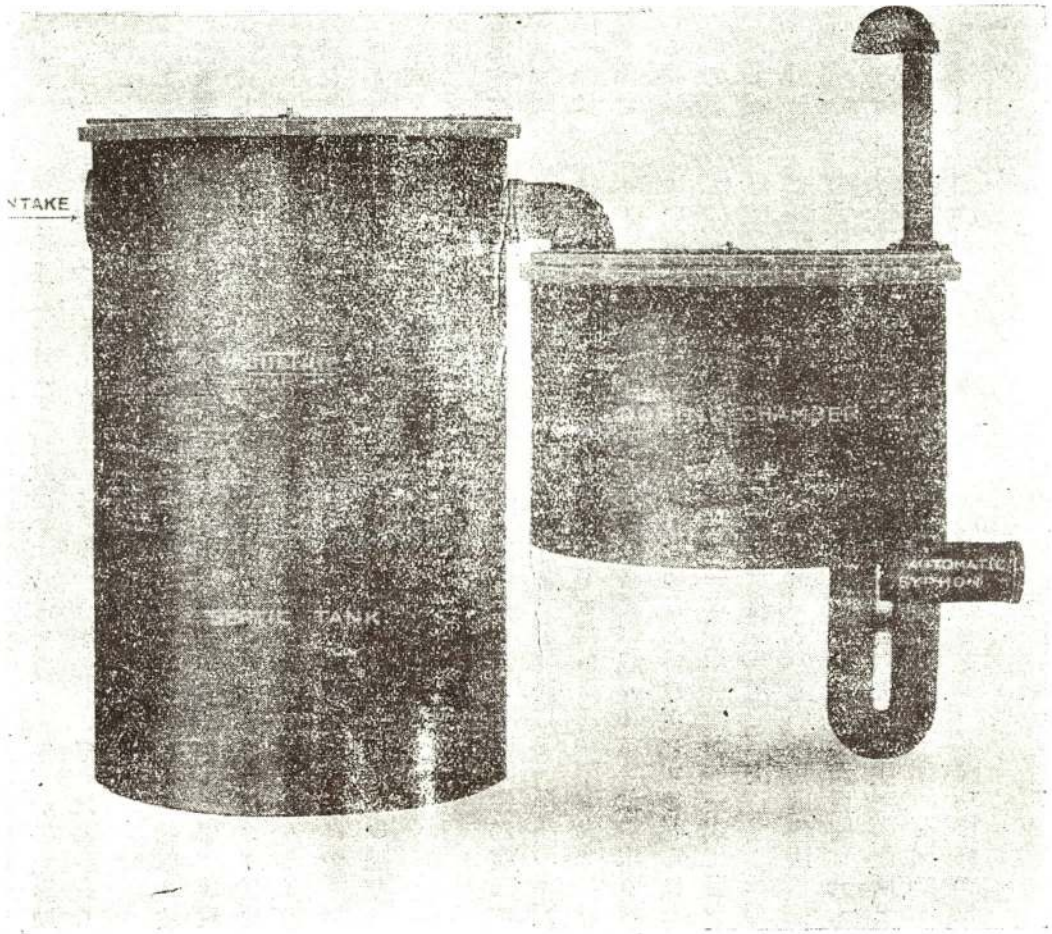
二　處理法に相等大なる面積と輕費のかかる事

申すまでもなく既製品を設置する物でなく、場所々々に依りまして設計せられる物でありますから、輕費がかゝる事で小人數用の住宅向としては實狀が之れに從わないのであります。

以上は其の一、二の汚物處理法の既設物に付ての決點を記したのでありますが、しからば、住宅用としては如何な手段を用ひたればよいかと云ふ事でありますが、一斑的に實行し安い二、三の例を示す事に致します、而しこゝに注意しなければならない事は、唯單に處理後の汚物が水に近い液體として出るが故に　其の處理の完全なる物であると云ふ事を早合點してはならないのであります導德的、公衆衛生的感念から起る事柄に對しては何等人をして又吾れをして不感なからしむる物でなければならないと云ふ事を御注意したい、自然に汚物を學理的方面から研究せられた事柄によつて、完全にせしめ樣とするのでありますから非常にデリケートな物で、試驗的反應も決して同一結果によりて表われる物でないのでありますから此の點は特に注意を要すると思ふのであります。

住宅用としての汚物處理槽の設計

貴君がもしプランをたてるなれば、便所の位置に相等困難を感じる事でしよう、而しより以上に汲取方法についてはより以上の困難を感じられる

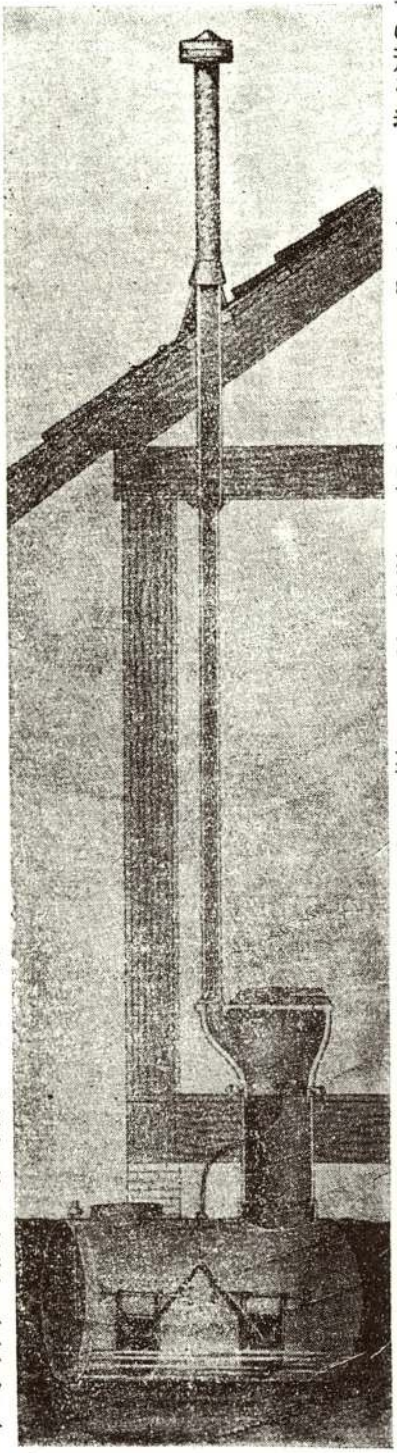


事でしょう、これは汲取便所に依る不便さでなければなりません。

而し其の時に水槽便所のある事に御氣づきの事と存じますでも、それには設備が簡單でないと云ふ事も御心づきになる事でありませう、水洗式でなく心よく汚物が處分出來る事が出來ますれば、これに勝る事はないのであります　でありますから水洗式便所と、在來の便所との特徴な點を取つて、ある一つの形を造りましたなれば、もつと簡單に出來得る事が出來ませう、水洗便所は、汚物を水送する一つの方辭に他ならないと思へば、在來の日本便所の汚物も、送水する方法はいくらでもあると信じられるので、現に洋式便所の不快さから和式便所の下方に針板(主としてガラス板)を設け、上方より撒水せしめて居る家もあるのでありますから、先づこれだけの事を考へて貴君は便所の設計に御掛りになるのがよいと思ひます。

A. 汚物溜は深くする事

B. 汚物溜は溶積を大にする事



C. 汚物溜には空氣を入れない樣にする事

D. 下水への放流迄に空氣氣に充分接せしむる事

G. 空氣酸化を充分にせしめる事

F. 消毒藥を用ひて消毒する事

(D. F. F. はいづれか一つの方法を用ふれば可)

E. 水を充分注入する事

容積を定める事には根底も入るしようけれど其の家庭の人數と、一人一日の排出汚物量を大約計算し、それに相等の外來人數を加へて其の二倍の(最少限度)溶積を計算して下さい

2×(家庭內人員+外來人員)×1人1日の排出量=X

Xは排出汚物の二倍でありますが、汚物は水の注加がなくては淨化致しませんから之れに水を相等加へてやらなければなりません、少なく其十倍以上の水を加へる事を要します、さすればXの二倍は汚物溜の容積が一日中の汚物排出及注加水量の二日分に相等する容積を有する事となるのでありますが其の理由とか結果と云ふ事は本誌の第八輯第五號以後に記載して居りますので御熟讀を願ひたいと存じ、こゝには再記す

る事を致さない事にしました。

空氣酸化の方法は、碎石上に點下せしむる樣にする方がよいと思ふのでありますが、要は長時間空氣に接せしむると云ふ事に他ならないのでありますから、御自分で御考案下さい。

消毒藥を用ひる事は眞に結構で、これに依る處分法は、今更らしく申す迄もなく、又溶積も其の日〳〵を處理出來るだけの物であればよいと思ふのであります。

活物處理法の二要件

一、空氣配代を行はしむる事

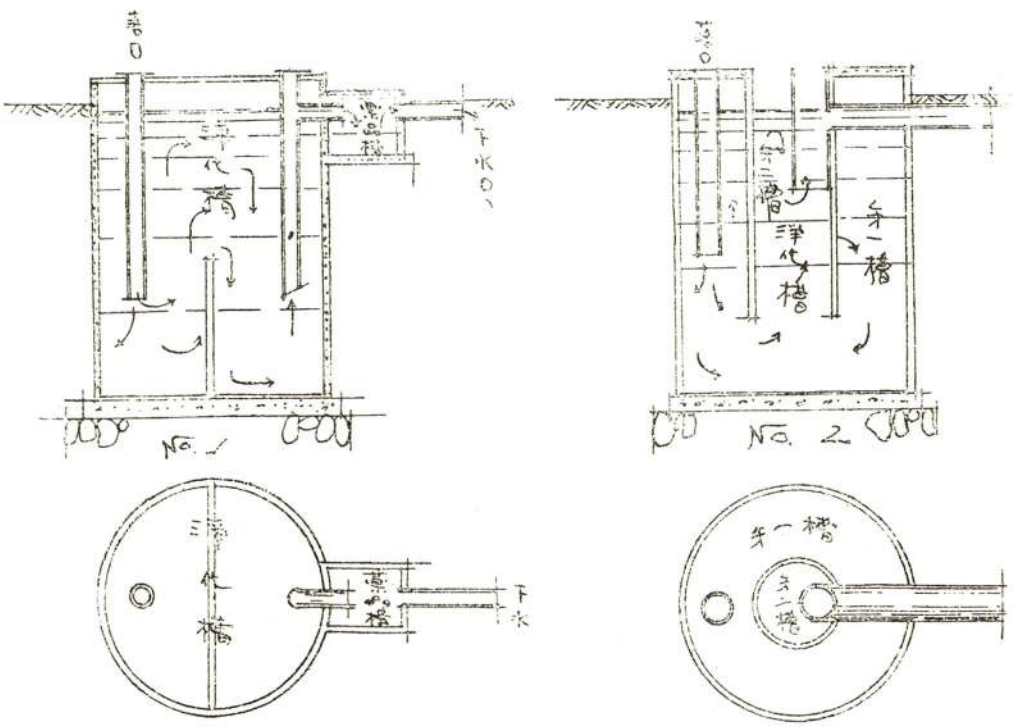
二、水中配代を行はしむる事

貴君は先づ汚物の水中に於ける處理(分散寸法)と空氣酸化、即ち空氣に接せしむる事に全力を注入して設計された物でありましたなねば決して辱ずるにたりない物が出來上りませう

住宅に於ける活物處理槽

(米國に於けるもの)

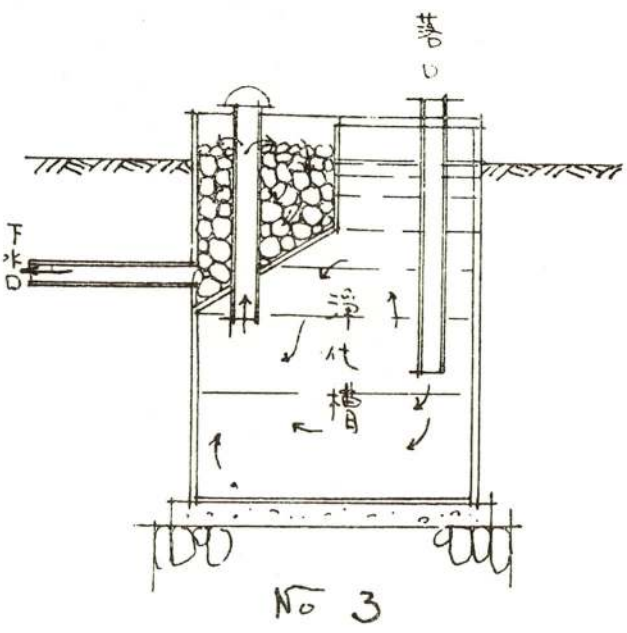
ブリントに示す物は、コースタインのセプテイツクタンクでありまして到極簡單なる物でありまして、槽は特種鐵材即ち隣酸銅の合金鐵材よりなつて居りますから、酸類に對して安全でありますから腐る樣な事はないと申されて居るのであります　而し之れにはハンドルの付いた物で使用後汚物をまぜるものがあり、又藥品にて處理を主とした物があるのであります　其の細部の點に關し說明を要するのでありますが、特種構造法に依るパテントを有する物でありますので、其の一二の例をブリントに依り示す事に致しました、これなれば眞



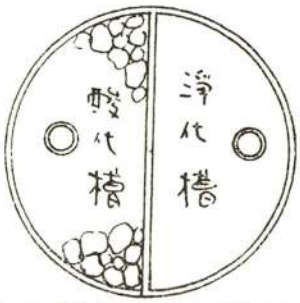
に結構な物で、床下にても置く事が出來る樣でありますから住宅用の汚物處理法としては申し合せのない物で此の種の完全な物の考案せられる事を願ひたく存じます

住家に於ける活物處理槽私案二三

色々な特長を思ふと全部が複雜な物となりますから極めて簡單な物で經驗を得た物及自分が造りたいと思ふ二、三、無論經費のかゝらぬ物、施行の簡單な物、場所を要しない物、水洗便所に非ざる便所にも設置出來る物と云ふ狀件が具備出來る事が出來ますればと思ふのでありますが、理論的によくとも實際には、合理的でない場合が多い物でありますから一概に申す事は出來ませんが、簡單に施行出來得る物の二、三を列記する事に致しました。



No 3



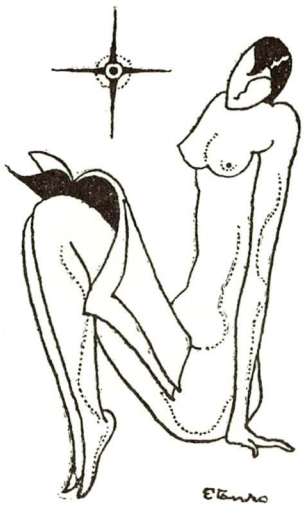
直徑三尺前後のコンクリート井戸側二段積とする時は高さ五尺位の圓塔形槽を造る事が出來ます、底部は持論コンクリート打としまして內部は全部防水モルタル塗り、汚物落口用圓塔は徑三寸から四寸鉛管又は、水洗式便所の設備のない場合には燒過ぎ徑八寸位の土管を使用する事も一つの手段です、中央の間仕切板はコンクリート製で槽の長深の約半迄の高さを有せしむる事、送入の管の下場は間仕切板の頂物よりや、下方に開口せしむる事とする藥品槽への送水管は徑四寸位の土管を使用して、圖示の如く適當に取り付ける事とするので溶積は申す迄もなく、人數の多少に依り深さを增加さすのですから、心配する程の事もなく、汚物の腐敗分解を行はしめる事に心掛け、水洗式でない場合は面度でありますが一日中に排出する汚物量の十倍の水を加へてやる事に心掛ける樣にすれば、藥品にて適當に消毒放流する物でありますから安全な物で藥品は消毒し得らる物でありましたなれば如何なる品でもよろしいが、一度其の藥品の殺菌力について豫備智識を得る事も必要でありませうが、藥品は固形物とし投入するなり、又は點下法に依る等其の場合に適した物であればよいのです。

第二の場合は第一の場合と全く同じ材料を使用すればよいのでありますが圓塔の中仕切を設け第一槽と第二槽に區分し第二槽内に丁形土管四吋物を取り付けて下水溝へ放流するのでありまして、中仕切りは徑一尺燒過ぎ土管を下場は槽底より一尺前後上りとすればよいのであります、落口管は前同樣土管なり、鉛管を使用するのがよいのでありますが鉛管を用ふるに增す事はないのであります。

第三の場合は淨化槽内で腐敗分解せしめた汚水を酸化槽内へ遊導して空氣酸化を行はしめんとする物でありまして、槽内の一小部分を區切りをして、酸化槽とせしめた物でありまして、これには藥品に依る殺菌は施さない物でありますから手數も省略する事が出來る物であります。而しいづれも水槽ではありますが水洗式ではないのでありますから常に水を適當な法によつて注加する事を忘れてはならない、又注加水量も一定量を一定時間毎にする事が必要であります。

これは唯井戸側と土管を利用しました安價な汚物處分法でありまして、住宅向の設備としては充分事たる物でありまして適材適所煉瓦を使用するか、又はコンクリート造りとなすか其の施行の利便な物を選定する樣に心掛けましたなれば、決して汚物處壞槽の設置は高價な物でもなく多くの設備と手數を要する物でもないのであります。

最後に一言致しますが汚物處理槽は自然淨化により消毒殺菌を完全に行ふ物でありますから、唯單なる汚物の濾過と混同せられん事を又、汚物の濾過は何等衞生的價値を有しない迄もなく、これが放流はついに人道上由々し丁問題である事を御諒承願ひたいのであります。



住宅建築衛生の話

伴　秀雄

建築衛生とは保健上建築に關する範圍のものを云ふので照明、暖房、換氣、給水及排水を包含すべきであるが現今一般に建築衛生といへば給、排水に含まれる諸設備即ち給水、給湯及排水設備竝に汚水淨化裝置などを云ふのである。

水は生活の全體であると云つて過言でない樣に人類生存上寸時も之れと交涉を絶つ事は出來ないのである、從つて建築衛生設備も他の諸設備と共に生活事實の欲求によつて科學が實際化され殊に住宅において此方面に生活改造が窺はれる樣になつた。

上水道の設けられてある土地は別として住宅地が選定され建築の「プラン」が出來ると第一に鑿井に取りかゝるものである、其の湧水面の高さ地盤下三十尺內外の點を限度として淺井戶、深井戶に區分する、これは勿論旱天の續いた時に測つて定めねばならぬ。

淺井戶の場合は總べての種類の喞筒が使へるが深井戶においては「ピストン」喞筒の一種で特に「ピルトン」部分を所要の位置まで下げ得らるゝ樣になつてをる深井戶用のものを使はねばならぬ。

給水方式から考へると屋上又は「アテック」に水槽を置くか所要の高さの水槽塔を設けて其の落差の壓力を利用する重力式か又は密閉槽に貯水し其の槽內の空氣を壓搾して貯はへられた力で給水する壓水式かの何れかによらねばならない。

重力式の場合は特に喞筒の種類を選ぶ必要はないが、壓水式即ち「プレッシャータンク」の場合は貯水された水に「タンク」內の空氣が溶解され水と共に幾分づゝ外部に漏出して行くので之を補ふ必要がある、よつて之に對する特別の裝置のないものだと別に空氣を補給する喞筒を設けなければならない、「ピストン」喞筒に此空氣を補ふ裝置を備へたものが考案されて居るが「マイヤー」の自働給油式喞筒などは之れに適する一つである。

壓水式は高いところに目障りな水槽塔などを設ける必要もなく、夏冷冬暖の水が使へる特長があるが、たゞ壓力が常に移動し水栓の開閉に不快があり又噴水などの一定壓力を要する場合は特に「プレッシャー　レジーシング　ヴァルヴ」を挿入しなければならない。

喞筒運轉動力として住宅には電力を使用するのが最も便利

である、電力は普通交流を供給され其の内一般電燈電熱に使用される單相の百「ヴォルト」のものか三相の二百乃至二百二十「ヴォルト」のものかであるが、三相が簡單に引込み得る場所であればこれによる方が電働機も安價で殊に經常費の電力料が非常に經濟であるいづれにせよ自働運轉方法によらねばならぬが此裝置即ち自働「スキッチ」を、壓水式では「フロートスヰッチ」を使はねばならない、自働「スキッチ」は給水設備を支配して居る重要な部分であつてこれが不完全なため斷水をしたり且つ高價な電働機まで燒いて破損してしまふことが間々ある、又これ位種類が多く價格の高低の甚しいものも少ない、價格は高いが米國の「カットラハンマー」會社製のものは安心の出來るものである。

使用水量の一人當りは文化の程度の進むに從つて多くなるものであるが、まづ一人當り一日七立方尺以上は見込まなければならない、又電働機の一日における延運轉時間は五時間內外が適度である、次に水槽の容量は使用水量の一時間分位は必要である、其の材料は鐵板製に「シンキング」法の亞鉛鍍を施したものが最も良く、なほ防寒のことも留意しなければならぬ。

衛生器具などは需要者の趣味個性により何かと注文選定されるが、建物の內部に隱れる配管は專門的になる關係上幾分注意が薄くなる傾きがある、この配管材料は亞鉛引鐵管又は鉛管であるが上水道設備のある都市では夫々材料の規格があり又檢査もあることなれば差支へないが自家用においても少くともこれに近い材料を吟味しなければならない、亞鉛引鐵管は種々あるが米國「ナショナル　チューブ」會社製の品が最も良く、これに用ゆる接手類は國產品としては戶畑鑄物會社の瓢簞印などが先づ確な樣である、この鐵管類の亞鉛鍍は必ず「シンキング」法によつたもの俗にいふ天ぷら鍍金を施したもので電氣鍍では効力がない又鉛管は高壓に耐へる給水鉛管でなくともせめて雜用鉛管位を用いねば不安心である。

配管の系統について主管には勿論「ヴアルヴ」を用ゆることは當然であるが各技管にもその部々々に出來るだけ「ヴアルヴ」を設けて修理に便ならしむることは必要である。

給湯設備においては「キッチンレンヂ」に「オーターバック」を結合して溫水源とする方法もある、又煖房の熱の一部を利用するも一策ではあるが、これでは夏季の用意としてやはり單獨の「ヒーター」を設備しなければならない。

石炭を燃料として單獨の「ヒーター」を設ける場合でも必ず「ストレーヂタンク」を中介として配管しなければならぬ、給湯箇所が散在して居る場合は配管方式は送管と戻管のある二管式によるのが最も當を得て居る。

極く少部分のみの給湯には瓦斯及電熱を利用する方法もあるが電氣においては現今動力としては結構であるが熱としては未だ電力料が餘り低廉でない故不經濟である。

使用量の少ない場合などには瓦斯の瞬間湯沸器を使用するのも便利な設備である。

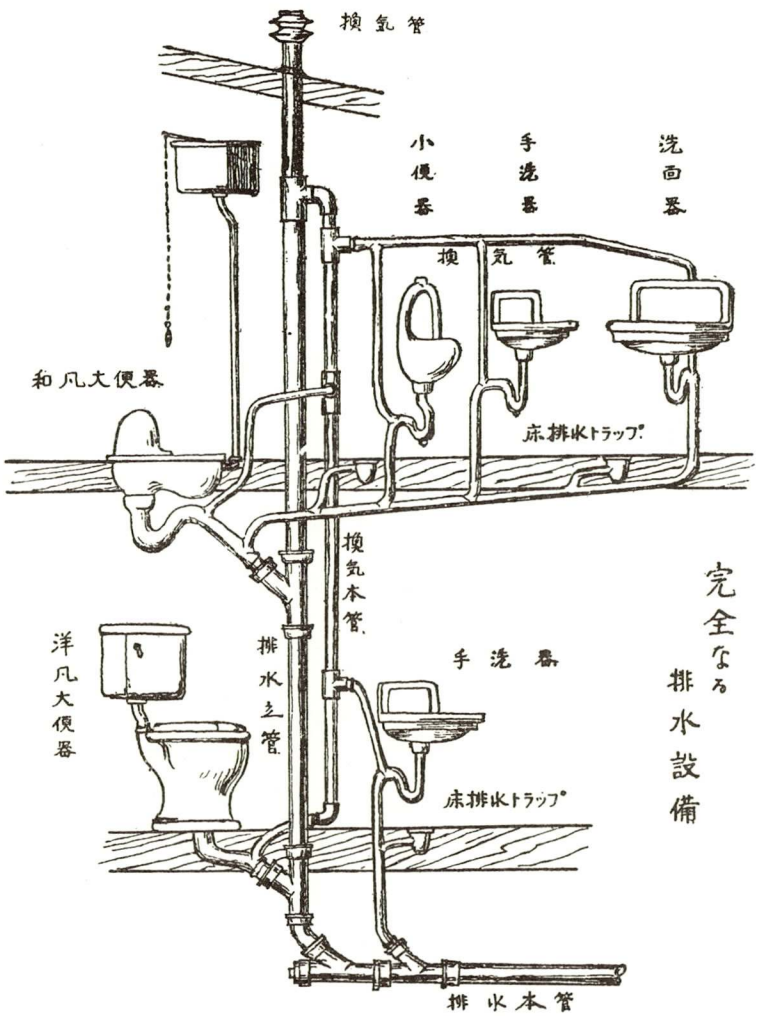
水栓類は種々なる種類があるが現今一般に多く使用されてゐるのは「コンプレッション」式のもので外形は其の用途により竪型、橫型、首振り又は下向き等がある、これ等は舶來品は非常に高價であり又和製品は外觀、材質、機能において感

心出來ないものが多いが此頃「ヤンソン」製作所で製造される「パイロット」印などは先づ和製品中でも舶來品に匹敵する優良品であると思はれる。

衞生器具は使用者の趣味嗜好により幾分要求を異にするものであつて各製造所が各種各樣に製作してゐるが陶器類はまだ外國製のものを凌駕するには至らぬまでもまづ似寄つた品を東洋陶器會社などで製作して居る、歐米では衞生器具の組合せ品即ち陶器や琺瑯引鐵器にこれに附屬するすべての金具類を組合せたものを需要者に提供して居るが我國にはこれまでそれがなかつた、然るに最近「ヤンソン」製作所で自製の金具類に東洋陶器會社製の陶器類を組合せて「パイロット」衞生器具といふ名稱を付し市場へ出して居るがこれは需用者に取つては材料の選擇に頗る便利なものであり又施工者においもそれ〴〵器具に適當する附屬品即ち「ブラケット」木捻の樣な些細なものまで取揃へてあるから非常に都合のよいものである。

大便器で洗滌用に「フラッシュヴァルヴ」を使用するのが現今一種の流行になつて一般に要求される樣であるがこれはその機構に頗る「デリケート」な部分があるので給水に相當の壓力があり且つ上水道の樣な完全に濾過された水を使用する場合は格別として自家用水道即ち地下湧水を其儘使用するものには水中に微細物が含有されて居て充分に其能力を發揮せず兎角故障勝ちの不快を感ずるのでこの場合には寧ろ和風大便器には「ハイタンク」洋風のものには「ロータンク」を使用する方が安全である。

衞生器具と排水管との結合部にある「トラップ」は排水系統内の臭氣が建物内に侵入するのを防止する重要なる部分であ



完全なる排水設備

つてこれは又換氣管を備へて一層其の効力を發揮するものであるが、間々この換氣管を等閑にしたために「トラップ」の「オーターシール」を破られ其の効力を零にすることがある、殊に床洗ひ水を排除する床「トラップ」にはこの故障が起き易いのである。

洋風大便器においては「トラップ」が便器其のものに作り出されて居るが和風大便器や小便器には「トラップ」が付いていものが多いため別に鉛製か陶製の「トラップ」を取り付ける必要がある。

小便「トラップ」は決して「ニッケル」鍍のものを使ふものではない、これは直ちに尿のために侵されて錆を生じ變色するからであるがそれには陶製のものを使用するのが最も感じがよく又爲めにもよい。

洋風大便器には「オッシュダウン」型と「ジエットサイフォン」型のものとが使はれて居るが「ロータンク」などには後者を用ひたい、小便器に竪型のものがあるが住宅には瀟洒な感じを殺ぐ樣で面白くない。

洋風大便器にはこれまで便蓋のついた丸形の「シート」が一般に使はれたが近頃は段々便蓋のない前割れの馬蹄型の「シート」が多く使はれる樣な傾向がある、艶消しの黒漆塗のものなど特によい感じがする。

歐米では一般に便所に手洗器を付けぬ習慣であるが日本人の性質上便所には必ず手洗器を設けるが普通である、然しこの手洗器は成るべく小型のものが調和がよく且つ餘り大きいものゝ必要もないのである、又洗面器であるが日本人の多くは洗面鉢の中に痰を吐くのを嫌ふために和製のものにはこの要求から洗面器の隅に痰吐鉢の付いたのが出來て居るがこれには塵止の裝置がないためよく物をつめたりすることがあり衛生上からも餘り感心せぬものである。

臺所用の流し類にも舶來品には琺瑯鐵器のものが種々輸入されて居るが陶器製の流しを適當に木製臺に仕組んだのもかなり具合のよいものである、又洗濯用の「シンク」なども種々あつて用ひ所により便利なものとされて居る。

浴槽は舶來の船型、箱型などがあるがこれは餘りに日本人の生活狀態に懸け離れがあるのでやはり日本式に箱型の深いものを木材や石材などで作つて居るのが多いが最近この箱型の深いものが陶器で出來て居て非常に感じがよろしい、この陶器に關聯して申すのであるが便所の「ペーパーホルダー」や洗面所の石鹸入れなども陶製のものが出來て居るが壁厚さへ許すなれば體裁からも耐久からも至極よいものである。

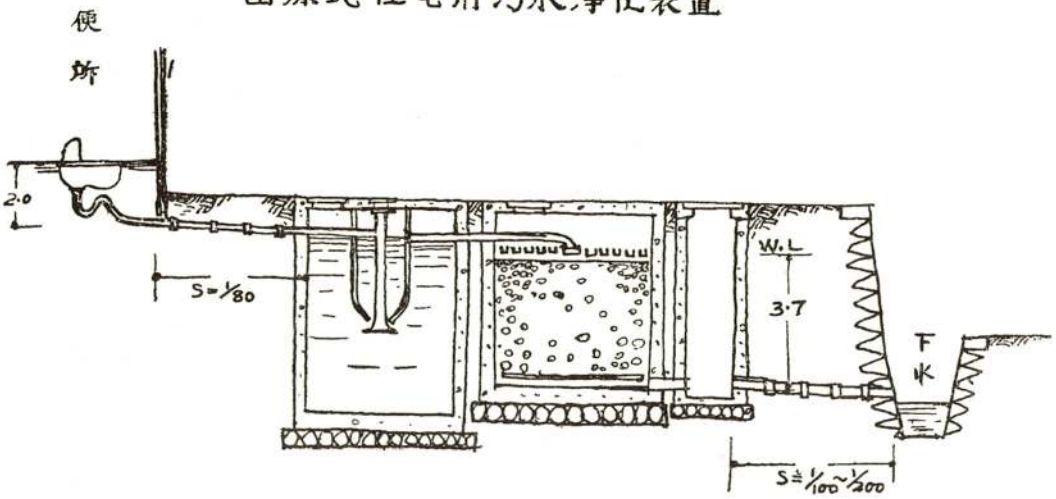
排水管の材料は主として鑄鐵管及鉛管を用ふるが屎尿の通らぬ雜排水管や換氣用の一部には亞鉛引鐵管を使用することがある、鑄鐵管も鉛管も一般に排水用には管徑の大小に拘はらず一樣に薄いもので足りる樣に考へられて居るがこれは大きな誤りで給水管同樣隱蔽して敷設されるものであり殊に便所汚水の排除管などは故障が起ると全く始末の惡いものであるから設備する時から耐久力などを充分考慮して置く必要がある、鑄鐵管は上水協議會規定の低壓管に準じ鉛管は次の厚さを有するものを標準としたものでなければならない。

內徑一吋乃至三吋　厚八分ノ一吋
內徑三吋半乃至四吋　厚三十二分ノ五吋
內徑五吋乃至六吋　厚十六分ノ三吋

換氣管は内徑一吋乃至四吋までは厚さ八分の一吋で宜しいと思ふ、なほ施工上のことであるが鐵管と鉛管とを接續する場合には必ず眞鍮製の「ソリダリング　ニップル」を用ひ決して鉛管を鐵管に直接半田付けすることは避けねばならぬこれは給水管も排水管も一樣である。

水洗便所から排出する汚水を人畜に無害なる狀態に淨化せしめて下水渠や河川に放流する裝置を汚水淨化裝置といふのであるが東京始め京都、兵庫、愛知、廣島などの各府縣では水槽便所取締規則として取締られ居る。

西原式住宅用汚水淨化裝置



都市下水の如き極く多量の雜汚水の淨化法としては種々機械的操作のあるものも用ひられて居るが住宅などの小規模のものに付てはこれが管理上に繁雜な手數を要することは實際上不可能なことであつて一度設置した上は殆ど手數のかゝらず又其作用が恒久的のものでなくてはならぬ、これには所謂黴菌的處理法によるより仕方がなく各府縣の取締規則も此原理を基として起案されて居る、黴菌的處理法とは汚水が一旦空氣と光線とを遮斷したる腐敗槽内に滯留する間に汚水内に發生する嫌氣菌の作用により固形體を分解し液狀に消化された後これを次の槽即ち酸化槽に導き此處では前の腐敗槽とは全然異つて新鮮な空氣が不斷に送入される裝置になつて居て液化汚水が此處を通過する間に好氣菌といふ別種の黴菌作用により無臭無害なものに淨化され下水又は河川等に放流するも差支へない樣になるのであるが、此原理により種々の方式の淨化裝置が行はれて居るが住宅用として特に考案された西原式住宅用汚水淨化裝置などは其の要求に適應し淨化効率の最も良いものと認められる(圖面參照)

淨化裝置を設置する場合には先づ第一に排水の關係を考慮せねばならぬ今便所からの汚水管の管底の高さを地盤下七寸とし汚水管には淨化裝置までの距離の八十分の一の勾配を付け其次に淨化裝置の水面と排出口の管底との差は最低三尺五寸を必要とする淨化裝置から放流場所までの排出管の勾配は百分乃至二百分の一で差支へないこれで便所から放流場所ま

での所要落差が出るのであるが放流場所の水面がこれより高い場合には是非揚水裝置を設けねばならぬこれには喞筒によるもの、水壓にて汲揚するものなどあるが自働「スキッチ」を備へた喞筒を用ふるのが一番よいと思ふ、喞筒は渦卷喞筒か「ピストン」喞筒であるが渦卷喞筒を使用する場合は特に「シャフト」は砲金製のものでないと壽命が短くて不利益である

淨化裝置は住宅地などで一集團或はそれまでに大規模でなくとも二、三軒又は四、五軒分の汚水を一ケ所の淨化裝置に集合して處理する事は經濟上からも又管理上からいつても非常に有利であり其上淨化裝置は少量のものよりも多量のものゝ方が淨化効率が宜いのでこの方法は頗る面白い案と考へる

すべて設備工事は配管や其の他の機械裝置に無理の出ぬ様にしなければならぬ、又これ等外觀の無味乾燥なものが遠慮なく室内に現はれ美觀を損することも充分考慮せねばならぬ從つて場所により出來るだけ「パイプホール」を設けて收容することは體裁もよく又修理などにも非常に便利である。

家庭用ポンプの種々

私は機械が専門でありませんから、むつかしい事は御話し出來ませんが、建築に關係して居るので時々ポンプの設備や故障に就て相談を受けますので、家庭用ポンプに就いて、簡略に要點を說明したいと思ひます。

一般にポンプでありさへすれば、水は揚がるものであると、信じて居る方が多いようですが、淺い井戸と深い井戸とは働き方の異つたポンプ、即ち淺井戸には淺井戸用深井戸には深井戸用ポンプを使用する必要があるのです。最も深井戸用は淺井戸にも利用は出來るが、無理に使用する必要は無いのです。

淺井戸に使用さるゝポンプの種類に大體次ぎの四つがあります。

一、セントル、フユーガル、ポンプ
二、ダルマ、ポンプ
三、ウイングポンプ
四、吸上ポンプ

淺井戸ポンプは何れもサクションによつて、水を揚ぐるので理論上からは卅三尺迄上る事になつて居りますが、色々な故障の爲に實際には廿五六尺以上は困難ですから、夫れ以上深い井戸には即ち深井戸用ポンプを使用せねばならないのですが、三十尺もある井戸に時々淺井戸用ポンプを取付けて水が出ないと苦情を訴へる方がありまず。

淺井戸用ポンプは、近來非常に發達進歩して、値段もかなり低廉で、取付方も極めて簡單ですから、一寸氣のきいたポンプ屋に依頼すれば、面倒もありませんが、只送水管を鉛か又は亞鉛鍍金鐵管にする事が肝要です。深井戸ポンプに就いては相當に心得て置く事がありますので少しく自分の經驗を述ぶる事こします。

深井戸ポンプは大體サクションが二段になつて居るので、百五十尺位迄の井戸には大丈夫ですが、夫れ以上のものになると相當頭のある專門家に相談する必要があるようです。

又普通の深井戸ポンプでは、ポンプの位置から水面迄が淺井戸ポンプと異なり垂直でないと、サクションが二段に働く事が出來ないので、若し垂直に鐵管をトげる事の出來ない場合は、コンプレツスド、エーアを利用したエーアリフトと稱する設備をせねば水を揚げる事は困難です。此の方法は温泉場等にてよく利用する方法で極めて科學的なものです。

家庭用深井戸ポンプの設備は、東京市外の樣な水面の深い地方では、大變に必要なものですが、其の設備と取扱方法が普及して居らない爲に、郊外住宅の過半數はかなり幼稚な方法によつて水を揚げて居ります。

深井戸用ポンプの構造は單一ですが、製造家によつて色々な形と名稱がありまず、併し私は外國製ではマイヤー、日本製ではダイヤモンドと稱するのを使用する事にして居りまず、臺工學士は前記のダイヤモンドポンプに、私の要求に應じて近來小形のプレッシア、タンクを取付け、更に同氏獨特の極めて小形の自働スヰツチを配置して、小さいモーター一で深井戸の水をタンクの內に送入して、空氣を壓搾して其の壓搾された空氣の膨脹力に依つて、所要の箇所に給水する裝置を井戸共に僅に一坪の小屋の中に納め、しかも二尺五寸に六尺の面積を有する洗濯場を、其の小屋の內に設くる樣工風しました。

深井戸用ポンプ、マイヤーもダイヤモンドも、電氣によつてモータを動かし、タンクに水を入るゝのですが、兩者共に停電した場合はハンドルによつて、水を揚ぐる事が出來、又電氣の無い地方では

自動自轉車の發動機と同樣なもので、ガソリンで水を揚げる事が出來ます。之れは火事や地震にて停電せる場合に便利です。

モーターを使用するならば、是非自働スヰツチを利用し、密閉せるタクンを作つて、此のタンク内の空氣を壓搾して給水する樣に設備せば、水道の無い地方にても自由自在に水を使用する事が出來て甚便利ですが、モーターを取付けて高い處にタンクをあげて、水の重力によつて給水する方法は今日では聊か幼稚な方法であります。

普通五六人の家庭で、井戸の深さが四五十尺で、平家に給水する場合は、ポンプはマイヤーでもダイヤモンドでも極めて小形のもので澤山です、又モーターも三分の一馬力位のもので澤山ですが二階に迄給水するには、二分の一馬力のモーターか必要の樣です。

タンクは幾分大きい方が便利ですが、澤山に水を使用せぬ家庭では直徑一尺二寸、長さ三尺位ある圓筒で十分ですから、此の裝置は非常に狹い處にでも取付ける事が出來ます。

モーターは普通動力線を使用するのですが、小家庭では電燈線モーターを使用すると、最低料金が少いので、幾分經常費が少くてすみますが、其の代り電燈線モーターは動力線モーターより多少高價です、又電燈線モーターには反撥式と、分相式と二樣あつてポンプには反撥式でなければ不都合です

壓搾空氣を利用するタンクの事を、プレツシア、タンクと申しまして、之れは冬暖かい水、夏冷たい水を要求する場合に、地中に入れて置く事が出來るので、大變贅澤なものです、又プレツシア、タンクは普通のタンクと異なり、高い所に置く必要が無いので建築美を損する事なく、又比較的新鮮な水を飲む事が出來ます。

自働スヰツチは、タンクに水が無くなると、働自的にスヰツチが働いて、モーターを回轉せしめ、水をタンクに送入しタンク内の空氣を壓搾するので、壓搾されたる空氣の膨脹力によつてある壓力を有する水が流しなり洗面器なりに出てくるのですが、此の壓力を少しく高くして置くと、消火栓を作る事が出來ます、此の方法の消火栓は郊外住宅には必要な設備です

舶來の自働スヰツチはかなり高價なものですが近來非常に改良を加へた日本製は三十五圓位で販賣して居ります。

然し水の使用程度によつては、プレツシア、タンクを裝置しても自働スヰツチを設けずして、臺所内に普通のスヰツチを取付け、必要に應じてタンクに水を滿たす方法もあります、目的によつては便利であり又故障も少いものです。

私は近來郊外住宅に澤山に此の自働給水裝置のポンプを取付けて見ましたが、どうも一般機械に對しての常識が豫想外に少い爲めに實に屁の樣な故障に對しても大きな苦情を聞かされ、日本のポンプ屋に少からず同情して居ります、あれでは安い文化設備もあり供給する事が困難だらうと信じます。

此の外給水裝置に、面白いものがあります、日光とか輕井澤とか或は千葉縣地方の樣に吹抜き井戸のある地方で、水の落差が二三尺もある處では、其の落差を應用して落差の約廿倍の高さに簡單なる裝置で經常費無しに、流れ落ちる水量の約三分の一を高い處にあるタンクに間斷無く滿たす事が出來ます。

此の機械をハイドロリツ、クラムと申して、鑄鐵製の極めて簡單なもので、家庭用のは僅に三四十圓で灌漑用に使用する大形ですと約千圓位致します

山の別莊や田園生活者などには頗る妙と思ひまして、一寸紹介して置きます。

（山田醇氏）



洋風小住宅の室内裝飾

永山美樹

凡室内で造作や家具電燈器具、窓掛の形などは設計次第で種々面白い事が出來ますが窓掛や椅子張の裂地は一々圖案して織らすわけに行かず有合せのものをいや〳〵乍ら使用してゐる場合が多いのです呉服物の樣に柄合が澤山あつて又どん〳〵新柄が出來て行きましたならよいと思ひますが、現在ではまだ〳〵洋室の需要が少い爲に新柄も多く製らず又輸入するものも十人向の柄行が多く氣拔なものや面白いと思ふ樣なものは少いのです。いつも裝飾の時に建築家や裝飾家の不滿に思ふ所でして御同樣我々も始終惱まされて居るのです。

室内裝飾に使ひます裂地類は柄其物よりも色合と云ふ事が最大切な事で、地質や柄がまずくとも色の配合が宜ろしければ良き効果を得るものです。また住む土地、住む人に依りまして一樣に考へる事が出來ません、尚氣候、風土環境等圍氣に依つても自らちがつた取扱ひ方をせなければならぬものでしよう、熱帶地方では涼しく感じられる裝飾を好むでしよう、寒い所では暖い感じの裝飾を好むと云ふ具合でしよう、海の見ゆる室に水色を多く使用する事もさけたいものですし森の中にある室には綠色の裝飾も面白くないと云ふ風でして何室はどう云ふ色にまたどう云ふ模樣にと云ふ事は定められるものでは無く種々の關係を考へて定めらるべきものでしよう、然し大略は次の樣に考へる事が出來る樣です。先づ床、壁、天井、窓掛、家具、煖爐、電燈器具が其室の裝飾の主なるもの、其なかで最　廣い場面を占めてゐるものは壁でして總ての物のバックとなる可きものですですから此柄や色を決めます事は一番最初にすべきものでして大切なことです、大きいものより漸々と小さいものに及んで考へて行く方がよい樣です、敷物や窓掛を先に決める事はいけない樣です、然し壁を決めますにも窓掛は如何なるもの、敷物には斯ふ家具は斯ふと一渡り考に入れて決定しませんと滿足な結果を得られません。調和な色彩を選び總て廣い場面には中間色を用ひた方が間違が少いでしよう。また面白い裝飾をと思ひますと多少の危險は有りますが、コントラストの色を考へ細心の注意

をして取扱いますと巧妙な結果を得られるものです、壁の仕上は漆喰の上にはアラバスチンやペント塗等壁紙張、布張裂地張などをしますが、布張裂地張はあまり使ひません壁紙張が安價で柔味があつて宜しい様です。また柄合も相當澤山あります、壁紙は主に外國製が用ひられてゐますが、英米獨佛とそれ〴〵特徴ある意匠のものが有りますが似寄つた柄が多くて一寸見てそれと區別の出來ぬものが澤山あります。中でも獨逸物は色も柄も氣扱なものが多くカフエーやレストラントに持つて來いの柄が多いですが住宅には不向なものが多い様です、之等の壁紙を見て室々に決めます時に室の外景や性質、木部の色また採光、床の色尙家具の色隣室の色と種々參酌しまして其上晝夜の色彩の變化の事も考へて見る事も必要でしよう、而して小さい見本に依らず大きな見本を見て選定しませんと、見本で見た時と張つた上での結果と思はぬ結果になる事がありますまた天井の高低によつても柄物や縞物などいづれが適するかも考へる事も必要でしよう室の内部も自然の景色の様に晴天の様な氣持になるのも曇天の様に感じられるのも其裝飾の仕方に依つて種々と氣持に變化を來たすものでしよう。床の色よりも壁が淡色で天井は尙淡い色である方が宜く造作の色よりは家具の色の濃き壁の色より窓掛の色の濃き方が普通にあやまちが無い様です、然し面白味は少いですが、此方が安全な方法でしよう、壁紙には一卷で一坪の面積を貼る事が出來るものと一坪半、二坪を貼り得るものとが有ます、床は壁に次ぐ廣い場面がありまして、之も或る程度の配景となり、家具とは特に關係が深い様です、床は矢張り重い感じのものが良い様です。寄木、リノリユーム、コルク板などを敷きますが其上に敷物を敷きます方が柔味があつて又足音がせず宜いものです、敷物として廣く用ひられてゐるものには絨氈があります、輪奈に織つたものと毛を切つたものとが有りまして、各地で織られます其中で東洋品が一番よいでしよう、中でも印度、高加索、ペルシャ、土耳古、支那のものが上等の部です、又英米獨佛それ〴〵特有の絨氈を產出しますが、東洋品には及ばないようです、獨逸のベルリン、ラッグや英國のスコッチ、セニールなどは良い方でしよう。鑛物性の染料を用ひて仕上げたものが西洋物に多いのですが植物性の染料を使つた東洋品は價が安くないので小住宅には不向でしよう、普通使用されてゐる西洋物にはアキスミニスターカーペットやウイルトン、カーペットがありますアキスミニスター物はウイルトン物より幾分値は安く得られます、またローヤルアキスミンスタカーペットは宜いものとされてゐます、ブラッセルカーペットは價も安く丈夫ですが硬くて體裁も落ちます、然し之等は柄が出來合でありますから室にうまく合ふ事が困難で充分な効果は得られません、矢張り內地で織ります手織の緞通の方が宜い様です、之には絹、スコッチ、羊毛、牛毛、麻、綿と種々出來まして色彩なり柄合や寸法は自由に出來ます、大きなもので巾二十五尺位のが出來ますから室に合はせた新しい圖案によつて織らせますとよく室に調和したものが出來ます、其他由多加織、圓座、モール織などありますが、良品ではありません、窓掛は室の中景とも云ふ可きもので、壁、天井、家具等の調和を保つ上でまた其室の家庭の溫味を添へる爲光線の調和美觀の點よりも必要のものです、此掛け方は外部に布製のローラー、セード

を巻上ローラーに付け取付け、次に薄地のレース、カーテンをロッドにて取付一番室の内部に向つた窓の兩側に適當な裂地を矢張りロッドに掛けるが普通です、尙上飾（バランス）を付け無地物ですと適當な模様をアップリケーか、ニードルウオークでつけますとよいようです、又捺染にニードル、ウオークを合せて模様をつける事も方法でしよう、普通使用される裂地としましてはベロワー、ブラッシ、タペストウリー、ダマスク、ポンヂー、クレープ、クレトーン、リネン、チンツ、モンクス、等がありますが、厚地のものは上飾に適しませう、下部にはフリンヂを付けるが普通です、また共裂でヒダを取るも方法です、そしてタッセル又はフリンヂにて窓枠の方に絞つてをく方が宜い様です、窓掛の形は室の大小窓の如何によつて考案さるべきものでして變つた形にしようとしますと中々六ケ敷いものなのです。之は家具と同じ様に設計をさせて作らした方が間違がありません　尙外部からも見えますから場所によつて外觀を考る事も必要でしよう〜又小さい窓には幾重にもかけぬ方が良いようです。

家具は中々面倒なものでして又苦心を要する丈に又面白いものです、歷史的にもはつきりした型がありまして室廻りと最よく形式を考へて造らるべきものでして、必す專門家に設計さした方が宜い結果を得られます。歷史的に考へますと中世紀後のもので、ゴシック、レネイサンス、チユドル、エリザベザン、ジャコビヤン、ロココ、ルイ十六世、クインアンチツペンデール、ヘツペルホワイト、ジエムス、アダム、セラトン、アンピール、アールヌーボー、セセツシヨン、ミツシヨン等の式が有ります、ロココやルイ十六世、アンピールアール、ヌーボー式などは我小住宅には不向の様です、其他最近のライト式、印象派や立體派、未來派、構成派などが有りますが住宅には如何でしやうか、其他和蘭式は日本の住宅には中々面白いと思ひますが、まだ廣く用ひられてゐません。家具の材質には種々有りますが、材質によつて着色の適不適が有る様ですから色によつて材質を決めた方が良い結果を得られませう、オーク、ナラ、ケヤキ、鹽地、セン、ケンポナシはオーク色に適しますし、楓、トチ、盧地、センは綠色に、楓、トチ、センはグレー色にマホガニー、櫻、タマクスクルミ、ケヤキ、セン、ヒノキはマホガニー色に、チーク、ケヤキ、櫻　桑、栗はチーク色に、桑、栗、エンジユ、鹽地、ケヤキ、ケンポナシ、サクラは桑色にシタンカリン、櫻、ケヤキ、盧地は紫檀色に、ホーノキ、カツラ、ケヤキ、カリン、櫻は黑檀色に、杉、ケヤキ、カツラ、ホ、ノ木は神代色に、それ〴〵適します、其他曲木藤や竹なども使用されてゐます、塗りにはワックスヴアーニツシ、ラック、オイル、ウオター、バラフイン等のステーンがあります、敷物の色と家具の色とは關係が深いですから、よく配合を考へる事が大切でしよう、其他エナメルで塗る事もあります、之は自由な色がありますが面白味はありません椅子張の裂地としてはベロアー、ブラッシユ、タペストリーダマスク、レツプ、モケツト、タツプス、テレンプ、ゴベリン等可なり多くあります、またレザー、イミテーシヨンレザーなども多くつかわれてゐます。之等を室の用途性質に依つて適當なものを使用せなければなりません、此等裂地を張りますのに普通厚張、彈條入厚張、薄張、藤張等の張り方が有

りまして、之は小椅子や肘掛椅子にする方法でして、詰物は竹屑、棕梠毛、馬毛などを入れます。安樂椅子は普通張方とアオリ入張包の法を並せて用ひます、之は臺輪の上にスプリングを打つけ又は脊や臂の上端にも同樣スプリングを取付る方法をしますが、掛け心地がよく椅子張の中で最も具合の宜いものです、居間などの安樂椅子はこの樣にしたいものです又椅子の座の形や脊の形も種々考案されませう、脊の部分は眼にふれ易きところですから、薄内彫又象眼等を用ひたものまた挽抜き細工をいたしました板や柱を入れる事もありますし、全部に裂地を張る事も板と裂地を交ぜるも方法でしようその他種々考案されるでしよう。足部も又種々脊や座と共に調和した彫刻などつける事が出來ませう、又ロクロにて挽物にするのも方法です、張地は革に紋樣を現して使用する事がありますす、之は金屬で其型を作りまして壓入れるものでして之に金銀箔そのほか適當な色を塗り漆で押へてをくものですが、革張りの椅子は廣間か喫煙室位に使はれるものです、木部と張地の境には裂地張の時は織紐を釘付又は糊付としますし革や藤張の時は革緣を鋲止とするのが普通です。其色も裂地と同色か調和な色のものがよいでしよう　裂地や革張にヒダを付ける事も有ります、ヒダの交叉したところに其裂地や革と同じものにて包んだ釦を取付ける張方もあります。而し之はほこりがたまりますから好ましくありません。

フリンヂを臺輪の下方より床に近く付け裝飾とする事がありますが普通住宅には向きませんでしよう、又椅子の上覆を製る事があります、之はダック、クレトーン、キャラコ、チンツ等の裂を用ひてそれ〴〵椅子の形に合せて特に作り覆ふものでして、保存上ばかりでなく一つの裝飾ともなるでしよう、又椅子の上にバンヤや鳥羽を入れました座布團樣のクッションを置きますと、掛け具合が尙更よくなります、之には刺繍やシルク、ダマスク、ツヅレ織等上等の裂地で包んだものが宜いでしよう。卓子もまた脚に種々と裝飾する事が出來ませう、ロクロを用ひた挽物脚も又椅子と同樣用ひられます捻子棒の如くする事も面白いものです、之等は古い型の樣ですが其考案に依つてよくなるでしよう、彫刻や象眼をする事もよいでしよう、又幕板にも適當なる之等の裝飾をする事が出來ませう、尙棚や其他種々ありますが適當なスタイルに合せた裝飾や形をしなければなりません。總て統一した彫刻なり象眼なりをつけ寄せ集めの樣な感じのせぬ樣にすることは大切でしよう、之で雜と裝飾の大略は考へて見ましたが、室々については次の樣に考へられるようです。

〔玄關、ホール〕　玄關は家に入る最初の印象を與へるところであつて特殊な家でない限りは人を威壓する樣な又陰鬱な玄關はいけませんし。あまり浮薄な感じのするのもいけません。厭味のない床しい裝飾であつて玄關だけで歸る人にも親しみを感ぜさせる樣にしたいものです、靴をぬぐ樣に出來た家では靴磨の道具などを入れられる樣な椅子を兼ねた面白い形のものを置くのも便利で、また裝飾にもなりませう、靴をぬがず出入する家には針金製の泥落しのマット又は棕梠製のマットを置く方が宜いでしよう。ホールには椅子二、三脚面白いものを置くのもよいでしよう、大きな廣間ならば長椅子や卓子などを置いて應接用に使用するもよいでしよう、廣間には窓掛のない方がよい樣です、床は堅木かコルク板を張

り其上に中敷としたラッグを置いた方がよく之も面白い模様ものか無地物がよいでしょう、廊下階段にも同色の無地物を敷いた方が宜いのです壁はペンキ敲き仕上又はヂコラチブ塗が宜ろしく壁紙を張るならば無地に近い色の淡い澁いものがよいでしょう、家具は帽子掛、傘立や、物置臺とする卓子があればよいでしょう、額はあまりかけませぬがかけるならば古畫がよいようです、電燈はランターン型のもので電球の見えるものが適しませう。

〔應接室〕この室は別に客室のある家で應接の室としてのみ使ふものであればホールとの堺にドアーをつけず其かはり間仕切カーテンをかけてをくのもよいものです、床は寄木でボーダー丈け模様を作つて中には絨氈を敷いた方が宜いようです、家具は小卓子、肘掛、小椅子に簡單な飾棚を置き花臺もあつた方がよいでしょう、壁は壁紙を張つた方がよく少々色が派手のものでもよいでしょう窓はカーテンとレースカーテンとをかけ窓硝子に色の少ないスランドグラスを用ひるのも面白いでしょう、此室はあまり來客の長居を要するところでありませんから椅子など形の面白いと云ふもので安樂な事はいらないでしょう、形は幾分華奢の方がよいのです、額も景色や靜物などがよさゝうです、電燈は簡單なシャンデリヤ風のものがよいでしょう、フワイヤプレースの有る室ならば其上に置物や時計壺など適當に置けば宜く鏡がない時は油繪などを壁に平に取付けるのも方法でしょう、又別に客室がなく來客用の應接室とするならば、自ら異つて最上等の室と見る事が出來ませうから床は無論寄木張として、絨氈を敷いた方がよいでしょう、之は特に室に合ふ様な圖案によつて織らせた緞通が宜しく上品な調和な裂地や壁紙を壁に張つた方がよいでしょう、此室は社交室とも見らるゝところですから窓も上飾をつけた窓掛としレースカーテンも掛け上飾の裂地に無地物を用ゆるならば刺繍で模様をつけるのも方法でしょう。家具としては肘掛椅子安樂椅子、婦人椅子、丸卓子、長椅子、花臺衝立又は屏風飾棚茶卓子、ピヤノ、之位は置きたいものです、椅子張は裂地を用ひた方がよく、レザー張はいけません、丸卓子の廻りに肘掛椅子、小椅子、婦人椅子を置いて長椅子の前に茶卓子、安樂椅子を配するとよいでしょう一方のセットを變へた形や變つた裂地を使つたものにしたならば、面白いでしょう、暖爐の上には置時計や花瓶、人形等よいものを置き椅子は卓子にあまり近よせないで置いた方がバラーの氣分も有つて柔い感じがしてよいでしょう、卓子の前には、卓子掛やセンターを置くのも柔味が有つてよいです、額は油繪、水彩畫、版畫、刺繍額等をかけて壁面を飾る方が宜いでしょう、掛額は充分注意し又野卑なるもの不快な氣持を起させるものは是非さけなければなりません、此室は特に主人主婦の人格や趣味性を表すものですから、人々により獨特のそうして上品さを失はぬ裝飾にしたいものです、電燈はシャンデリヤ型のものでプリズム硝子など使用したものが宜いでしょう、暖爐の上の鏡や繪の兩側にブラックケットランプなど着けるのもよいものです、ピヤノの側にはフラワースタンドランプを置くのも宜いでしょう。

〔居間〕床は寄木でなくとも宜くコルク板張など柔味が有つてよく其上に大型の絨氈を敷いた方が廣く使はれ又掃除に樂です。小さいものを幾枚も敷くのは面白いですが居間には

具合が惡るい樣です、窓掛は特にほこりのたまり安くない裂地を用ひたいと思ひます、柔味のある實用的のものが宜くレースカーテンは之もつけぬ方が宜いと思ひます、クリーム色の卷き上のローラーセードを付ける方が宜いでしょう、家具も柔味のある倦の來ない簡單なる形で彫刻などのない掛け心地の宜いものでないといけません張地は裂地が宜しくレーザー張はいけません、居間には長大な卓子がよい樣に思ひますが又安樂椅子、肘掛椅子、小椅子、茶卓子、運動椅子、小供のある家では小供椅子などが主なものでしょう また飾棚、書棚、小型書机、折疊丸卓子などいるでしょう、然し此室は家族にとつて最大事な室ですから倦きの來ない落付いた色調として派手なまた陰鬱な色調はさけなければいけません暖味のある中間色を主として調和の配色として主人主婦の思ひのまゝ裝飾し家具も使ひ宜き樣配置すれば宜いでしょう、椅子の座は高いものより低いものが宜ろしく普通より一寸や五分位低い方が宜いようです、電燈はインダイレクトが宜ろしく別にスタンドランプを置いた方がよいでしょう窓の下部に絹地を上下パイプに通ししぼったものをつけますと感じのよいものです。

〔食堂〕 床は寄木ならば上等ですがコルク板張やリノリユム又堅木張でもよく敷物はない方が宜いようです食堂にはよく羽目の高いのが有りますが其場合には壁紙は縞物はいけません立横のはつきりせぬ柄がよいようです、窓掛はあまり重苦しく感じないものが宜しくレースカーテンもなくてもよいでしょう、時にはマドラスと稱する色レース樣のものだけをかけるのも輕くてよいものです家具は食卓、椅子、サイドボード、陶器棚が主なものでして卓子はエクステンションテーブルがよいでしょう、人が多い時引伸して間に板をはめ長くして使はれますから來客の時は便利です椅子はレザー張が宜しく裂張はいけません、小供のある家では座の高い肘掛と足掛のある小供椅子がありますスサイドボードはナイフやフォーク等を入れる引出しをつけたもので洋酒など並べる節棚兼用のもので是非必要なものゝ一つでせう、額は動物、果物など食物に關係のあるものをかけるのが普通です、食事の時は白い麻のクロースをかけますから卓子はそう上等でなくとも宜いでしょう食堂の裝飾は清潔の感じを出す事が大切な事でして配色は總て落付いた澁味のある色調が宜く又思ひきり明るい感じの淡色で取扱ふのも中々宜いものです、電燈はキャンドル形のものなど面白い樣です、よくシルクセードを用ひたところが有りますが塵が付きやすいのでよくないでしょう

〔書齋〕 此室はクスンだ落付いた感じのある室とするのが一般です色調も綠色系統のものが普通です床は堅木張又はコルク板張に小さいラッグを二、三枚敷いた方が宜いようです壁はあまり大きくない模樣が宜しく特に落付のある柄が宜いでしょう窓掛は上飾をつけた方が落付いてよくレースカーテンも付けた方が宜さそうです窓掛の柄も落付いたものでないといけないでしょう此室は其人に依つて非常に異つたものでしようと思はれます書棚を廻らした學者の室もあるでしょうしまた書家や文士建築家と種々職業に依り其人の好みに依り自由に扱はれてよいもので裝飾として中々面白いものでしようが他人からは何とも云ふ事の出來ない天地の有るものと思はれます只本を讀む爲の書齋ならば落付いた裝飾が大事でし

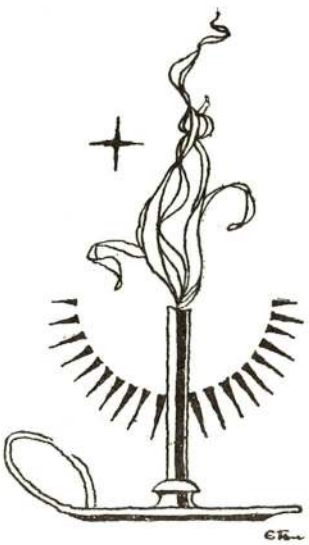
よう家具としては書机、廻轉椅子、書棚、安樂椅子、寢椅子小卓子、雜誌臺脇卓子など普通のものでしょう、落付のある色は必要ですが紫色は絶對にいけない樣です電燈はインダイレクトが宜く別にスタンドランプが必要です額などは自由に何でも掛けられるでしょう。

〔寢室〕　室全體陰鬱、莊重にならぬ樣落付のある淡い色調が宜く床はコルク張りの方が柔味があつて濕氣止ともなり保温上からも宜いでしょう寢室の前や化粧臺の前にだけ小形のラッグを敷いた方が清潔でよいでしょう。壁紙は張つた方が宜く窓掛は無地に近い柄が宜い樣です卷上布は付ける方が宜く綠色のものが宜いでしょう、家具としては寢臺、衣服箪笥化粧臺、洗面臺小形卓子小椅子位あればよいでしょう、其他ランプ臺兼用の引出し付の臺があればよいでしょう、塗色はエナメル塗とする事もあります此時はクリーム色が宜く之も婦人や小供の寢室に依つて自ら色調を更へても宜いでしょう何より安眠の出來る樣考へなければなりません　額はあまり多くない方がよく寫眞の類がよい樣に思はれます。

〔ベランダー〕　床にはタイル、コルクなど宜いようです敷物は絨氈には及びますまい圓座位で宜いでしょう窓掛は付けるならば布の樣な輕いものを日除の樣に付ければ宜いでしょう、家具は藤椅子や曲木のものがよいようです、種類は卓子と時掛椅子位でよいでしょう、電燈はランターン型のものが宜く壁紙は張らぬ方が宜く其かわりペンキでフイニッシュした壁にする方が宜いようです。

〔小供室〕　此室は特に色調其他中々六ケ敷ものです、敏感な小供の心を良くもし傷けもする最細心の注意を要するものでしょう小供の年齡に依つてまた適當に變化のあるものですが強烈な色調はさけなければいけません、陰鬱ならざる樣爽快に家具も上品な單純なものが宜く塗もエナメル塗仕上として時々塗り變へた方が變化を好む小供には宜いでしょう、床はコルク板張が宜く敷物はない方が宜いでしょう、壁紙も無邪氣なものが宜く敎育上良い繪畫や寫眞などの額をかけ又花や動物のものも宜いでしょう額も時々變へた方が宜いでしょう、巾木だけの室でしたら壁紙は貼らずペント塗でフイニッシュした方が宜いでしょう家具は丸卓子、椅子、運動椅子、長椅子、玩具入棚、書棚等角のとがらぬ危險の少い形をゑらび書棚にも硝子戸をつかわぬ方があぶなく無くてよいでしょう、カーテンもクレトーンの樣な丈夫で安價な花模樣などのものがよく之も時々變へたいものです、電燈はインダイレクトが宜いでしょう。

先づ小住宅としましては之位のもので喫煙室とか婦人室化粧室など其他特殊の室はあるでしょうがまたそれ〳〵考へられるでしょう。



建築の室内裝飾に就いて

Y O 生

建築の裝飾に就て何か書けとて押付けられたので大に閉口して居る、吾々は實際仕事をする方で雜誌や本に載せる樣な氣の利た文章や字は知らない、特にこの事に就ては只今迄幾多の先生や先輩、名士學者が色々の方面から解かれて本に成り雜誌に成り講演になり發表されて居られる事であるから、今更私如き者が事新らしく申す必要もあるまいと思ふので御斷りをした樣な次第だが、何にせよ編輯の方から題迄命せられて義務の樣に云れたので致し方なく引受けたけれども、前も申しました通り文章は出來ないし、口は駄目だし　大に閉口して居る次第であるが、義務と云ふ文字の爲めに致し方なく私が只今實際に家を建て飾付をして來た事を御話するより外ないので、小學校の小供が綴方をする樣に經驗して來た事を綴り合せでたらめに御話を致しまして責を果す事に致します。

兎に角建築の裝飾と云ふ事は室内にせよ室外にせよ、洋間にせよ、日本間にせよ申す迄もない事であるが其の建物の形式に依りて定まる者で、一概に兎や角申されたものではないのである。能く雜誌や新聞に六ケ敷く書き並べてある樣だけれ共實際に責任を以て實行して見ると其の樣に理屈の如く方式の樣にうまく行かないのである、實に之の裝飾程六ケ敷い者はない樣な氣がする壁や、天井、其の外の色の調子、置物の具合、軸物、額、家具、調度品、並に夫等の使用方法便不便等の各方面から考ふれば、中々順序を立て理屈を並べて御話をする事はとても私には出來ないので其の邊の所は御斷りをして只其の要は建物の形式或は室内の形式に『マッチ』させると云ふ事が肝要で是れさへ調ふたならば裝飾は出來たと云ふて差支へないのである、時としては無理に形式を無視して裝飾をせなくてはならない時も往々あるが、其の樣な時は壁體や天井調度品や家具や取付物の塗り替へ等を行ふて色を以て調子を取り、仕上げる事もあるが、是れは色で以て誤魔化したやり方で仕方なく行ふ場合で、決して裝飾が立派に出來たとは云へないのである、然し色其者の調子が合わなかつた場合は亦是れこそ見られた者ではないのである。要するに形式に『マッチ』し色の調子を合せると云ふ事は裝飾を成す

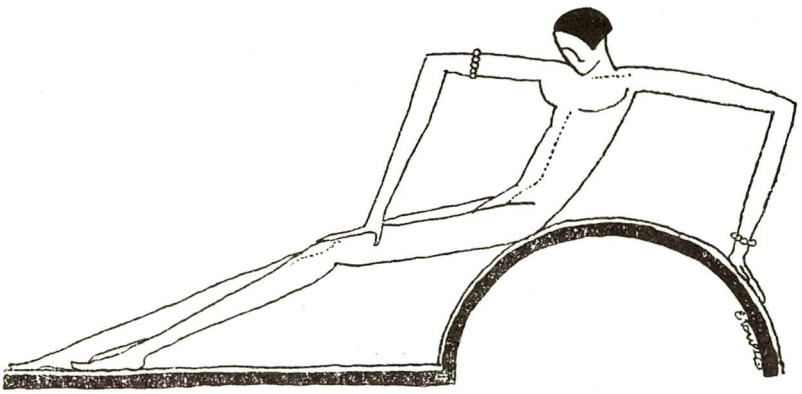
者の根本である。之の根本を誤るならば其の裝飾は零と云はねばならないのである。例へば客間は客間らしく、食堂は食堂らしく、寢室は寢室らしく、廣間は廣間らしく、又公衆建物は公衆建物らしく、倶樂部は倶樂部らしく、銀行は銀行らしく、病院は病院らしく、其の室内も同じ事である。何にせよ是の『ラシク』と云ふ意味を尊重して設計並に裝飾を成したならば間違はないのである。

現代は一般が生活の改善とか住宅の改良とか又生活が世界共通化とでも云ふべきか、文化式住宅と云ふ者が六七年前のら雨後の竹の子の樣に澤山に出來まして、無暗に其の邊丈の洋式を模倣して『カタログ』や西洋雜誌から生捕りして『ハイカッタ』人たちが、此の頃では其の文化住宅の悲哀なかん云ふ樣な聲を耳にさせられる事が度々ある。是れはあまりに歐米の樣式や生活振りを其の儘輸入して新しがつた結果ならんと思ふ、是れも實際に其の儘西洋人の如く萬事が行けばいざ知らずだが、日本人には日本人特有の習慣や風俗があるので右の樣な事は決して適當とは思はれないのである、反て不便不利なるのみならず感じを悪くする者である。

如何なる目的の家や室内でも感じの惡ひ者は其の目的が達せられて居らぬのである、即ち構造上からも前申しました形式と色の調子が調ふて居らぬからである、右の樣な次第で此頃では模倣時代が去つた現代日本人に適した室内や室外の裝飾をやらねば人々が滿足せない樣に成つて來たから大に注意を要する次第である。女性でさへ四疊半敷の室の家庭から大陽の輝く廣い世界へと飛出して服裝も夫れ〳〵大に變化して來た樣なわけで夫れにつれて益々室内の裝飾にも注意せざれば住家と人間とが別物の感じをする樣では甚だ宜しくない、折角巨額の費用を投じて造つたものが實用とは全く懸離れたものとなつしまふ樣な次第で大に注意すべき事である。斯の如く裝飾も段々と實用化して來る、關係から只今迄は多くの費用を掛けた壁や床かにも壁紙、壁紙代用の織物、寄木等の代りに今日私共は壁にはペンキを以て如何なる色にも手法を施して塗り上げ壁の下地の如きも色との手法を以て塗り思ふ存分の色合に仕上げ、又床には『コルクタイル』を寄木代用に張り上げ『ラック』を塗布して足心地を宜くする等色々の方面から安價なる材料を以て實用的に裝飾的に感じ宜しく仕上げる事に注意し、初めて其の目的を幾分か滿足せしめつゝあるのである。かゝる事から段々と趣味性を帶び古びた陶器や『タイル』を又は趣味ある石類を用ひて壁體や暖爐の前飾を飾と實用的に嵌込みて如何にも『アオブル』な趣味ある手法を施し雅味を選ぶ樣に成つて來たので使用木材金物等も右の意味に取扱つて、人間の目に堅く當らない樣に要するに自然に近づく樣に、又家具の方面に至つても右の意味に於て設計した方が甚だ愛せらるのである。從つて置物飾り物も右の意味から古陶器、佛像等が非常にしつくり『マッチ』する樣になり、東洋風の骨子を取入れたる裝飾手が現代の日本人には適したやり方ではないかと思ふ。其の外段通『カーテン』等も其の通りで大に注意して取扱はねばならない。

この意味から私は常に新らしき安價な材料を以て實用的に裝飾的に考へて最近二三家も建て裝飾もやつて見たが、人には好みや不好みがあるので何とも申されないが、私は前にも申した通り實際仕事をして上げる方で、學者や文章家でないから實際の者を見て載ひて御判斷を願ふ事に致しましよう。

幸ひ卷頭の口繪を寫眞も其の意味から實用を本意として建てゝ上げた家で御參照を願ひます、以上は一班的に御話を申上げた迄で詳細は實物に就て時々御話を申上げる事に致します。



住宅の採暖

吾金政徳

住宅に於ける家庭の採暖が、原始的の焚火より文明的の電熱に至る迄其生活の程度に應じ、又其好みによつて、種々の方法あり。而して又其處には實用と、趣味との點に於て、一長一短あり。

住宅に於ける總ての調度は實用や經濟のみを以ては決定し難きものなり。或洋人が、日本の紙障子よりの光線を稱して眞珠色と言ひしは必ずしも過稱に非ず。

採暖に於ても其原始的の裡に捨難き美點あり、且其習慣は俄かに賛へ難きものなり。次に其原始的の採暖法より漸次其文明の設備に就き記述せんと。

竈（かまど）　竈は必ずしも採暖專用のものに非ずして炊事主たり。西洋に於ける、ケチンストーヴが採暖の一助を爲すが如し。祝儀、不祝儀か、味噌焚きの外めつたに使はぬ大釜より中釜小釜と、列びたる竈の前、灰溜の溝には天井より二三の自在もあり。

寒き冬の畑打ちを、晩鐘に送られて、我家へ歸りし母は、竈の前に敷かれたる莚に座して、懐ろには幼きものに乳を含ませ、片手には焔へては消へ消へては焔る竈の下に藁をくべる手忙し。

傍へには遊びに勞れし男兒の、折々目をよけて藁火に照さるゝ、慈愛に滿てる母の顔を見上ぐ。

外には農具を早付けるらしき父の氣はい、勝手元には器物を洗ふらしき姉、寂しき農家の冬の夕暮も此竈の前こそ樂しき思ひ出の一つなり。

圍爐裡（ゐろり）　六疊ばかりの部屋の中に半疊程の圍爐裡、天井より下りし自在には鍋もかけられたり。

降りしきる雪の夕暮に行き迷ひし旅僧、鉢の木を切りて圍爐裡にくべ、粟の飯を勸めて寒さを忘れし物語りは謠曲鉢の木に遺れり。

圍爐裡に柴焚し白髪の道士を、眞二つになれと打込みし一刀、もろくも鍋蓋に受け止められて、劍道の極意を傳授さ

れしは、宮本武藏武勇傳に見へたり。

正月の屠蘇酒を訪ね來し、隣人の三四と酌み交し、去年の出來秋の自慢咄し、聲高にはづむも皆此爐邊なり。

火燵（こたつ）　置火燵上に置かれたる猫板に二三の手料理、熱かんの淺酌、爪彈きに乙つな喉の小歌、何れは好いた同志の家庭と見へたり。

硝子越しに入る日當りよき小座敷、春中には眞綿を負ひ、眼鏡たよりに孫の晴着を縫ふ、上品な老女、傍に据へし櫓火燵、蒲團の上には小猫眠る。げに平和の家庭ぞかし。

霙降る終日を小賣ひに驅け廻りて、今日の賣上げも惡からず、火點し頃を小路の奥の我家に歸り來しは角帶前垂掛の若人、すつほりと火燵に這入り得るも母の慈愛ぞ嬉し。

冷へ性の夫に、なくてはならぬお火燵を、去年の冬は、抱卷の裾を焦せし粗忽に懲りて、今年は工面して、そつと電氣火燵に替へ置きし、細君の心盡し床かし。

火鉢　日本の家庭の冬には無くてはならぬ採暖法は此火鉢なり。

螢火の樣な乏しき炭火は、今戸燒の火鉢に賣られて、九尺二間の住人を喜ばせ。

胴丸桐のの火鉢は、四疊半裡の書齋の人の侶伴となりて、名文傑作を助く。

獅子頭の大宣德火鉢は、表書院に在りて使者をもてなす。

金玉火鉢は、玄關子の唯一の採暖法なり、左れど時に用法を誤まれば、華族の一ト粒種を失ふ危險あり。

電化家庭の文化住宅に在りても尙且電氣火鉢は、耳隱しの夫人に喜ばる。

されば其形狀の多種多樣なる丸、角、八角、長火鉢は長方形にして、夕顏製の球形さへあり。

又其品質に至つては木製、竹製、陶器、鐵、宣德、銅、銀但し筆者寡聞にして金鍋を聞けども金の火鉢を知らず。

爐　屠蘇酒もある、松の內の懷石料理　中々に凝りし主人の心盡し、內心感嘆の舌鼓を打ちて待つ間もなく相圖のドラの音にて、しと〳〵降る雪の裡を　飛石傳ひに定めの如く茶室に入る。

床かしき薰香のかほり、松風の音を忍ぶ湯のたぎり。池田の切炭はほんのりと室內を暖む。

床には薄墨にて霞に遠山の一軸、前には、冬に珍らしき紅色のぼけの花を生けしは、春の野邊を味す主人の苦心見へたり。爐開きの茶莚の趣味、他國には見難きものなるべし。

置すこぶ　端な切を口一ぱいに迄投り込み、其廻りを圍んで油の卸賣に便する、現場用の達磨すとうぶは扨て置き、ユンケル、國華の石炭焚きより、石油、瓦斯　電氣の置すとうぶに至る迄、各々一長一短を有して、和洋兩樣の部屋に輕便に使用せらる。

ユンケルは獨乙製にて洋室には最も輕便なり、用炭は無煙炭と云へども瓦斯コークスを用ふるに經濟的にて溫度も和かし。國華は實驗せざれども ユンケルと同式のものなれば効果も又同樣ならんか。

瓦斯と電氣は其設備と用法の點より置すとうぶと異るを以て次の暖房の部に於て述べんとす。

ベチカ　露國風のものは室の一隅に築造されたる、多數の

焔道を有する、圓筒形のものにして、塗込ストーヴと似たるものなり。塗込ストーヴにては其煙道は一條にて眞直に屋上に出るがペチカは、焔が多數の穴を折回しつゝ通過する間に其附近の煉瓦を暖め、其餘熱を長く保留せしむる樣に築造せられ以て長く室内を暖むるものなり。

北滿やシベリアの如き乾燥して且寒氣の酷しき所にては普通の置すとうぶの如き冷熱の早きものは不適當にして矢張根強き温度を保つペチカを必要とす。

オンドル　朝鮮特有の温度留はペチカを水平になしたるが如く前者が竪に設備するに反し是は床下に配置さる。室の一方より焚かれたる火氣は床下全面に設けたる溝を通りて反對の側に出づ。此間に全床面は適度に温められる。鮮人が其床面に座すとか、又は横臥するは身體全部を有効に温むる良法なり。

塗込ストーヴ　在來の洋風住宅には、丁度日本の床の間の如く塗込すとうぶは必ず設備され、其前面は前飾と稱してタイルや、大理石を以て裝飾されたり。然るに各種暖房裝備の進歩と共に、漸次其數を減じたるも、一面室内の裝飾上其燃料を瓦斯又は電氣に替へて其形式は今日尚是を存しつゝあり。且又燃へる火に對する我々の傳統的の執着は俄に是を廢し難く、暖房裝置の設備の外に、ホールなどには殊更に塗込すとうぶを存置する程なり。電氣、瓦斯を用ふる場合に於てさへ其外形を恰も火が燃へつゝあるが如く裝ふは以上の事實を證して餘りあり。

次のハネルヒーチング條下に述ぶる英國人の欲求が如何に燃る火に對して強きかを察すべし。

以上述べたる採暖法は各室獨立にて燃料を用ひたるものなるが次には一ケ所に於て燃料を用ひて其熱を各室に分配する方法即ち暖房設備に就きて述べんとす。

暖房裝置　には瓦斯、電氣、蒸氣、熱氣、温水の種類あり瓦斯、電氣は或工場にて發生せしめ其れを各戸に分配するものなり。故に他の蒸氣、熱氣、温水の如きものと其供給及設備の費用を異にす。獨逸ドレスデン市に於ては温水を一定の工場にて作り是を附近の各個に分配供給するを聞けり。我國に於ても將來其事業の企圖さるゝ場合あるべし。

瓦斯　は燃燒によりて室内を暖むるもの故、隨て空氣中の酸素を減少す。換言すれば空氣を汚染するを以て他の暖房裝置とは全然異り、石炭やコークスと同樣なれば寧ろ前項の置すとうぶの部類にて取扱ふべきものなり。只其設備方法が他の暖房裝置と相似たると。若し出來得べくは是に依りて簡單にラジエターに送熱する事を得ば、暖房裝置として完璧に近きものなり。

現在瓦斯によりて、洗面所などに簡單なる給湯裝置をなしつゝあり。巴里にては浴槽用として盛んに使用されつゝあり。是等の點よりして、瓦斯を以て各室にて温水暖房を工風する事は可能性ある樣に思はる。

電氣　すとうぶは其設備の簡單なる、瓦斯と大同小異なり電氣は瓦斯の如く燃燒に依りて、室内を暖むるものに非ざるを以て。室内の空氣を汚染する憂ひなし。乍併其の温度の感じは、ドライにして且和か味に乏し。殊に圓形の反射すとうぶの如きは、丁度サーチライトを向けられたるが如

く、其前面而已暖かにして他は甚だ冷たし。是等は器具其物に改良を加へなば、幾分其缺點を補正し得べし。

ラジエーターの一部にコイルを裝置して、其處に電熱を送り、其內の水を沸蒸して溫水暖房としたるものを、使用したる實驗あり。取付け取外し共に簡易にして、溫度の感じもよく、前項瓦斯の部にて希望せる、條件を滿して、眞に理想的のものなりと思ひしが、實際使用せる結果は、稍々溫度の低き點と、經費の廉ならざる點よりして未た實用的に入らざるものと思へり。乍併此裝置は家庭暖房として、安全輕便、愉快の點に於て電氣ストーヴより優れたるもの故、工風研究に依りて優秀のものを發見したし。

熱氣　所謂ホットエヤシステムは大建築には夏期に冷風を送り得る便利ある爲め可成廣く採用されつゝあり。家庭用としては和歌山市某洋人の宅に使用せるを實見せるが、其實用上に就きては詳かならず。機會を得ば調査報告したしと思へり。

蒸氣溫水　暖房に於て溫水は蒸氣より其設備費に於て、幾分高價なるも其溫度の感じの點より、又給湯を並用し得る點より溫水を推奬したし、是がボイラにはラジオ、ラデッテス、アルコラ等の種類あり又英國にては臺所用のクックストーヴにボイラを取付けたるものあれども直に我國の家庭に採用し得るや否やは疑問なり。

溫水並に蒸氣暖房に就ての比較は前號に於て臺氏詳說せられたる今之を反覆せず。而して其設置に就ての計算に至りては專門業者の意見に聞くを安全とす。而して其理論に就ては最近出版せる大澤櫻井兩氏共著の暖房換氣工學に詳かなり。

只茲に建築家として見逃し難き點は、暖房と周壁との關係並に其家屋のプランニングなり。

暖房と圍壁　我々が寒中單衣物を着たる場合と、綿入れを重ねたる場合と、且其れが室內と、外氣中に於ける場合との相違の如く、建物に於ても其周壁の種類と厚さとに依り、又其外氣に露出する壁體の面積に應じ其保溫の狀態は非常の相違を來すものなり。

暖房と周壁との關係　假令ば壁體の保溫能力は鐵筋コンクリート四吋厚の壁は煉瓦一枚半の壁より約十割少なく硝子窓（シングル）は上記コンクリート壁の二倍少なし。木造の場合に於ても外部の板張なるとモルタル塗たるとに依つて相違し。又一般に壁面の外氣に露出する面多ければ、多き程其保溫能率の低下する道理なり。

建築工費は一時的（比較的）にして暖房經常費は永久的なり某暖房業者の談話に依れば某工事に於て、壁體の變更の爲めに最初の設備より後の分は約五割の增加を來せし事ありと言へり。

其五割の增額は取りも直さず、年々の熱の損失を表すものなるを以て建築費の減額と比較し壁の變更が果して有利なるや否やは大いに研究の餘地あるものとす。

プランニングに當りても此理由は大に考慮するを要す。一階は二階より涼しく、夏涼しき部屋は冬暖しと言へるは此理論に合致せるものと云ふべし。

以上の記述は極めて概括的にして、專門的には何等の價値なきを憂ふ。

會々滯英中に於ける採暖の感想を紙上に紹介せんとして、本稿記述の厄に遇ふ。只紙面を穢せしを謝す而已。

パネルヒーチング（滯英舊稿）

彼の有名なフォッグ（霧）が、ランドンの町を、時々襲ふて來ると、パイヴメントを行き交ふ人の靴音がせわしくなる。すると、屋上に突用して居る、無數の煙突（煙突のランドンと言ふ寫眞を撮つたが、高き所さら見る煙突の數は驚くばかりである）は一齊に活動を始める。そして煙と霧との混和氣體は、空を覆ひ、街を鎖して、陰鬱の町をいやが上にも陰鬱にする。人々は花やかな火を戀しがる。

ランドンでは雨が降つても傘いらずと聞く、どうも其程土地の人がをでこでもない樣であるが實際傘をさす人は少ない或る時、雨が少し強いので、傘を持出して指して歩いて見るが到底もさして歩けない。止むを得ず雨の中を傘を下げて歩く、能く見ると自分ばかりでない、土地の人も傘を下げて歩いて居る。それなら雨が少ないかと言へば、好く小雨が降る。終日を小雨の裡に遠近の見物に暮して、火點し頃をホテルの自室に歸る。シットリと重い外套をドアのフックに掛けて、ストーヴの前に腰掛け、幾回か投入するペニー（二錢位の銅貨）の爲めに、漸く燃燒を續ける、瓦斯ストーヴでさへ、ランドンの冬は火がなつかしいものである。

新築の石造家屋でさへ、三四年もすれば忽ち燻製の鮭の樣になる、其れ程ランドンの町は煙が多い。

或る時土地の人に『彼の不燃燒の煤煙をお前は何んと思ふか』と問ふて見ると『其れではお前は私達に、瓦斯を使へと言ふか、電氣ストヴーを用ひよと勸むるか、ランドンにもセントラルヒーチングは澤山ある、併し私達は若し金があるならば矢張り石炭を焚く』と言ふ。成る程昔は我國に於ても、民の竈の煙りを見て、我は富たりと仰せられた天皇もある、ランドンの盛衰はな屋根の上から觀察出來ると感心する。

郊外の知人の宅の前から、バスの二階に上り、小雨に煙る田舍道を、彼れがクインアーンの居つた家とか、彼の森が何と言ふ人の居た所とか何れも皆歷史付きの風景を眺めながらキングストリの町を通り、ハンプトン、コートに行く。此離宮、は羅馬の何とか言ふ僧正の創設でクリスター、ゼーンの設計で增築されたものであると言ふ。今修繕中のものは宮殿中の古いチャーチである。天井裏迄上つて見る。小屋材は總てオークである、アングルヤ、平鐵で補强して居る、案內の老技師が修繕の苦心談をする。歸りは同じバスで同じ雨の中を通る。知人の門を這入ると、窓越しに客間に焚かれたるストーヴの火がよく見へる『なんと良い火ではないか』と知人が言ふ、ほんとに良い火だと私が答へる。

ランチを濟ませて、も一度ストーヴの前に掛ける、熱いチーをすゝりながら細君も出て來て東洋の話などをする。少し眠ろうじやないかと云ふ夫婦はもう眠つて居る。大きいソーファ、アームシエヤ、熱いチー、パチ〳〵燃へる石炭、眠らない私は、心の裡でも一興ナイス、ファーを繰返す。

個人としては、其れ程執着の强い石炭焚のストーヴも團體としては矢張セントラルヒーチングを採用して居る、大きなビルヂングに可成進歩した方法を採用して居る。

最初見た、オーストリアンハウス、次に見たプッシユハウス

共に暖房設備をして居る。此南建築は最近の建築で、殊にブッシュハウスは丁度出來上つたばかりである。

ブッシュハウスに行たのは十二月の中端で、外は可成寒くあつたが、室内は程よく暖かであつた。

案内をされて居る内ラジエーターが何處にも見當らぬ、最初はホットエヤーかと思つたが、ダクトの穴が見當らぬ、確かに暖房裝置があるに違ひないと思ふが更に其原因が解らない、最初は聞くのも強腹だと、我慢して居たが、段々不審が嵩じて來たので、思ひ切つて尋ねて見る。と案内役の副支配人、待つて居ましたとばかりの顔付で、そんなラジエターなぞ言ふ前世紀の遺物なぞ、抑も此新家屋には用ひませんよと、傍の壁を叩いて、是此通り壁其物が暖かい、壁には血が通つて居ると言ふ。

だが東洋のお客さん「ハ、ア成程』と感じた樣な扨て解らぬ樣な返事をする。實際自分は斯樣なシステムが日本に採用されて居るか、如何かを知らぬので聊か面喰つた。

其れから地下室にて給水の爲めの深い井戸や、壯大なオイルボイラを見て、大に其設備の完全を稱揚して、ついでに其製造所の名前を聞き。早速カタログ取寄せの段取をする。

二三日過ぎてからピカデリー通りのクックの建築物と其後のビルヂングを見、其處に實施中の其ヒーチングの配管の模樣を見、又カタログを見て其れが表題のパネルヒーチングと言ふ事を知る。

パネルヒーチングは過去十五年間英國の有名なる建築物に使用されて居ると言ふ。

パネルヒーチングが今此ランドン有數のオーストリヤニハウス、ブッシュハウスに採用せらるゝとせば過去に於て相當の試練を經たものと見て差支ないであろふ。

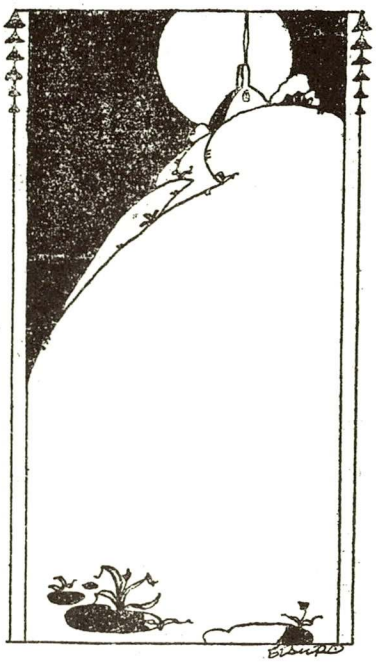
自分の其時の感じはラジエーターよりは遙に心地良きものであつた。

パネルヒーチングのアイデヤは丁度朝鮮のオンドルを科學的に火の代りに湯を以て編直した樣なものである。

而して一面にはラジエーターを、コイルと稱するパイプに直して其れを壁や、床や、天井に塗込んだものと見て差支ない。勿論コンクリート造の場合に於ては其コイルや配管をコンクリート中に打込むのである。

此システムは無論專賣特許品故其コイルと稱するパイプも、無接合の特製品であろうし其他の方法も特別方法であろふと思ふが、何れにしても最も新らしきヒーチングと稱すべきである。

建築物自體が、漸次有機物に進化しつゝある今日、神經に比する電氣、消化機に對する衛生工事、而して血管に比すべきヒーチングが、其形を體外より體内に納めて、恰かも肉體を流るゝが血液の如く建築物を生物化せしむる事は大なる進化と言ふべきである。敢てパネルヒーチングを紹介して此稿を了る。



住宅照明としての内面艶消電球に就いて

今澤精一郎

從來、建築の設計に當りては殆んど晝間照明のみを顧慮して各室の構造を決定せられつゝあるやの觀ありしも、社會の進歩は廣大なる建築物の建設となり、太陽の光線のみに安んずる事を得ず、勢ひ人工光線―主に電氣の光―を利用する場合が多くなつた。それのみならず夜間の仕事互に住宅に於ける慰安の時間の必要も一般に認められつゝあるの時に際し、建築に對して燈火は離るべからざるものゝ一ッとなつたのである。故に電球に對する報道も亦建築界に於ける一必要物と思はるゝを以て、左に少しく最近の發明に係る內面艶消電球に就て記して見る事となした。

電球の進歩と眩輝の問題

電球の改良は駸々として長足の發達を來し、エヂソン翁が初めて實用的電球に成功せられてより茲に四十有餘年。現在にてはカーボン電球を顧みる者なく、全くタングステン電球の獨舞臺となり、しかも西歷一千九百十三年ジーイー會社のラングミヤー氏に依つて瓦斯入電球の完成を見るややタングステン電球の能率は倍加し、今や瓦斯入電球の全盛時代を成さんとして居る。

然るに、電球の改良に連れて發光體たる纖條の輝度は益々高く、爲めに眩輝の問題が考慮せらるゝに至つた。輝度の甚だしき光源が直接眼に影ずる事は、衛生上から云ふても將又美術的見地から見ても、甚だ望ましからぬものである。此事は照明智識の進むに連れ一般社會に認められ、電球からの直射光線を柔ぐべき手段を採るの必要を認められて來たのである。

廣間或は事務所等相當大なる室の照明に就ては、一般照明智識の普及と共に間接照明或は半間接照明の照明器の發達となり、電球纖條の輝光の高き事は問題とするに足らなくなつたが、一般家庭に於ける照明用としては、其性質上直接照明を多く用ゆる爲め、自然に電球そのものゝ輝度を柔げる方法

を採らねばならなかつた。

眩輝を柔げる最も簡單なる方法

それが爲め電球纖條の輝度を柔ぐ眩輝を防ぐ最も簡單なる方法として採用せられたのが、電球の硝子部を艶消となす事である。而して其必要が一般社會に知られて來た證左としては、是れ迄の艶消電球が透明電球に比して其光の透過率が劣つて居り、從つて能率が惡るきにも拘らず、次第に艶消電球の使用者が增加しつゝあるを見ても明らかなる事實であらねばならぬ。又、電球を艶消となす事は、例令適當なる反射笠を使用する場合と雖も必要なことである。それは、反射笠が如何に優良なるものであるとしても、結局直接照明である以上、光線の一部が人の眼に觸るゝ事は免れぬものなることからしても首肯せらるゝであらう。且つ電球を艶消となす時は、それから發する光は穩かな感じの良いものとなる爲め、人々の焦燥たる氣分も慰められ、ゆつたりした氣持ちで讀書や會談等が出來るのである。

艶消の方法としては、金剛砂により硝子面を艶消となすものと、藥品に依つて化學的に硝子面を腐蝕して粗面となす方法或は半透明の物質を硝子面に附着せしむる方法等が用ひられ、斯くして電球の光源から發する輝度を柔げる事にして居るのである。

從來の方法は姑息手段であつた

しかし、從來の方法は何れも電球の外面に施して來たのであつて、是等の方法にては、電球使用最初の透過率即ち光線を通過せしむる率は、透明硝子球のものに比して、五乃至十パーセントの減率となり、しかも電球使用中に漸々透過率は惡化し十乃至二十パーセントは艶消となした爲めに艶消面に吸收せられて仕舞ふ樣になるのであるが、是迄は已むを得なかつたのである。

然るに最近透過率は透明硝子と殆んど同一にして而も電球纖條より發する光の輝度を心地よく柔げ得る新方法が發見せられ、直接照明殊に家庭用としての照明に一大福音を齎した新方法とは電球の內面を完全に艶消となす方法で、新マッヂランプ及び新サンランプ（何れも眞空と瓦斯入とあり）と銘して賣り出されて居る電球が即ちそれである。

內面艶消と一口に云つて仕舞へば何でもない樣であるが、製品として賣出さるゝ迄には非常なる苦心研究を要したもので、從來そのまゝの艶消法を內面艶に應用したものでは硝子球は極めて脆弱で、少しの衝擊に對しても破損し易いのである。故に是れにある特別の處理を加へたもので、その强度は在來の外面艶消電球よりも遙かに優るものとなつた。

其他內面艶消が何故に外面艶消に勝り、透明硝子と殆ど同一の透過率を有するか等は稍專門的に亘るを以て略し、實際問題として使用者に如何なる利益を齎すかを述べて筆を擱く事となそう。

內面艶消電球が使用者に齎す利益の數々

一、溫和なる光りを得らるゝこと。

内面艶消に依つて纖條の輝度は柔げられ、心地よき光を得らるゝことは前に述べた通りで、今更茲に繰り返すの要を認めないと思ふ。

二、透過率は透明電球と殆んど同樣なること。

此の内面艶消電球の外面は透明硝子と同樣滑かである關係上、例令電球に埃が附着するも容易に拭ひ去る事を得て、常に清淨に保ち得るのである。此の事は電球の光りの能率に極めて重大なる問題であつて、塵埃の光を吸收する率の大なるは想像以外である。此の點丈けでも外面艶消の到底企及し得ぬ特點であり、且つ艶消に依る光の吸收率も頗る尠なく、平均一・五パーセント位である。尙透明硝子球は光を吸はぬ樣に思はるゝであらうが、決して然らず、透明硝子球の光りの吸收率も約一・〇乃至二・〇パーセント位に上ることは、從來幾多の實驗に依つて證明せられて居る。故に此の内面艶消電球は透明電球に比し透過率は殆んど同樣であると云へるのである。

三、有効壽命の長きこと。

電球の光度及び能率は點燈するに從つて漸次減退する事は已むを得ない事である。その主なる原因は電球内の纖條が點燈中次第に蒸發せられ。其蒸發せられたる粒子が電球の内面に附着して、硝子球を黑化せしむる事に依るので、透明電球に於ても免れぬことであるが、外面艶消に於ては殊に甚だしいのであるにも拘らず、内面艶消電球に於ては餘り影響せず、從つて内面艶消電球は外面艶消電球に比し有効壽命は長い事となる。實驗上から見るも内面艶消電球と外面艶消電球との有効壽命の比は七對五の程度であると云ふことである。

四、配光並に光色の良きこと。

電球の能率を論ずる場合に、之れと密接なる關係を有する配光に就て考ふる必要がある。

從來のタングステン電球は水平方向の烱光が最も大きく、照明上肝要なる垂直下方向の明るさは實に薄弱なものであつたが、内面艶消に於ては周圍一樣な光りの分布狀態となさしむることを得る樣になり、尙纖條が捲線狀なる爲め光の色も白色に近かくなつて居る。是等の事は照明上に大なる利益を齎したものと云ふべきである。

五、價格の安きこと。

以上述べし如く使用者に多くの利益を與ふるものであり、且つ内面艶消となす爲めに餘分の製作工程を經るにも拘らず其代價は從來の透明電球と全く同價である。此の事は一面奇蹟の如き觀あるも、之れは良いものを安く賣らんとする製造者の犧牲的努力に外ならないのであつて、是れ等は多量製産に依ることゝ、製造者が多年研究の結果低廉なる生産方法を絶へず用ひつゝある努力が表面に顯れつゝあるものと云ふべきであらう。

六、電球種類の統一を圖りしこと。

我國の電球の種類を調べて見るに約六十種程ある。是れでは餘りに種類が多過ぎ、從つて製造業者は各種に就て製造準備をなさねばならず、勢ひ製造元價の低下を困難ならしむるものである計りでなく、電球使用者側から云ふも電球が餘りに多種に亘る事は策の得たものではない。

此の點に留意して種々考慮せられ、内面艶消電球に於ては家庭照明上最も必要なる種類を採り、眞空電球にては十二ワット半、二十ワット、並に三十ワットの三種、瓦斯入電球にありては三十ワット、四十ワット、六十ワット、八十ワット並に百ワットの五種、合計僅か八種に制限して賣り出されてゐるのである。



住宅材としてのコルクCorkに就いて

刀禰英彦

コルクの産地及性質

コルクは西班牙半島　北阿弗利加(アルゼリヤ)Alzeria. の暑い半乾燥地帯に繁茂する所のコルク樫の外皮でありまして高さわ三十呎以上直徑八寸より二丈四尺のものがあります、太陽の光線、焦す様な熱風が眞皮に流れている樹液をからさない様に、保護するためで、一朝山火事のある時でも凡ての他の樹木は枯れてもこのコルクの木のみは殘ります、これは外皮に依つて防火され眞皮は完全に殘るからです、故に天然コルクが卓絶したる熱の不良導體であることが明です、一歩進んでこれが顯微鏡下の試驗に依りますと、其の構造は無數の空氣細胞が薄い連續したる壁膜に依つて互に分離してその細胞は少量の空氣を含んでをつて自然の力にてしつかりと閉込められています、から外部からの空氣や濕氣を遮斷しますから絶緣材料としての重要なる要素を具備していることになります。

絶緣用コルク板

其の天然コルクを或る適當なる機械裝置に依つて粒狀として金屬型に入れ壓搾され適當の温度で燒れて出來るものが絶緣用コルク板です、但し用途に依り製造方法を異にします、以上の如く純コルク粒から成立つてこれが燒成中にコルク粒が有する樹脂が表面に出て各自を相互に結着します、但し他の膠の如き結着材料を用ひる製法もありますがそれは絶緣材料としては完全なものと云へません、かくして製作されたコルク板は燒成中に變化する事なく、これは檢品の顯微鏡の試驗に依りて證明が出來ます、壓搾する事はコルク粒の間の空所をつめる爲にされるので又燒くことに依つて增々絶緣價値を加えます、それは各細胞の樹脂を細胞の表面に追出すことに依つて幽閉されたる所の窒氣の容積を增し、又其樹脂の壁膜にて濕氣及空氣の浸入を完全に防ぐことになりますからコルク板が偉大なる絶緣能力を有することになります。

熱の不良導體としてのコルク板

以上説明しましたことに依つてコルク板が熱の不良導體と

しての性質を具備していることがほぼ說明されますが、これは完全なる熱の傳導度の試驗に依り增々明瞭となります、試驗方法には種々ありますが一つ一つ其の方法を說明することわ止めまして、簡單に試驗するには、試驗される物品を瓦斯バーナーの上に置き其の物品の(コルク板又は他の絕緣材料)上にパラヒンを乘せ、其れが溶解し初める時間に依つて、何れが傳導度が多いか少ないかを判斷します、然しこれは完全なるものではなく唯だ機械を用ひずしての試驗です。

又試驗される物品に依つて箱を造り、密閉して、其の中に氷を入れ、氷が溶解して出る水の量と時間に依つて計ります其の他油箱法、熱定箱法、冷定箱法等がありますが、次の表は嚴密なる裝置に依る試驗の結果です。

英國熱單位　B.T.U. (British thermal unit)

24時間內ニ華氏一度一平方呎ノ最大密度ノ水ヲ一封度上ゲルニ要スル熱量ナリ

		B.T.U.
コルク板(純コルク粒)	1″ 厚味	6.4
コルク板(純コルク粒トアスファルトの混合)	1″	8.9
煉瓦壁	1″	120.00
コンクリート(1—3—5)	1″	103.00

即ち、コルク板1″の厚味を通す熱傳導力は煉瓦壁の18″コンクリート壁の16″に相當することになります、これに依つて如何にコルク板が熱の不良導體であることが證明できます。

濕氣を吸收せざる事

これはコルク粒自信が有する特有の細胞的組織に依つても明確であります水は熱の良導體でありますから如何なる絕緣材料でも一度水に浸るや否や其の後は絕體的に絕緣好果を見る事が出來なくなります、この濕氣をふくみますとそれはそれ自體が早く粗惡となり破壞される事になりますがコルク板は其の缺陷を補ふに充分です、コルク板の一片を三時間餘煮沸するか又は重しをつけて、三時間餘水中に沈めて取りだしても形狀に變りわなく又內部を割つても決して水が浸入していないことを發見しますから乾燥を保つて行く絕緣材料としてわ良好の材料と見さなければなりません、然し、他の結着材料を以て製作せられたるコルク板は、この結果を見ること出來ません。

これは、無數の細胞が各々一つ一つ絕緣されて其の內に空氣が密閉されて、燒くことに依つて天然樹脂の防水層が出來てゐますから毛管引力がなく、したがつて濕氣を吸狀せないことになります、故に腐敗することなく、永久性を維持しますから冷藏庫、食糧品倉庫其他に使用して良好なるものであります、他の結合材として膠等の有機物を使用しますと濕氣をそれ自體は吸狀しませんが、結合材が吸狀し、腐敗して微を發生し、したがつて臭氣を發生しますから絕緣の目的を忘ふことになり冷藏庫及食糧品倉庫に不適當です、これをコンクリート壁の中に張込られても濕氣を吸狀しませぬから、腐敗の恐れなく又、膨脹、伸縮の恐れもありませぬし、又、コルク板を、モルタルにて張り上げると一平方呎毎に平均344封の固着力が有りますから天井及壁に張りても後で離れることわなく、コルク板は切つたり鋸つたりはつたりすることも自由です。

木造家屋ではキズリなくて、間柱に直接コルク板を釘付けして其の上からモルタル塗又は漆喰塗りをすることが出來ます、仕上げ後クラックが入る恐れがありませんが、又必要に應じてわ、ニキスバンデットメタルを、コルク張りした上に張り其の上から、モルタル塗り又は漆喰塗りとすることもありますが、今日の結果では其の必要をみとめませぬ。

遲燃性防火的及び音響と震動

又一方に遲燃性防火的でこれは或る外から供給される熱がなかつたらコルク板に點火しても燃燒を支へて行きませぬからまづ遲燃體で同時に、不燃性の物體の中に密閉された場合には其物體が熱の傳導體にても、決して燃燒することわありませぬからまづ防火的です。

コルク粒の細胞的組織に依つて、單力性に富んでいますから、音響と、震動を減じますから今日、モーター及機械の底都に張つて、床の震動を或る一部に制減し音響を減じます。

コルク板の寸法及重量

次の表は平均重量（約）

吋厚	一平方呎封度量	吋厚	一平尺吋
1/4′	0.32	1″	1.25
5/16″	0.39	2″	1.73
3/8″	0.48	3″	2.41
1/2″	0.64	4″	3.07
5/8″	0.79	6″	4.33
3/4″	0.94		
7/8″	1.03		
〃	1.15		

寸法

2′×2′　2′×3′　2′×6″　1′×3′　1m.×1/2m.　1/2×3′

コルク粒

粒狀コルクは精製の方法が種々ありますが篩にかけない粒狀コルクは絶緣目的として標準のものであります、特に冷藏裝置用として使用されます。

四分目通し　一立文呎ニ付キ	八百匁餘
三分目通し	八百五十匁〃
一分目通し	一貫目〃
五厘目通し	一貫二百五十匁〃

粒狀コルクは漆喰壁又はどろまいぶぷらすた、に混合して塗られ又ペンキに混合して塗られます、又、マグネシア、セメントと混合して床に塗られ、一種の床○材料としい必要のものです。

コルク板の用途

一、化學的設置及工業の設置に於て一定の温度を必要とする場所
一、倶樂部及ホテルの床及壁の絶緣
一、病院に於ける熱病患者取扱ひに對して室の絶緣
一、パン製造所のネリコ室、混合室、試驗室の絶緣
一、洗濯屋の乾燥室の絶緣
一、店や事務所で直下の汽罐室から熱の放射を防ぐため床を

絶縁する

一、ビルヂングの地下室及保護品庫を絶縁する

一、汽車の箱の絶縁、貨庫、客車、揮發油於酒を入れる、タンク車に使用

一、氷及アイスクリーム運搬車

一、紙巻煙草貯藏するため、濕氣ある室を絶縁する

一、孵卵器を絶縁す

一、冷空通風管の絶縁

一、リーリーム、敷物の下に敷き彈力性を增す、室内體操場の床に使用す

一、住宅に使用、外壁及床家根裏に使用することによつて冬期には暖防に對する、燃料を即約し、夏期に於ては家を冷し氣持よくします、之れは昨今歐米地方に盛に流行しています、木造建築なれば間柱に、釘付けとして其の上よりモルタル塗り又は覆板を張りますが、コンクリート、煉瓦又はホーロータイル張りの家屋なれば、内側から張つて上塗りは漆喰か又はモルタル塗とします。

一、織物工場、特種染色工場の絶縁

冬期保温のため又内部の凝結を防ぎ夏期は過剰な熱を防ぐ爲めに使用せられ、之れは、冬期に於て濕氣は天井に凝結し機械、職工生産品に絶えず落ちて、能率及生産品の價値を下落する原因となります。

一例は、屋根は四吋の厚味で鋸齒組織のコンクリート屋根で上部表面は2吋コルク板を熱いアスファルトで敷き五ツ綯り、フエルト屋根葺で覆ふ、其の時に屋根縁下の温度が華氏一〇〇度濕度85%で外側の温度が華氏の0°度の時體にても天井に凝結を見ず、勿論屋根の絶縁は放熱に依つて失はれる熱量を減じますから建物内を熱するに必要なる燃料は他の方法でやるよりも少なくてよろしいことになります。

一、戲場、事務所、教會、圖書館の防熱保温、防音

一、軍艦、内火藥庫、食量品貯藏庫、無線電信室等

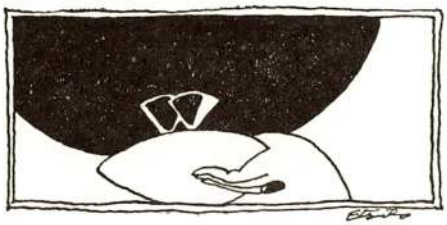
一、音響、震動に對する絶縁

モーター、送風機、印刷機の底部に使用

一、冷藏庫、製氷室、食量品貯藏室の絶縁

以上は重なる今日迄使用されたる場所ですが、他に多數使用さるべき所又は使用された所もありますが略します。

あまり説明としましてわ簡單ですが、後日にいたすことにして、特に建築用として絶縁用に最も適當で安價なものであり重量に於ても使用法に於ても最も簡單であると信じます。



茶趣味から觀た日本住宅

木津宗一

木津氏は茶道の宗匠として著聞せり。（編輯者）

茶人の普請といふことに就いて申上げたい。茶道は古く足利時代に興つたものであることは人の知るところであるが、その時代における茶室は極めて豪莊な建物で、彼の義滿、義政の金閣寺、銀閣寺の如き寢殿式のものがそれである。爾來豊織時代に至るまで華美を專らとしたのであるが、偶ま珠光（奈良の僧）といへる人が一休禪師に參禪して大いに茶の趣味を味つた。が自分の境涯では迚も立派な建物は出來ない。ソコデ十八疊の方丈を四分し、四疊半の茶席を設けた。これが抑も四疊半茶席の始まりであつて、凡ての用材は在合せのものを用ひた。後ち紹鷗（利休の師）に至つて適確に草庵體が現はれ、利休に及んで茶道の大成と共に、豊公は戰國武士の殺氣をそぎ趣味を養ふために茶事をいそしまれた、乃ち趣味の點よりして草庵體は種々に變化して來たのである。

然るに今日では先人の糟粕を嘗め、彼處には如何なる柱を用ひねばならぬと、一本の竹一本の皮付の木を得るため數十金を投ずるものさへあるが、當時は柱にせよ在合せの竹を以てこれに充てたもので、寢殿式の用材をさういふものに變化させたのが起りである。從つて寢殿式大建築の樣式そのものを知らねば草庵體の建築は出來ないといふことになる。デ維新前建築學の起らぬ時代においては、建築のことは習慣上茶人の指圖によつてなされた。豊公が智仁親王を請ふて猶子とし、桂御所の造營方を小堀遠州に命ぜられ、遠州は玉淵坊等と共に工務に勞した如きそれである。

明治十一年東京に大學が創設された頃學內に日本造家の一科があり、その講座主任は木子清敬といふ宮內省內匠寮の技師であつた。當時在京中の私は故近衛篤麿公から『お前は茶人の家に生れたものであるから日本建築を研究する必要があ

る』と勸められ、職務の傍ら日曜毎に木子氏を訪れてその教へを請ふた。これが私をして日本建築に趣味を抱かせたもとで、その後木子氏は歿し、日本造家の一科は除かれ、建築は西洋學科となり、今日では日本造家は美術文化に屬するの觀があるが、古來日本造家に吾々茶人が携はらねばならぬことになつたのは如何なる譯かといふに、大體日本建築は趣味を基とし、間取の配置、飾付の調和を尚ぶからであつて、現代においてその面影を存せる醍醐三寶院の方丈は桃山時代の建築物として、また京都表千家の不審庵は利休の遺物として、或は山崎の妙喜庵の如きは草庵體のものとして、常に吾々の頭腦の中に生きてゐねば茶室の建築は至難である。

茶人の造家は先づ以て茶の作法より間取をとる。他の建築を見るに或は縁側より給仕をせねばならぬものもあるが、茶禮からいへば本間があり次の間があり、次の間から出て行くのが本式である。その用意は茶道を學んで後はじめて知るべきのみ。茶室の建築に伴ふて造庭のことに指を染むるもまた自然の傾きである。庭園師といふものはあれど——。

茶道は佛家に關係のあるところから草庵體においては寺院の形式が多く加味され寺臭を帶びてゐるのは已むを得ないが膝を交へるやうな極めて狹い部屋でもそこに裕かさを持ち、分を守るといふ約束の下に、小さき間に種々の趣味を加へて上下の區別をするといふことに重きをおいたものである。故に普通の建築と異り、一つの圖面を引くにしても、主人公の居間は何處である、客は何處でする、炊事場は何處であるといふことを先づ決めて筆を下すといふのが吾々のやり方であつて、それに對する聯絡——上座を犯さず下座から客室へ行くといふのが第一要件である。それからひらきといふものをなるべく排してひきちがいを望むといふのは、開戸を作ると前に寄るといふ傾きになるからなるべくは淑やかに出たい。茶人の建築には開戸といふものは餘程困難な場所でなければ用ひないといふことがある。光線についていへば北の光線を尚ぶ。北の光線は均一であるから、總ての飾付を鑑賞するに適する。なほ茶の間には突上窓があるが、之は光線の調節をはかるためで、それに天井が割合に低い。天井が高いと氣が散漫になり低い、天井は氣を落付かせる。近頃見ると帝國ホテルなどは天井が非常に低いが、專門家の話によると建築經濟からいつても低い方が宜しい。歐米でも漸次さういふ傾向になつてゐるとのことである。

今日バンガロー建築といふものが流行するが、吾々をして言はしむれば、この種の建築はわが國でも古くから行はれてゐる。天正の頃豊公が北野で大茶會を催された時北野の松原に小さいものを幾つも建てゝズツと釜をかけた。それを春日の社家で久保權太夫といふ人が見て、自分は貧しいものであるから立派な茶席は出來ないが、成程あれを見るとどんな小さな住宅でも茶席の出來ないことはないと、四疊の間で床と客席とを二疊で取り、他の二疊を二分して、一疊の上には棚を設らへ寢具を載せ、一疊には水屋と臺所を拵らへた。これなどは最もバンガローに近いものであらう。下つて德川時代八幡の松花堂の翁といふ僧が、これは久保權太夫より半疊多い席を設けた。二疊の所へ佛間と床と客席を拵らへ、一疊の庭と一疊の寢室、半疊の水屋など置く場所を取つた。その外廊だけは八幡の西村某方に遺つて居り、扉其他は東京に移つ

て居るといふ。

如上の故を以て吾々は豪莊な建物よりも極くせまく心持のいゝ趣きのあるものを造りたい。常に小さい建築といふものが頭腦の中にあるために、製圖に際してどうしても普通よりはいくらか狹くなつて來る形があるが、先づ二十五六坪の地面に相當する所謂建築規則の二割の割合で建築した位のものが夫婦子供の生活程度のものであらうと考へ、日頃さういふ建築をやりたいと心掛けてゐるが、なか〳〵手を下すことが出來ないのである。さうなつて來ると總てが質素に行わる。豪家の建築或は貴人の住宅といへばそれ相當の威嚴を加へるのが當然であらうが、普通の所ではこの質素も尙ぶといふ建築法を設けてやつたならば、思想のためにも有益であらうと思ふ。ある人は言ふ、茶は贅澤物である。富者の事である。一木一品を購ふにも數十金を費さねばならぬと。これ實に茶道の本旨を沒却せるものであつて、建築の上よりいへば餘り傲らざる質素なるもの、それが吾々の趣味にもかなひ、建築經濟上および趣味の惡化を防ぐ意味においても當然採るべき建築法であらうと思ふ。



三女性の觀た住宅

平田春江

大正も十六年になりました。こゝしこそはと筆硯を新たにして端坐して見ましても、さてその劈頭から何にもないこの頭腦では、何を研究し、何を紹介しようにも今更ら手のつけやうもなく、そこで是非にも書かねばならぬ羽目から、這回は三人三樣の——勘くとも現代日本婦人界の或る意味での代表者ともいふべき方々の御意見を伺つて、それにこの下らぬわたくし自身の腦味噌をコンデンスしようといふ、至極蟲のいゝ算段をいたしました。

しかし、かうすることは單に限られたわたくし如き一個の女性の、しかもそれがその方面の研究者でゞもあるといふのなら格別、まつたくの素人考へを毎度披攄するといふことはみなさまにとつても決して面白いことでもなし、また眼界が限られて、其處には各人各樣の趣味なり或ひは必要なりといふものが充分察知することが出來ないからで御座います。同時に、若し專門家の方々にいたしましても、單に御自身の平素の研究なりその他の條件が、この場合どんなに立派なものであつても、それが一度專門家以外の人々にとつて、それらの人々の住む世界と餘りにもかけ離れてゐるものであつたならば、これは大に參考になることゝ信じられたからで御座います。

で、まづこの度はいま大阪で婦人界第一線に起つてゐられる高安やす子、島成園・河合やゑ子の三夫人の御感想を記すことにいたしました。

× × ×

おし迫つた昨年の暮、文樂座の火事の新聞記事は、いまなほわたしたちの頭裡にはつきりとしてゐることで御座います。大阪として、また日本文化の世界に誇るべきものゝ最もいゝものゝ一つとして文樂座を失つたとは、心あるものは勿論、何人も嘆息せぬものはなかつたのですが、あの火災で類燒された方の一家に高安病院のあつたとも御記憶だと思ひます。

醫學博士、高安六郎氏の夫人として家つきの御寮人として、はたまた大阪切つての美人のほまれ高く、所謂社交界のスターとして持てはやされてゐることは、人のあまねく知るところで御座いますが、しかし夫人はさうしたことが新聞雜誌の上でかつがれるとき、讀者としていつも感じさせられる「上調子で、はねつかへりや」だといふ誰にもあてはまる、その實それは理由なしの妙な一種の反感から來る——その條件と實際の夫人との間には餘程間隔があるので御座います。そして實際の夫人は、それは克くいろ〳〵のことを研究され、また慥かに現代婦人として立派に第一線に起つだけの資格ある方と信じます。不慮の災禍に見舞はれて、一たまりもなく燒け落ちた殘骸の一隅に、この頃の寒空を辛くも起居してゐられる夫人は、直接に建築とか住宅とかいふものに對しては、慥かに勁いショックを感じてゐられる譯です。

夫人は云はれます——

住宅を日本住宅にするか、西洋風にするかはこれは各人の趣味と實用とから來るもので御座いますから、それがいゝか惡いかは別問題だと思ひます。しかし今日のやうに都會集注主義になりまして、年々都會の人口が擴大されるやうになつて來ては、建築する場合には如何なることをさて置いても、先づ火災にそなへるといふことを忘れてはならぬと思ひます今度わたくしなどは、親しく火事に見舞はれて、わたくしどもの住宅が半洋館であつたために一部助かつたことも洵によい手本だと思ひます。たとへば、次の日起きてベランダへ行つて見ましたが、すると其處には大きさが二寸餘りもあるかと思はれるやうな燒け木魂があるので御座います。で、これが若し日本建築であつたならば、恐らく一たまりもなく、全部それから延燒しただらうと思はれますことで、これに依つても都市の建築は先づ何と云つてもこの點に留意せねばならぬことを泌々感じさせられたのです。從つて、わたしどもの考へ方といたしましては、事情さへゆるすならば、事務所は都會に置くとしても、住宅はなるべく郊外にあつた方がいゝと思ふので御座います。これは保健上から觀ましても、また日常起居に伴ふいろ〳〵雜多な生活上のことから申しましても。何しろ都會では人家蜜集いたして居るので御座いますから、いざ鎌倉といふ場合でも、老人や子供がそのためにどんなに困難をするかも知れませんから。これは先年の關東大震災で充分わたしたちは學んだことで御座いまして、今後は一層このことに注意する必要があると思つてゐるので御座います。ですから、もし止むを得ず日本建築にするにしても、この火災にそなへるためには出來さへしたら土藏を造ることで御座います。それに同時に、保險を附するといふことは大切だと思ひました。平素はこの火災保險によらず何保險でも、たゝ捨金を打つやうな氣がいたしますが、決してそんなものではないので、これあるがために安心して仕事に從事することが出來るので御座います。殊に日本建築ではこの必要を感じさせられる譯で、一體が火災に對してはまつたくの無抵抗に出來上つてゐるのですから、この點は西洋などとはより充分備へる必要があると信じます。

わたくしどもの現在の住宅は、その肇め、田邊順吉氏の設計によつて出來上つたもので御座いますが、住んでゐて自分の家をほめるのも妙なもので御座いますが、實によく出來て

ゐると思つて居ります。全體の風はイングランド、タイプで御座いますが、それだけに實用ばかりではなく、充分趣味といふのをを取入れてあることに感心させられます。一例を申しますと、全體の色彩がクリーム色であるといふこと、ステンドグラスなど、世間には隨分ごて〳〵したものもありますが、これなども一見何等の色彩を用ひずにゐて、その實使つてゐて何とも云へぬ其處から野趣に似た或る物を摑まされるので御座います。現代のやうにすべてが鮮明な線と、あくことをしらぬ濃厚な模樣をよろこぶ人々にはどうかと思ひますが、しかし日常外界で餘るほど刺戟を受けてゐる人々には、寧ろ反對にばんやりとした野趣ゆたかな住宅に起居するといふことは必要ではないでせうか。と、申しましても全然白壁造りの何等風致をそへぬといふ意味ではありません。要は根本的に濃厚な色彩を基調としてゐるかゐないかといふ點にありますので、この場合野趣云々と申しますのは、ヂヤーマンタイプなり、フランスタイプなり、乃至はヤンキー張りに對しての對照をいふので御座います。

次には愈々建築する場合に就て一言申上ます。尤もこれはわたくし一個の趣味の發露とでもいふべきもので、決してみなさまの參考にまでなるとも思はれませんが、それにしてもこれだけは住宅として欲しいと思ひます。應接間、書齋、食堂、居間、寢室、豫備室、浴室等——これは誰しも必要とするところで御座いますが、このうちで食堂などは他の室と比較して色彩はなるべく派手なとを以てよしといたします。應接間は來客と對座して、無言の裡にその家庭を或る程度まで雄辯に語るもので御座いますから、この場合室内の器具や裝飾は最も克くそのキアラクターを發揮したものでなければならぬと思ひます。書齋は全體として最も落付いたものでなければならぬとは古今東西を通じてよく話題に上るところで御座いまして、古來日本風に申せば北窓などを最もよしとしたのも、要はこの落付といふ點にあつたこと〻信じます。從つて室内の裝飾はどちらかと申せば赤とか紫とかいふ色彩をさけて、ねづみ色にするといふと、或ひは茶とかその他これに類似したものを使用することもいゝと思ひます。そして、すべてが默想的に、すべてがぢつくりと讀書することに適してゐることが第一條件と思ひます。そしてこの場合、出來るとなら餘り他のもので裝飾せず、書棚によりてすべての裝飾代用をさせることも必要でせう。また版畫の如きも油繪とか、純日本風のものでも色彩あるものよりも、どちらかと云へば水彩畫のクローム版のやうなものが一番ぴつたり感じにふさはしいと思ひます。

其他は既劃的には申されますが、部分的には各人各樣の趣味なり實用なりから割り出されることで御座いますから、それはその都度變化あつて然るべきだと思ひます。しかし總體として申せば、かういふことは忘れてはならなひと思ひます。

それは、わたしたち日本人として建築學上考慮のうちに入れて置くものとしては、その顏色との調和上すべての光線をあまりはつきりせぬとだと思ひます。一例を申しますと、寺院などへ參りまして、高い天井を通じてぼんやりと黃色い光線が流れてゐますが、あれが最も適した光線だと思はれますすべてがぼんやりと、すつきりと落付てゐる點が特長ですがこれは勿論洋館の場合よりは純日本風の茶室向きとでもいふ

のでせうけれど、簡素にして、素朴な氣分がやつぱり日本人向だと思ひます。今日のやうなわたくしどもの生活としては和洋二つの生活を營むといふことは仲々難いことで、その孰れかに歸さねばならないとせば、わたくしはやはり洋館說に贊成するもので御座いますが、それにしても室内の裝飾などはやはり日本風のものがいゝと思ひます。それから、これまでは兎角洋館と申しますと、何でも天井も高く、高價な裝飾品を必要とし、住宅としても廣大なものを條件として居りましたが、この必要は寧ろまつたく必要のないものだと思ひます。いふまでもなく、今後はます〳〵機械文明が發達するので御座いますから、實用的といふことでは萬遺憾ないことと存じますが、それだけにすべてが反藝術的になつて參りますからこの點に注意して調度品は高價なものは必要としないが、しかし飽くまでも藝術的でありたいと思ひます。このことは子弟敎育の上にも特に必要なことだと存じます。

そして、わたしとしてはやはり日本建築よりも今日の場合洋風建築に贊成するもので、住宅としても決して不自由でないといふことを感じてゐるもので御座います。要するにそれは内部の如何によりて決せられる問題では御座いますけれど。同時に都會生活者としては今後ます〳〵洋風を必要とすると思ひます。

× × ×

闇秀畫家　島成園さんは語る——

それは勿論わたし一人の意見で御座いますし、またわたしどものやうな藝術を友として起居して居るもの〻意見が決して大方の御參考になるとも思ひませんが、わたしはわたしの場合に照して、矢張り純日本趣味の住宅讃美者で御座います都會とか田園とか區劃することになりますと、其處にはいろ〳〵甲乙の議論もあることと思ひますが、さういふことを離れて少らくわたし一個の趣味としては前に述べたやうに何處までも日本趣味に立脚したもので御座います。しかしそれにしても、わたしは住宅は決して宏大なものは必要ないと思つて居りますもので、たゞ欲を申せば庭園は幾分廣い方がよく、そしてなるべく植込が多い方がいゝと思つて居ります。使ひもせぬ幾つもの部屋や調度品、さてはそのために多くの下女下男を使用するなどといふことは、單に不經濟なばかりでなく、階級意識の上から云ふても決して面白いとではないと思つてゐます。

と申しても、建築に際してはたとひ小なりと謂へども、木材は出來るだけ上等のものを用ひたいと思ひます。安普新であるといふことは、何かにつけて不快であるばかりでなく、一家の指導上にも決していゝことではありません。わたしの知人の子供に、繪畫の天才がありましたが、どういふものか或る時期を劃してこれまでのやうな天才的ひらめきをその子供の畫から見出すことが出來なくなつたので御座います。で、あまり不思議に思ひまして、いろ〳〵その理由に就て調べて見ましたところ、家庭の都合で轉宅いたした結果だといふことがわかりました。と申したのでは御解りにならないかも知れませんが、それはかうなので御座います。その子供がこれまで住んでゐた家といふのは相當由來のある、そして建築としても實に立派なものであつたのですが、其後轉宅したのは新築ではあつたが、すべてが安普新であり、すべてが何等藝術的

反應のあるやうなものなかつたので、從つて其處で起居してゐる間に、刺戟性を失つたといふことは發見されたので御座います。で、その結果驚ろいてまた他に轉宅したといふことも御座いますが、これに依つて見ても人間の生活上、住宅のもたらす感化といふものは決して莫迦になるものでは御座いません。

しかし、さうは申すものゝ、在來の傳統的日本住宅がかならずしも全部稱讃に値えしてゐるかといふと決してさうばかりも申されません。あるべきところに、あらねばならないといふ筆法で、猫も杓子も必要であらうがなからうが、たゞおかまひなしに一つの型にはまつた住宅を造つたものでした。一年三百六十五日、古新聞をつんでゐても床の間で必要であつたり、まつたく不必要をしのんで、また自己の趣味などまつたく無くても當然のやうにいろ〳〵なものが並べられたりしてゐるのをよく見ますが、これなどは實用的であるといふ點からは勿論、趣味といふ點から申しても決して感心すべきことだとは思はれません。それよりももつと根本的に立入て、何處まで日本建築といふものが趣味に即してゐるかゞ問題でさういふ點になると、わたしは特別に數奇をこらしたものは別として、一體に日本住宅には餘りに趣味といふものが欠けてゐると觀てゐるもので御座います。いふまでもなく、日本建築の源は、これを支那に求めることが出來ますが、今日ではその面影がほとんど失はれてゐるばかりでなく、色彩とか調和とかいふものとは全く離れてゐるやうな氣さへいたします。奈良の春日神社や、天王寺の廻廊を以て藝術的最高の建築だから、あれを眞似よとは申しませんが、それにしても今日の日本住宅といふものにはその基調となつてゐるものに何處に色彩に考慮を拂ひ、また光線といふものに留意されてゐるでせう。更らにもつと具體的に申せば壁とか欄間一つにでもどれだけ心してあるかといふことが問題になつて來ます。その點になりますと、今こそ非文明國だとか退嬰的だとか申されてゐますが、この建築といふ點では今なほ支那などわたしたちとして大に學ぶべき點があると思ひます。從つてわたしの考へでは現在の日本住宅に或る程度まで支那趣味を取入れるといふことは相當意義のあることではなからうかと思つてゐるところです。尤もさういふことは建築をする場合、經費の關係もありませうけれど、しかし日本のやうに傳統を盲目的に信頼してゐる民族に、こゝに一點新らしい何物かを投げ入れたならば、またそれがより早く傳波もするだらうと思ふのです。さういふ點で專門家の方々もかういふ方面の御研究を適當に加味されることは必要なことではないかとお話したとも御座います。

× × ×

社會的にいろ〳〵活動しておいでの河合やを子夫人のおはなし——

只今わたくしどもの邸宅は六百坪ほどの宅地に御座いますが、これは本來なら少し必要から申して廣ろすぎると思つて居ります。先代時代から住んでゐますので、今更どうしようといふ考ひも持つて居りませんが、若しわたくし自身必要とするならば、この半分でもなほ充分だと思つて居ります。廣いといふことは何かにつけて不自由で、その癖人手を多く要しまして、さういふことは慥かによいことだとは申されません。

勿論かういふことは總體として申す譯には行きませんが、廣くある、人手を要するといふ反面は非家族的になり階級的になるといふことも否定出來ない事實で御座います。

次に、近來旺んに洋風が取入れられて、都市が次第に日本風を離れて洋風になつて參りましたが、この間の消息には無理のないことがあつてのことであり、また自然さうなるのが本當で御座いませうけれど、こゝにわたくしどもとして一言申上たいことは、その洋風になることは當然の道行としても、各自の建築の美が全體としてもまた美に立脚してゐなければならぬと思ふことで御座います。謂ふところの個々の美とは譬ひを以て申せば、こゝに一人のブルジュアがあつて、その人は金にあかして都市の眞中に大邸宅を造るとする。その場合廣さにまかせ、また數奇を意味して恰も背後に綠の山をもつてゐるやうな風に建築したとする。さうして爾餘の多くの人々はその間に軒を並べて小さく生きてゐるとしたなら、この一邸宅のために都市全體の美はすつかり破壞されてしまつた譯です。かういふことはこの頃のやうな時代ではみなさまが充分お考ひになつてゐることで、まつたくわたくしなどの危憂にしか過ぎませんけれど、しかし萬一にもさうしたことのないやうにといふ婆心で御座います。それと同時に、大局から觀て都市の美觀を害し、不調和をいたすといふことはお互に考へねばならぬことだと思ひます。

それから住宅はなるべく郊外にといふ御意見の方も御座いますが、わたくし一個の考へではあながちその必要はないと思ひます。さういふ御意見の方にはそれだけの論據あつてのことは勿論わかりますが、しかし若い新婚の二人ぐらゐが郊外にすむといふことは決していゝとは申されません。一面のびゝとしても居りませうし、翼をひろげたやうな氣もいたしませうけれど、反面には夫は毎日通勤する、またよし通勤せぬまでも、人間といふものは四圍に心くばつてこそ人としての價値もあれ、たゞ本能的に生きるといふことは決してよいことだとは思はれません。それに郊外生活は何かにつけて不自由であるばかりか、物騷も伴ひますから。……とかう申すと如何にも感情的にお話申してゐるやうで洵に恐縮いたしますが、それも郊外でも相當な邸宅にでも住むなら兎に角、小さな借家などへ這入るならばやつぱり五十歩百歩だと思ひます。

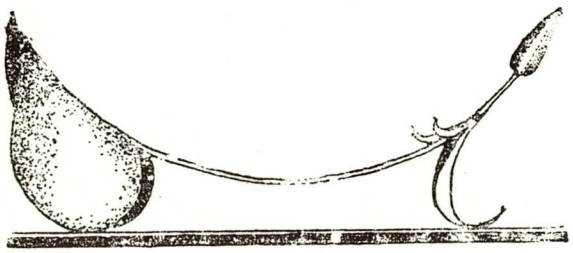
それからもう一つ、氣付いたことを申せば、應接間はやつぱり洋風がいゝと思ひます。どうも日本室は落付はありませうけれど、用件以外いろ〳〵家族として手數を要しまして、殊に現今のやうにすべてが時間的にすべてが機械的であるとを尙ふ時代には、あまり昔風の茶を出して酒を出して雜談にふけるといふことは自他共に困ることに違ひありませんから、これだけでも應接室は洋館の方がいゝと思ひます。それから食堂はやつぱり別の方がいゝようで、これも能率的にも衛生的にも必要だと思ひます。

その他庭園に芝生を植えるとや、近來迷信が殆どなくなりて、方角とか鬼門とかいふものをまつたく忘れてゐるやうであるが、これは少々古い考ひ方かも知れないが、やつぱり生かして使つてほしいものゝ一つだと思つてゐます。

× × ×

以上は三人三様の御意見のアウト、ラインを甚だ不充分でありましたがこゝに記して見ました。これに對しては今更ら説明や註を加へる必要はさら〳〵御座いませんし、遖がにそれ〴〵美事な御感想をお持ちだと、ひたすら感心させられるところで御座いますが、こゝに若し強ひて蛇足を加へるとせば、以上三人の方が等しく、「住宅は廣い必要はない」といふ一點と、趣味を如何に取立れ、如何に生かすかといふ一點と下撲などに對する階級的思想を如何に心してゐられるかといふ一點は見逃せないところだらうと思ひます。わたくし一個といたしましては、匆々の際ではあり、殊に臺所とか經濟とかいふ問題に就ては餘り言及いたしませんでしたし、またかうしたことを住宅の上に如何に取入れるかの問題に對しては後日更らにさうした方面の方々の御意見を伺ふつもりでゐますので、這回は特にさうしたことには論及して頂かなかつたので御座いますが、以上の部分だけでも、如何に現代女性が住宅といふものに考慮を拂つてゐるかは男子の方々にも御一考を煩はしたいところだと存じます。

住宅問題がブル階級の獨專的時代から、專門家の研究的對照物の時代を經て、今日は正しく民種夫自體の問題として大なる問題となつて參りました。恐らく今後は技術的であるとは別問題として、この住宅問題は國家を擧げて男も女も大に研究しまた考へねばならぬものだらうと思ひます。さういふ意味に於て、先づこの三人の方々の御意見を伺つたとも何等かの意味で專門家の方々の御參考にもなれば筆者としても滿足するところで御座います。



都市住宅と建築法規

池田谷久吉

我が國の現在に於て住宅建築に對してのみ適用される法律といつては設けられてもゐなければまた勿論施行もされてゐないが、市街地建築物法の施行は無論都市に於けるあらゆる建築物の取締であるから從つて住宅建築も市街地建築物法に基いて建築すればよいのである。

從來我々の頭の中に法律といへばうるさいもの厄介なもの面倒なものといふ先入感が強くこびり着いてゐるが、こうした建築物法などの如き特別法は已往の古い永い間の建築術を基調としてこれに鄕土的習慣等を織りこなして出來てゐるから決して危惧する樣なものではなく、むしろ進んでこれを迎へなければならぬと思ふ。

扨て建築物に於ても特種なもの即ち劇場、浴場等の公衆的のもので保安警察の取締を要するものは從來各府縣に於て相當取締法があつたが、普通一般建築に就ては何等の制限がなかつたために如何なるものが建てられ樣がそれは建築主の絶對的自由であつた。ところが大阪府に於ては明治三十九年北區の大火に於て從來の無制限の建築法による災害的の過弊を認め市街地に於ける密集生活者の保安維持問題の唯一なるものは獨り建築法の改良に俟つべき事の甚大なるを大いに體驗しいよ〳〵明治四十二年八月十八日附を以つて大阪府令第十四號『建築取締規則』を制定發布した。

恐らくは我が國に於ける建築物法の唯一のものであり亦最初のものである。內容の主たるものは、道路巾員の最低限を作り、長屋建築の防火的立場から制限を試み、構造設備に於ては空地問題を初めとして軒高層數の限度、採光、換氣、厨房、便所、水場等の衛生設備、階段、通路、煙突、屋根等の保安設備等に至るまで可なり周到なものであり現在の市街地建築物法の骨子を成したものといつても過言ではない。

其の後十年を經て大正七年內務省に於ては都市計畫調査委員會を設置し、過去の市街過群生活から來る密集建築弊害、交通、保安、衛生、美觀等を初め構造設備はもとより、各般の事項に就て冷靜なる調査研究を續け漸くにして大正八年四月四日法律第三十七號を以つて『市街地建築物法』の發布を見るに到つた。引き續き大正九年九月二十九日、勅令第四百三十八號を以つて『市街地建築物法施行令』が公布され、同年十一月九日內務省令第三十七號『市街地建築物法施行規則』が公布され、同年十二月一日より東京、京都、大阪、橫濱、神戸

名古屋の六大都市に適用されるに及び之等各府縣に於ては名々府縣令を以つて『市街地建築物法施行細則』を制定し、こゝに一貫した系統を整へて運用されつゝあるものは現下の諸法令である。

以上の經過によつて施行されつゝ法令の內に於て住宅に關する方面のみを摘記して略解を試み讀者の御參考に供せんとす。

一地域問題

法第二條

建築法にして住居の安寧を害する虞ある用途に供するものは住居地域內に之を建築することを得ず

令第一條、建築物左の各號の一に該當するときは住居地域內に之を建築することを得ず

一、常時十五人以上の職工を使用する工場、常時使用する原動機馬力數の合計二を超過する工場又は汽罐を使用する工場但し行政官廳住居の安寧を害する虞なしと認むるもの又は公益上已むを得ず認むるものは此の限にあらず

二、五臺以上の自動車を常時收容する車庫

三、劇場、活動寫眞館、寄席又は觀物場

四、待合又は貸座敷

五、倉庫業を營む倉庫

六、火葬場

七、屠場

八、塵埃燒却場

九、前各號に揭ぐるものを除くの外行政官廳住居の安寧を害する虞ありと認め命令を以つて指定するもの

施行細則第二條（大阪府令）

令第一條第九號に依り指定する建築物左の如し

一、玩具用普通火工品、鍛冶、金屬薄板細工（玩具類を除く）石細工　組紐、莫大小、起毛、落綿精製又は豊の作業場

二、高六十尺以上の煙突を使用する作業場

三、活動寫眞の撮影場、遊覽所又は遊技場（撞球場及大弓場を除く）

四、待合茶屋、席貸、料理又は飮食店（料理屋及飮食店に在りては單に飮食物を供給するものを除く）

五、勸商場、火藥商店又は煙火商店

六、射的場

七、精神病院、傳染病院、隔離病舍、隔離所又は消毒所

八、常時五頭以上の馬、三頭以上の牛又は營業の爲牛馬を收容する牛舍、厩、牛馬市場、搾乳場、若は家畜病舍

九、禽畜飼養場

十、死畜取扱所

十一、肥料藏置所又は乾魚藏置所

十二、未消毒屑物の取扱所又は貯藏所

前項各號の一に該當するものと雖も周圍に廣濶なる空地ある場合に於ては期間を付し特に認可することあるべし

以上に示されたものは普通住居問題として大いに制限すべきであつて、安靜なる住宅地の成立を期する上に於て最も適當なものである。

二　高さの問題

令第四條、建築物の高は住居地域内に於ては六十五尺を住居地域外に於ては百尺を超過することを得ず但し建築物の周圍に廣濶なる公園、廣場、道路其の他の空地ある場合に於て行政官廳交通上、衛生上及保安上支障なしと認むるときは此の限に在らず

建築物に於ける高さの制限は採光、換氣の完全と高層生活に伴ふあらゆる弊害を除却し一は地震に依る災害を豫防せんとするにある、尤も令第四條に於て規定されたことは構造設備、道路幅員等に不拘絶對高を示したものであつて、令第五條より、令第十三條に於ては各任意のものに就ての高さを制限してゐる。即ち煉瓦造建築物、石造建築物及木造建築物の高さは四十二尺、軒高三十尺、木骨煉瓦造建築物及木骨石造建築物は高二十五尺軒高十五尺を超過してはならないことである。

亦、建築物の各部分の高さは其の部分より建築物の敷地の前面道路の對側境界線迄の水平距離の一倍四分の一を超過してはならないことを原則として、それ以上に其の前面道路幅員の一位四分の一に二十五尺を加へたものを限度としてゐる尙亦建築物の敷地は幅員の異つた二以上の道路に接する場合に於て一の道路の境界線迄の水平距離が其の道路巾員の一位二分の一以内に在つて且八十尺以内の區域に在る建築物各部分の高に付ては其の部分より對側建築線迄の距離を其の道路を前面道路を看做してゐる。

前面の道路が二以上ある場合に於ては其の幅員が同一でない場合は幅員少なる前面道路は幅員大なる前面道路と同一の幅員を有するものを看做してゐる。尙左の如き場合に於ては令第七條―九條の規定に不拘別段に規定されてゐる。

A　公園、廣場、河、海類に接するとき
B　前面道路の對側に公園、廣場、河、海の類あるとき
C　其の地盤面と前面道路の路面との高低の差著しきとき
D　高低の差著しき二以上の道路に接するとき
E　道路の終端に位するとき

三　空地

住居地域は言ふ迄もなく市民休養の安息所として常に建築物をして新鮮なる空氣に浴せしめ十分の採光を必要とするために可及的廣き空地を強制するものである。

令第十四條、建築物の建築面積は建築物の敷地の面積に對し住居地域内に於ては十分の六……を超過することを得ず但し行政官廳特に指定したる角地其他の地區に於ける建築物に付ては此の限に在らず。

此の規定の但書に對し大阪府の細則に於ては道路幅員が三間以上で其の和が十二間以上のもの又は道路の交叉角三十度以下の角地の場合にて各前面道路の境界線より之と隣接してゐる道路の幅員の一倍半以内で且八十尺以内の部分及又幅員三間以上で其の和が十二間以上の道路の間に在る地區にして一の道路境界線から他の道路境界線迄の距離を道路幅員の和の二分の一以内で六十尺以内のものは空地を作らなくてもよいことになつてゐる。

此の他に公園、廣場、河、海の類と接する地區又は其の他

の地區で以上の角地や道路に狹まれものと同一と認められるものに就ても令第十四條の但書が適用されることになつてゐる。

四　構造設備

構造設備に關しては都市の建築物は社會道德の問題としても等閑に附すべきものではなかろうと思はれる。近くは我が關東の震災に徵しても如何に構造設備の不完全に依つて被害を大ならしめたかは想像するに難くはない。

今大要を摘記して參考に供さん。

五　敷地の防濕

規則第七條、建築物の敷地は其の接する道路境界に於ける路面より高からしむべし但し建築物の用途又は土地の狀況に依り地方長官本條の規定に依り難しと認め又は必要なしと認めたる場合は此の限に在らず

規則第八條　建築物の敷地濕潤なるとき又は出水汎濫の虞あるものなるときは地方長官其の他盤面の地揚高又は建築物の床高に關し必要なる命令を發し又は處分を爲すことを得

令第九條　建築物の敷地には其の敷地內に於ける雨水及汚水を排泄又は處理すべき適當なる設備を爲すべし

令第十條、下水溝、下水官、溜桝の類は耐水材料又は地方長官の承認する材料を以つて構造すべし

取締規則第十七條、建築敷地が道路又は通路に沿ふときは其境界線內に雨水溝を設くることを要す但し之に代るべき公共溝渠の施設しあるときは此の限り在らず

雨水溝は幅內法六寸以上とし溝側は石材、溝底は防水材料を以て之を構造し適當の勾配を付することを要す

雨水溝の深五寸以上なるときは覆蓋を設くることを要す

雨水溝の內側緣石の上端は外側緣石上端の水平面より高きことを要す

六　汚物溜

規則第十一條、便所、畜舍等より排出する汚物に對し汚物溜を設けむとするときは地方長官の認可を受くべし

汚物溜は耐水材料を以て構造し適當なる防水裝置を施し且覆蓋を設くへし

令第十二條　便所、畜舍等より排出する汚物は地方長官の指定する下水道に非ざれば之に放流すべからず但し地方長官の承認する汚物處理槽を設くるときは此の限に在らず

前項の下水道の設備ある地區にして地方長官特に指定せる區域內に在りては便所は汲取便所と爲すべからず

七　汲取便所

規則第十三條、汲取便所の構造は左の規定に依るべし

一、糞尿壺及尿樋は不滲透質の材料を以て造り糞尿壺の上口周圍は厚三寸以上の『コンクリート』を以て漏斗狀に作り不滲透質の材料を以て上塗を爲すこと

二、床下は周圍に耐水材料を以て障壁を設け他の部分と遮斷すること

三、汲取口は其下端を其の接する地盤面より三寸以上高く

て且之を直接道路に面せしめざること

取締規則　第五十八條、住家には各戸に便所を設くること

を要す

同第五十九條　便所には窓及上部に換氣孔を設くることを要す但し床下より屋上二尺以上に達する臭氣拔を以て換氣孔に代ゆることを得

臭氣拔の高は其の附近の狀況に因り近接建物に對し直接に害に及ぼさゞる程度迄之を伸長することを要す

令第六十條　屎尿溜及其の附屬裝置は防水材料を以て之を構造することを要す但し第二層以上に於ける便所の附屬裝置は鐵管其の他金屬表と爲すことを得

屎尿溜の周圍は防水材料を以て漏斗形に之を構造し、煉瓦、瓦、漆喰に在りては表面に厚一分以上『セメント』又は『アスファルト』を塗布することを要す

移動屎尿器を据置くべき場所及其の周圍は防水材料を以て之を構造することを要す

八　井戸と汲取便所と汚物溜との關係

規則第十四條　井戸と汲取便所及汚物溜との距離は三間以上を有せしむべし但し地方長官其の構造設備又は土地の狀況に依り衛生上支障なしと認めたるときは此の限り在らず

地方長官は井戸、汲取便所又は汚物溜の位置、構造、設備等に關し前三條及前項の外必要なる規定を設け又は措置を命ずることを得

細則第九條　雜用井戸は汲取便所及汚物溜より九尺以上の距離を保有せしむべし但し其の構造設備に依り六尺迄斟酌認可することあるべし

井戸は周圍及上部より汚水、汚水等の滲透浸入せざる樣其の周圍を石、煉瓦、コンクリート、土管（素燒を除く）又は厚板の類を以て構造し其の底には深二尺以上小砂を敷くべし但し適當に接合したる鐵管、鉛管、土管（素燒を除く）又は竹筒を使用する鑿井は此の限に在らず

井戸の上部には地面上高二尺以上の井筒又は井桁を設備し其の周圍の地盤面は耐水材料を以て之を構造すべし

九　壁體の防濕

規則第十五條　建築物の壁體にして直接土壤に接觸する部分は耐水材料を以て構造すべし但し門、障塀其の他輕微なるものは此の限に在らず

令第十六條　居室の床地盤面下に在る建築物に在りては最下階の居室の床又は其の床下は耐水材料を以て構成し其の壁體及床下には適當なる防濕方法を施すべし

一〇　居室の床高と其の換氣

規則第十七條　居室の床高は一尺五寸以上と爲すべし但し床又は床下にコンクリート叩其の他適當なる防濕方法を施したるものは此の限に在らず居室の床木造なるときは其の床下には適當なる換氣方法を講ずべし

一一　居室の天井高

規則第十八條　居室の天井高は七尺以上と爲すべし

取締規則第三十六條　床及天井には適當なる掃除口を設け

又は之に代るべき設備を爲すことを要す

一二　居室の採光

規則第十九條　居室は其の室面積の十分の一以上の有効面積を有する窓又は之に代るべき採光面を有すべし

前項の採光面幅三尺以上の縁側を距つる場合は其採光面積の二分の一を有効面積と看做す此の場合に於て溜縁は縁側と看做さす

第一項の採光面積は左の各號に該當する部分に限り有効なるものと看做す但し道路、公園、廣場等の空地に面するものに在りては此の限に在らず

一、其の部分より直上屋根面（直上屋根面なるときは壁頂迄以下同じ）に至る高は住居地域内に於ては其の面する隣地境界線迄の水平距離の二倍半を……超過せざること

二、其の部分より直上屋根面に至る高は住居地域内に於ては同一敷地内に在る耐向壁迄の水平距離の二倍半を……超過せざること但し其の部分を含む水平面より對向壁直上の屋根面に至る高さが住居地域内に於ては對向壁迄の水平距離の二倍半を……超過せざるときは此の限に在らず

三、庇其の他著しく採光を妨ぐるものありと認め又は衛生上特別の必要ありと認むるときは地方長官は採光に關し特に採光面の增加其の他適當なる措置を命ずることを得

第一項の適用に於て天窓は其の面積を三倍に換算す

第一項の面積に相當する窓又は代るべき採光面の部分は其の上端を床面上五尺七寸以上と爲すべし

隨時開放し得る襖、障子の類を以て仕切りたる二室は本條の適用に關し之を一室と看做す

令第二十條　居室に於ては直接外氣に面して室面積の二十分の一以上に相當する面積を開放し得べからしむべし但し之に代るべき適當の換氣裝置あるときは此の限に在らず

前條第四項、第六項及第七項の規定は本條に之を準用す

取締規則第三十二條　住家又は公衆用建物の各室には上部に欄間其他換氣孔を設くることを要す

一三　浴室及便所の採光換氣

規則第二十二條　浴室及便所には採光換氣の爲直接外氣に面し適當なる窓を設け又は之に代るべき設備を爲すべし

一四　防疫設備

規則第二十三條　地方長官は建築物に對し防疫に必要なる防鼠其の他の設備を命ずることを得

取締規則第二十七條　外壁及界壁の床下、天井裏に屬する部分は防鼠材料を以て之を構造し若は之に金網（三分目以下ノモヂ）の類を張ることを要す

床の間、押入りの如き二重床又は土間床の周圍亦前項に同じ

一五　階段

規則第二十五條　階段の構造は左の規定に依るべし但し避難階段其の他特殊の用途に供するものは此の限に在らず

一、階段及踊場の幅は內法二尺五寸以上と爲すこと

二、蹴上七寸五分以下踏面五寸以上と爲すこと

三、高十五尺を超ゆるものに在りては高十五尺以内毎に踊場を設くること

階段の用途に依り危險なりと認むるときは地方長官は前項の規定に拘らず必要なる命令を發し又は處分を爲すことを得

令第二十六條　地方長官保安上必要と認むるときは階段の設置を命じ又は其の配置若は設備の變更を命ずることを得

階段數量表（取締規則第三十七條ニ依ル）

構造	坪數	25坪以下	35坪以下	50坪以下	70坪以下	100坪以下	100坪以上	150坪以下	150坪以上	200坪以下	200坪以上
木造		一			二	三	四				
石造又ハ煉瓦造			一			二		三	四		
耐火構造		一				二				三	四

一六　屋根被覆に就いて

規則第二十七條　屋根は耐火構造に非ざるときは不燃材料を以て覆葺すべし但し『モルタル』塗、漆喰塗の類を以て覆葺せんとするときは地方長官の許可を受くべし瓦葺屋根に在りては引掛桟瓦の類を使用し又は瓦を野地に緊結すべし

神社佛閣屋根、茶室、四阿の屋根又は輕微なる庇の類は土地の狀況に依り地方長官の許可を受け本條の規定に依らざることを得

取締規則第四十五條、軒、蜾羸又は庇の隣接建物に對四る距離二尺未滿なる部分は防火材料を以て之を構造又は被覆することを要す

令第四十六條　軒先瓦下の空隙はセメント又は漆喰の類を以て之を塗塞することを要す

一七　屋上工作物

規則第二十八條　地方長官は物干、物見臺等屋上工作物に關し必要なる規定を設くることを得

細則第十一條　物干、物見臺等屋上工作物にして面積二坪を超ゆるものは不燃材料（『モルタル』塗及漆喰を除く）を以て構造又は被覆すべし

一八　煙突

規則第三十五條　煖爐、風呂竈の類の煙突の屋上突出部は其の最短部に於て二尺以上と爲すべし但し煉瓦造又は石造の部分は補強を爲さゞる限り三尺以上と爲すべからず

令第三十六條　煙突の直上部に軒あるときは其の軒より更に二尺以上突出せしむべし煙突と上方軒先との水平距離三尺未滿なるとき亦同じ

令第三十七條　金屬製煙突にして山屋裏、床裏等露出せざる位置に在る部分は金屬以外の不燃材料を以て被覆すべし

令第三十八條　金屬製煙突は木材其の他の燃質材料と五寸以上の間隔を有すべし但し厚三寸以上を有する金屬以外の不燃材料を以て被覆するときは此の限に在らず

取締規則第五十條　高二十五尺以上の煙突は道路との間に三尺以上の距離を存することを要す

一九　木構造及木骨構造

規則第四十八條　柱、梁其の他之に類する構材の繼手及仕

口にして十要なるものは『ボールト』締其の他適當なる方法に依り緊著すべし

令第四十九條　建物の主要なる柱は堀立と爲すべからず但し適當なる防腐方法を施したるものは此の限に在らず

令第五十條　堀立に非ざる柱の下部には土臺又は脚固を使用すべし但し柱を其の基礎に緊著したるときは此の限に在らず

令第五十一條　石、煉瓦其の他の腰積を有する建物は之を土臺敷構造と爲し土臺は腰積に緊結すべし石、煉瓦、コンクリートの類の束を以て前項の腰積に代ふるものは其の構造に付特に地方長官の許可を受くべし

令第五十二條　建物の土臺及敷桁の隅角には燒材を使用すべし

柱の小徑表（規則第五十三條）

區分＼層別		第一階	第二階	第三階
三階	A	1/22	1/25	1/30
	B	1/25	1/30	1/35
二階	A	1/25	1/30	
	B	1/30	1/35	
平家		1/30		
		1/35		

AはB以外の屋根葺材料

Bは屋根金屬板石盤又は石綿盤の類を以て覆葺するもの

令第五十四條　柱にして其必要なる斷面積の三分の一以上を欠きたる場合には其の部分を補強すべし

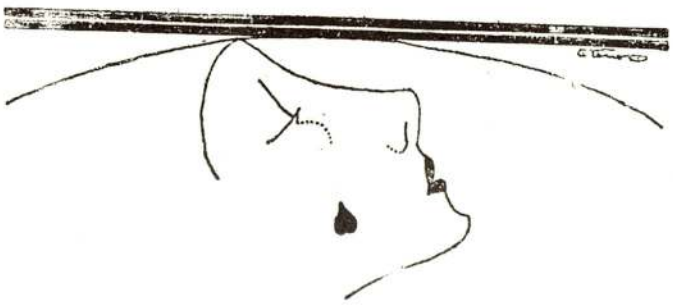
令第五十五條　建物には適當に筋違又は方杖を設くべし

二〇　水場

取締規則第五十六條　流元、井戸端、風呂場其の他常に水（其ノ他ノ液体亦同ジ）を使用し若は放流する場所は其の地盤又は床面を防水材料を以て構造し之を溝渠其の他適當なる場所に接續することを要す、第二層以上に於ける水場の床及附屬裝置は鐵管其の他金屬製と爲すことを得

令第五十七條　溝渠（第十七條ノ雨水ノ溝ヲ除ク）は防水材料を以て之を構造し百分の一以上の勾配を附し其の上部に覆蓋を設け其の覆蓋は金網の類を裝置することを要す

以上は極めて大略ではあるが大阪府管内に於て施行されてゐる法規を中心として摘要列記したものであるが、もとより詳細は前述の市街地建築物に就て充分研究すべきである。



住宅建築と其工費豫算

智堂破議

住宅建築に於て經濟的方面から考察して

一、住宅建築の工費豫算

二、住宅建築と其經常費關係

とは共に相聯關して考慮を要すべき問題である。建築費の節約！、夫れは素より肝要な事ではあるが、建築費を無暗に節約したが爲め其家の經常費が馬鹿にカサんだり、遺憾なき設備又は文化の閃きとでも云はふか、そういつた事にベラ棒な建築費を投じた上、オマケにシタ、カ經常費を喰ふと云ふ樣な事も考へものであらう。

結局建築費としてはイクラか不經濟でも日常生活の勞力（人手）の上に、物質の上に經濟的であれば、要する所總勘定に於て之を償ふて餘りあると云ふ譯けである。つまり住宅建築では唯だに建築工費の多寡のみに拘泥せず、日常生活との經濟的關係をも併せて考察する事が餘程必要な事ではあるまいか。

工費豫算と其内譯

住宅建築の工費豫算などは勿論其建てんとする場所、樣式季節、使用材料の品位、其外何やかやと其時々の異なつた條件に支配さるゝ事が多い爲めに、茲許一律に兎や角論ずる譯には行かないけれど、今日まで關係した色んな住宅の中から手近かな數種を選んで、其工費の内譯關係を數字的に現してみやう。

次にA.B.C.Dの四種の住宅に就て其仕樣の大要と總工費と延坪費等を記してみやう。

一A住宅

延坪二十六坪餘

建築費　金四千四百圓也

延坪宛金百六拾圓也

仕樣

木造和風平家建、屋根瓦葺、外部ラスト地セメント砂利入大壁塗、内部眞壁仕舞造作廻椽及米檜米椽材、疊敷、室數五

二、B住宅

延坪四十六坪餘
建築費　金八千圓也
延坪宛金百七拾貳圓也

仕　様

木造和風二階建附屬洋館付、屋根瓦葺、外部木摺及ラス下地眞壁及びセメント大壁塗、内部日本間眞壁、洋室大壁仕舞、造作廻杉面皮柱及米栂、米檜、洋室檜、疊及板敷、室數八、

三、C住宅
延坪六十八坪餘
建築費　金壹萬六千七百圓也
延坪宛　金貳百四拾五錢也

仕　様

木造洋風二階建、屋根釉藥瓦葺、外部ラス下地セメント砂利入人造大壁塗、内部大壁及眞壁仕舞、造作廻檜、ラワン、栂米栂材、檜化粧床及疊敷、室數八、内洋室四、疊間四、

四、D住宅
延坪百十坪餘
建築費　金參萬參千九百圓也
延坪宛　參百〇七圓也

仕　様

木造洋風二階建但し鐵筋コンクリート地下室付、屋根スパニッシ形特種瓦葺、外部ハイリップラス下地白セメント地砂利入スタッコー塗、内部木摺及ラス下地ドロマイド大壁仕舞、造作廻檜材、床檜化粧床、室數二一（全部洋風）

大體以上の如くAは坪宛百六十八圓の木造和風の平家建、Bは延坪宛百七拾貳圓の洋館附木造二階建、Cは延坪宛貳百四拾五圓の洋風二階建、Dは延坪宛參百七圓の洋風一部鐵筋コンクリート付二階建の住宅であるが、この四種四樣の住宅に付て其總工費に對する各工費の歩合の關係（パーセント）を調べてみたが次の樣な數字の表となつた

A、B、C、Dの住宅建築費内譯百分比

名稱	A住宅、總建築費に對するパーセント	B住宅、總建築費に對するパーセント	C住宅、總建築費に對するパーセント	D住宅、總建築費に對するパーセント
假設工事（水盛、遣形、下小屋、損料、養生費）	一、二五	一、八	二、八七	一、六二
基礎工事（堀方、栗石、コンクリート、煉瓦等）	五、〇〇	五、〇〇	五、三五	七、三八
石工事	〇、五九	一、一〇	〇、三〇	四、四三
木材工事	二六、一九	二八、七五	二四、八〇	二一、二七
屋根工事（土居葺共）	一一、三〇	九、三八	九、一〇	六、七九
錺工事（雨樋等）	二、〇四	四、〇〇	二、五八	一、七五
左官工事	四、七七	六、二五	七、六五	九、四二
建具工事	一三、七〇	一一、八八	一四、〇〇	一一、〇六
硝子工事	二、三六	二、一三	二、一〇	一、二五
金物工事（建具金物、軸部金物）	三、四〇	二、三八	四、四〇	二、九五
タイル工事（浴室、便所、其他）	三、八六	二、八一	二、六七	三、二四
雜工事（浴槽、疊、便所其他）	六、六〇	五、二五	六、二四	二、三六
大工手間	一三、七〇	一六、八八	一三、一〇	一三、〇〇
手傳手間	三、六四	四、七五	四、八七	二、五七
諸雜費	一、五九	一、五〇	一、〇三	一、五一
塗工事（ペンキ、ニス）	〇、七九	一、一〇	二、二九	三、五四

更に前記四樣の住宅總工費に對する各工費の平均歩合數を出してみたのが次の表である

A、B、C、D四種住宅の總工費と內譯各工費との百分比平均調べ

名稱	百分比の平均
假設工事	一分九厘
基礎工事	五分七厘
石工事	一分六厘
木材工事	二割五分三厘
屋根工事	九分一厘
錺工事	二分六厘
左官工事	七分
建具工事	一割二分
硝子工事	二分
金物工事	三分一厘
タイル工事	三分二厘
雜工事	五分一厘
大工工事	一割三分四厘
手傳工事	四分
諸雜費	二分
塗工事	二分
計	一〇、〇〇

茲に於て之を見るに普通住宅では、總工費中最も主なるものは、先づ木材費であつて、大工手間、建具費など之に亞ぐのであるが、夫等のものが工費全體の約五割以上を算する事になる。

そんな樣な譯で極普通な住宅の建築では、工費の縮少を計らうと云ふ場合斯樣な費目の節約夫れが自然全工費に大きな影響を與へる譯けになる。

尙特種の材料を使用せる住宅・都市の住宅と田舍の住宅、平家建と二階又は三階建の住宅などの總工費に對する各工費の比例關係や、住宅設備の完・不完(優劣)と經常費關係など又折を見て御高評を仰ぐの機會もあらう

吾家を建てるには

（1）

（一）場所と廣さ
（二）洋風か和風か
（三）二階建か平家建か　鐵筋か木造か
（四）坪數と間數
（五）書齋客間應接間は洋風か和風かその分量
（六）臺所と便所の設備
（七）室内の色彩
（八）天井の高さ
（九）住宅は趣味か實用か
（十）家相を信ずるか否か

政治家　林田雲梯

一　千坪、山ヲ控ヘタル海岸
二　折衷
三　二階建鐵筋
四　七十坪――十間
五　客間、及應接間ハ洋式、書齋ハ和式及折衷ノ二間
六　臺所ハ折衷、便所ハ和式ニ限ル、湯殿モ
七　成ルベク明ルク
八　天井ハ高ク
九　住宅ハ實用的
十　家相ヲ信ジマセヌ

建築家　伊藤文四郎

一　北ニ山ヲ控ヘ、テレスニナッテオル小高ヒ海邊ノ地、三〇〇坪位
二　折衷
三　（市街ニ近クナレバ鐵筋及コンクリートブロック）サモナケレバ木造一部二階建
四　（五十坪）家内人數ニモヨリマスガ應接、食堂、キッチン、パントリー、日本間十ト八二間位ニ各自ノ寢室兼勉强室、納戸
五　洋式ヲ至便トス
六　落付ノアル樣ナ色
七　洋風
八　是レニハ高イ部屋ト低イ部屋トヲ造ルベシ
九　實用ガ主、趣味ハ從、但シ六分ニ四分位
十　或ル程度迄今ノ科學ニ合フ點丈ヲ信ジマス

葛野しの子

一　海ニモ山ニモ近キ所、廣過ギザル程度
二　洋風
三　平家建、木造
四　延坪五十坪位ノ家、六間或ハ七間
五　何レモ洋式
六　臺所ハ文化式、便所ハ水洗式
七　綠火ハ青系統
八　高過ギズ低過ギサル程度八尺位
九　趣味トシテ實用トシテ見ル
十　信ジマセヌ

教育家　廣田精一

一　海ト山共ニヨシ、數地ノ廣サ百坪四百坪
二　洋風、外觀内容共、外觀ハ和風ナルモ可
三　地所アレバ平家
四　五十坪――百坪、七間――十二間
五　全部純洋式
六　電化臺所、水流式便所
七　薄色（ピンク、草色グリーン、卵色其他色々ノ）
八　九尺（床上）
　　兩方兼ネザルベカラズ
十　家相ヲ信ジマス南向ニテ近所ニ汚水溜ノナキ等

女優　水谷八重子

一　海濱ガ好キ
二　和洋ノ折衷デナク、新シイ時代ノ日本式ヲ創始シタシ
三　二階建木造
四　只今ノ家庭デハ九間ハ是非必要
五　書齋、客間ハ和式、應接間ハ洋式、居間モ洋式
六　特ニ十分ナルヲ要ス、臺所ハ凡テ電熱ヲ應用シタシ
七　明ルク落付イタ色、クリーム又ハ綠色デアリタシ
八　高キガ結構
九　双方トモ必要
十　信ジマセヌ、但學理的ニ又ハ衞生的ニ叶フモノナラバ一考シマス

實業家　林市藏

一　山間三百坪
二　洋風
三　何レデモヨロシ
四　七十坪ヲ限度トシタイ
五　……
六　便所ハ流シ便所
七　アカルイ樣
八　餘リ高クナイ方
九　實用ヲ主トスルモ趣味ヲ沒シタクナイ
十　信ズルト云フ根據ハナイガ尊重シマス

醫學士　平賀周

一　晴レヤカナ山間、百坪以上
二　洋風ヲ主トシ和風ヲ加味ス
三　平家建バンガルー式
四　五十坪、七間
五　洋式
六　臺所ハ瓦斯使用、便所ハ洋式
七　地味ナル色
八　寧ロ低キ方
九　實用ヲ主トシ趣味ヲ加味ス
十　家相ヲ信ゼザルモ採光通風ヲ便ニス

建築家　大熊喜邦

一　常ニ埃ノ町中ニ居レバ日曜住宅トシテ作ルトセバ山ト海ドチラデモヨシ
二　適當ニ融合セシメタモノ
三　平家ガ便利ト思フ、客間ノ青年ノ勉强室ハ二階デモ可ナル樣デス、場所ニ依ル
四　家族六人女中一人トシテ居間ノ數ガ九間ガ入用デス、客間ト茶ノ間ノ外ニ家族一人ニ一ト間宛ノ割宛ガ必要ト思フ
五　共ニ椅子式、手法ハ和式ニテモ氣分ニ添フモノガヨシ
六　簡易デ清潔ナルガヨシ
七　華麗ヨリモ落付ノアル滋味ヲ採リマス
八　八尺以上九尺ヲ適度ト思ヒマス
九　何處迄モ實用ヲ主トシ十分自分ノ趣味ニ引入レマス
十　迷信ト思フ家相ハ絶對ニ排斥シマス

市長　佐藤孝三郎

一　郊外、三百坪位
二　洋風
三　二階建、木造
四　庭園ヲ廣クシ間數ハ九ツ位
五　和洋折衷デ七三ノ比位
六　洋風ヲ佳トス
七　周圍ノ關係ニヨリ一概ニ言ヘヌガ綠又ハ樺ナドヨシ
八　低キヲ好マズ
九　双方兼ヌルモノト思フ
十　信ジマセヌ、併シ暗ニ衞生的理論ト合致スルモノヽ如シ

政治家　石橋爲之助

一　山間、三百坪位
二　和洋折衷
三　平家
四　建坪五十坪、間數十五
五　應接室ト書齋ダケ洋式
六　臺所ハ水道、瓦斯電氣利用、便所ハ水流シ
七　濃鼠
八　和式八尺、洋式十尺以上
九　實川本位ニ趣味ヲ加フ
十　信ジナイガ考慮ヲ加フ

建築家　曾禰達藏

一　山間ニテ海濱ニ近キヲ望ム廣サ百五十坪
二　洋風
三　平家建ニテ一部二階造リ、木造
四　五十坪乃至六十坪
五　先ツ洋式トシ之ニ和式ヲ加味ス
六　臺所ハ立ツテ働クニ適スルモノトシ便所ハ水洗式
七　華々シキヲ好マズ落ツク色ヲ望ム
八　高キヲ好マズ
九　實用トシテ作リ趣味ヲ加ノ
十　信ゼズ

大學教授　塚本靖

一　地形四圍ノ狀況ニヨリ一定セズ
二　……
三　平家建、鐵筋、眺望ノ爲ニ二階ヲツクルコトモヨシ
四　先ヅ三十坪以上五十坪位（家族ノ人數ニヨル
五　腰ヲ掛ケル方ヨシ
六　衞生的ニ宜シキ樣ニツトム
七　明ルイ色合
八　適度ノ高サ但低キヨリハ高キガヨシ
九　兩樣
十　學術的ニ云フ方位ナドハ富然考慮スベキモノナリ、但舊來ト筮家ノ云フ如キ家相ハ信ゼズ

大學教授　内田祥三

一　市内ノ住居地域デ數地二百坪内外
二　洋風
三　二階建鐵筋
四　延坪七、八十坪、七間カ八間
五　書齋、客間、及應接間ハ洋式
六　臺所ハ立ツテ居テ仕事ガ出來ルヤウ、便所ハ水洗式ニシタイト思ヒマス
七　室ノ種類ト方向ナドニ依テ違ヒマシヤウ
八　丈夫サノ上カラアマリ高クナイ方ガヨイト思ヒマス
九　兩方ヲ考ニ入レネバナリマセヌ
十　家相ハ信ジマセン、然シナルベクナラ昔カラノ習慣ニ從フコトニシタイト思ヒマス

實業家　杉本又三郎

一　靜寂ナル山間モヨシ、晴ヤカナ海濱モヨシ、廣イバーラーノ外ハコジンマリシタルガヨシ
二　外觀ハ現場ノ背景ニヨリテ定メタシ
三　二階建、木造
四　四〇坪、七室
五　洋式
六　文化的設備
七　明ルイ色
八　高イ方
九　兩樣
十　所謂家相ナルモノヲ無視セズ

新聞記者　藤田進一郎

一　海濱、五百坪
二　洋風
三　木造平家建
四　十間、七十坪
五　洋式
六　洋式、ガスヲ使用シタシ
七　土色
八　ナルベク高イ方ガヨロシ
九　趣味五分、實用五分
十　信ジマセンガ風ノ方向、採光ノ具合ナド十分ニ考慮シタイト思ヒマス

敎育家　橋本竹之助

一　山間溪谷ヲ好ミマス
二　洋風
三　木造二階建、但シ臺所湯殿等ハ不燃質ニシタイ
四　六間カ七間ニシテ四五十坪
五　洋式ヲ好ミマス
六　臺所ハ不燃質材料デ作リ時々ノ洗淨ニ適スル樣内部ノ造作ヲ設備シタイ、便所ハ三ケ所客用、家人用、下便所ヲ區別シテ欲シイ下便所ハ和風
七　卵黃色
八　十尺乃至十一尺位、書齋ハ餘リ高カラザルヲ望ム
九　實用ニ趣味ヲ加フル程度
十　信ジナイガ何トナク隱氣ナ家ハ好マナイ

新聞記者　中尾保

一　山海ドチラデモヨイ
二　ソンナ區別ハ無用
三　二階建デ木造ニ限ル
四　建坪三四十坪、延五六十坪位
五　間數ハ十二三モアレバヨイ
六　折衷ガヨイ、而シ折衷ニ分量ト云フモノガナイ、混合ト折衷トハ自ラ意味ガ異フ
七　便所ハ水洗式（但腰掛式ハヨクナイ）臺所ハ立式デ廣ヒ方ガヨイ
八　一口ニハ云ヘナイ
九　椅子式ナラ少シ高イ方ガヨイ
十　ソレハ決定的解決ヲ與ヘルコトガ出來ナイ
狐ヤ狸ガ化ケルカ否カト聞カレタノト同ジコト、返答スル限リニアラズ

建築家　長野宇平治

一　海濱及ビ廣サ五百坪位
二　洋風
三　二階建、木造
四　下五十坪、上二十坪七間
五　書齋、客間及應接間ハ洋式
六　洋式
七　灰色
八　九尺
九　住宅ヲ越味トシテ見ル又實用トシテ見ル
十　家相ヲ信ジマセヌ（科學ニ反スル場合）

建築家　增田清

一　山海何レニテモ可、廣イ方ガヨシ
二　其ノ場所ニ依ル、餘リケバ〳〵シキハ好マズ
三　出來ルコトナラ不燃性ノモノ、一部二階建位ガヨシ
四　三四十坪位、間數ハ多クモ八ツ位
五　洋式ガヨシ
六　臺所ハ能率本位、便所ハ水洗式ニ限ル
七　落チ付イタモノ
八　適當ニシタシ
九　實用第一、趣味ハ第二
十　餘リ家相ニ拘泥スルハ考ヘモノ

建築家　橋本勉

一　山間ヲ最モ希望スルモ、場所ハ北ニ山ヲ負ヒ海ヲ望メル小高キ所約三百坪
二　洋風
三　二階建、鐵筋構造ニシテ内部ニ木ヲ用ヒ感ジヲ和グ
四　延坪百三十坪、間數適宜
五　洋式
六　臺所ハ瓦斯、電熱共用、便所水洗式
七　室ノ目的ニヨリ異ニス
八　約十一尺
九　趣味實用相半ス
十　家相ノ大體ヲ信ズ

教育家　古宇田實

一　冬ハ海濱、夏ハ山間、但シ何レモ景色ノ佳イ所、廣イ程結構
二　洋風モ和風モ共ニ結構、ソノ場所次第但シ眞似事ノ『バンガルー』ハアマリ好カヌ
三　何レモ結構、室ニヨリ種類ニヨリ混用モ致シマス
四　自分ノ現在ノ家族カラ割出セバマヅ延六七十坪、間數ハ十二三位
五　何レモ可、折衷尚可、分量ハ何ノコトカ
六　最モ文化的ノモノ、例ヘバ臺所ハ電氣、瓦斯ニヨリ、便所ハ淨化設備
七　室ニヨリテ異リマショウガ一般ニ明ルイ
八　然シ澁イ色合
十尺程度
九　ドウシテコンナ質問ガ出マスカ？住宅ハ實用デナケレバナラヌコトハ論ズルマデモナイガ、ソノ扱方ハ當然趣味ノモノ
十　信ズルトハ申サレマセンガ大ニ考慮致シマス、自分丈ノ家デハアリマセン

建築家　津田鑿

一　百五十坪内外、海濱ノ近ク裏ニ山ト小川アル處
二　和風ニシテ貰ノ立羽目上小壁付日本風
三　木造平家屋根裏ノ使用
四　三十五坪ヨリ五十坪迄内外六室位ヨリ八室
五　洋四、和六折衷
六　洋風ヲ加味シタシ
七　眞持ノ節ノ隱レル程度ノ「ステイン」茶褐色
八　九尺以下
九　實用
十　鬼門位ノモノ

建築家　今林彦太郎

一　山ニ近ク適當ノ勾配ナル土地百五十坪位
二　和風
三　二階建
四　延五六十坪位、五、六室ヲ望ム
五　書齋ノミヲ洋風トシ、其他和風、別ニ應接間ヲ要セズ
六　臺所ハ板ノ間六帖位、三帖立ノ配膳室ニヨリ食堂ニ隣接スルコト、便所ハ和風洗淨式
七　淡薄ナルヲ要ス
八　八帖位ノ室ニ對シ八尺位ヲ標準トシ室ノ廣サニヨリ增減ス
九　主トシテ實用トシテ見ル
十　信ゼズ、右ハ自分ノ住ム家ヲ基トシテノ希望デス

建築家　木子七郎

一　海ヲ見得ル南向受ケノ山腹、阪神六甲、住吉ノ山手等
二　洋風
三　平家建鐵筋造
四　延三十坪位
五　洋式
六　臺所瓦斯又ハ電氣、水洗便所但和風
七　周圍ノ風景ニヨリ無論亦變化アレド澁イ味ヲ好ム
八　九尺乃至八尺五寸
九　充分趣味ヲ加ヘタル實用本位
十　信ジマセン

片岡安

一　山又ハ海何レモ長所ガアリマス實際問題デアルカラ一般ニ其長短ヲ定メカネマス
二　純和風モ好シカラズ、又西洋風ニ倣フノ要ナシ
三　二階建一部平家
四　總延坪六十坪乃至八十坪
五　椅子式ヲ可トス
六　水洗便所、清潔ナル臺所
七　室ニヨリ其色彩ヲ異ニスベシ
八　室ノ大小ニヨル普通八尺五寸ヨリ十尺マデ
九　趣味ト實用ヲ同等ニ見ル
十　我國傳統ノ家相ハ信ジマセヌ、方位ト地形ヨリ來ル地相家相ハ大ニ尊重ス

建築家　井上新二

一　山麓ニテ二百坪
二　本家ヲ洋風、離家ヲ和風
三　二室ヲ二階ニトル、木造部分的ニ鐵筋ヲ採用
四　約四十坪見當、八間位
五　洋式、餘裕アラバ和風客室一間
六　臺所板敷、洗場漆喰ソノ上ニ簀子板ヲ敷ク、電化本位、便所水洗式
七　種々各室ニ入ルニ隨テ氣分ヲ轉換シ得ル樣ニス
八　九尺乃至十尺
九　或ル室ハ趣味ニ或ル室ハ實用的ニ考ヘル問題ニセヌ

大學教授　武田五一

一　山モ海モ兩方共宜シ、廣サ約百六十坪
二　ドチラニテモ宜シ
三　二階建、木造
四　……
五　書齋、客間及應接間ハ洋式
六　洋式
七　不定
八　階下十一尺、階上八尺
九　住宅ヲ實用トシテ見ル
十　家相ヲ信ジマセヌ

建築家　山內嘉兵衛

一　寧ロ山間、餘リ大ナラザルガヨシ
二　內部ニ適應セシムベシ
三　二階建、建築費ノ都合ヨケレバ鐵筋
四　家族數ニヨッテ異ルモ居間、食堂、寢室ハ必ズ各別室ヲ用フルコト
五　洋式
六　便所ハ水洗式
七　凡テ暖カキ色
八　室ノ大キサニヨリ異ルモ八尺前後ガヨカラン
九　趣味三分、實用七分
十　信ゼズ

建築家　葛野壯一郎

一　落付キノ有ル處ナラバ何處デモヨロシ、廣サ百五十坪位
二　折衷式
三　木造平家建
四　三十坪内外、四室以内
五　凡テ折衷式
六　文化的
七　ヤワラカイ色
八　八尺以内
九　實用
十　信ゼヌ

建築家　松室重光

一　寧ロ山間ニシテ約三百坪
二　何レニテモ可、但シ構造上洋風ニ傾ク
三　一部平家ヲ支ヱタル二階、材料ハ便宜
四　二階寢室三、一階三室、合六、七室
五　投資ノ金高ニヨル
六　成ルベク電氣、瓦斯、水道等ノ完全ナルコトヲ望ム
七　簡素ヲ尚ブ
八　約十尺
九　無論實用
十　信ゼズ、信ズルヤ否ヤヲ考ヘズ

建築家　小笠原鋧

一　私ハ都市ニ近カキ郊外、山ニ近キ方、敷地百坪位
二　洋風
三　二階建、木造
四　一階廿五坪位二階十坪位八九室位
五　書齋、居間及玄關應接間ハ洋式其他ノ室幷ニ寢室ハ日本室トス
六　圖面ヲ提示セネバ此小部分ニ記キ現ハスコト六ケ敷要スルニ從來ヨリ改良セラレタルモノトス
七　各室ニ應ジテ成ベク色彩ヲ多量ニ使用ス
八　洋室ハ八九尺位日本室七尺五寸位
九　實用本位トシ趣味ヲ從トス
十　或ル程度マデ家相ヲ選ブヲ良トス

建築家　野村一郎

一　山間、四百坪位
二　洋風
三　二階建、木造
四　七十坪位、間數ハ十間位
五　書齋、客間及應接間ハ洋式
六　便所ハ水洗式、臺所ハ洋式
七　淡彩
八　十尺位
九　實用ヲ經トシ趣味ヲ緯トス
十　家相ニハ盲從シマセヌ但シ善キ點ハ取リ入レマス

建築家　千賀正人

一　山間ニテ約三百坪
二　和風トシ一部洋館ヲ附ス
三　平家建ヲ主トシ一部二階ヲ附シ勿論洋館ハ鐵筋トス
四　約五十坪トシ八間カ九間
五　洋式
六　臺所ハ立働式、便所ハ汚水淨化裝置、然ラサレバ大正式ノ類
七　室ニ依テ相違ス成可落付アル明ルキ色彩
八　和風ハ八尺乃至九尺、洋風ハ十尺位
九　實用本位
十　信ゼザルモ參考トシテ研究ス

建築家　Minami-Makoto.

一　Sidukanaru wa Yama ka? Atau kagirihiroki wo.
二　Yosiki, Wasiki wo koeta atarasiki Stile.
三　Tisei no osieru mama ni.
四　Hiroki ni Kositaru koto nasi.
五　Zenbu onazi Stile.
六　Benrini, seiketuni.
七　Sizukanaru wo.
八　Tekitonaru.
九　Hutatu nagara.
十　Iwazu mo no Koto to zonzi soro.



俳壇

齋藤溪舟選

寒念佛

寒行や老の身がためおのがじゝ　紫波
寒行や脊かゞむ一人おくれがち　同
どか〳〵と露路ぬけてゆく寒念佛　同
近づく鉦遠のく鉦や寒念佛　稻村
寒行の星屑寒き夜なりけり　同
寒行の法華太皷もきこえけり　忍草
炉を守る僧は聾や寒修行　同
寒修行提灯に灯をもとめけり　羊角
つは露に霰くる夜や寒念佛　同
ビルデイングの灯を仰ぎゆく寒修行　日華
寒修行大川端を吹れつゝ　同
寒行の背なにつれなき霰かな　臙月
寒行の鉦きゝ更くる炬燵哉　同
寒念佛酒買ひに出る我門を　雪衣
寒念佛いよ〳〵更けて一人くる　同
北風に吹かれていにぬ寒念佛　仙果
修行者の氷を踏む寒の大地哉　同
寒修行ゆきずりに鉦鳴しけり　京人
寒念佛雪に月夜となりにけり　同
又一つ寒行の鈴ン露を出る　二州
魚炙る臭ひす門も寒念佛　同

新年句をつのる（奮つて御投句を望）

◎題　『新年雜詠』十句まで（初日、初日の出、初春、元旦、雜煮、門松、注連飾、春着、年始、廻禮、屠蘇かるた、書そめ、若水、筆始め、初霞、初空、初鳥、恵方、初東風、何にても新年に關するもの、諸君がこの新年に體驗せられた事を）

◎期　一月二十日

◎處　中之島江商ビル内日本建築協會

凩

凩や日うとき軒のつるし柿　臙月
凩や夜業の汽笛遠くきく　同
凩や水吹きちらし撒水車　稻村
月白し凩に雲の速さかな　同
凩や林の中の一軒家　紙魚
凩に紙吹きちりて潦　同
凩の逆吹けば潮の白け哉　仙果
凩やカアテン閉ぢて靜かに灯　同
凩や自在にかゝる猪鍋參子
ビルデイング出て大日陰凩す　同
凩け池亭廊下の吹放し　赤髪鬼
留守炬燵ひとり凩きゝゐたり　同
凩や絶壁の松逆まに　豪谷
此頃の夜々の早寢や凩に　同
芋粥やいつか凩やみゐたり　翠堂
凩や橋にきて氣づくわすれ物　同
凩や火花吹きちる鍛冶の庭　田守
凩に町皆戸ざし湖驛かな　同
凩に寒魚釣りえて巨口かな　法僧
凩に追はるゝ如く掃き終ゆる　同
野の驛を離るゝ汽車や凩す　裕衣生
柴垣のひよろ〳〵菊や凩す　同
凩や庫裡の榾火の煙るとき　雪衣
凩や庭爐園みて船まつ間　同
凩や野の末に白き月半片　賢木舍
寺林凩落ちて夜星哉　同
凩や輓すてゝある炭車　丹斗
乾菜寺凩に障子閉めてある　同
凩に行く〳〵町の菜畑かな　京人
水車廻らでありや凩す　同
やマントの人の鮭さげて　幸次郎
凩に何吠ゆるなる門の犬　同
凩に暮れて灯一つ藪の家　日華
凩の潮鳴り遠く明けにけり　同
ホ句の會夕凩となりにけり　露々子
凩や竹三幹に日一日　同
凩やをり〳〵時雨れ野地林　忍草

俳話

吟行

溪舟

◎十二月は讀者が多忙であつたためか、それとも陛下の御不例等のためであつたか、投句が非常に少なかつた。しかしお正月は誰しも多少のヒマがある筈であるから、作句があつたら奮つて投じられたい。

◎此の次の課題は「新年雜咏」であるから、かなり範圍は廣い、つまりこれは、諸君が新年に何をしたか、その体驗を考へて、それを句にまとめるといふのである。

◎お正月の句には、往々ワザと捻へ上げたやうなのがある、つまり「初東風」だとか「初霞」だとかといふものがあるけれど、實際をいふと、なかなか東風どころではない、霞どころではない、我々の体驗からは、とても寒くて冷たくて、東風や霞の心地はしない。

◎それをさも元日から東風が吹いたり、三ケ日に霞が棚引いたりしたやうに句に作るから、勢ひその句が捻へものになつて眞實味に乏しいことになるのである

◎けれどもその作家が、たとへ、東風が吹かずとも、また霞が棚引かずとも、眞に東風を感じ、霞を感じた場合はむろんその尊とい主觀でもつて句にすることは妨げない、これはその人の興趣であるから……

◎では、何うしたらいいかといふと、感じない東風や霞を、さも感じたらしく作ることは止した方がよいのである、この理由からいふと、初東風、初霞ばかりではない、如何なる題でも、それを感じないのに ムリに句にまとめることは畢竟喜ばしいことではない、俳句は、その場合を通過してきて、その實感体驗を出したものが、つまり一とう生命があるやうである。

◎我々の想像は、構想は、なかなか廣いやうであつて、所謂歌人は居ながらにして名處を知るといふ位ゐ遠く進りなく働くものであるやうだけれど、自然の實際はまたそれ以上に廣くて變化に富んでゐることは、「吟行」といふものをやつてみてよく分る。

◎「吟行」といふのは、俳人がよくやることである。即ち句を作るために、實地の景物、人情に接すべく、市街なり郊外なりを散歩して、見聞しつつ句を作る遊びの事である（遊びといふよりも、此場合、俳人にとつては仕事）これは一人でやつてもいいが、大勢でやるとなほ面白い。

◎この吟行をやつてみると、自然といふものは如何にも豐富で、如何にも變化があつて、とても想像や構想の及ばない、届かない何物かが澤山にある事を發見する、たとへば、我々が家の内に座つてゐて「霞」の題で作句するとする、そこで自分は、嘗て霞によつて体驗し、見聞した事を思ひ出したり、または「斯んな風だらう」と想像を加へたりして、五句なり、十句なりをまとめる、この位ゐ考へを盡し、思ひを費ひして作つたんだから、これ以上の霞には作りやうがあるまいと自分では思つてゐる、が、實際その霞が降つてゐる時に、筆を投げすてゝ戸外に飛出し、霞の中を一丁なり二丁なりあるいてくると、自分では想像も描想もつかない景趣が、必ず三つなり四つなり見つかる、なるほど、こりやア思ひつかない景情だつたと氣がつく事が二つや三つは必ずある、この位ゐ自然は豐富であり變化があるもので、我々の想像や構想が、如何にチツポケなものであるかゞ分るのである。

◎お正月の景情だつて同じ事である、空々に看過すれば何んでもないッマラない事のみが多いのだが、俳人の眼から見ると、一つでも見のがしの出來ない面白いものだ、たとへば、ある家の戸口に小さな門松が打ちつけられてあつて、その格子戸に新聞が斜めにハサまれてあつたとする、この景情はまことに平々凡々なアリふれた事であつて、とても自動車が西長堀へ飛びこんだやうな珍奇さはないが、俳人はこの平々凡々さへ見のがさないのである、たゞそれ丈けの門松と新聞の景情が、立派な我々の句になる價値がある。

門松や格子に婆裟と新聞が

これ丈けでも、松のみどり、紙の白さ、紙の響き、門口の光景、ホヽフツとして眼底に浮んでくる。

◎俳人は、自然人事の實相に對して、特別のめぐまれがあるのはこゝだ、句を解らない、詩を知らぬ人よりも、心眼が一とうぬいて優れてゐて、天惠がある幸福々々。

◎諸君は、一冊のノオトを手にし、一本のペンを指にして、句を作るつもりで、試みにお正月の町でも郊外でも、二丁なり三丁なりあるいて下さい、得る處頗る大に違ひない。句を作る、句にする、といふつもりで……

◎この意味で奮つて投句を望む。

定價本號特輯號に限り

金壹圓也

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	七拾五錢	貳錢
	十二冊	九圓	貳拾四錢

昭和元年十二月廿六日印刷
昭和二年一月一日發行

（毎月壹回一日發行）

大阪市東淀川區中津町一九八番地
發行兼編輯人 江村恒一
兼印刷人
大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
印刷所 大阪活版所
大阪市北區中之島二丁目二十五番地江商ビルヂング
發行所 社團法人 日本建築協會
電話本局四二九二番
振替口座大阪三九九七五

特約販賣店
大阪市西區京町堀羽子板橋北
柳々堂書店
電話（土佐堀四四〇番）
振替口座二二〇八四番

●第一〇集 第一号 掲載広告一覧（掲載順）

大野正営業所
高島屋呉服店
浅野スレート
野沢幸三郎商店
トーペ、アンド、ダート、ペイント会社
田中商会
品川商店
関西ステインドグラス製作所
東邦化学工業所
日本ペイント製造
丸善
日本化学産業
東洋コルク工業
伊丹商店
カールツアイス
佐治タイル
島貿易
南満鉱業
浅野物産
浅海商店
ベニス工房
米本商店

田村商会
東亜鉄工所
大平工業所
油脂化工社
原田商会
日本セメント防水剤製造所
KENSEI SHOKAI
玲光社
鈴鹿工務所
中松組
山本東作商店
村瀬英三郎
木下謹三商店
日本洋瓦大阪出張所
西孫商店
河村青写真調製所
桐田商会
阿部鉄工所
日本工剤
岡田建築材料店
日本建築紙工
島田硝子製造所

日本スレート販売大阪支店
中村グラニット商会
山中商会
山田大理石製作所
矢橋大理石商店
寺西鉄工所
平岡襖紙店
梅原組
萩原煖房工務所
特許エレベーター製作所
三菱造船神戸造船所
シーベル・ヘグナー商会
大阪ビトロライト工事
河田組工業所
佐久間建材工業所
渡辺久雄商店
政正
別府スティンド硝子製作所
大阪青写真調製所
穴原商会
灰久本店
山中製煉所
森川組
宮田鉄工所

大福海上火災保険
伊奈製陶
HANKEN SEISAKUSYO
飾磨化学工業
三井物産
小野田セメント製造
永柳商店
大林組
出浦建築事務所
橋本建築事務所
大阪建築相談所
池田建築事務所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
葛野建築事務所
横河工務所
片岡建築事務所
武内建築事務所
宗建築事務所
野村一郎事務所
国枝工務所
安井武雄建築事務所

柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
設楽建築事務所
南建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
大阪窯業
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
亀谷開作
竹中工務店
中新
佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊治郎
山本組
松村組
藤木工務店
三光組
岡本工務店
鴻池組
有山組

駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
木村工務所
内海工務店
大阪耐火リノリウム工業
須賀商会
須賀商店
栄進社
川崎
旭硝子
新田ベニア製造所
山本窯業商店
田中昌司商店
日米建築資料社
松尾鉄骨橋梁
デゥエット商会
大阪鉄扉製作所
大阪窯業
やまと工業関西出張所
菱田鉄工所

日本ソリデチット
淡陶
東洋リノリユーム
田中源太郎商店
建築金物商会
